２０１９年度

事 業 報 告 書

社 会 福 祉 法 人
聖 隷 福 祉 事 業 団

2019年度　事業報告書　目次

2019年度事業報告にあたり	…	1
2019年度事業成績報告	…	4
聖隷三方原病院	…	7
聖隷おおぞら療育センター	…	11
三方原ベテルホーム	…	15
聖隷浜松病院	…	17
聖隷淡路病院	…	20
聖隷横浜病院	…	22
聖隷佐倉市民病院	…	24
浜松市リハビリテーション病院	…	26
聖隷袋井市民病院	…	28
保健事業部	…	30
聖隷健康診断センター	…	31
聖隷予防検診センター	…	33
聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	…	35
地域・企業健診センター	…	37
在宅･福祉サービス事業部	…	39
＜和合せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム和合愛光園 和合愛光園和合サテライト 生活支援ハウスやまぶき 障害者支援施設みるとす 聖隷トライサポート和合 和合愛光園デイサービスセンター 聖隷放課後クラブはなえみ和合 聖隷チャレンジ工房和合 障害者相談支援事業所くすのき 聖隷ヘルパーセンター 聖隷ケアプランセンター和 地域包括支援センター和合 訪問看護ステーション住吉	…	41
聖隷めぐみ保育園	…	46
＜聖隷ケアセンター初生＞ 和合愛光園初生サテライト 聖隷デイサービスセンター初生	…	48
＜聖隷ケアセンター高丘＞ 訪問看護ステーション高丘 地域包括支援センター高丘 聖隷リハビリプラザIN高丘 聖隷ケアプランセンター浜松	…	50
訪問看護ステーション住吉第二	…	52
聖隷コミュニティケアセンター	…	53
浜松市生活自立相談支援センターつながり	…	54
＜聖隷厚生園信生＞ 聖隷厚生園信生寮 聖隷厚生園まじわりの家 障碍者相談支援事業所信生 訪問看護ステーション細江 聖隷ケアプランセンター細江 聖隷ヘルパーセンター浜松北	…	56
＜聖隷厚生園讃栄＞ 聖隷厚生園讃栄寮 生活訓練事業所ナルド 地域活動支援センターナルド 障害者相談支援事業所ナルド 福祉共同住宅ファーストステップ	…	59
聖隷厚生園ナルド工房	…	61
もくせいの里	…	63

2019年度　事業報告書　目次

＜いなさ愛光園＞ 特別養護老人ホームいなさ愛光園 いなさ愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターいなさ いなさ愛光園在宅介護支援センター いなさ愛光園ヘルパーステーション ほのぼのケアガーデン	…	65
＜聖隷ケアセンターいなさ＞ 地域包括支援センター細江 聖隷ケアプランセンターいなさ南部 聖隷リハビリプラザいなさ	…	68
＜聖隷ケアセンター三方原＞ 訪問看護ステーション三方原 聖隷ケアプランセンター三方原 聖隷デイサービスセンター三方原	…	71
＜浜北愛光園＞ 特別養護老人ホーム浜北愛光園 浜北愛光園デイサービスセンター 障害者相談支援事業所浜松東 聖隷ケアプランセンター浜北 地域包括支援センター北浜 訪問看護ステーション貴布祢 聖隷チャレンジ工房浜北 生活介護事業所きらめき	…	73
＜森町愛光園＞ 特別養護老人ホーム森町愛光園 森町愛光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター森町 森町愛光園ホームヘルパーステーション 森町愛光園天宮サテライト 聖隷相談支援事業所森町 聖隷放課後クラブはなえみ森町	…	76
＜聖隷ぴゅあセンター磐田＞ 聖隷こども発達支援センターかるみあ 聖隷放課後クラブはなえみ磐田 相談支援事業所磐田みなみ 聖隷チャレンジ工房磐田 聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田 磐田市発達支援センターはあと 磐田市子育て支援総合センターのびのび 磐田市南部地域包括支援センター 磐田市南部障害者相談支援センター	…	79
＜浅田地区在宅複合事業＞ 訪問看護ステーション浅田 聖隷ケアプランセンター浅田	…	82
＜浜松学園＞ 障害者支援施設静岡県立浜松学園 聖隷チャレンジ工房浜松学園	…	83
＜浦安市高洲高齢者福祉施設及び 　猫実高齢者デイサービスセンター＞ 浦安市特別養護老人ホーム 浦安市高洲高齢者デイサービスセンター 浦安市高洲地域包括支援センター 浦安市ケアハウス 浦安市猫実高齢者デイサービスセンター	…	85
浦安愛光園	…	88
浦安ベテルホーム	…	90
浦安せいれいクリニック	…	92
聖隷ケアプランセンター浦安	…	93
聖隷訪問看護ステーション浦安	…	94

2019年度　事業報告書　目次

＜松戸愛光園＞ 特別養護老人ホーム松戸愛光園 松戸愛光園デイサービス 松戸愛光園ケアプランセンター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ松戸	… 95
＜横須賀愛光園＞ 特別養護老人ホーム横須賀愛光園 横須賀愛光園デイサービスセンター 西第二地域包括支援センター 聖隷ヘルパーステーション横須賀 聖隷訪問看護ステーション横須賀 聖隷ケアプランセンター横須賀	… 97
＜宝塚せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園 宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンターすみれ	… 100
ケアハウス宝塚	… 102
結いホーム宝塚	… 104
宝塚栄光園	… 106
＜聖隷ケアセンター宝塚＞ 聖隷ヘルパーステーション宝塚 聖隷逆瀬川デイサービスセンター 聖隷ケアプランセンター宝塚 訪問看護ステーション宝塚 逆瀬川地域包括支援センター	… 108
＜聖隷ケアセンター北神戸＞ ・聖隷訪問看護ステーション北神戸 ・聖隷ケアプランセンター北神戸 ・障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	… 111
聖隷逆瀬台デイサービスセンター 聖隷デイサービスセンターあゆむ	… 113
聖隷デイサービスセンター結い	… 115
聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	… 116
＜花屋敷せいれいの里＞ 特別養護老人ホーム花屋敷栄光園 花屋敷デイサービスセンター 花屋敷地域包括支援センター 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷 聖隷訪問看護ステーション山本 聖隷ケアプランセンター花屋敷	… 117
ケアハウス花屋敷	… 120
＜聖隷カーネーションホーム＞ 特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム 聖隷カーネーションホームデイサービスセンター 聖隷在宅介護支援センター淡路 聖隷ケアプランセンター淡路 障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	… 122
＜淡路栄光園＞ 特別養護老人ホーム淡路栄光園 淡路栄光園デイサービスセンター	… 124
＜聖隷ケアセンター津名＞ 聖隷訪問看護ステーション淡路 聖隷ケアプランセンター淡路第二 聖隷ヘルパーステーション淡路	… 126
聖隷こども園夢舞台	… 128

2019年度　事業報告書　目次

＜奄美佳南園＞ 特別養護老人ホーム奄美佳南園 奄美佳南園デイサービスセンター 奄美佳南園在宅介護支援センター 奄美佳南園ホームヘルプ事業所 奄美佳南園訪問入浴事業所 奄美佳南園春日デイサービスセンター 聖隷チャレンジ工房カナン	… 130
春日保育園	… 132
のぞみ園	… 134
聖隷かがやき	… 136
＜聖隷ケアセンター沖縄＞ 聖隷訪問看護ステーションゆい 聖隷居宅介護支援センターゆい 聖隷デイサービスセンターゆい	… 138
聖隷こども園わかば	… 140
聖隷こども園桜ヶ丘	… 142
聖隷こども園ひかりの子	… 144
聖隷こども園めぐみ	… 146
聖隷浜松病院ひばり保育園	… 148
聖隷のあ保育園	… 150
こうのとり保育園	… 152
聖隷こども園こうのとり東	… 154
聖隷こども園こうのとり豊田	… 156
野上あゆみ保育園	… 158
野上児童館	… 160
逆瀬川あゆみ保育園	… 162
御殿山あゆみ保育園	… 164
御殿山児童館	… 167
高齢者公益事業部	… 169
浜名湖エデンの園	… 171
宝塚エデンの園	… 173
松山エデンの園	… 175
油壺エデンの園	… 177
浦安エデンの園	… 179
横浜エデンの園	… 181
＜聖隷藤沢ウェルフェアタウン＞ 藤沢エデンの園一番館 藤沢エデンの園二番館 藤沢愛光園 聖隷デイサービスセンター藤沢 聖隷ケアプランセンター藤沢 聖隷ヘルパーステーション藤沢 聖隷訪問看護ステーション藤沢	… 183
奈良ニッセイエデンの園	… 188
松戸ニッセイエデンの園	… 193
明日見らいふ南大沢	… 196
法人本部	… 198
2019年度施設整備事業報告	… 202
法人の概要	… 208
実施する事業の概要	… 209
役員の状況／理事会、評議員会運営の状況	… 221
附属明細書	… 222

2019年度事業報告にあたり

理事長　山本敏博

2019年5月に平成から令和に改元され、時代の区切りと新たなはじまりを実感することになりました。4月に施行された働き方改革関連法では有給取得の義務化や長時間労働の適正化などが求められ、これらについて法人全体で実態把握と対応を進め、より働きやすい職場環境づくりに努めました。

聖隷三方原病院地域障がい者総合リハビリテーションセンター、聖隷横浜病院新外来棟及び聖隷佐倉市民病院新病棟といった大規模な建築が竣工、開設しました。また、入所型就労支援施設である静岡県立浜松学園の指定管理受託の開始や福祉共同住宅ファーストステップ、リハビリ強化型のデイサービスを中心とした聖隷トライサポート和合、児童発達支援センター「聖隷かがやき」の新築移転、聖隷のあ保育園など新たな施設・事業の開設により、より充実した医療福祉サービスを提供することができるようになりました。

また、聖隷浜松病院では整備を進めてきた機能を活かし過去最高の手術件数を達成、聖隷淡路病院での訪問診療の開始、聖隷袋井市民病院での訪問リハビリの開始などにより地域の期待に応えるサービスを提供していきます。浜松市リハビリテーション病院へのリハビリテーション歩行支援ロボットの導入や高齢者公益事業部へのタブレット端末の導入など、ロボット技術、ICTの導入も推進しました。保健事業部ではがん検診データの学術的利用に向けての取り組みを開始しました。より質の高いサービス、生産性の向上につながる取り組みができました。

災害対応では、台風15号の際には聖隷佐倉市民病院が台風の影響で機能を喪失した近隣の透析施設の患者さんを受け入れ、また、台風19号の際には浜松市リハビリテーション病院から静岡JRATとして被災地のリハビリテーション医療活動に参加しました。

第4四半期には新型コロナウイルスによる感染症への対応を全施設で迫られ、患者・利用者、職員の安全確保を第一に、病床の確保や感染防止対策の徹底に努めると共に、手術・健診の延期や面会の制限など、患者・利用者の皆さまにもご協力をいただいています。非常時においてこそ地域での役割を果たせるように努めてまいります。

10月に消費税が10%に増税されたことなどに伴い、経費が増えましたが、2019年度決算としてはサービス活動収益約1,195億円、税引前当期活動増減差額約6億円を計上することができました。新型コロナウイルスによる感染症の影響による制限・自粛による経営への影響もありますが、将来に向けた投資が形になり、また質の向上、生産性の向上が図られ、社会福祉法人として責任ある経営ができたと考えています。地域に皆さまをはじめ、ご支援をいただいたすべての皆さま、そして職員に厚く御礼を申し上げ、ご報告とさせていただきます。

聖隷福祉事業団　理念～目標体系

基本理念

キリスト教精神に基づく

「隣人愛」

使命

・いのちと尊厳のために
・利用される人々のために
・地域社会とともに
・未来を築く
・最高のものを

ビジョン2020

人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

次ページへ

中期事業計画

事業部中期事業計画

事業団年度目標

事業部年度目標

職員行動指針

わたしたちは、
ひとりひとりの
命と尊厳を守ります

わたしたちは、
サービスを求める
すべての人々に、
誠実かつ献身的に仕え、
その自立を支援します

わたしたちは、
「保健・医療・福祉・介護」
サービスを通して
社会に貢献し、
地域の人々との
強い絆を育みます

わたしたちは、
先駆的・開拓的精神で
新たなニーズの発見に努め、
常に課題に挑戦します

わたしたちは、
ひとりひとりが専門職としての
倫理と誇りを持ち、
最高の技術を提供します

【用語の定義】
○使命：職員は何を大切に考えて仕事をするか　○ビジョン2020：2020年にどのような組織であるべきか

聖隷福祉事業団　中期事業計画　2016-2020

ビジョン2020
人・地域・社会・時代が必要とする
ヒューマンサービスを追求し、
新たな価値を創造する

1. 最高の質を追求し提供する
2. 社会福祉法人としての使命を追求する
3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する
4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する
5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する
6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する
7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する

2016年度　2017年度　2018年度　2019年度　2020年度（最終年度です）

1. 最高の質を追求し提供する

- ①利用者視点に立った良質なサービス提供の実践
- ②人口動態の変化に伴うサービスの変革
- ③最新医療・介護技術、システムの導入・構築

2. 社会福祉法人としての使命を追求する

- ①社会福祉法人としての公益活動の推進・情報発信
- ②新たな組織体制の追求

3. 職員は高い専門性と経営的視点を持ち、能力を発揮する

- ①サービスの質を意識し、専門職としての知識・技術・価値の追求
- ②経営を担う人材、新たな価値を創造する人材の育成
- ③中期事業計画を理解し、自ら考えて行動する人材の育成

4. 多様な能力、価値観を持った人材や女性の活躍を推進する

- ①多様な働き方の創出
- ②女性の活躍を推進するためのキャリア形成支援

5. 社会のニーズに応える先駆的な事業・サービスを創造する

- ①効果的な投資による経営資源の最大活用
- ②社会環境の変化を先取りした事業の展開
- ③地域に求められるサービスの提供

6. 地域包括ケアシステムを構築し、シームレス※1なサービスを提供する

- ①地域枠での聖隷独自の事業展開と事業部の融合
- ②聖隷と他法人の連携による地域包括ケアシステムの構築
- ③地域包括ケアシステムにおける連携の仕組み作り

7. 事業を継続し発展するためにサービス活動収益　年2.5%※2成長を維持する

<2020年度到達目標>

①サービス活動収益 対2015年度比	112.5%以上
②経常増減差額率 5か年累計平均	3.0%以上
③職員一人あたりサービス活動収益 対2015年度比	107.0%以上
④職員一人あたり経常増減差額 対2015年度比	112.5%以上
⑤実質資金増加額 5か年累計	60億円以上
⑥純資産比率（自己資本比率）	40.0%以上
⑦人件費率	58.0%以内
⑧有利子負債比率（対サービス活動収益）	30.0%以内

※1 シームレス：地域において保健・医療・福祉・介護サービスを事業団内、他法人との連携により継ぎ目なく受けられること。

※2 成長率 年2.5%：新たな事業展開、医療・福祉人材の確保等を行う中で、安定的な経営を行うために年2.5%以上の成長が必要である。
2020年度終了時、サービス活動収益対2015年度比112.5%以上

（2015.11.27 理事会承認）

2019 年度　事業成績報告

常務執行役員　青木　善治

(1) 事業の経過及びその成果

当期は、長期休日であった GW や年末年始休暇、更に消費税増税に伴う診療報酬、介護報酬並びに費用増、年度末には新型コロナウィルス感染症の感染拡大等、事業をめぐる環境は大変厳しい中、複数年に渡る大規模投資事業が竣工を迎え、新規事業がスタートした。本年度はこれらの大きな経営状況の変化に細心の注意を向ける年であった。収益面においては対予算比では未達であったが、対前年においては 2.9%のアップを達成することができた。特に聖隷浜松、聖隷三方原、在宅・福祉事業、保健事業においては利用者、高稼働だったことが大きく寄与し増益となった。一方、費用面においては、減価償却費のアップ、高額医薬品や「医療用医薬品流通改善ガイドライン」の影響による医薬品価格の上昇、更に人事院勧告が 6 年連続でプラス改定となり人件費のアップが続く年度であった。しかしながら働き方改革の推進により、生産性の向上と仕事の効率化への対応を行い、平均超勤時間を減少させることができた。最終的にサービス活動収益は 1,195 億円、2018 年度より 33.5 億円（対前年比 102.9%）の増収を達成した。一方、サービス活動費用は対前年比 104.4%となり、結果、税引前当期活動増減差額（以下、税前増減差額）においても、予算を 2 千万円上回る+5.95 億円を計上することができた。

(2) 医療・保健事業

聖隷三方原病院は 11 月より「地域障がい者総合リハビリテーションセンター」がオープンし、スポーツにおける障がい者へ支援や、地域に対しての災害時の支援を大幅に強化することができ、経営的にも税前増減差額において＋6.6 億円と予算を達成し着実な実績を上げることができた。

聖隷浜松病院は紹介患者数の増加と効率的なベットコントロールへの取り組みにより、病床稼働率が向上し 1 日平均入院患者数が大幅に増加した。また高度先進医療にも力を入れ、年間手術件数は 11,000 件を超えた。経営的には税前増減差額において＋3.8 億円を計上することができた。

聖隷淡路病院においては、地域包括ケア病床を 40 床から 47 床に増床し、地域中核病院や診療所、介護福祉施設からの入院患者をスムーズに受け入れる体制整備を行った。しかしながら医師退職による産科休止やコロナの影響により、税前増減差額は▲1.4 億円と厳しい結果に終わった。

聖隷横浜病院は新外来棟が 7 月に竣工し、療養環境を向上させる整備を行った。また、脳外科における「もの忘れ外来」の開設や人工関節センターにおける再生医療外来を開設する等、将来を見据えた診療体制の再編も並行して行った。経営的には新外来棟オープンによる費用増や引っ越しによる稼働日減が響き、税前増減差額▲17.2 億円と大変厳しい結果であった。

聖隷佐倉市民病院においては台風 15 号、19 号などの未曾有の豪雨災害に見舞われたが、近隣施設からの透析患者などの受入れや、生活弱者への仮眠室、シャワー室の提供など幅広く地域に貢献ができた。一方第 4 期工事が終了し、34 床増床（304 床→338 床）をはじめ、健診センター、手術室等を拡張し、将来に向けた病院機能の強化を図った。ハードの整備と共に、医師採用による診療基盤の強化を図り、救急受入れを積極的に行う等、運営面でも改善を試みた。しかしながら、経営的には年度末に新型コロナウィルスの影響や、病棟開設による費用増、稼働日減が影響し税前増減差額▲9.5 億円という結果となり、多くの取り組み課題を抱えることとなった。

指定管理を受け12年が経過した浜松市リハビリテーション病院は、通所リハビリテーション事業の開始や歩行リハビリテーション訓練支援ロボットの導入等、新たな取り組みを開始し、地域ニーズに対して、さらにきめ細かく対応できる体制を整備した。

袋井市立聖隷袋井市民病院においても、新たな取り組みとして訪問リハビリテーション事業を開始し地域の在宅リハビリニーズに応える体制を整えた。また、療養病棟の運用を見直すことにより入院患者受け入れ体制の改善を図り、地域における急性期病院の後方病院としての役割を果たすことができた。

保健事業部では、昨年度より午後ドック等で時間帯の有効活用を図り増収に結び付けることができた。また、精密・再検査受診勧奨強化に取り組み、精検受診率の向上に「努めることができた。巡回検診においても愛知県田原市などの大きな新規契約が増えており収益増となっております。経営課題であった静岡地区に関しても、受診者数が大幅に増加し予算達成した。事業部全体でも経営が安定し、税前増減差額において予算を達成することができた（税前増減差額＋2.9 億円）

(3) 在宅･福祉サービス事業

事業が地域ごとに専門化し、高齢者、障害者・児童等の種別を超えて、更に在宅と施設が連携していくことで、利用者に対する共通の支援情報が共有化できる仕組みが必要となっており、取り組みが進み始めた。和合せいれいの里では高齢者、認知症、障害児者向けの共生型デイサービスにリハビリ機能を設置した「聖隷トライサポートセンター」やこども園に訪問看護ステーション、児童発達支援事業所を併設した全国初の施設である「聖隷こども園こうのとり富丘」の開設準備等により、専門化、種別を超えた総合化を進めた。また、静岡県立浜松学園の指定管理者として受託運営を開始し、障害福祉の取り組みが更に大きく進む年度となった。

経営的な面としては、高齢者入所施設、障害児者事業、保育事業において、それぞれ高稼働率を維持し実績を残すことができた。事業部全体でサービス活動収益において、204 億円（対 2018 年度 104.1%）を達成し、税前増減差額＋14.5 億円となり着実な実績を残すことができた。

(4) 高齢者公益事業

浜名湖エデンの園の耐震対策建替工事において 2020 年 5 月のグランドオープンに向かう中、入居者募集については、新規契約数は実績 128 件と予算を達成したが、契約金額は 38.8 億円と予算未達となった。入居率も 3 月時 93.5%と 4 月スタート時（93.0%）と比較して 0.5%増加することができた。しかしながら 2020 年 2 月以降新型コロナ感染症の影響で入居者募集セミナーや見学会を行うことができない状況となっている。次年度以降この新入居者募集への影響は避けられず、早急の対応を行う。これらの結果、経営的には税前増減差額において予算には未達であったが、前年を上回ることができた（税前増減差額＋3.5 億円）　一方でキャッシュ・フローについては、1 年プランから終身プランへの変更において、消費増税における契約時期の影響もあり▲0.2 億円であった。

(5) 財務の状況

2019 年度は事業団全体で約 130 億円の固定資産整備を行った。内訳は、建築工事、高額備品等の特別整備が 106 億円、中でも聖隷佐倉市民病院第 4 期工事に 43 億円、聖隷横浜病院新外来棟工事に 26 億円と、将来に向けて病院事業への投資を積極的行い、その他備品更新等の通常整備に 24 億円の投資を行った。

これらの固定資産整備に伴う新規長期借入額は 146 億円であり、一方、長期借入金並びにファイナンスリース債務等の返済額は 74 億円である。この結果、有利子負債残高は 377 億円となり、サービス活動収益に対する有利子負債比率を 29.6%（2018 年度 27.8%）に上昇した。

また、賞与資金等の運転資金については過年度より引き続き全額を自己資金で賄う等、財務体質の健全化を進めることができた。

≪直近 5 年間のサービス活動収益及び経常増減差額≫　（単位：百万円）

【サービス活動収益】	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
医療･保健事業 計	79, 831	83, 437	85, 908	88, 101	90, 295
高齢者公益事業	9, 333	9, 405	9, 353	9, 456	9, 341
在宅･福祉サービス事業	17, 269	17, 820	19, 093	19, 613	20, 420
本部会計	307	508	655	377	874
内部取引	▲1, 237	▲1, 331	▲1, 422	▲1, 444	▲1, 472
合　　計	105, 503	109, 839	113, 587	116, 103	119, 458

【経常増減差額】					
医療･保健事業 計	1, 780	2, 685	2, 870	2, 575	409
高齢者公益事業	1, 160	1, 277	996	840	755
在宅･福祉サービス事業	788	871	1, 041	1, 119	1, 227
本部会計	▲795	▲156	▲80	▲606	▲600
合　　計	2, 933	4, 675	4, 827	3, 928	1, 791

※医療・保健事業には浜松市リハビリテーション病院及び袋井市立聖隷袋井市民病院含む

※2015 年度より新会計基準に変更

➢ 中期事業目標（2016年～2020年度）の進捗状況

経営分析指標	目標	2018年度	2019年度
サービス活動収益　（対2015年度）	2020年度 112. 5%以上	110. 00%	113. 20%
経常増減差額率　（累計）	3. 0%以上	4. 00%	3. 30%
一人当りサービス活動収益（対2015年度）	2020年度 107. 0%以上	101. 70%	102. 10%
一人当り経常増減差額（対2015年度）	2020年度 112. 0%以上	123. 70%	55. 10%
実質資金増加額　（累計）	2020年度 60億円以上	累計71. 2億円	累計82. 6億円
純資産比率（自己資本比率）	2020年度 40. 0%以上	41. 10%	39. 80%
人件費率	58. 0%未満	57. 40%	57. 60%
有利子負債比率	2020年度 30. 0%未満	27. 80%	29. 60%

医療保護施設　総合病院　聖隷三方原病院

2019 年 7 月に地域障がい者総合リハビリテーションセンターの定礎式、10 月に竣工式を行い、11 月より外来診療を開始した。診療時間外に障がい者スポーツ専用として 2020 年 1 月よりアリーナの貸し出しを開始した。障がい者のスポーツや災害時支援として地域に貢献できるよう今後も努力していく。

医師の確保に関しては、初期研修医が 14 名フルマッチとなり、後期研修医は 5 名が当院で研修することとなった。専門医制度は 7 領域の基幹施設に加えて新たに精神科の基幹施設としてプログラムを立ち上げ、8 領域での基幹施設として充実を図ることができた。

政府が進めている医師の働き方改革については、昨年度整備した初期研修医の勤務体制、医師の面談時間の変更、会議・委員会の時間短縮、夜勤体制の導入などを継続して行った。2019 年度は有給休暇 5 日以上の取得について医師をはじめとする全職員に周知を行い、徹底することができた。法令で業務と研修の区別など明確になってくると思われ、政府の動きを注視しながら勤務環境の改善に努めていく。

看護師を教育する医療機関として認定看護管理者の研修に加え、看護師特定行為研修の指定研修機関として認可された。2020 年度から 5 区分の特定行為実践看護師の育成を行っていく。

新たな医療提供として、手術支援ロボットによる肺腫瘍切除術、補助循環ポンプ装置による IMPELLA の治療、先進医療である白内障の多焦点眼内レンズ挿入術などを実施した。また、がんゲノム医療連携病院の認定を受け、がん遺伝子パネル検査を開始した。今後も地域の方々によりよい医療を提供できるよう体制の確立に取り組んでいきたい。

2019 年度の終盤に、日本国内で新型コロナウイルス感染症が拡大し、慢性疾患を有する定期受診患者に対して、電話処方を開始し感染拡大防止に努めた。

おおぞら療育センターは、警察署との合同による地域施設参画型の施設防犯対策講習会を開催し、職員の防犯意識向上に努めた。また、送迎車両 7 台に防犯・事故対策として、静岡県の児童福祉施設等緊急安全対策用品等整備事業を活用したドライブレコーダーを設置し安全体制の整備に努めた。

最後に入院、外来とも患者数は予算達成し、前年比患者数は入院 1.9%、外来 1.7%増となった。サービス活動収益は前年比 3.3%増であったが、サービス活動費用もそれを上回る対前年比 4.9%増となった。結果最終的に 2019 年度も予算を達成することができた。職員が頑張ってくれた結果であると感謝したい。

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	630 名	634 名	100.6%	101.9%	外来患者数	1,010 名	1,021 名	101.1%	101.7%
入院単価	64,900 円	63,929 円	98.5%	99.7%	外来単価	18,000 円	18,688 円	103.8%	103.7%
職員数	1,447 名	1,467 名	101.4%	104.1%	病床利用率	82.5%	83.0%	100.6%	102.1%
サービス活動収益	21,412 百万円	21,660 百万円	101.2%	103.3%	サービス活動費用	20,971 百万円	21,190 百万円	101.0%	104.9%

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

１．安全で質の高い医療の提供

（ア）安全な医療の提供

①医療安全管理体制の評価と充実

医療安全管理会議、医療安全管理委員会を定期的に開催するとともに、IA レポート・オカレンス報告を元により検討を行い、必要時にはメディカル・リスクマネジメントマニュアルの改訂・追加・削除を実施した。2018 年度に開始した医療安全対策地域連携加算 1 の算定要件である他施設との相互監査が 2 年目となり、スムーズに実施できた。

②感染管理体制の評価と充実

年度末に世界中で感染が拡大された新型コロナウイルスに関連し、当院として PCR 検査の体制整備を実施し、地域の医療提供体制の整備に貢献した。

２．人づくり文化の継承と働く支援

（ア）医師・看護師・看護職の人材確保と定着

初期臨床研修については、2020 年度から制度見直しに伴い、プログラムの変更を実施し、診療科の自由選択期間を延長することでプログラム内容の魅力アップを図ることができた。看護師採用については、インターンシップ、就職説明会への参加者数を増加させることで、結果エントリー数 91 名（2018 年度比＋20 名）、採用者数 68 名（2018 年度比＋10 名）につながった。おおぞら療育センター介護職については、採用者数 4 名となった。

（ウ）働き方改革関連法への対応

改正労働基準法の施行に伴い、時間外労働時間と有給休暇取得の管理に努めた。その他、臨床検査部と画像診断部の夜勤体制の導入を行い労働環境の改善に努めた。

３．地域における他施設連携の取り組みと社会貢献

（ア）地域医療構想への対応

病床機能報告において新たに静岡県より目安として提議された「定量的な基準（静岡方式）」に則る形で報告を行い、当院の医療圏における位置づけについて再検討を行った。

（イ）地域包括ケアシステムの推進

終末期カンファレンスとして、“入退院時における各職種の役割について～最後のときまで、支える医療・ケアの提供のために～”をテーマに医療関係者、介護関係者、行政など他職種による連携推進事業を浜松市医師会と開催した。

（ウ）利用者サービスの向上

利用者へのよりよい情報公開ができるよう病院パンフレットのページ構成やデザイン等の全面的に見直しを行い、より見やすくてわかりやすいパンフレットとなった。

（エ）多様な雇用形態の促進

障がい者雇用については、退職補充の際に積極的な採用活動を行うことで法定雇用率 2.2％に対して 2.95％と継続して高い雇用率を維持することができている。エルダー職雇用の推進は魅力的な職場環境を提供することで 6 名のエルダー職雇用ができた。

（オ）病院ボランティアの充実

病院ボランティア説明会・講座を 3 回開催し、病院ボランティアに必要な知識に関する講義を実施し、新たに 29 名（内学生ボランティア 6 名）のボランティア登録者を得た。検査中央受付、画像診断部中央受付にボランティアを配置し、混雑緩和の一助となった。

（カ）省エネ活動の継続

2017 年度に改修した C 号館熱源機器の適正な運転管理の効果等により昨年度に比べエネルギーの使用量が削減された。また C 号館病棟共用部の照明 LED 化を実施した。

４．地域に望まれる病院機能の整備

（ア）高度救命救急センターの体制充実

ドクターヘリの運航をはじめとして、救急医療の実践を円滑に行うために地域医療機関や消防機関など関係各機関と連携をしている。各市町の消防機関主催の訓練などに参加し、関係機関と連携ができるように顔の見える関係作りを継続している。高度救命救急センターとして熱傷・急性中毒・指肢切断などの特殊疾患にも各診療科と連携し対応している。

（イ）認知症疾患医療センターの体制充実

浜松市認知症疾患医療連携協議会を開催し、認知症サポート医、認知症治療病棟を有する医療機関、地域包括支援センターと、認知症初期集中支援事業をはじめとする浜松市の認知症施策について情報共有・意見交換を行った。地域包括支援センター向け勉強会、多職種による認知症事例検討会や認知症出張相談会を浜松市内、湖西市で開催し連携を深めると共に、認知症対応力向上や地域の実情の把握に努めた。若年性認知症家族会に定期的に参加し、情報交換・共有を行った。

（ウ）精神科病棟の体制充実

静岡県精神科救急身体合併症対策事業における県内唯一の身体合併症対応施設であり、全域拠点機関としての役割を担った。また精神科救急においては、西部圏域の常時対応型病院として精神科救急おける基幹的役割を果たした。

（エ）災害拠点病院としての体制充実

静岡県防災訓練、首都直下地震を想定した大規模地震時医療活動訓練などに参加し、関係機関と連携をとりながら役割を果たした。院内では、事業継続計画（BCP）を策定し BCP に基づく地震総合訓練を実施した。2019 年 10 月台風 19 号災害に対して、静岡県の出動要請により県内医療ニーズの把握のため当院 DMAT が出動した。また、同災害に対して福島県へ医師 1 名を派遣した。

（オ）地域がん診療連携拠点病院の体制充実

がん診療連携拠点病院の高度型取得のため、医療安全研修会に医師・薬剤師が参加し、体制構築を図った。乳がん地域連携パス診療計画の改訂について、市内の拠点病院と連携し検討を開始した。

（カ）地域医療支援病院の体制充実

弁膜症外来（心臓血管外科）の開設案内の発送及び医師と共に医療機関訪問を行い、形成外科では診療体制変更と診療実績を広報し紹介件数の増加に取り組んだ。地域連携クリニカルパスの推進では、静岡県西部地区の大腿骨運営部会、脳卒中パス委員会の定期会議

に参加し、連携医療機関と常に情報共有を図っている。

（キ）聖隷おおぞら療育センター体制充実

細江警察署との合同による地域施設参画型の施設防犯対策講習会を開催し、職員の防犯意識向上に努めた。また、送迎車両 7 台に防犯・事故対策として、静岡県の児童福祉施設等緊急安全対策用品等整備事業を活用したドライブレコーダーを設置し安全体制の整備に努めた。

新型コロナウイルス感染防止対策で 3 月 4 日から特別支援学校が臨時休校になった影響による利用者支援のため、放課後等デイサービスの営業時間を延長した。

５．安定した経営基盤の確保

（ア）消費税増税に伴う各種対応

病棟各フロア及び各外来における掲示物の見直しを行うとともに、外来モニター表示にて利用者への周知徹底を図ることができた。また、医事及び資材システムの対応を滞りなく実施した。

（イ）コンプライアンスに基づく業務改善の推進

事業団統一フォーマット「施設基準管理統計」を使用し施設基準の精度管理を実施した。また、担当部署での施設基準の理解を高めていくため、医療技術部門を中心に担当箇所の入力を依頼し最終確認を医事で行うなど連携を行った。

６．その他公共事業・地域における公益的な取組

院内ボランティアの受け入れや、高校生の看護体験 78 名、高校生・中学生の職業体験 47 名を受け入れた。静岡県看護協会主催のふれあい看護体験では社会人 1 名の参加があった。市民公開講座は、計 3 回開催し、101 名が参加した。産後ケア事業としては 4 名の利用があった。

〈医療保護施設・無料低額事業〉

生活困窮者、無保険者、外国人労働者などに対する医療費・室料の減免を行った。引き続き福祉施設などへの医師・薬剤師・理学療法士などの派遣協力を行った。

聖隷おおぞら療育センター
「医療型障害児入所施設／療養介護（重症心身障害児施設）・短期入所　ショートステイ）」

聖隷おおぞら療育センターの施設入所サービスは、2012 年の障害者総合支援法の成立以降、医療型障害児入所施設（18 歳未満）と療養介護（18 歳以上）の並立施設運用になっている。2019 年度の利用実績は、4 月時点の入所者は 129 名であったが 2020 年 3 月末では 125 名（期間限定の入所者 2 名を含む）となった。
また、保護者など家族の事情により一時的な入所が必要と判断したケースで実施している期間限定入所の受け入れは 2019 年度は 5 名となり、緊急時など必要な時に安心して利用できる施設としての役割を果たすことができた。

ショートステイの 2019 年度利用実績は、1 日平均利用者数が 12.2 名（定員 20 名）、新規契約者は 3 名で契約者総数は 251 名となり、在宅の重症心身障害児者及びその家族を支援する為の重要なサービスとして地域の期待に応えることができた。

利用者の安全を確保するための防犯や事故対策として、2020 年 1 月に静岡県の児童福祉施設等緊急安全対策用品等整備事業により送迎用車両 7 台にドライブレコーダーを設置した。また、2 月には細江警察署の協力により地域施設も参画する不審者侵入に対する施設職員向けの防犯対策講習会を開催した。

新型コロナウィルス感染拡大への施設対策として、2 月 27 日より入所利用者の外出・外泊制限や家族面会の自粛を要請し、ショートステイ、あさひ、ひかりの子においても利用開始前の体調確認を厳にした。

あさひ「生活介護」

2019 年度は利用者 48 名からスタートし､年度途中の利用開始者 0 名､利用終了者が 1 名あり、47 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 31.3 名（定員 35 名）となった。職員配置では、常勤専従の看護師を 2 名以上配置する体制を継続し、医療的ケアの必要な利用者に安全なサービスを提供できた。また、常勤専従の生活支援員の配置を維持し、安定した日中活動支援を継続的に提供することができた。重度の医療的ケアの必要な方が増えている中で、小グループ単位で日中活動に重きを置いたサービスを提供することができた。

児童発達支援センターひかりの子
「児童発達支援・放課後等デイサービス・保育所等訪問支援・障害児相談支援・特定相談支援」

児童発達支援センターは、通所利用の障害児への支援だけでなく、在宅障害児の支援を積極的に行い地域の中核的な療育支援施設としての役割を果たす必要がある。

児童発達支援は、障害や発達に沿った遊びや保育を重視して実践した。2019 年度は利用者数 19 名からスタートし、年度内の利用開始者が 3 名、利用終了者 3 名で、最終的には 19 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 10.4 名（定員 15 名）となった。

放課後等デイサービスは、静岡県西部圏域の特別支援学校に通う医療的ケアの必要な重症心身障害児を主な対象とし、学校の授業終了後や休日に利用できるサービスである。利用希望が集中する土曜日と特別支援学校の長期休暇中等の休日枠については定員拡大して営業を継続している。

国の新型コロナウィルス感染防止対策で 3 月 4 日から特別支援学校が臨時休業になった影響による利用者支援のため、放課後等デイサービス営業時間を 10:00～16:00 に延長した。

2019 年度利用者数は 45 名からスタートし、年度内の利用開始者が 3 名、利用終了者が 1 名あり、最終的には 47 名となった。利用実績は、1 日平均利用者数 4.9 名（定員 5 名）となった。

相談支援事業所おおぞらは、児童を対象とした障害児相談支援と主に成人を対象とした特定相談支援を行っている。2019 年度は新規契約者 11 名、契約終了者 15 名で、最終的な登録者数は 186 名となった。

	入　所		短期入所		あさひ		ひかりの子	
	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績	予　算	実　績
入院患者・利用者数	135 名	131 名	16 名	12 名	－	－	－	－
入院単価（医療）	29,100 円	30,151 円	－	－	－	－	－	－
入院単価（福祉）	8,710 円	8,931 円	27,500 円	28,890 円	－	－	－	－
外来患者・利用者数	53 名	49 名	－	－	39 名	37 名	20 名	17 名
外来単価（医療）	5,100 円	4,929 円	－	－	12,580 円	12,052 円	14,610 円	14,058 円
サービス活動収益	2,138,000 千円	2,085,292 千円	左記含む	左記含む	120,000 千円	109,812 千円	78,500 千円	65,586 千円
サービス活動費用	1,958,000 千円	1,907,882 千円	左記含む	左記含む	134,000 千円	128,480 千円	76,000 千円	65,144 千円

（注：外来患者数、外来単価は歯科を除く）

その他の公益的事業

・ボランティアの受け入れ（延人数 99 人）

1. 科別入退院状況

項目	総診	腎内	ホスピス	消化	循環	呼内	結核	内分	脳卒	呼外	外科	整形	形成	産科	婦人	小児	泌尿
入院	168	154	132	1,114	1,223	1,400	19	99	301	770	1,058	1,305	367	388	197	876	988
退院	173	199	253	1,230	1,209	1,465	16	114	311	766	1,076	1,408	386	396	197	884	982
延入院	5,070	4,335	9,185	18,554	15,144	28,416	1,052	2,045	7,845	9,712	12,594	28,430	5,980	2,565	1,337	4,648	7,388
1日平均	13.9	11.8	25.1	50.7	41.4	77.6	2.9	5.6	21.4	26.5	34.4	77.7	16.3	7.0	3.7	12.7	20.2
平均在院日数	28.7	23.4	46.4	14.8	11.5	18.8	59.2	18.1	24.6	11.6	10.8	19.9	14.9	5.5	5.8	4.3	6.5

項目	眼科	耳鼻	皮膚	脳外	精神	麻酔	救急	神内	リハ	心外	肝臓	放治	化療	感リ	血内	お小	合計
入院	2,165	364	48	465	314	−	1,218	15	18	345	−	−	1	20	224	591	16,347
退院	2,156	360	55	465	371	−	655	16	44	352	−	−	1	25	245	584	16,394
延入院	5,479	2,415	1,954	10,701	20,063	−	8,828	482	1,937	5,034	−	−	4	493	10,439	48,106	280,235
1日平均	15.0	6.6	5.3	29.2	54.8	−	24.1	1.3	5.3	13.8	−	−	−	1.3	28.5	131.4	765.7
平均在院日数	1.5	5.7	36.9	22.0	57.5	−	8.7	30.1	61.1	13.4	−	−	3.0	20.8	43.5	80.9	16.1

2. 月別一日平均入院・外来患者数

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
入院	652.8	620.5	634.8	632.7	647.8	636.2	635.3	611.8	627.6	647.5	640.0	624.0	634.2
入院【おおぞら合算】	785.3	754.7	767.1	763.5	779.6	768.5	766.3	742.8	759.5	777.2	771.7	752.4	765.7
外来(医科)	988.7	1,071.2	951.0	977.8	958.5	1,009.0	990.1	976.3	985.0	984.4	922.9	927.4	977.6
外来(医科)【おおぞら合算】	1,036.1	1,122.5	998.9	1,027.2	1,004.0	1,061.8	1,039.0	1,026.1	1,033.3	1,032.1	970.8	974.4	1,026.2
外来(医・歯科)	1,010.4	1,093.7	972.0	1,002.7	986.0	1,038.1	1,016.7	999.5	1,009.7	1,012.1	948.9	948.6	1,002.2
外来(医・歯科)【おおぞら合算】	1,060.1	1,147.6	1,022.1	1,054.2	1,033.5	1,093.2	1,068.0	1,051.0	1,059.6	1,061.9	999.2	997.6	1,053.0

3. 月別入退院状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
入院	1,293	1,357	1,303	1,442	1,467	1,394	1,373	1,320	1,372	1,387	1,304	1,335	16,347
退院	1,374	1,271	1,355	1,358	1,496	1,391	1,407	1,319	1,461	1,249	1,353	1,360	16,394

4. 科別外来患者数

項目	総診	ホスピス	心内	外科	呼内	精神	婦人	産科	小児	耳鼻	眼科	整形	形成	泌尿
新来	319	256	−	453	971	361	238	337	3,176	1,026	1,419	1,075	501	603
再来	3,204	103	48	11,092	18,726	16,232	3,566	4,014	8,316	12,094	16,852	34,058	7,684	11,965
延患者数	3,523	359	48	11,545	19,697	16,593	3,804	4,351	11,492	13,120	18,271	35,133	8,185	12,568
1日平均	12.1	1.2	0.2	39.8	67.9	57.2	13.1	15.0	39.6	45.2	63.0	121.1	28.2	43.3

項目	循環	脳外	皮膚	呼外	麻酔	消化	腎内	腎透	心外	脳卒	神内	内分	救急	放治
新来	723	440	761	198	35	1,762	133	−	131	133	167	168	8,048	7
再来	6,487	4,833	12,501	6,404	5,294	13,550	3,430	11,911	3,473	1,825	1,672	9,561	5,454	5,999
延患者数	7,210	5,273	13,262	6,602	5,329	15,312	3,563	11,911	3,604	1,958	1,839	9,729	13,502	6,006
1日平均	24.9	18.2	45.7	22.8	18.4	52.8	12.3	41.1	12.4	6.8	6.3	33.5	46.6	20.7

項目	放射	リハ	化療	感リ	血内	歯科	お内	お小	お歯科	合計
新来	2,103	89	4	75	71	1,075	−	2		26,860
再来	931	5,983	1,883	3,131	5,439	6,075	1	14,093		277,884
延患者数	3,034	6,072	1,887	3,206	5,510	7,150	1	14,095	619	305,363
1日平均	10.5	20.9	6.5	11.1	19.0	24.7	−	48.6	2.1	1,053.0

※院内リハビリとセンターリハビリはリハに集約

※新来合計におおぞら歯科含まず

※再来合計おおぞら歯科含まず

5. 科別手術件数(入・外合計 ※手術室使用)

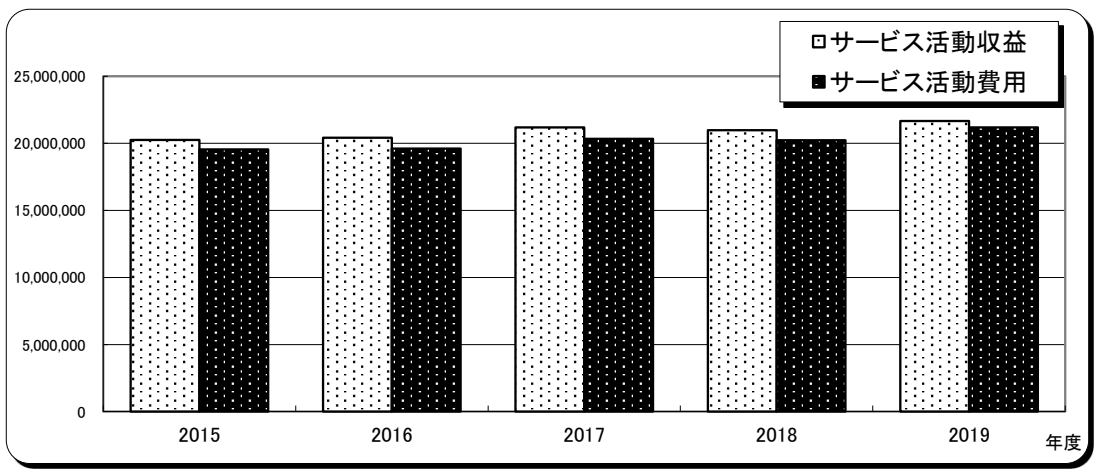
項目	外科	呼外	産婦	整形	形成	脳外	眼科	耳鼻	泌尿	心外	循環	腎内	精神	麻酔	合計
件数	861	364	199	1,561	786	161	2,254	222	533	306	112	39	141	1	7,540
比率%	11.4	4.8	2.6	20.7	10.4	2.1	29.9	2.9	7.1	4.1	1.5	0.5	1.9	0.0	100.0

6. 最近5ヶ年の医業収益・費用動態

【単位:千円】

項目	2015	2016	2017	2018	2019
サービス活動収益	20,254,175	20,424,547	21,182,566	20,970,814	21,659,512
サービス活動費用	19,548,033	19,610,158	20,341,864	20,226,545	21,189,897

◆サービス活動収益・費用動態



7. 最近5ヵ年の一日当り入院・外来患者数・単価の動態

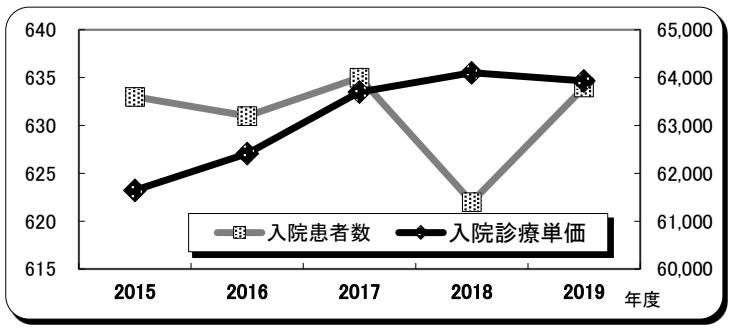
項目	2015	2016	2017	2018	2019
入院患者数	633	631	635	622	634
入院患者数【おおぞら合算】	768	768	772	755	766
入院診療単価	61,646	62,410	63,696	64,102	63,929
入院診療単価【おおぞら合算】	56,431	56,307	57,514	57,891	58,132

※C1含む

項目	2015	2016	2017	2018	2019
外来患者数	1,032	980	963	964	977
外来患者数【おおぞら合算】	1,088	1,034	1,017	1,015	1,026
外来診療単価	15,868	17,105	18,552	18,748	19,517
外来診療単価【おおぞら合算】	15,344	16,487	17,842	18,062	18,826

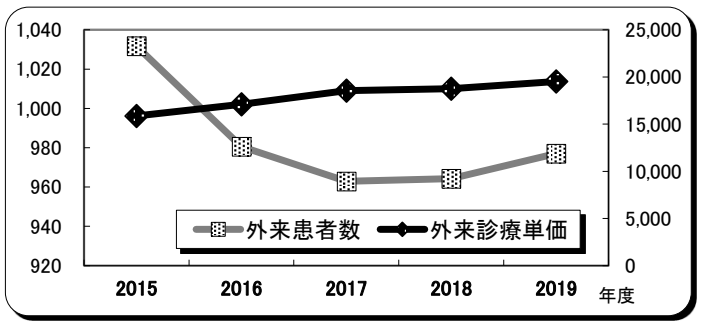
※C1含まず

◆入院　患者数・単価の動態



※おおぞら含まず

◆外来　患者数・単価の動態



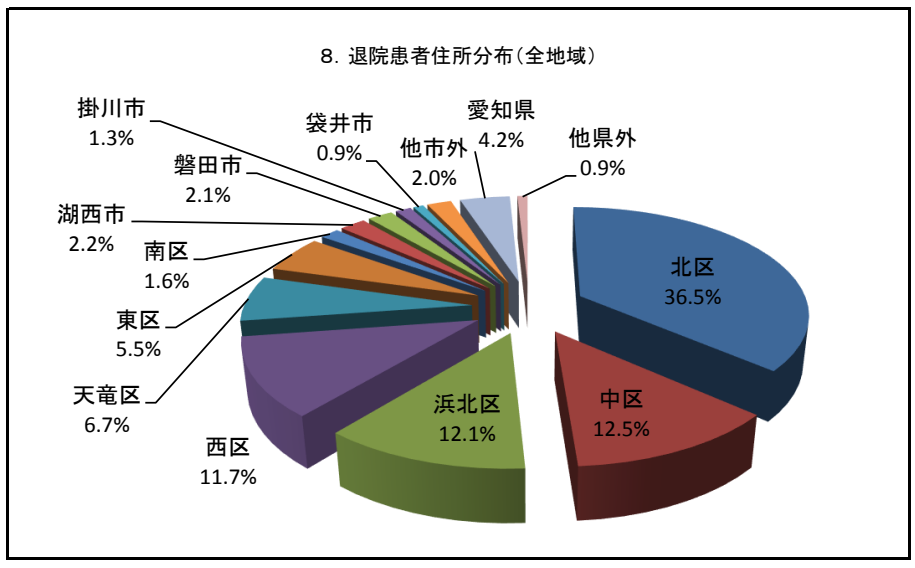
※おおぞら含まず

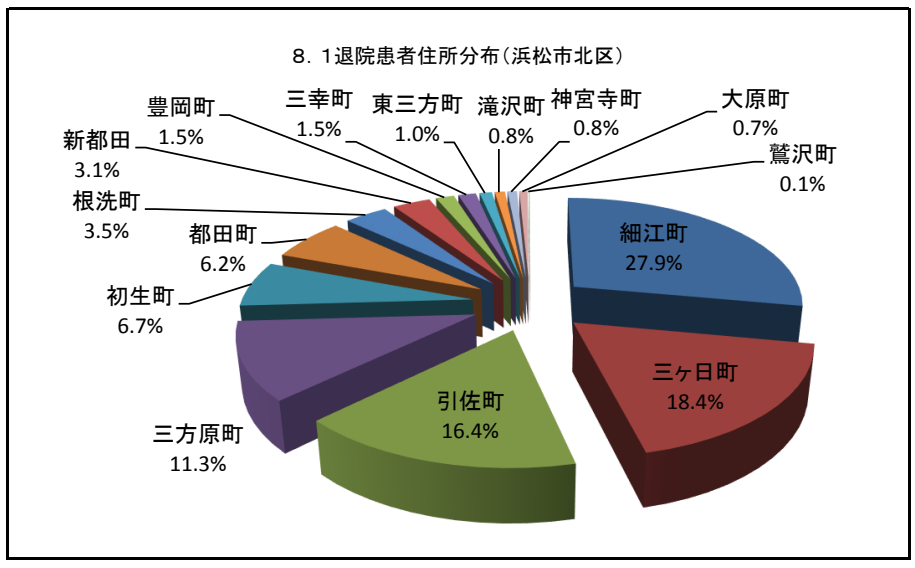
8. 退院患者住所分布（全地域）

項目	北区	中区	浜北区	西区	天竜区	東区	南区	湖西市	磐田市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	5,977	2,051	1,977	1,910	1,103	896	267	356	343	214	142	333	685	140	16,394
比率%	36.5	12.5	12.1	11.7	6.7	5.5	1.6	2.2	2.1	1.3	0.9	2.0	4.2	0.9	100.0

8. 1退院患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	滝沢町	神宮寺町	大原町	鷲沢町	合計
件数	1,669	1,098	983	678	399	373	211	185	90	87	61	50	47	41	5	5,977
比率%	27.9	18.4	16.4	11.3	6.7	6.2	3.5	3.1	1.5	1.5	1.0	0.8	0.8	0.7	0.1	100.0



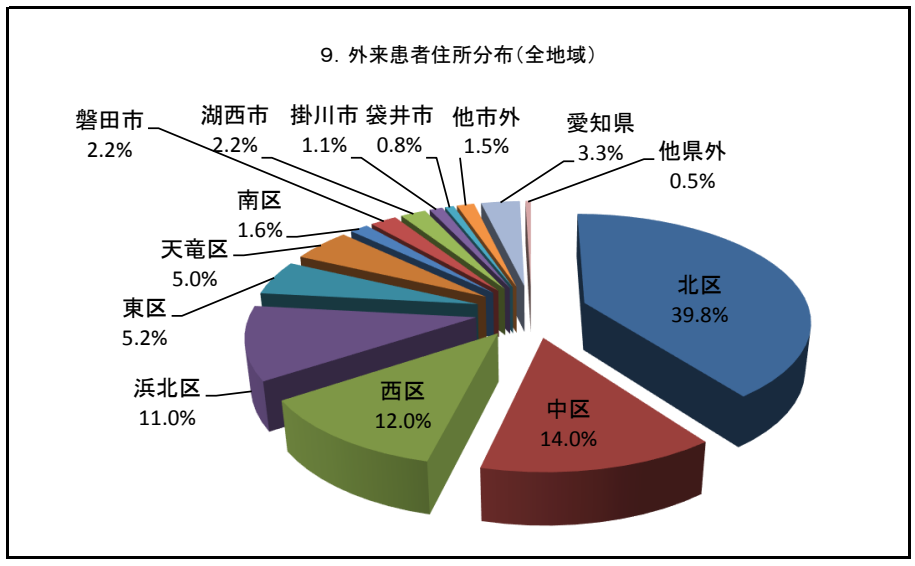


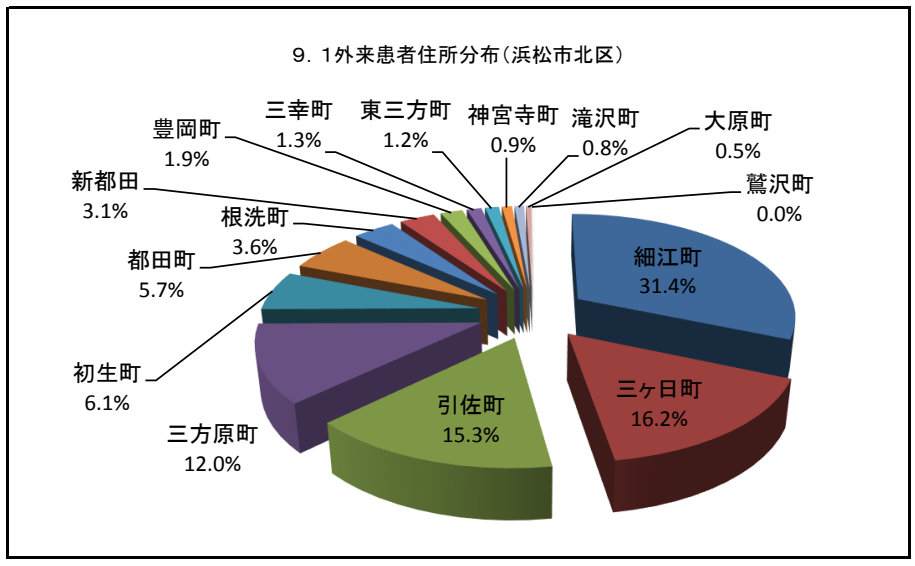
9. 外来患者住所分布（全地域）

項目	北区	中区	西区	浜北区	東区	天竜区	南区	磐田市	湖西市	掛川市	袋井市	他市外	愛知県	他県外	合計
件数	118,429	41,613	35,655	32,605	15,511	14,872	4,687	6,690	6,441	3,310	2,250	4,394	9,778	1,359	297,594
比率%	39.8	14.0	12.0	11.0	5.2	5.0	1.6	2.2	2.2	1.1	0.8	1.5	3.3	0.5	100.0

9. 1外来患者住所分布（浜松市北区）

項目	細江町	三ヶ日町	引佐町	三方原町	初生町	都田町	根洗町	新都田	豊岡町	三幸町	東三方町	神宮寺町	滝沢町	大原町	鷲沢町	合計
件数	37,190	19,132	18,150	14,165	7,198	6,725	4,310	3,654	2,291	1,517	1,434	1,055	976	580	52	118,429
比率%	31.4	16.2	15.3	12.0	6.1	5.7	3.6	3.1	1.9	1.3	1.2	0.9	0.8	0.5	0.0	100.0





聖隷三方原病院併設　介護老人保健施設　三方原ベテルホーム

2019 年度は介護老人保健施設としての機能と役割を再確認し、より地域に根差した施設となるよう施設理念、経営方針の見直しを図った。また、在宅復帰・在宅生活支援の推進だけでなく終末期や医療依存度の高いケースの受入れを積極的に進め、聖隷三方原病院の後方支援施設としての役割を果たすことに注力した。利用者数は予算には未達ではあったが、質の高い充実したサービスを提供することにより高単価を維持し入所、通所共に安定した事業運営となった。職員に対しては、施設全体で働き方改革に取り組み、制度の周知、超過勤務時間の短縮と有給休暇取得を推進することができた。

１．在宅復帰・在宅生活継続支援のさらなる強化

よりシームレスな在宅生活支援を目的に居宅サービス事業の３つ目となる訪問リハビリテーション事業の開設に向けた準備を進め、４月より開設することとなった。通所リハビリテーションに関しては大規模Ｉから通常規模へと区分が変更となったが、より個別性に対応したサービス提供となり利用者の満足度向上に繋げることができた。

２．安定した経営基盤構築への取り組み

リピーターの利用も促進され、在宅復帰率やベッド回転率が安定した。重症者や終末期の方の受入れも積極的に取り組み、結果、在宅復帰・在宅療養支援に対する評価も超強化型を通年維持することができた。施設の経営状況および介護保険制度について記載した施設内報を毎月全職員へ配布し情報共有と意識改革を図った。

３．安全で質の高いケアの提供

移動・移乗補助具の導入を進め利用者が安心してケアを受けられるようになった。転倒事故報告件数は 2006 年より半分以下となり、その実績が評価され日本転倒予防学会シンポジウムで発表の機会を得た。ACP（アドバンス・ケア・プランニング）、看取り、認知症ケアの面では、老人保健健康増進事業「医療提供を目的とした介護保健施設における看取りの在り方等に関する調査研究」の報告書に好事例として紹介された。また最新のリハビリテーション機器や安全な通所送迎車両への更新を進めることができた。

４．次世代を担う人材育成と働く支援

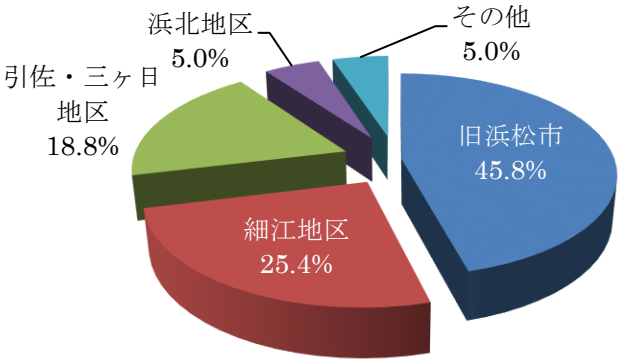
働き方改革の一助となるべく職員の負担軽減を目的に導入した看護・介護記録システムが年度末に稼働を始めた。今後より効率的な業務遂行とさらなる医療・ケアの精度向上、リスク管理に活用していく。職員教育では外部専門研修への参加や口腔ケア充実や TAVI 術後、がん治療中、がん末期の患者の受入れのため聖隷三方原病院協力のもと全職員対象に研修を開くことができた。認知症高齢者に関する研究に参加、実践ガイド製作に協力できた。

５．地域社会に期待される施設づくり

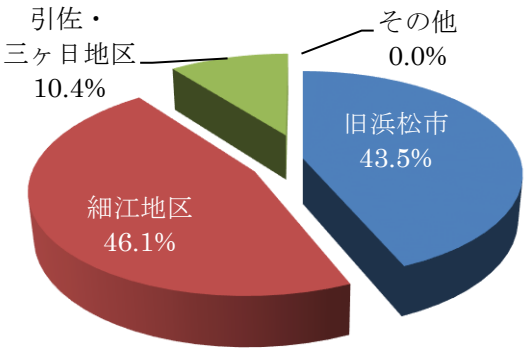
緊急入所、緊急ショートステイの利用受入れや通所リハビリテーションやショートステイにおける看取りのシステムを構築できた。学生実習や体験学習、地域ボランティアの積極的受入れなど、地域包括ケアシステムの中核を担う介護老人保健施設としての使命を果たすよう努力した。無料低額利用事業として生活困難者への経済的支援により生活自立に繋いだ。

【数値実績】

入所者 地区別利用状況



通所者 地区別利用状況



入所者 性別年齢別状況(%)

	男 (40.8)	女 (59.2)
65 歳未満	1.3	1.3
65 歳～	4.7	1.6
70 歳～	3.1	2.5
75 歳～	4.4	6.0
80 歳～	9.7	9.4
85 歳～	10.0	14.4
90 歳～	6.9	16.9
95 歳～	0.6	7.2

通所者 性別年齢別状況(%)

	男 (51.3)	女 (48.7)
65 歳未満	1.7	1.7
65 歳～	6.1	2.6
70 歳～	7.8	3.5
75 歳～	7.8	4.3
80 歳～	7.0	10.4
85 歳～	10.4	10.4
90 歳～	7.0	9.6
95 歳～	3.5	6.1

入所(短期含)利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150	150
1 日平均(人)	118.9	117.5	127.2	136.0	134.5	131.4	123.4	122.5	128.2	124.5	121.4	122.0	125.6
延人数(人)	3,567	3,644	3,816	4,216	4,171	3,941	3,824	3,676	3,974	3,863	3,522	3,781	45,995
稼働率(%)	79.3	78.3	84.8	90.7	89.7	87.6	82.3	81.7	85.5	83.0	80.9	81.3	83.7
平均要介護度	3.2	3.2	3.2	3.2	3.1	3.1	3.2	3.1	3.0	3.0	3.0	2.9	3.1

通所リハビリテーション利用状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
定員(人)	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50	50
1 日平均(人)	28.0	29.4	28.9	29.3	30.4	30.3	30.2	29.7	28.9	28.2	28.5	27.0	29.1
延人数(人)	727	765	723	790	822	757	784	771	723	676	713	702	8,953
稼働率(%)	56.0	58.8	57.8	58.6	60.8	60.6	60.4	59.4	57.8	56.4	57.0	54.0	58.2
平均要介護度	2.2	2.3	2.3	2.2	2.3	2.3	2.3	2.3	2.2	2.2	2.3	2.2	2.3

総合病院　聖隷浜松病院

2019 年度は病床の偏在解消と稼働率向上、そして新規患者の増加を目指してきた。当院の取り組みを地域の皆さまに周知するため広報に力を入れ、紹介患者数は増加、病床稼動率も向上した。高度専門医療を推進すべく、ロボット手術として子宮体がん、直腸がんの手術を新たに開始し、年間手術件数においても 11,000 件を超えた。また、働き方改革では土曜外来休診やタスクシフトの推進など、医師をはじめとした労働環境の改善と負担軽減に取り組んだ。災害対策にも力を入れ、ANPIC の体制構築、防災訓練や講演会により教育体制を充実させた。今後も地域の中核病院として当院を必要とされる方々の要望に応え、高度急性期医療を提供していく。

【病院使命】
“人々の快適な暮らしに貢献するために最適な医療を提供します”
【病院理念】
“私たちは利用してくださる方ひとりひとりのために最善を尽くすことに誇りをもつ”
【運営方針 2020】
私達は常に信頼される病院であり続けます
■望まれる良質な医療を提供します　■地域とのつながりを大切にします
■良い医療人を育てます　■働きやすい環境を作ります　■健全な経営を継続します
【事業・運営計画】
「利用者価値」の視点（患者・職員の満足のために）
1. 利用者満足の向上
（ア）病院の利用しやすさ向上 ①駐車場待ち状況　20 台以下（実績：19.6 台）
②新入院患者数　1,790 名以上/月（実績：1,762 名）
③外来患者数　1,570 名以上/月（実績：1,534 名）

「価値提供行動」の視点（病院機能・質の向上のために）
2. 地域に必要とされる高度・急性期医療の充実
（ア）断らない医療の提供　①救急車受入れ制限時間　70 時間以下/月（実績：148 時間）
②紹介患者断り率　3%以下（実績：4.6%）
（イ）効率的なベッドコントロール
①病床稼働率　91.5%以上（実績：91.0%）
②病棟別稼働率の差異（7:1 病棟）　20%以下（実績：28.5%）
（ウ）入退院支援の充実　①入院前支援患者数　125 件以上/月　（実績：26 件）
（エ）地域連携の強化　①紹介患者数　全体 1,950 人以上/月（実績：1,962 人）
中東遠地区　235 人以上/月（実績：219 人）
（オ）災害対策　①防災研修（e-ラーニング）への参加率
70%以上（実績：基本編 88.7%　上級編 74.5%）

（カ）がん診療の充実　①新規がん患者数　125 件以上/月（実績：122 件）

（キ）手術室の効率利用　①8:30～19:00 手術室稼働率　59.4%以上（実績：63.2%）

②曜日別手術室稼働率の差異　8.0%以下（実績：12.6%）

（ク）DPC 特定病院群の維持　①DPCⅡ期退院患者比率　52.0%以上（実績：53.5%）

3. 医療の質と安全の保証

（ア）患者安全目標の遵守　①患者誤認発生率 事象レベル 2 以上 0.04‰以下（実績：0.04‰）

②麻薬・ハイアラート薬品関連の I/A 発生率

事象レベル 2 以上の誤薬発生率 0.1‰以下　（実績：0.13‰）

③手指衛生実施率　医師 35% 看護 72% 医技・事務 35%以上（実績：医師 30.9% 看護 76.9% 医技・事務 59.5%）

④転倒・転落による負傷発生率 事象レベル 2 以上 2.5‰以下（実績：2.71‰）

4. 働き方の推進

（ア）効率的業務の推進　①超勤時間合計　前年度比 2%削減（実績：1.0%増加）

②クリニカルパス適用率　52%以上（実績：53.2%）

「成長と学習」の視点（人材確保・成長のために）

5. 明日を担う人材育成

（ア）職員のやりがい支援　①目標参画面接実施率　看護部 100% 医技・事務 75%以上（実績：看護部 93.9% 医技・事務 90.3%）

②パワーハラスメント・セクシュアルハラスメント

e-ラーニング受講率 75%以上（実績：86.8%）

③職員満足度調査

この病院で働くことにしてよかった 64%以上　（実績：66.3%）

職場の人間関係に満足している　63%以上　（実績：63.4%）

（イ）教育体制の充実　①学習会評価実施率　60%以上　（実績：93.5%）

「財務」の視点（経営・運営の安定のために）

6. 目指す医療ができる安定した財務

（ア）年度予算の達成　①収益（サービス活動収益）　31,618 百万円以上（実績：31,905 百万円）

②費用（サービス活動費用）　30,734 百万円以下（実績：31,121 百万円）

③利益（経常増減差額）　1,000 百万円以上（実績：　864 百万円）

【数値指標】

項　　目	予　算	実　績	対 予 算	対 前 年
入 院　患者数	687 名	683 名	99.5%	101.9%
入 院　単　価	86,100 円	87,011 円	101.1%	101.9%
外 来　患者数	1,525 名	1,503 名	98.6%	99.0%
外 来　単　価	19,500 円	20,522 円	105.2%	104.6%
病 床　稼働率	91.5%	91.0%	99.5%	101.9%
サービス活動収益	31,618 百万円	31,905 百万円	100.9%	103.1%
サービス活動費用	30,734 百万円	31,121 百万円	101.3%	104.3%
職　員　数	2,064 名	2,060 名	99.8%	101.3%

（注：入院単価、外来患者数、外来単価は歯科を除く）

【地域における公益的な取組】

高齢者を含む地域の健康増進への貢献

2019 年度は、がん、脳卒中など様々な疾患や治療にまつわる地域住民向けの市民公開講座を開催（がん 5 回、脳卒中 1 回、その他 1 回）し、それぞれの疾病の専門家による解説、アドバイスの場を設けた。地域の高齢者も多く参加し、疾病の理解と予防の観点から普及啓発を図り、健康増進に貢献した。

患者に対する支援活動

治療と仕事の両立支援として、がんを含む長期療養者に対し、ハローワークの担当者や社会保険労務士らとともに相談会を定期開催した。事業主向けには「治療と仕事の両立支援セミナー」を開催し、疾病を抱えながらも働き続けられる社会の構築を目指した普及啓発活動をおこなった。また、このような問題を抱える患者が集う場として、AYA 世代向けがん患者サロンを年 4 回開催した。

聖隷淡路病院

2019 年度は「変革の年」を掲げ、経営改善に加えて組織力の向上を目標に施策を取組んだ年であった。2016 年度より続けてきた「目標進捗管理」の仕組みを“職場ごとの目標”2018 年度から、“職種、職場を超えたチームの目標”2019 年度から“地域に出て行く、院内単価アップ”も設定し、職員一丸となって経営改善に取組んできた。具体的には高齢化率 38%を超える淡路島で利用者が安心して暮らせるように医師と外来看護が訪問診療、リハビリテーション科医師とセラピストが訪問リハビリテーションに取り組み、9 月から地域包括ケア入院料 1 の施設基準を取得した。

産科は 10 月に当院 600 人目の赤ちゃんが誕生した。2014 年 7 月から淡路市唯一の分娩医療機関として累計 627 件の分娩を取り扱ってきたが、医師招聘が難航し、2019 年 12 月をもって分娩の取り扱いを一時休止にすることとなった。

2020 年 1 月には、地域包括ケア病床を 40 床から 47 床に増床した。1 月から 3 階病棟の稼働率 90%・地域包括ケア病棟入院料の算定率 80%を維持できるようになった。これは、院内の連携強化や中核病院及び診療所・介護福祉施設からの紹介受入によるものが大きい。これらの取り組みを企画・運営してくれた職員の努力に感謝したい。

１．病院機能の強化

3 階地域包括ケア病床は 4 階及び 5 階病棟からの転棟や地域のニーズに則した直接入院受け入れなど適切な病棟運営に繋がり、安定した稼働を保つことができた。今後、当院の中心的役割を果たす病棟になる。4 階病棟は急性期患者の管理を中心に、病院の質の向上に大きく貢献した。5 階病棟は従来の入院患者に加えて、難病患者など地域サービスの狭間にある患者も受け入れることができた。

保健事業では、契約事業所数も増加し、人間ドック、婦人科健診はリピーターも含め、多くの方が利用した。

今年度から取り組んだ「訪問リハビリテーション」「訪問診療」は、淡路地区の聖隷施設と連携して利用者が住み慣れた淡路島で安心して暮らせるように取り組んだ。特にターミナル期の患者が自宅で最期を迎えたいという希望を叶えるため聖隷在宅・福祉サービス事業部と連携し訪問診療で 10 件の看取りを行った。

２．チーム医療の推進と人材育成の推進

医療安全管理、感染予防、褥瘡予防など、各委員会、職場の連携や徹底した推進活動により、大きな事故なく運営することできた。少ない職員数で多くの活動を実践していけたことは、職種を超えたチーム活動が円滑にできた成果である。

人材育成は、「目標進捗管理」の中心的な役割を担当させることを通して、地元職員の成長を促すことができた。2020 年度はこの「目標進捗管理」の業務が成功体験として地元採用職員の今後の力になるよう更に育成に力を注ぎたい。

３．利用者及び職員の満足度向上

院内各所に設置しているご意見箱に寄せられる貴重な声に対しても迅速な対応を心掛け、患者満足度の向上に取り組んだ。職員の満足度向上についてはチーム医療の推進、臨床研究への参加、などを通して、職員のやりがい支援に取り組んだ。

４．コンプライアンス経営とエコロジーの取り組み

“職種、職場を超えたチーム目標”を通して日々の活動を共有し合う体制は、各職種の相互理解を進め、その結果として質の高いコンプライアンス経営に繋がった。

「目標進捗管理」の“職場ごとの目標”のなかで省エネルギーを目標に設定する職場もあり、施設をあげてエコロジーに取り組むことができた。

５．健全な経営基盤の確立

医業収益は 2018 年度比で入院診療収益 97.1%、外来診療収益 102.4%、保健予防活動収益 109.1%であった。入院は、患者数・単価とも予算未達であった。外来は患者数が予算未達であるが、単価は予算達成となった。保健事業は毎年利用者を増やしている。

産科休止による助産師の離職、産科非常勤医師の退職など人件費が抑えられ、サービス活動費用が予算比 99.2%と達成した。しかし収益の未達の影響が大きく、経常増減差額では－125,842 千円となり大きく予算未達成となった。毎年、増収増益を続けていたが、今年度は、減益となった。夏以降の産科休止や冬の感染症対応の影響が大きいと考える。2020 年度に向けて体制を立て直していきたい。

６．地域における公益的な取り組み

「せいれい健康フェスタ」を開催し、多くの住民の方々に参加していただいた。地域住民のもとに出向く“まちの保健室”や“いきいき 100 歳体操”にスタッフを派遣した。

【無料又は低額診療事業】

淡路島唯一の無料低額診療事業を行う医療機関として、地域課題である高齢低所得層の救済に継続して取り組み、地域の期待に応えている。行政・各医療機関の地域医療連携室など関係機関への周知にも努め、生活困難者が必要な医療を安心して継続できるよう努めている。2019 年度の減免実施率は　14.4%であった。

【数値実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	133 名	126 名	94.7%	96.9%	外来患者数	132 名	131 名	99.2%	100.8%
入院単価	30,000 円	28,876 円	96.3%	100.0%	外来単価	9,500 円	9,353 円	98.5%	101.5%
サービス活動収益	2,043 百万円	1,879 百万円	92.0%	98.2%	サービス活動費用	2,020 百万円	2,003 百万円	99.2%	101.8%
病床利用率	87.5%	82.9%	94.7%	96.9%	職員数	194 名	191 名	98.5%	104.9%

聖隷横浜病院

2019 年度は、地元住民と職員の念願であった新外来棟が 2019 年 7 月に竣工し、安全で良質な医療を提供するための療養環境を整備することができた。2015 年度から取り組みをスタートさせた 4 本柱「救急診療体制の再構築と強化」「高齢者医療（生活支援型医療）の充実」「将来を見据えた診療体制の再編」「地域連携部門の強化」の集大成の年と位置付け、事業運営の取り組みを行った。

また、地域包括ケア病棟 9 床の増床、緩和ケア病棟 20 床と回復期リハビリテーション病棟 38 床の新設許可に対し、開設に向けての必要人員を確保することができた。これにより、急性期、回復期、慢性期の医療に対応可能なケアミックス型病院の構築に向けての準備を整えることができた。

１．救急診療体制の再構築と強化

“断らない”救急体制の維持を掲げ取り組んできたが、診療体制の変更に伴い、2020 年 2 月に横浜市二次救急拠点病院 B から横浜市病院群輪番病院へと変更することとなった。一方で、心疾患、脳疾患、外傷疾患に対する体制を維持することができたことにより、年間 5,357 台（目標 5,400 台）を受入れることができた。

「脳卒中ケアユニット入院医療管理料」（6 床）の稼働は順調であり、稼働・算定ともにほぼ 100％であり、2018 年 8 月の開設以来高稼働を維持している。

２．高齢者医療（生活支援型医療）の充実

訪問看護事業は、件数増加に伴い増員を図り、更なるニーズの拡大に向け体制を整えた。病院併設型の訪問看護としての差別化を図るため、訪問リハビリテーションの積極的な介入を実施し、件数の増加を追い求めるだけでなく、提供するサービスの質向上にも力を注いだ。同一敷地内の居宅介護支援事業所との連携により算定を行ってきた「機能強化型訪問看護」は、2020 年 3 月末日にて事業所が撤退し算定終了となった。

ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の推進に力を入れ、横浜市と連携し市民公開講座を開催した。高齢者医療のみならず、もしもの時にどのような医療を受けたいかを家族や大切な人と一緒に考える機会を持ってもらうための取り組みとして、メディアに取り上げられた。

３．将来を見据えた診療体制の再編

脳神経外科において、もの忘れ外来を開設した。また、人工関節センターにおいて、多血小板血漿を用いた再生医療外来を開設した。外科系診療科の体制充実により年間手術件数 1,610 件（目標 1,600 件）を実施できた。2020 年度に向けて、がんゲノム診断に関する遺伝子カウンセリング外来開設準備を行った。

４．地域連携部門の強化

2019 年 7 月 新外来棟開設と同時に患者支援センターの窓口を設置した。初診時の問診、予約入院患者の入院説明、検査説明、入院前面談や外来予約変更など、患者が診察や治療に専念できる環境を多職種が連携し支援する窓口として活動を開始した。

2018 年度に引き続き、保土ケ谷区内の一般財団法人育生会横浜病院に常勤医師 2 名を派遣した。当院で急性期治療を終えた患者の後方連携が強化され、また同病院からは急性期治療が必要な患者の紹介が増え、機能分化と共に連携が強化された。

＜医療の質向上＞　2019 年 5 月に日本医療機能評価機構更新審査の認定がされた。2020 年 1 月に公益社団法人 日本診療放射線技師会「医療被ばく低減施設」の認定審査を受審した。

＜人材確保・育成＞　2019 年度初期臨床研修医の定員 5 名フルマッチであった。67 床増床計画に向けての人員確保ができた。特定行為認定看護師は 4 名となった。

＜環境整備＞　2019 年 7 月に新外来棟が竣工、計画通り引っ越しを行い、稼働開始できた。既存棟の空きスペースを有効活用し、療養環境の整備と共に、職員アメニティーの向上を図った。

＜経営改善＞　病床稼働率は年間平均で 89.8%。2018 年度比、入院診療単価は 240 円減、外来患者数は 33 名減、外来平均単価は 250 円増であった。健診収益は 2018 年度比で 99.3%であった。訪問看護ステーションは 2018 年度に続いて黒字であった。

＜地域における公益的な取り組み＞

（ア）健康講座を開催した。（心臓血管センター内科医師と看護師によるミニ講演会を毎週月・水曜日に院内で開催）

（イ）ACP（アドバンス・ケア・プランニング）の市民公開講座を横浜市と連携し開催した。（市民及び医療関係者を対象として開催）

（ウ）認定 NPO 法人 J.POSH 主催「ジャパンマンモグラフィーサンデー」に参加した。（10 月に開催し、33 名が受診）

（エ）高校生を対象とした看護体験を実施した。（22 名の参加）

（オ）中学生の職業体験を実施した。（医療職の 1 日体験を実施し 5 名が参加）

【無料又は低額診療事業】

低所得者に対し広く事業を実施し、国が定める基準 10%に対して 11.7%の実績であった。

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
入院患者数	285 名	269 名	94.4%	97.1%
入院単価	57,700 円	55,769 円	96.7%	99.6%
外来患者数	645 名	557 名	86.4%	94.4%
外来単価	14,600 円	14,736 円	100.9%	101.7%
サービス活動収益	90.8 億円	81.9 億円	90.2%	96.2%
サービス活動費用	99.1 億円	94.0 億円	95.0%	106.4%
職員数	642 名	652 名	101.6%	102.8%

聖隷佐倉市民病院

2019年度は、第4期工事を無事に終えて新病棟のオープンや各種診療体制の拡充を図ることができた。9月から10月にかけては複数回に亘る豪雨災害に見舞われ、2月頃からは新型コロナウイルスの蔓延に伴う影響の深刻化が続いているが、地域における役割を果たすべく職員一丸となって活動を継続した。

2019年度における主な取り組みは以下の通りである。

6月　ケアプランセンター開設
8月　厨房のリニューアル移転
10月　病棟引越・再編成・増床
11月　地域包括ケア病棟移転、患者支援センターの拡張
12月　健診センター拡張
1月　手術室の増室、リハビリテーション室の拡張

【年度事業目標・年度重点施策】

1.Next Stageに向けた安心・安全で質の高いサービスの実践

2019年度は4月に呼吸器外科・小児科・循環器科・麻酔科・耳鼻咽喉科の医師をそれぞれ1名、10月には呼吸器内科の医師1名を採用することができ、より充実した診療体制を構築することができた。また、3名の研修医も採用し、当院における臨床研修の拡大に繋がっている。断らない医療の推進としては、お断り事例の分析を行い救急車受入強化に努めた。患者が安心して入院できるサービスの提供を目的として立ち上げられた患者支援センターの運営も軌道に乗り、ほぼすべての診療科における患者の対応に繋げられた。千葉県においては9月には台風15号、10月には台風19号・大型低気圧と複数回に亘る未曾有の豪雨災害に見舞われたが、近隣4施設からの透析患者延べ148名の受け入れや生活弱者への仮眠室・シャワーの提供、被災職員向けの臨時学童の実施など、幅広く地域医療に貢献することができた。

2.利用者のニーズに応えた病院機能の変革

第4期工事を無事に終えて、10月には新病棟をオープンすることができた。病棟再編を行うことで、より地域におけるニーズに対応できる体制を構築した。合わせて手術室をこれまでの6室から8室に増室し、効率的な稼動によって手術待ち期間の短縮と手術件数増加に対応できる体制強化が図られた。健診センターにおいても内視鏡室などの各種検査フロアのスペースを拡張し、更なる受診者ニーズに応えられる環境を整えることができた。放射線部門の移転も予定しており、今後CT・MRIなどの高額医療機器の共同利用を促進し地域での役割に応えていきたい。2020年の2月頃より新型コロナウイルスの感染が拡がりを見せており、患者は勿論のこと、職員の安心・安全を第一に病院としての役割・使命を果たすべく対応について検討を始めた。

3.多職種協働と専門性の強化

センター機能の強化の一つとしては腎臓内科ミーティングを定期開催し、腎臓内科医、看護師、臨床工学技士等の医療技術職、事務職の多職種で連携することで、より患者の治療効果の向上に寄与できているものと考える。また、10月にセンター化された骨粗鬆症リエゾンサービスセンターにおいては、チームのこれまでの取り組みが評価され、IOF（国際骨粗鬆症財団）より国内3施設目となるGold認定を受賞することができた。多職種にて協働したイベントとしては6回に亘る市民公開講座をはじめ、リハビリフェア・アイアイフェアなどを開催し、参加された方々からの

高い評価が得られた。

4.医療を志す人がここで働きたい、働き続けたいと思える病院づくり

採用活動において、2020年2月頃からの新型コロナウイルスの蔓延に伴い院内外の説明会や見学会が軒並み中止になる中、WEBや動画を活用した新たな方法での活動を試験的に導入した。職員が安心して働き続けるための一助として、自然災害時や新型コロナウイルス蔓延による休校時には院内保育園に加え独自の院内学童を実施し、職員のニーズに対応することができた。また、2019年4月より施行された働き方改革関連法に対応して健康経営の推進を強化した。具体的な取り組みとしては総務課より各職場長宛てに職場の超過勤務や有給休暇取得の状況を定期的に報告するなど、全病院的に労務管理の意識を高める各種方策を行った。

5. 成長可能な経営基盤への改革

経営状況においては、第4期工事による投資に見合った収益にまでは至らず、非常に反省すべき結果となってしまった。この結果をしっかりと検証し、次年度予算達成のため職員一丸となって取り組んでいくべく具体策の検討および実行に向けたアクションプランを策定した。

6. 地域における公益的な取組み

（ア）無料又は低額診療事業（減免実施率20.6%）

（イ）地域の高齢者・住民、介護施設利用者を招いたロビーコンサート（年5回）

【実績】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	305名	289名	94.8%	105.5%	健診受診数	174名	202名	116.1%	118.1%
入院単価	55,350円	53,263円	96.2%	98.8%	健診単価	18,080円	16,076円	88.9%	95.1%
外来患者数	853名	847名	99.3%	102.9%	ｻｰﾋﾞｽ活動収益	10,834百万円	10,266百万円	94.7%	104.6%
外来単価	14,240円	14,201円	99.7%	103.2%	ｻｰﾋﾞｽ活動費用	11,013百万円	10,763百万円	97,7%	109.7%
病床利用率	95.0%	90.0%	94.8%	105.5%	職員数	788名	782名	99.2%	108.6%

せいれい訪問看護ステーション佐倉

介護保険	予　算	実　績	対予算	対前年	医療保険	予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	340回	320回	94.1%	109.2%	利用回数	140回	85回	60.7%	75.2%
単　　価	8,200円	7,888円	96.2%	98.3%	単　　価	10,500円	10,465円	99.7%	98.2%

せいれいケアプランセンター佐倉

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
利用回数	－	136回	－	－	単価	－	11,053円	－	－

浜松市リハビリテーション病院

2019 年度は浜松市から指定管理を受託してから 12 年が経過し、新たに 5 年契約の 1 年目を迎えた。これまで当院は“生活を支えるリハビリテーション医療”を展開し成果を上げてきた。4 月に開設した通所リハビリテーション事業は、失語症や高次脳機能障害の患者にも対応できる、地域ニーズに沿ったサービス提供が利用者の増加につながっている。さらに、“最新リハビリテーションの追求”をテーマとした、高密度・効率的かつ科学的なリハビリ治療を実現するべく、トヨタ自動車が開発した歩行リハビリテーション訓練支援ロボット“ウェルウォーク”の新型機種 2 台を 2020 年 2 月に静岡県で初導入した。2020 年度の本格稼働に向け運用を詰めていく。

また、5 月の電子カルテシステム更新に伴い、これまでの診療録に関する運用の見直しや改善により、記録記載等に費やす超過勤務の削減につながった。2 年越しで構築していた“浜リハデータベース”が完成し、電子カルテや各部門システムからの診療記録データの抽出が可能となり、今後、診療成績の検証や臨床研究のさらなる促進が期待される。

2018 年度の“えんげと声のセンター”に続き、2019 年度も当院の“スポーツ医学センター”が実施した“スポーツ障害・成長期運動障害に対するスポーツ医学センターの取り組み”が浜松市医療奨励賞を受賞し当院の特色が評価された。

2020 年度は 2019 年度に引き続き“最新リハビリテーションの追求”をキーワードに、最新のリハビリテーション機器を活用とした治療体系を確立し、「ここでしか受けられない治療」を他施設も導入に踏み切れるような成果を地域のロールモデルとして確立していきたい。

１．安全で質の高い医療の提供

リハビリテーションの効果指標の一つである機能的自立度評価（FIM）を高めるために、チームでの情報共有の強化と、患者の住環境を事前に把握した治療計画の立案を目標とした。回復期病棟では患者ごとの月 1 回のカンファレンスが定着し、入院時早期（14 日以内）の自宅訪問件数も 10 件と、新しい取り組みが定着してきている。結果 FIM 改善度では、当院の 2019 年度平均改善度は 22.9 点であり全国平均（21.0 点）を上回る治療成績を得た。

医療安全管理については、2018 年度に引き続き中央署の協力を得て防犯訓練を実施した。感染制御では、看護師・看護補助者のみならず医師・リハビリテーションスタッフにも手指消毒剤を携帯するよう運用を強化し、接触に伴う感染防御態勢の強化を図った。

２．地域共生社会の実現に向けた、求められるサービスの充実

特色ある医療体制の充実に向け、“えんげと声のセンター”では嚥下サポーター養成講座を 7 年継続し、2019 年度も 29 名の院内認定者を輩出した。“スポーツ医学センター”は市内 3 小中学校生徒を対象に“運動器検診”を実施。“高次脳機能センター”では就労支援に向けた就労ボランティアの運用を確立した。

介護保険事業では、通所リハビリテーション 42 名（予算 20 名）、訪問リハビリテーション 33 名（予算 24 名）と利用者も増加しており、今後も利用者に選ばれる介護サービスの充実を図っていく。

３．人材の育成と労働環境の整備

看護補助者採用には苦戦したが 14 名を採用した。離職者が多く、今後は離職防止に注力する。リハビリテーション職種では国家試験不合格者が 3 名おり、2020 年度の必要人員に達しなかった。中途採用も含め引き続き採用活動を強化していく。

障がい者雇用率は法定雇用率に未達であり継続課題となっている。就労ボランティアの取り組みより、職業適性を評価し雇用につなげる運用策定が次年度の課題である。

スタッフのキャリア支援の充実を図るべく、中堅研修を自施設で初開催し、参加者 25 名のリーダシップ、問題解決能力の育成支援を行った。働き方改革の取り組みとして、会議の時間管理および勤務時間内開催を推奨し、超過勤務の削減（2018 年度比 15.4%削減）を実現できた。

４．安定した経営基盤の確立

病床利用率 94.7%（213 人/日）であり入院単価とともに予算を上回ることができた。当院で長期間継続フォローしていた外来患者を地域に還元した影響で、外来患者数の減少が生じたものの、ボトックス治療や介護保険事業など、地域が求めるサービス提供にウェイトを移した結果、サービス活動収益で 2018 年度比 102%を示すことができた。

５．地域における公益的な取組み

2011 年より実施している“市民いきいきトレーナー養成事業”は継続開催し、2019 年度も新たに 69 名のトレーナーを養成した。2019 年度より浜松市健康福祉部が展開する“元気リーダー育成事業”として共同事業となり、市民のニーズとトレーナー活動のマッチングを健康福祉部が主幹となり、トレーナー活動の拡充と支援を取り着付けることができた。

西部地区 17 施設の集まりであった“静岡県西部リハビリテーション病院会”の活動を 2019 年度に“静岡県リハビリテーション病院会”として県単位に底上げし、顔が見える関係づくりと地域連携の協力体制を拡大した。10 月の東日本豪雨災害時において、JRAT（大規模災害リハビリテーション支援関連団体協議会）の要請を受け、当院の医師、理学療法士の 2 名が福島県へ災害派遣に向かった。避難所における相談支援や不活発病防止の体操指導など、現地スタッフとの協力体制を確認できた。災害時におけるリハビリテーション病院としての役割を果たせる体制構築も今後の課題である。

【数値指標】

	予　算	実　績	対予算	対前年		予　算	実　績	対予算	対前年
入院患者数	213 名	213 名	100%	99%	外来患者数	196 名	176 名	89%	93%
入院単価	37,681 円	37,613 円	99%	103%	外来単価	7,090 円	7,631 円	108%	104%
職員数	381 名	374 名	98%	104%	病床利用率	94.7%	94.7%	100%	99%
サービス活動収益	3,408,669 千円	3,410,207 千円	100%	102%	サービス活動費用	3,376,451 千円	3,348,797 千円	99%	103%

＜病床別患者一人あたりリハビリ実施単位数＞

	単位数
回復期病床	7.1 単位
一般病床	4.3 単位

＜病床別入院単価＞

	単　価
回復期病床	40,762 円
一般病床	32,870 円

聖隷袋井市民病院

開院後 7 年目を迎えた 2019 年度は、サービスの質向上と業務の効率化を目指し、訪問リハビリテーション事業の開始と電子カルテ導入、日本医療機能評価機構による病院機能評価受審に取り組んだ。6 月に内科常勤医師 1 名を増員して診療体制を強化できたことも、2019 年度の事業活動に繋がっている。

経営的側面では、療養病棟の入院について運用を見直すことにより入院患者増を図った。2019 年 10 月の消費増税に伴う診療報酬改定による入院単価増、そして薬品・診療材料費のコスト管理により収支差額でプラスの結果となった。年度末に成果が表れ始めてきたため、引き続き 2020 年度も注視していきたい。

急性期病院における在院日数の短縮や在宅での医療ニーズの高まりの中、切れ目のない医療と介護の連携体制が必要であり、当院の役割だと実感するため、2020 年度は訪問診療の開始を検討していく。人的資源に限りはあるが、高齢者が安心して住み慣れた場所で療養を継続していけるため、当院の機能の充実を図っていきたい。

【事業・運営計画】

1. 地域ニーズに対応した質の高い医療サービスの提供

内科常勤医師 1 名増により、一般、療養、回復期、3 つの病床機能を効果的、効率的に運用した。新入院患者数は 2018 年度 578 名より 2019 年度 598 名に増加し、病床を有効に活用することができた。また、2018 年度より専任感染管理者の配置と全病棟での認知症ケア看護師の配置の準備を進め、より安全に高齢者に対する医療サービスを提供してきた。

リハビリテーション医療の質向上については、2018 年度より準備してきた訪問リハビリテーション事業を、4 月より開始することができた。利用者数は予想を遙かに上回る結果となり、地域でのニーズを改めて感じることができた。

9 月には電子カルテを導入した。手書きであった患者情報が、院内のどこでも確認できる点は、業務の効率化に繋がり職員間での情報共有を速やかに行うことが可能となった。

2020 年 2 月には病院機能評価を受審した。運用やマニュアル等を見直し整備することで業務の標準化やサービスの質向上ができ、また“できていること”の実感にもつながった。当院の理念にもある“患者の視点”を大切に、職員一丸となって取り組むことができた。

2. 働きやすい職場環境と人材確保・育成

少子化の影響や私事都合による離職もあり当初の目標職員数は確保できなかったが、看護師、看護補助者、療法士等を採用することができた。特に内科常勤医師 1 名の採用は当院にとって影響が大きかった。育成については、外部講師を招聘した院内暴力対策研修会をはじめ、個人情報、職員倫理など多岐に渡る研修を企画した。

労働基準法改正により時間外労働の上限規制が罰則化され、働き方の見直しが求められた。元来当院は、45 時間以上/月の時間外労働は少なかったが、制度化により業務の効率化や勤務体制の見直しを意識するきっかけとなった。しかし、電子カルテ導入や病院機能評価受審などの準備により、2018 年度より増加しているため、2020 年度は更なる効率化が求められる。

障がい者雇用については、ジョブコーチ制度を活用し、看護補助者 1 名の採用につながった。

3. 地域包括ケアシステムの推進と連携体制の強化

連携病院間で病床稼働率や受け入れ状況を共有することにより、状況に応じた柔軟な入院相談を可能とした。また、訪問リハビリテーション事業を通じ、新たに療法士が地域のケアマネージャーと連携することを開始した。

広報活動や情報発信、地域との連携にも重きを置いて活動した。袋井市とは、袋井商業高等学校の生徒による院内コンサートの継続、市内で生産された食材を用いた病院食“まるごとふくろいじもとごはん”の提供等、イベントを通じた協働ができており、引き続き取り組んでいく。

4. 安定した経営基盤の確立

入院患者数は予算を下回ったが 3 月には過去最高となる 129.4 名/日を計上した。療法士の増員によりリハビリテーション提供数が増加し、また新たな感染対策加算、認知症ケア加算の算定、消費増税による診療報酬改定等により入院単価は 2018 年度より 500 円増となった。

5. 地域における公益的な取組

（ア）袋井市総合健康センターとの共働と発展

・「しぞ～かでん伝体操（介護予防体操）」への出張指導 14 回・240 名参加

・療法士による介護、認知症、リハビリ相談会参加 1 回・1 名参加

・療法士による地域講習会、研修会への講師派遣 2 回・100 名参加

・認知症初期集中支援チーム参加 12 回　　・在宅医療多職種連携推進会議参加 3 回

・地域ケア会議　1 回 48 名参加

・開院後初の市民公開講座開催　「100 歳まで食べよう！ 100 歳まで歩こう！」70 名参加

【数値実績】

	予算	実績	対予算	対前年
一般病棟入院患者数	44 名	46 名	103.9%	106.2%
一般病棟入院単価	22,600 円	23,917 円	105.8%	99.2%
療養病棟入院患者数	44 名	42 名	95.9%	97.3%
療養病棟入院単価	21,800 円	23,395 円	107.3%	103.1%
回復期病棟入院患者数	44 名	37 名	83.6%	106.2%
回復期病棟入院単価	33,000 円	34,243 円	103.8%	102.6%
外来患者数	64 名	61 名	95.3%	96.3%
外来単価	6,300 円	6,685 円	106.1%	104.3%
訪問リハビリテーション延患者数	1,584 名	2,371 名	149.7%	-
訪問リハビリテーション収益	5,997 千円	8,879 千円	148.1%	-
サービス活動収益	1,535 百万円	1,490 百万円	97.1%	104.6%
サービス活動費用	1,522 百万円	1,458 百万円	95.8%	106.8%
職員数	174 名	159 名	91.4%	102.6%

保健事業部

2019 年度、保健事業部は「利用者様が安心して選び続ける保健事業部」「職員一人ひとりがやりがいや誇りを持って働く保健事業部」を経営方針として運営を行ってきた。

「利用者の目線に立った質の高いサービスの提供」としては、大内憲明先生を聖隷福祉事業団の特別顧問として招聘し、国の「がん検診のあり方に関する検討会」に基づいたがん検診の精度管理を開始した。具体的には、2020 年度からの運用に備えて、70 万件の健診データを使用することに対して、利用者からインフォームドコンセントを取るための確認書を作成。5 大がん（肺・胃・大腸・乳房・子宮）の統計情報の精度向上のため、がん検診受診歴の設問を追記した問診票を改訂した。加えて、5 大がん検診の利益・不利益についての説明書を職域健診の受診者にも渡るよう、新規に作成した。また、フォローアップセンター（仮称）の精密・再検査受診勧奨の強化の取組みにより、精検受診率向上に努めることができた。「経営基盤強化のための取り組み」としては、2018 年度に引き続き、各センターとも午後の時間帯の有効活用に努め、午後ドック等の利用が増加した。また、国が進めた風しん抗体検査について健康診断と同時実施するなど積極的に受け入れることができた。「人材の育成と確保」としては、2016 年度から始めた渉外担当者のスキルアップを図る研修を継続実施している。また、保健事業部職員に対する第一種衛生管理者の資格取得支援として勉強会を定期的に開催した。「健康経営の実践と発信」としては、各センターの衛生委員会が中心となり、健康イベント等を積極的に開催した。「データヘルス計画に向けて」としては、がん検診の精度管理を推進し統計分析を行った。「連携の強化」については、季刊誌「すこやか&オアシス」の対談企画として顧客団体の保健事業取組みについて 3 団体の事例を紹介した。「地域における公益的な取組」としては、地域のイベント等へ積極的に参加した。

2019 年度は、次期健診システムの稼動延期や個人情報流出などリスク管理の重要性を再認識し管理体制を見直すこととなった。また、新型コロナウイルス感染症拡大により、感染防止対策等今までに経験したことの無い対応に追われた。

このような中、経営面では聖隷健康診断センターで医師確保が出来なかった等の要因により予算未達となったが、聖隷予防検診センター・地域企業健診センター・サポートセンター*Shizuoka*で予算達成し、保健事業部全体では、4 年連続予算達成の報告となった。

各センターの詳細報告は次頁以降となっている。

【数値実績】

	予算	実績	対予算(%)	対 2018 年度(%)
人間ドック	65,380 名	64,049 名	98.0%	100.5%
健康診断	618,564 名	660,525 名	106.8%	106.6%
外来精密	40,629 名	39,936 名	98.3%	98.3%
サービス活動収益	8,348,290 千円	8,436,355 千円	101.1%	103.0%
サービス活動費用	7,928,290 千円	7,987,655 千円	100.7%	103.1%

聖隷健康診断センター

2019 年度は、人間ドックや健康診断の利用者満足度の追及だけではなく、自治体や医療保険者からの受診率向上や重症化予防の要望に応えるべく、健康診断事後の支援体制にも注力した。精密検査受診勧奨の通知回数を増やす等の運用変更にあわせ、既存書類の改良、QR コードを用いた精密検査結果報告の体制を新規構築し、受診率の向上と精密検査受診の未把握率低下を目指した。QR コードを用いた精密検査受診結果報告（615 件：2019/10～2020/3）にすることで、職員の業務時間を増やすことなく、日中仕事等で忙しい利用者の利便性は向上した。更には、地域連携の活動を通じ開業医との情報交換を密にして、精密検査先の紹介等新たな連携が構築できた。

聖隷健康診断センターの施設に対し利用者が飽和状態にある中では、健診コンシェルジュによる誘導も強化できた。各フロアに配置する運用と、検査枠の配分や順路の見直しも進めた。例年の課題であった採血コーナーの待ち時間対策としては、システム改修にあわせ 1 ライン増加した。各所での待ち時間軽減という効果がでており、利用者からは好評である。一方、滞在時間の大幅な削減は図れておらず、今後も拘って対策を練っていきたい。

１．質の高いサービスの提供

「接遇力の強化や待ち時間の軽減等、CS(顧客満足度)を向上させる運用の構築」という観点で、健診コンシェルジュ体制が効果を出してきている。細やかな配慮にあわせ、混雑具合に応じた順路変更等、臨機応変な対応で適切な誘導を行い、利用者の不満軽減に繋げている。受付の補佐役として配属されている保健師も、オプション検査の勧誘や専門的な質問に迅速に応対でき、健診コンシェルジュとあわせ利用者には大変好評であり、効果は投書や CS(顧客満足度)調査から窺える。

待ち時間が長いとされる受付・採血についても、各所時間削減がなされている。受付では、指定時間受付の制度が人間ドックにおいて、利用者にようやく定着してきた。受付から 30 分以上の待ち時間は無くなった。しかしながら、一般健診においては定着せず、周知方法に課題を残している。採血コーナーについては、1 ライン増加により、最大の待ち時間が 18 分と、前年度平均の 30 分から大幅な改善が図られた。平均の待ち時間は、5 分程度となった。

２．人材（人財）の育成

課長会及び係長会を定期的に開催した。日常業務の課題解決だけでなく、BSC(バランス・スコアカード)を活用し施設目標達成に向けた行動や、課題の共有、職場を越えた連携を強化することが継続してできた。

労働衛生機関の職員として専門性を高めるための資格取得も推進した。聖隷労働衛生コンサルタントが主体的に活動し、第一種衛生管理者取得講習に関しては事業部内 41 名に教育を実施した。合格者は 13 名で、多くの職場に取得者を出すことができた。合格率も 76%と高く、講義内容も明解であると評価できる。継続して、「健康診断の基礎講習」等、教育活動が実施されている。

３．経営基盤強化のための取り組み

年々、胃カメラ検査の要望が高まるなか、稼働率の低い午後検査枠を有効活用する『午後ドック』を利用団体に提案し、年間 112 件と拡大させることができた。また、土曜日も新たに 10 枠を人間ドック枠とともに増加提供することができた。

団体に対しては、継続的な健康管理体制を築くための支援として、専門職の派遣等産業保健活動を積極的に推進した。

特定保健指導は、巡回健診に保健師が帯同し健診現場にて利用者の生活習慣改善に介入する取り組みが強化された。新たな試みとしては、ICT を活用した遠隔保健指導を導入した。保健師の派遣が困難な状況でも、事業所や利用者に合わせた健康づくりが提案できるようになった。2 月時点で 5,300 人（2018 年度比 115.8%）と利用者数を延ばしている。生活習慣改善及び重症化予防に対する、宿泊型や滞在型のセミナーは聖隷沼津健康診断センターと協力し、県下幅広く提供している。

４．健康経営への取り組み

健康経営委員会、衛生委員会及び課長会が連動し、ストレスチェックによる職場環境改善やメンタルヘルスに関する目標を職場毎に可視化、共有し、評価を行った。職員全員が参画できる職場改善活動がなされている。また職員に、施設に有する運動設備を営業時間外に開放し運動の場の提供をおこなった。

５．連携強化

顧客サービス課地域連携係の活動により、地域の開業医との連携を密にし、精密検査先紹介等の活動が展開された。開業医指示のもと、年間 52 例の実績であるが当施設の医療設備を活用できる運用も構築できた。

聖隷沼津病院と共同で開始された専門団体との遠隔画像診断体制を、予防検診センターへ拡大した。2020 年度については、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka* へも拡大し相互において利益が出るよう調整を図る。

また、運動トレーナーの雇用が困難であったため、“遠鉄スポーツクラブ エスポ浜松”から派遣いただく運用を開始した。専門職による情報交換や、其々の所属職員を有効活用する新たなサービスを展開したい。

公益的な取り組みとしては、8 月に地域学童向けの親子で参加する医療体験会を実施。通年で静岡文化系術大学生や浜松学芸高校生による写真を人間ドックフロアに展示した。これらの企画の係りにより、医療に興味を持つ機会が提供できた。

【数値指標】

１日ドック他	ＰＥＴ健診	一般健診	特定保健指導	婦人科健診
26,744 名	239 名	53,410 名	5,872 名	23,494 名
特殊健診	外　来	合　計	サービス活動収益	職員数
2,904 名	18,622 名	131,285 名	2,506,078 千円	215 名

聖隷予防検診センター

2019 年度は、事業の「選択と集中」をコンセプトとして、ニーズの高い事業への注力を行いながら、利用者の要望に合わせサービス強化に努めた 1 年であった。利用者の声に真摯に向き合い、要望の高い 1 日人間ドックや婦人科検診、また重症化予防の視点から労災二次健康診断等についても受け入れ体制を整備、2018 年以上の実績を上げることが出来た。特に婦人科は、レディスフロア改装とともに問診機能を大幅に強化、利用者に応じた適切な検査の提案・提供を行うことが出来た。

また、2018 年度に引き続きスピードドックの増枠と結果説明体制を整備、更なる利用者の滞在時間の短縮に繋げること出来た。地域に向けた公益的な取組みとして行った近隣児童を対象とした「なつけん探検隊」や、聖隷クリストファー大学との連携による婦人科検診を中心としたがん検診等の積極的な啓発活動は、複数のメディアにも取り上げられた。

事業の選択の視点では、宿泊室を用いた宿泊ドックについて、2019 年度をもって終了することとした。ただし、サービスダウンでは無く、宿泊ドックでのみ利用可能であったオプション検査を 1 日人間ドックに開放するなど、今まで以上のサービス向上につながる施策とした。

上記の施策を中心に事業を推進、経営数値としては、受診者数 87,126 人（対予算 103.7%、対 2018 年度 104.7%）、医療事業収益 1,529,050 千円（対予算 100.8%、対 2018 年度 103.0%）と好調であった。このような良い結果を残せたことは、日々大変な中でも笑顔で業務を行っている全てのスタッフのおかげであり、この場を借りて心から感謝を伝えたい。

2020 年、事業団は創立 90 周年を迎える。聖隷予防検診センター(以下、センター)は、改めて創業の原点である「隣人愛」を職員と共有しながら、利用者視点に立った取組みが迅速に対応出来る当センターの最大の強みを活かし、引き続き「職員も利用者も『また来たくなる』予検センター」を目指す。

1. 全ての職員が活き活きと働くことができる職場づくりの実践（健「幸」経営）

「健康がスタッフを支え、スタッフがセンターを支える」の考えのもと、センターをあげて健康経営の推進を行った。ストレスチェックのサマリレポートに基づき、全部署に対し管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善案の発表、改善結果について報告会を行った。健康イベントも衛生委員会が中心となり計画的に実施、卓球大会や朝のあいさつ運動、夏のスイカ割り大会や、所長・事務長等が年末にスタッフに向け年越しそばを振舞う会は、当センターの恒例行事となっている。このような活動により、ストレスチェックの結果は年々改善、2019 年度は特に「上司による人材育成」「キャリア形成教育・施策」「個人の尊重」などの項目について大幅な改善が認められた。

2. 良質な予防医療を永続的に提供するための安定した経営基盤の確立

ニーズの高い事業への注力化として、1 日人間ドックを中心とした枠の拡大および新規顧客の獲得を行った。2019 年度は、午前の一般健診枠を午後に大きくシフトし、人間ドック枠拡大を目指すピークシフト 3 ヵ年計画の中間年として、引き続き受け入れ態勢を整えた。結果として、1 日

人間ドックは、対 2018 年度比で 475 人増（前年比 102.4%）また、予約スタッフの頑張りにより午後の健診稼働率は、計画前と比較し約 2 倍（2017 年度比 190.1%）となり、センターの収益向上の大きな原動力となった。

また、長年の懸案事項であった宿泊室を利用した宿泊ドックについては、2019 年度末をもって終了とした。最終日に向けて利用者とスタッフによるカウントダウンイベント等を開催、最終日には長年の利用者に対して感謝イベントも行った。2020 年度からは、宿泊ドックでのみ提供していた追加検査を 1 日人間ドックに対しても利用可能とし、更なるサービスの向上を目指していく。

3. 利用者目線に立った質の高いサービスの提供

ワンランク上のおもてなしを目指し、質の高いサービスの提供を行った。センターの売りであるスピードドックの稼働率は 95%を超え、相乗効果として人間ドック利用者の滞在時間が平均 30 分短縮されるなど、大きな効果を上げることが出来た。また、女性にやさしいセンターを目指しレディスデーを増設、当日のお茶ソムリエによる新茶提供などのさまざまなサービスは、大変好評を得ている。

四季にあわせた食材をふんだんに取り入れた人間ドックの食事も満足度が高く、2019 年度は食を通じて市と協働で市民の健康づくりを応援する「はままつ食 de 元気応援店」にも参画した。

4. 地域における公益的な活動

若い方に対する婦人科検診啓発を目的とし、「楽しい！婦人科啓発活動」をコンセプトに聖隷クリストファー大学および学生有志と連携、「SGE プロジェクト（※)」を発足させた。

大学側からも積極的な関わりがあり、学園祭での検診啓発活動や当センタースタッフによる予防医療講義の実施、人間ドック時の食事の共同開発など今までに無い新たな取組みは、複数のメディアにも取り上げられ、また行政等からも高い関心を得ている。

※SGE プロジェクト　S…聖隷　G…gynecology（婦人科）　E…enlightenment（啓発）の略

【数値資料】

ドック(宿泊含)	一般健診	特定保健指導	婦人科検診	特殊健診
20,361 名	32,896 名	4,022 名	16,455 名	1,785 名
外　来	合　計	サービス活動収益(地域含)		職員数
11,607 名	87,126 名	4,068,391 千円		155 名

聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

2019年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、『経営基盤の強化』 『質の向上』を重点課題とし運営を行ってきた。まず、取り組んだ課題は、需要が高い上部内視鏡検査枠の見直しである。現場スタッフと連携し、5 枠増/週の運用を開始した。上部内視鏡検査枠を拡大することが、閑散期における利用者獲得に繋がるため、引き続き調整を図っていく。また、静岡市は、人口の減少幅が大きく、高齢化率は28.6%と全国の高齢化率(26.6%)より高い地域である。その社会背景を考慮し、高齢者でも継続的に受診できるよう「聖隷健康サポートの会」を発足した。会員の方々には、健康寿命の延伸に貢献できるよう、会員限定の人間ドックコース・オプション検査の推奨、健康相談・保健指導などを実施する。今後も地域貢献に寄与すべく啓発を継続していきたい。

一方、アクシデントとしては「個人情報の漏洩」が発生した。多様化する業務の中においても常に情報管理の徹底を図ると共に効率化を推進する必要性がある。今一度、規則遵守し利用者から信頼される施設運用の基盤を強化していきたいと考える。

2020年度、聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*は、選ばれ続ける総合保健施設として、静岡地区で根付き、最高の質の医療サービスを提供できるよう“職員一人ひとりが自ら気づき考え行動する自立した組織構築”を目指していきたい。

【事業部理念】

わたしたちは、利用者の皆様と力を合わせて、お一人おひとりの健康の実現を支援します

【事業・運営計画】

1.質の向上と情報発信力の強化

（ア）利用者ニーズに合ったサービスの提供

①上部消化管内視鏡検査　5枠増/週

②先駆的な新規オプションの検討・導入　　アレルギー検査導入167件

③Webサービスの積極的な運用　2018年度比　106.7%

④年齢層(定年退職者など)のニーズに応える仕組み作り

「聖隷健康サポートの会」発足　79名加入

（イ）質を維持するための設備投資

①計画的な医療機器設備更新　　汎用超音波装置更新

（ウ）地域企業等依頼の講演会・取材への積極的な協力体制の構築

①市民公開講座　女性の健康週間

開催場所：プラザウェルデ沼津　講演者：鈴木美香(医務課)

②医療機関向け講座　CKD(慢性腎臓病)トータルケアを考える会

開催場所：ホテルセンチュリー静岡　講演者：平野亜希子（検査課）

2.経営基盤強化と新たなサービスの創造

（ア）巡回健診を充実させるための営業活動とサービスを実施

①新規獲得団体　巡回健診：6事業所　施設内：3事業所

②企業向け当日特定保健指導への対応など利用者の要望に応える体制整備

協会けんぽと連携しミニ保健指導を積極的に実施

（イ）より多くの利用者を受け入れるためのサービスの向上

①リアルタイムドックの効率性の追求

各部署と横断的連携を徹底し、医師結果説明、保健指導の待ち時間短縮を図った

②利用者閑散期ドック受診への誘導

内視鏡検査を増枠する事により、閑散期での受入態勢を強化

３．人材育成・確保

（ア）専門職としてのスキル向上にむけた学会発表・認定取得への支援体制

人間ドック学会発表、医療技術者認定取得に対し支援を行った

（イ） 職員確保体制の強化

看護・事務と連携し、随時施設情報発信ならびに採用を実施した

４．健康経営の実現

（ア）職員超過勤務時間削減　2018 年度比　91.3%

（エ）衛生委員会を中心に、職員の健康意識を向上

①職員ドックにおける結果説明受診率　100%

②職場別ストレスチェック分析、並びに職場環境改善の提案・実施

５．連携の可視化

（ア）静岡県立大学・厚生労働省等への研究協力を継続し、地域公益活動の実績を作る

日本医療研究開発機構(AMED)　「JECS Study」研究継続委託

（イ） 医師会・浜松医科大学・地元総合病院・行政との連携強化

静岡赤十字病院　産婦人科との情報交換実施

６．地域における公益的な取組

（ア）自治会の地域のイベントに継続して参加し、地域との繋がりをより密にする

日本対がん協会主催「リレーフォーライフジャパン」参加

静岡商工会議所、静岡県経営者協会に積極的に参加

（イ） 過疎地域における健康診断の実施継続

過疎地域である藁科地区での巡回健診を継続実施

【数値指標】　聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*

１日ドック	一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診
16,705 名	91,954 名	3,372 名	16,031 名	7,865 名
外来	合　計		サービス活動収益	職員数
9,707 名	145,634 名		1,838,462 千円	161 名

医療事業収益内訳	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	1,183,996 千円
	巡回健診事業	318,817 千円
	聖隷静岡健診クリニック	280,904 千円

地域・企業健診センター

2019 年度は、「新規受託健診の円滑実施」「風しん第 5 期抗体検査・定期摂取の実施」「ES の向上に向けた職員の適正配置」の 3 点を重点目標に事業を行った。

新規受託健診の円滑実施については、聖隷の健康診断の評価を聞いた事業所から問い合わせが多くあり、また、近隣同業者の巡回健診撤廃も追い風となり、多くの団体と新規に契約を結ぶことができた。このような中、医局や渉外担当はじめ各課の協力の元、大きなトラブルも無く順調に運用ができた。

風しん第 5 期抗体検査の対応については、巡回健診実施顧客に対し定期健康診断と同時実施できる体制を構築することにより、多くの事業所からの要望に応えることができた。

ES 向上に向けた職員の適正配置については、課長会や次月会議にて出動車両台数・出動人員・時間の見直し等を積極的に行っている。しかし、新規契約を結び、拡大し続けている巡回健診においては、運営管理課はじめ、コメディカル部門も増員や運用変更の管理体制が追いつかず、45 時間を越える超過勤務が発生する事態となった。とはいうものの、組織的に対策を取り、12 月からは長時間の超過勤務が改善した。

経営指標は、受診人数 400,465 人(対予算 107.0%、対 2018 年度 108.1%)、医業事業収益 2,436,245 千円(対予算 104.5%、対 2018 年度 106.8%)と好調な成績を残すことができた。

新規検診車 3 台作成し、胸部専用車両(1 台)として 7 月配備、エコーや心電図が 3 部屋実施可能な多目的検診車※(1 台)2 月配備、車内での健診が可能な巡回胸部車は 3 月納車予定である。※多目的検診車：日本宝くじ協会様の社会貢献広報事業の助成事業にて作成。

2020 年度は、新規契約による巡回健診事業拡大に伴い、組織として戦略的な「選択と集中」を図ることで経営基盤の安定と同時に、ES 向上を目指した管理体制を整備し、「働き方改革」を意識した職場づくりの推進に尽力していく。また iPad を用いた巡回健診支援システム導入、静岡地区巡回健診との傾斜配置等、利用者サービスの質や生産性・効率化を高めながら、職員が働きやすい組織づくりをしていきたい。

1.　利用者の目線に立った質の高いサービスの提供

2018 年度より運用開始となった、巡回健診時における当日分割特定保健指導とミニ保健指導のさらなる推進を行った。2019 年度は当日分割特定保健指導 435 名(対 2018 年度 228.9%)ミニ保健指導 6,770 名(対 2018 年度 173.3%)の実績であった。風しん第 5 期抗体検査については初年度にもかかわらず 3,745 名を実施する事ができた。また、顧客の担当者が替わった際にも聖隷の巡回健診の基本が解る「健診ガイドブック」を 2019 年 6 月よりリリースする事ができた。

2.　経営基盤安定のための取り組み

2019 年度は、例年になく大口の新規契約団体が増え、田原市住民健診・スズキ湖西工場・エンシュウ・クラベの定期健康診断等の大口団体に加え、他 14 団体の受注があった。田原市住民健診については、愛知県東部の近隣市町村で聖隷の評判を聞いての依頼、スズキ湖西工場では他工場での評判により、聖隷に健診機関を切り替えた。エンシュウ㈱については社長が、人間ドック

を受診した際のスタッフ対応を気に入り健診機関の切り替えに繋がった。他団体については長年の営業努力にて受注を貰えた案件もあった。この様に聖隷スタッフの日頃の活躍により新たな受注に繋がり、改めてスタッフに感謝する年であった。

また、法令に準拠した検査項目の推進や風しん抗体検査など、行政が推進する事業を積極的に行ったことも業績を上げる事に繋がった。2020 年度も行政の事業を引き続き推進して行くことと、後期高齢者の健診にも対応をしていく。

3.　人材の育成と確保

健診事業の理解と質の向上を図るため、渉外担当スタッフを中心に第一種衛生管理者の資格取得を推進、取得に向けた研修の参加支援も行い 2019 年度は 3 名の資格取得に繋がった。

また、地域・企業健診センター課長会が主催で行う「人材育成研修」を役職者中心に年 3 回実施をした。

4. 健康経営の実践と発信

2018 年度に引き続き、2019 年度についてもストレスチェックの結果を基に職場環境改善の実施を推進した。全部署に対し、管理会議にてストレスチェック結果の振り返りと職場環境改善案の発表および改善結果について報告会を行った。

5. 地域における公益的な取り組み

近隣の障がい者施設や老人ホーム等へ出動し、車椅子の方にはリフト付き検診車で胸部エックス線撮影を行い、寝たきりの方にはポータブルレントゲン装置にて胸部エックス線撮影を行い、結核・肺がん検診を実施する事ができた。

【数値指標】

一般健診	特定保健指導	婦人科健診	特殊健診	合　計	職員数
328,884 名	242 名	33,513 名	37,826 名	487,591 名	176 名

在宅・福祉サービス事業部

2019 年度の事業目標である「仕事を創る」に相応しく、各エリア各事業所においてあらゆる取り組みや組織づくりが行われ、事業は大きく成長した。これは事業所単位で個々に取り組むのではなく、地域の細かなニーズに合わせてエリア単位で考えて取り組んだ結果であり、事業部全体が連携した成果である。必要とされながらも取り組めない小さな事業、採算の合い難い事業であっても、拠点となる施設が職員配置の協力等、あらゆる経営支援を行うことで、事業を創出する力は、その地域に密着し心を一つにして生み出そうとする職員の思いに所以している。また、各エリアでは地域共生社会の視点においても高齢者、障害者、児童等の種別を問わない支援の構築が進み始めた。高齢者施設では障害者の受け入れ、障害者施設では知的、身体、精神を問わない支援、児童施設では障害や医療的ケアを超えた支援に取り組んだ。デイサービスの経営環境が変化する中、和合せいれいの里ではリハビリ特化型デイサービスの開設を機に「聖隷トライサポートセンター」として既設されていた一般型、認知症型、身体障害者向け、児童向けのデイサービスに、リハビリ機能を共有ステージとして設置することで総合的なデイサービスの形を創ることが出来た。また、聖隷厚生園信生では訪問看護ステーション細江、聖隷ヘルパーセンター浜松北、聖隷ケアプランセンター細江を移転し、同一施設内に設置することで、障害者支援における在宅支援機能を総合的に実行できる施設となった。そして、浜松市障害者相談支援事業所の再編計画の実施主体として他法人と共同で行う提案協議を行い採択された。これにより、地域での障害者支援を広域な視点で法人を超え、医療と介護の垣根を越えて支援できる礎石を置くことが出来た。保育分野においては全国初となるこども園、訪問看護ステーション、児童発達支援事業所が合築された「聖隷こども園こうのとり富丘」の開設に漕ぎ着けた。地域に点在する専門機関に親子が出向くのではなく、子どもの生活環境を保障し、専門機関と専門能力が協力して支援する新たな形に挑戦していくこととなった。入園受付においても予想を超えるニーズとなり、先ずは安全安心の施設運営を行うことを目指す。

事業が地域ごとに専門化し、種別を超えて在宅と施設が連携していくことで、共通の支援情報がリアルタイムに共有化できる仕組みが必要となっている。また、施設介護においても介護人材の不足が慢性化し、新たな仕事の組み立てが急務となっている。このため、モデル施設を定め、業務の見直しや ICT の活用について実験的取り組みも行った。事業部では各エリアの施設と事業所が主体的に種々の取り組むことの大切さを重んじつつ、共通の情報や人材をどのように活用して行くか、本部機能の存在意義が問われている。法人本部における本部機能は何か、事業部における本部機能は何か、現場視点に立った課題点の洗い出しは行わねばならない。法人が大規模化すれば各システムも大規模化する。しかし、地域連携を行う主体は行政や他法人であり、システムルールも大きく異なる。現行システムの現場支援が支出に見合うだけの効果を得ているのか、加速度的に発展する情報システム社会との距離感を考えつつ、再構築していくものとしたい。

【2019 年事業計画事業部方針】

仕事を創る

近い未来を想像する、出来るかも知れないを実験する、出来ることを発見する

【2019 年度に取り組んだ主な事業】

（関東）

〇東京海上日動ベターライフサービス㈱と共同して稲毛海岸駅前の共同住宅地に介護コンビニ（ローソン、ケアプラン、訪問介護、訪問看護）を開設し、人口集中地での新たな事業が始まった。

〇松戸愛光園改修により短期入所 4 床を増床した。

〇聖隷訪問看護ステーション油壺を閉鎖し聖隷訪問看護ステーション横須賀に統合。逸見サテライトの廃止統合を行った。

（静岡）

〇静岡県指定管理者として静岡県立浜松学園の運営が行われた。10 月に自主事業として「聖隷チャレンジ工房浜松学園」を開設。2022 年指定管理後の施設委譲について協議を進めた。

〇聖隷デイサービスセンター住吉を和合せいれいの里に移転統合し、リハビリ強化型デイサービス「聖隷トライサポート和合」を開設した。

〇聖隷ケアプランセンター浜松を聖隷ケアセンター高丘に移転し総合的な拠点とした。

〇聖隷放課後クラブはなえみ高丘を聖隷放課後クラブはなえみ和合へ統合し総合的な拠点とした。

〇聖隷浜松病院ひばり保育園の増改築を行い、定員増に向けての準備を進めた。聖隷浜松病院職員の学童保育の広域化に伴う受入拡大を行った。

〇常盤町高層マンション一階部に小規模保育事業所聖隷のあ保育園（定員 19 名）を開設した。

〇磐田市南部地域包括支援センター、磐田市南部障害者相談支援センターの委託運営を開始した。

〇聖隷こども園わかば、ひかりの子、めぐみの一号認定の定員を設定し受け入れを開始した。

〇聖隷こども園こうのとり富丘、聖隷訪問看護ステーション富丘、聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘（豊田からの移転）の開設に向けて建設を実施した。

〇聖隷厚生園信生 1 階を増築し、訪問看護ステーション細江、聖隷ヘルパーセンター浜松北（初生から名称変更）、聖隷ケアプランセンター細江を統合し、障害者の総合的在宅支援拠点とした。同時に近隣に障害者グループホーム「福祉共同住宅ファーストステップ」を開設した。

（宝塚）

〇デイサービス事業の再編を行い、第二地区における山本地区拠点を廃止し、聖隷訪問看護ステーション山本、花屋敷地域包括支援センターを花屋敷せいれいの里へ統合した。

（淡路）

〇淡路市元第二庁舎を借り受け、聖隷訪問看護ステーション淡路、聖隷ヘルパーステーション淡路、聖隷ケアプランセンター淡路第二を移転し、新たにリハビリ強化型デイサービス「聖隷ライフサポート津名」を開設した。

〇淡路市より旧岩屋認定こども園舎の活用について協議し、淡路栄光園デイサービスセンターの移転、施設のショート 8 床増床計画を進めている。

（奄美）

〇児童発達支援センター「聖隷かがやき」の移転新築を行った。

和合せいれいの里

2019 年度、和合せいれいの里の年度初めは事業形態組み換えから始まった。聖隷ケアプランセンター浜松がケアセンター高丘に移転し、ケアセンター高丘にあった聖隷放課後クラブはなえみ高丘を聖隷放課後クラブはなえみ和合と統合した。8 月には聖隷デイサービスセンター住吉を和合せいれいの里へ移転と同時にリハビリテーション特化型のデイサービス聖隷トライサポート和合を開設し、医療から介護で継続支援のできる体制を整えた。同時に共生型サービス（機能訓練）を開始した。当施設 5 つの通いの事業が総合的に支援できるようトライサポートセンターとしてセンター機能での運営体制をとった。2019 年度も和合せいれいの里の理念の「切れ目なく総合的に支援する体制」を進めることができた。

１．高齢者・障害児（者）に対し切れ目なく質の高いサービスを提供する

（ア）特別養護老人ホーム和合愛光園・和合愛光園和合サテライト

①情報システムの活用や、状況に応じた介護計画の策定と個別ケアの実施を行った。

②介護職の仕事を切り出し、職場毎にケアサポーターの配置ができた。

③新たな営業先としてグループホームへアプローチを行い 2 件の利用に繋がった。

④褥瘡委員会を新設し褥瘡マネジメントを強化、除圧マットの購入などを行い、発症率の低下に努めた。褥瘡マネジメント加算を取得できた。

⑤ショートステイ空床を居宅支援事業所に電子媒体にて随時案内を流すことができた。

⑥障がい者空床利用延べ 70 人（327 床）、緊急受け入れも延べ 13 人（65 床）利用があった。

（イ）和合愛光園デイサービスセンター・聖隷トライサポート和合

①聖隷デイサービスセンター住吉の和合せいれいの里へ移転にともないリハビリテーション特化型デイサービス「聖隷トライサポート和合」を開始することができた。

②セラピストの配置を増やし医療後の継続リハビリテーションの受け入れ体制ができた。

③聖隷トライサポート和合での共生型サービス（機能訓練）の導入ができた。

④最新機器導入と機器活用での個別支援の強化ができた。

⑤トライサポートセンターとして各デイサービスの総合的サポートができる体制とした。

⑥アセスメントに基づいたＡＤＬや認知症改善プログラムの実施は継続課題となった。

（ウ）障害者支援施設みるとす

①「みるとす」（生活介護第 1 単位）

午後に利用者との活動を作れるよう勤務時間の変更を行った。利用者の見取りを経験し、ケアの幅を広げる機会となった。

緊急受け入れ対応は、特別養護老人ホームの空床利用も含め柔軟な受け入れが出来るよう勤めた。

②「みるとす」（生活介護第 2 単位）あすなろ

障がい特性（高次脳機能障害等）についての勉強会を実施した。

環境の見直しをし、利用者同士の関わりに配慮した環境作りができた。

担当職員を窓口に聖隷めぐみ保育園との合同イベントが実施できた。

（エ）障害者相談支援事業所くすのき

①年齢・障害種別の区別なく幅広い相談支援に取り組みケース拡大できた。

②浜松市相談支援事業所の再編準備を行った。

（オ）聖隷チャレンジ工房和合

①訓練・就職支援の実績として就職活動 10 名、就職者 2 名、半年定着者 2 名の実績。

②聖隷キッチン和合弁当受注先の拡大として 4 月から浜北愛光園（35 食/日）を開始した。

③新しい実践的な就労作業メニューとして 8 月からオムツ発注・補充業務を開始した。

④就労定着支援体制強化として 2020 年 3 月 13 名（就職後 6 ヵ月経過 2 名）の実績。

（カ）聖隷放課後クラブはなえみ和合

①はなえみ高丘との合併で、2 クラス体制になり年代に沿った支援を行うことが出来た

②新たに設置したスヌーズレンルーム、会議室を利用して運動サーキットなど実施。

③効率的な送迎体制としてはなえみ和合、アイビー送迎を市内 19 の学校への送迎実施。

（キ）生活支援ハウスやまぶき

①特別養護老人ホーム職員との協力体制での運営が移転後一年半が経過した。

②利用者が、特養フロアの掃除等、手伝いの中でのやりがいを見つける姿が見られた。

（ク）聖隷ヘルパーセンター

①身体介護比率については、2019 年 4 月 59.98％　2020 年 2 月 69.90％（9.92％アップ）。

②有償サービスは最大 23 件あり、通院介助、60 分以上の生活援助等できた。

（ケ）訪問看護ステーション住吉

①くすのき、ヘルパーセンターとともに利用者発掘ができた。（紹介 14 名中利用 6 名）

②カンファレンスにてｅ-ラーニングでの学習の機会をもった。

③聖隷浜松病院の多職種カンファレンスに参加し、退院支援の検討ができた。

④浜松市リハビリテーション病院訪問リハビリから訪問看護へ移行者の情報交換を実施。

（コ）聖隷ケアプランセンター和

①聖隷ケアプランセンター浜松移転後の支援体制を整えた。

②各機関より依頼を受け支援困難ケースや難病ケースに積極的に対応できた。

（サ）地域包括支援センター和合

①担当圏域内の地域ケア会議から生活支援体制づくりへの地域課題抽出・確認ができた。

②年間 2500 件を超える相談対応ができ、チームとしての対応力をあげることができた。

２．業務省力化と業務効率化を進めることでサービスの質も高める

（ア）介護記録システムのタブレット使用を進めるとともに、業務の効率化、帳票の統一と削減に取り組んだ結果、17 帳票の削減と間接業務時間を一人当たり一日 27 分削減できた。

（イ）事業毎の送迎体制の見直しを行ったが、効率的な送迎への取り組みは継続課題となった。

（ウ）業務省力化をめざし新たな機器・ロボットなど新技術の試行として、見守りシステムの試験導入、とろみサーバーの導入に着手した。

３．共生社会実現の為の連携関係を作り、利用者がその人らしく地域で暮らせるよう支援する

（ア）日常的に高齢者・障害者・こどもとの交流をすすめることができ始めている。園児のお散歩での交流や、施設行事の合同開催ができている。

（イ）法人内病院が推進する患者の地域移行促進の為、退院支援カンファレンス等参加した。

４．　新たな役割を与え成長を実感できる体制強化と多様な人材の働き方を支援する

（ア）ラダーのレベル達成のための目標を目標参画に具体的に挙げることで、自己の課題や取り組みを明確にすることができた。またプリセプターやそれを支えるリーダー等職員向けにプリセプターシップの講習会を実施。新人とプリセプターを支える仕組みの強化を図った。

（イ）EPA 介護福祉士候補生は、EPA 卒業生によるフォローアップ体制を確立する事ができた。新人育成計画は現場の OJT、介護向けの講習会や年度末の振り返りで成長過程を確認、共有する場面を設けた。

（ウ）認知症介護実践者（リーダー）研修の受講者の増加は人員不足により研修不参となった。

５．防災・防犯対策の強化と地域との関わりを増やす

（ア）毎月防災訓練を実施し、どの職員でも対応できるような体制作りを目指した。

（イ）静岡県災害派遣福祉チーム登録要員のフォローアップ研修に参加できた。

（ウ）ホタル観賞や花火レクを地域に向けて発信することで和合サテライトに足を運んでもらう機会を作ることはできた。

６.地域における公益的な取組

（ア）聖隷キッチン和合の困窮家庭への食を介しての支援計画を進めた。

（イ）中学生・高校生の福祉体験を継続して積極的に受け入れた。

（ウ）専門職としての技術・情報を地域へ出向き提供することはできた。

（エ）河川里親制度に継続登録し隣接河川の環境美化活動を行いホタルの育成を継続することができた。

【数値実績】

高齢者入所・通所関係事業

	和合愛光園			和合サテライト	和合愛光園デイサービスセンター			やまぶき
	特養入所		短期		通所介護			生活支援ﾊｳｽ
	従来型(3 号館)	ユニット型	従来型(障害)	ユニット型	一般型	予防介護	認知症対応型	
利用者定員	62 名	40 名	20 名	29 名	50 名		12 名	5 名
利用延数	22,356 名	14,296 名	6,635 名	10,488 名	8,359 名	895 名	2,555 名	947 名
1 日平均利用者数	61.1 名	39.1 名	18.1 名	28.7 名	27.1 名	2.9 名	8.3 名	2.6 名
稼動率	98.5%	97.7%	90.6%	98.8%	59.9%		68.9%	51.7%
稼動延日数	366 日	366 日	366 日	366 日	309 日		309 日	366 日
平均介護度	3.99	4.16	3.17	3.89	2.15		2.62	－
単価（1 人 1 日）	12,189 円	14,727 円	12,087 円	14,518 円	10,247 円		12,986 円	－
サービス活動収益	284,079 千円	211,238 千円	80,474 千円	152,891 千円	97,719 千円		33,200 千円	8,165 千円
正職員常勤換算数	31.6 名	23.3 名	9.2 名	13.2 名	6.1 名		1.9 名	0.2 名
パート常勤換算数	11.4 名	4.1 名	0.8 名	4.8 名	11.0 名		4.4 名	1.2 名

障がい者入所・通所・相談関係事業

	聖隷トライサポート和合		障害者支援施設　みるとす			相談支援くすのき浜松市受託特定・児童
	通所介護介護予防	共生型機能訓練	施設入所支援生活介護Ⅰ	生活介護Ⅱ	短期入所	
利用者定員	60名		20名	20名	2名	ｻｰﾋﾞｽ利用
利用者延数	2,358名	497名	7,017名	5,747名	1,199名	211件/年
1日平均利用者数	14.0名	2.9名	19.2名	19.7名	3.3名	継続ｻｰﾋﾞｽ
稼動率	28.16%		95.9%	98.4%	163.4%	586件/年
稼動延日数	169日		366日	292日	366日	障害児
平均介護度・区分	1.14	―	5.80	4.99	4.30	ｻｰﾋﾞｽ88件/年
単価（1人1日）	6,240円	8,717円	18,346円	14,102円	8,750円	継続123件/年
サービス活動収益	19,250千円		131,812千円	82,568千円	11,303千円	23,626千円
正職員常勤換算数	4.8名		13.5名	7.8名	―	2.6名
パート常勤換算数	2.3名		3.0名	8.2名	―	1.8名

就労支援事業・放課後等デイサービス事業

	聖隷チャレンジ工房和合				聖隷放課後クラブはなえみ和合	
	就労移行	就労継続B	就労継続A	就労定着	学校日	休校日
利用定員	10名	15名	10名	―名	20名	
利用者述べ人数	2,800名	3,405名	2,085名	132名	2,890名	811名
1日平均利用者数	10.0名	12.2名	8.5名	―	15.4名	
稼働率	100.0%	81.1%	84.8%	―	76.8%	
稼働日数（延べ）	280日	280日	246日	―	241日	
単価（1人1日当り）	6,796円	8,486円	8,024円	39,218円	10,542円	11,613円
サービス活動収益	31,827千円	45,121千円	42,490千円	5,265千円	41,385千円	
正職員常勤換算数	6.9名				6.3名	
パート常勤換算数	14.5名（うち、就労A型利用者6.5名）				2.5名	

訪問・居宅介護支援・地域包括支援事業

<table>
<tr><td rowspan="2">訪問看護ステーション住吉</td><td>平均利用者数</td><td>月訪問件数</td><td>年訪問件数</td><td colspan="2">単価</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td>201.5名</td><td>997.9件</td><td>11,975件</td><td colspan="2">9,891円</td><td>118,948千円</td><td>18.6名</td></tr>
<tr><td rowspan="4">聖隷ヘルパーセンター</td><td colspan="3">介護給付</td><td colspan="2">予防給付</td><td colspan="2">単価</td><td rowspan="3">ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td rowspan="3">常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td rowspan="2">平均利用者数</td><td colspan="2">訪問件数</td><td colspan="2">利用者</td><td rowspan="2">介護（回）</td><td rowspan="2">予防（月）</td></tr>
<tr><td>月間</td><td>年間</td><td>月間</td><td>年間</td></tr>
<tr><td>64名</td><td>637件</td><td>7,648件</td><td>50.0名</td><td>600名</td><td>5,052円</td><td>18,989円</td><td>61,255千円</td><td>9.4名</td></tr>
<tr><td rowspan="3">聖隷ケアプランセンター和</td><td colspan="2">年間請求件数</td><td colspan="2">平均単価</td><td colspan="2">訪問調査</td><td rowspan="2">ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td rowspan="2">常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td>介護</td><td>予防</td><td>介護</td><td>予防</td><td>年間件数</td><td>単価</td></tr>
<tr><td>2,195件</td><td>380件</td><td>17,713円</td><td>4,034円</td><td>10件</td><td>4320円</td><td>43,141千円</td><td>6.4名</td></tr>
<tr><td rowspan="6">地域包括支援センター和合</td><td colspan="2">浜松市受託収入</td><td>予防プラン請求件数</td><td>うち再委託件数</td><td colspan="2">予防ﾌﾟﾗﾝ単価</td><td>ｻｰﾋﾞｽ活動収益</td><td>常勤換算職員数</td></tr>
<tr><td colspan="2">30,490千円</td><td>3,107件</td><td>2,356件</td><td colspan="2">4,395円</td><td rowspan="5">54,322千円</td><td rowspan="5">6.8名</td></tr>
<tr><td colspan="6">日常生活支援総合事業の予防プラン</td></tr>
<tr><td colspan="2">種別</td><td>ケアマネジメントﾌﾟﾗﾝ請求件数</td><td>うち再委託件数</td><td colspan="2">予防ﾌﾟﾗﾝ単価</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA</td><td>1,899件</td><td>1,443件</td><td colspan="2">4,395円</td></tr>
<tr><td colspan="2">ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB</td><td>199件</td><td>0件</td><td colspan="2">2,195円</td></tr>
</table>

聖隷めぐみ保育園

和合せいれいの里及び浜松市リハビリテーション病院の職員の子ども 0.1.2 歳児の従業員枠 23 名と地域枠 7 名の定員 30 名の園として開設、運営して 5 年が経過した。2019 年度は、3 歳児の転園先が保障されない従業員枠の 1・2 歳児の入園希望が少なく、事業所内保育事業所として経営的に厳しい状況となったが、今後も保護者の職場復帰がいつでもできるよう園の職員体制を整え、子どもの成長発達を考えた子育てについて家庭と連携をとっていくことが求められると考える。

聖隷こども園めぐみと共に行事等を実践してきて 3 年が過ぎたが、2019 年度はそれが形となった一方、内容を見直す機会も与えられた。3 歳以降の受け入れ先（連携園）として、さらに交流、連携を密にしていく。また、和合せいれいの里との連携も日々の交流の中で深まった。2018 年度までは行事中心の交流に留まっていたものが、日常的な関わりへと発展し、相互に良い影響をもたらしていると感じる。今後も様々な方が利用し生活するこの立地を活用し、さらに恵まれた自然環境の中で、子どもが心身共に豊かに成長するための保育を目指す。

１．入所状況

4 月に 17 名でスタートし、3 月末には 25 名の入所となった。年間入所率は 70.5%となった。0 歳児の年度途中の入園は予定通りであった。1、2 歳児の従業員枠の途中入園がなかったため定員に満たなかった。地域枠については早い段階で定員を満たし、その後も希望は多い。

２．年度事業目標・年度重点施策へのとりくみ

（ア）保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う

保育の質の向上を図るため、定期的に職員で勉強会の場を設け、キリスト教保育やモンテッソーリ教育について学ぶことができた。また保育学会ではていねいな保育についての学びを深め、改めて少人数で過ごす利点や子どもの心の育ちについて職員間で共有できたことを実感している。

（イ）日々の生活の中での利用者同士の自然な交流ができるようにする。

2018 年度まで行っていた行事を通しての交流に加え、スケジュールの共有や他事業所の職員と連携を図れたことによる成果として、日々の生活の中での交流が活発になった。

（ウ）保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。

職員が保育システムに慣れてきたことで、少しずつ業務省力につながっている。浜松地区で行われている保育システムの検討会議に参加し、他園の情報も取り入れながら、自分たちの使いやすい書式の検討に取り組んでいる。

（エ）地域における公益的な取組

長期休暇中に加え、ニーズ（大型連休、臨時休校）に合わせての小学生の受け入れを行った。また夏季長期休暇中については学童担当職員を１名配置し、聖隷こども園めぐみの学童と交流を含め、学童保育の充実を図った。

【数値実績】

（ア）歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	0	1	1	1	2	5	5	6	7	7	7	8	50	4.16
1歳児	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10	120	10
2歳児	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84	7
計	17	18	18	18	19	22	22	23	24	24	24	25	254	21.16
										入所率				70.5%

（イ）保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数（名）	295	308	306	345	295	384	408	413	419	410	382	413	4378	364.8
保育日数（日）	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290	24.1
一日平均（名）	12.2	14.0	12.2	13.2	11.3	16.6	16.3	17.2	17.4	17.8	16.6	16.5	15.0	16.3
延長保育（名）	2	7	5	5	8	6	7	17	17	17	16	32	139	11.5

（ウ）職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長（非）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正） （パ）	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 5	6 4
管理栄養士（委託）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	13

※保育士（正）１名６月より産育休

聖隷ケアセンター初生

和合愛光園初生サテライト
聖隷デイサービスセンター初生
聖隷ヘルパーセンター初生

2019年度は、報酬改定後の中間年度であることを意識し、ヒト、モノに着目し、安定した収入をもとに適切な事業運営を進めていくことに取り組んだ。

各加算算定の根拠となる項目の正しい理解と実施が、利用者への利益にもつながることを念頭に、専門性をより強く活かすためのケアサポーター採用、機器活用等の環境整備を進めてきた。聖隷ヘルパーセンター初生の移転後については、まずは、基本事業である、通所介護と小規模特別養護老人ホームの適切な運営に注力した。

以下、具体的な各項目について振り返り、報告する。

１．地域のニーズを的確に把握し「地域に根ざした、求められるサービス」に取り組んだ。

（ア） 積極的にタイムリーにニーズを把握し、実践に活かすよう努めた。

① 前期運営は、介護職等の欠員により、地域に出向いていくことはできなかった。11月に開催した、初生祭りにて、初の試みとして防災食の家庭でのつくり方を講演したところ、多くの方よりぜひ具体的なレクチャーをしてほしいとの反響があり、今後の取り組みにつなげていきたい。

（イ） 通所介護における提供プログラムの充実と積極的な営業活動をおこなった。

① バーセルインデックスを毎月必ず実施し、データを記録していくことが出来たが、担当者間の評価指標の摺合せ、確認が不十分であったため、ADL維持加算算定にはつながらなかった。

② 要介護者、認知症利用者の増加に合わせて、細やかな対応方法や、プログラムの見直しに柔軟に対応し、周辺の居宅介護支援事業所や、口コミによる新規利用者を通年得ることが出来た。

（ウ） 訪問介護事業のスムーズな移転実施に取り組んだ。

① 2019年7月、拠点を細江地区に移転するに当たり人員体制の確立、運営体制の検討、実施した。

（エ） 入所施設の過渡期に対応した取り組みに努めた。

① 医療ニーズに的確に対応できるよう介護職員の喀痰吸引研修を計画的に実施した。

② 開設から7年目を迎え、入居者の逝去が後半続いた。半面、待機者の減少、キャンセルが続き、退居からスムーズな次期入居がすすまず、長い空床日数となるケースが多かった。初生独自での、待機者とのコンタクトの方法の確立が求められる。

２．業務の効率化をすすめ、より専門性の高い質の良いサービスを提供できるように取り組んだ。

（ア） 年間通じて超過勤務時間の減少に取り組んだが、運転手や介護職員等の欠員補充が進まず、特に通所介護での勤務負担を年間通じて軽減できなかった。

（イ） 現場ニーズをタイムリーにとらえ必要な用具、機器の更新導入し、安全で的確なケア提供をサポートできるよう尽力した。

（ウ） ケアサポーター2名を各事業に採用したことで、清掃やシーツ交換、入浴補助等について専門職の負担軽減ができた。

（エ） 「権利擁護」を意識したサービスの提供に取り組んだ。

① 日常的に権利擁護を意識できるように、職場長、リーダーが一体となって、日々の声掛けや問題提起に取り組んだ。職場内に、お互いが確認しあう風通しの良い環境が出来つつある。

② 認知症に関する研修への積極的な参加がすすみ、研究発表でも認知症ケアへの取り組みを取りまとめるなど、利用者の状態にタイムリーに答え、取り組む姿が年間通じて見られた。

３．職員ひとりひとりがやりがいと達成感を感じられる支援体制つくりに取り組んだ。

（ア） 働きやすさを実感する職場環境作りに取り組んだ。

① シャワーチェアの更新、新規購入、機器のメンテナンス、リフトの購入等進めた。

② 安全衛生委員会を中心に、健診結果や超過勤務状況の確認を進め、早期の声掛けと対応を心掛けた。

（イ） 専門的な外部研修参加の機会を活かせるように取り組んだ。

① 研修案内を、センター長発信で積極的に行い、職場長通じて職員各々が、自分の興味ある研修、勉強会への参加にある程度取り組むことが出来たが、サテライトの職員は変則的勤務のため、e-ラーニング等別の方法の検討が必要。

４．地域における公益的な取組を実施した。

（ア） 浜松市ボランティア「ささえあいポイント」実施。年間20組近く団体及び個人の参加。

（イ） 聖隷クリストファー大学より、看護師6名、介護士20名の実習生の受け入れ実施。

（ウ） 天竜特別支援学校の就業体験実習受け入れ1名。

（エ） 駐車場から施設までの通勤路の清掃活動を年間通じて実施。

【数値指標】

	和合愛光園	聖隷デイサービスセンター初生		聖隷ヘルパーセンター初生（4月～6月まで）			
	初生サテライト	介護給付	総合事業	介護給付	総合事業	総合支援	有償等
利用者定員	29	50	(50)	―	―	―	―
利用延数	10,453	10,372	140	155	96	―	―
1日平均利用者数	28.4	34.0	4.0	―	―	―	―
稼動率（％）	98.4%	76.0%		―		―	―
稼動延日数	366	309		―	―	―	―
平均介護度	3.8	1.8	―	―	―	―	―
単価	14,230/日	9,609/回	34,353/月	3,908/時間	3,204/月	3,588/時間	―
サービス活動収益（千円）	149,734	105,743		11,012			
職員数（正職員）	14.3	6.8		5.0			
職員数（パート）	6.0	15.3		3.52			

聖隷ケアセンター高丘

訪問看護ステーション高丘
聖隷リハビリプラザＩＮ高丘
地域包括支援センター高丘
聖隷ケアプランセンター浜松

【事業報告】

１．聖隷ケアセンター高丘内の連携強化を図り、センター全体として地域の中で質の高いサービスを展開できる。

（ア） 訪問看護ステーション高丘はリハビリテーション強化型として聖隷内の他ステーションの新人・中途採用者の技術指導を行った。ケアプランセンターとの連携は密になったが、機能強化型ステーションには至っていない。

（イ） 聖隷リハビリプラザＩＮ高丘は共生型の機能訓練ができるデイサービスの開始が出来なかった。

（ウ） 地域包括支援センター高丘は地域ケア会議を通じて地域課題抽出を行い、他分野と連携して対応を行うことができた。地域づくりは細分化した地域に対して関わることができた。

（エ） 聖隷ケアプランセンター浜松は年度後半からは高丘地区の新規利用者を受けられるようになった。民生委員との交流会や地域の行事に参加することができた。

２．それぞれの事業が経営的に自立した上でセンターとして安定した経営基盤を築く。

（ア）高丘地区の特徴を活かした訪問に対する移動距離の少ない効率的な訪問ができた。リハビリテーションに特化したサービスが主体であることを病院の退院支援・居宅介護支援事業所・相談支援事業所に発信することができなかった。

（イ） センター内の事業所間の連携を意識し、WINCARE の情報共有を促進し活用できた。

（ウ）センター内の事務機能の業務分担は少しずつできているが、一元的な管理ができなかった。

３．地域における広域的な取り組み

（ア）「ロコ友高丘」は継続できている。二度目の高丘センター祭りを行い、２００名以上の参加があった。定期開催をしていきたい。

（イ） 高丘地区にて徘徊高齢者模擬訓練を行い、認知症に対する理解を深めることができた。

（ウ）地区の総合防災訓練に参加し、地区の中での役割について住民と検討を行った。コミュニティスクールと協働し、小学４年生に対して認知症サポーター養成講座を行った。

（エ）各専門職の実習の受け入れは各事業所にて行えた。職場体験は、中学生を対象にデイサービスにて実施できた。ボランティアの受け入れを継続的に行うことができた。

【数値実績】

訪問看護事業(訪問看護ステーション高丘)

平均利用者	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
214 人	1,062 件	12,749 件	9,389 円	119,583 千円	15.26 名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザＩＮ高丘）

介護給付			予防給付		単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護（月）	予防（月）		
25.6 名	657 名	7885 名	72.2 名	866 名	5,868 円	32,126 円	74,004 千円	15.3 名

地域包括支援事業（地域包括支援センター高丘）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
40,890 千円	3,113 件	2,361 件	(～9 月) 4,390 円 (10 月～) 4,400 円		
日常生活支援総合事業の予防プラン				65,034 千円	7.7 名
種別	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価（円）		
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA	1,843 件	1,200 件	(～9 月) 4,390 円 (10 月～) 4,400 円		
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄB	296 件	1 件	3,195 円		
ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄC	0 件	0 件	2,195 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜松）

年間請求件数		平均単価		訪問調査		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間件数	単価		
2,250 件	512 件	1,6045 円	4,138 円	8 件	4,400 円	38,742 千円	5.8 名

訪問看護ステーション住吉第二

2019年度訪問看護ステーションの運営は、昨年に比べ医療保険が伸びず減収になった。しかし、安定した経営をする事ができた。聖隷浜松病院との連携により在宅移行が困難な事例も昨年同様に、継続して受け入れる事ができた。又、聖隷デイサービスセンター住吉との兼務を行う事で、利用者によりよいサービスの提供もできた。

１．病院や地域の連携（居宅介護支援事業所・相談支援事業所・他サービス）
（ア）聖隷浜松病院との連携の明文化をし、連携を引き続き行った。
（イ）労災病院看護部長・地域医療連携室・地域包括ケア病棟課長に挨拶へ行った。
労災病院としては、南のエリア（浅田・磐田地区）への関心があった。

２．サービスの質向上
（ア）スタッフが年１回は研修に参加し、自己研鑽に努める事ができた。

３．同建物へ９月に混乱せず移転をする事ができた。

４．施設内の連携
（ア）聖隷デイサービスセンター住吉の兼務を行い、移行最後まで支える事ができた。
（イ）ひばり保育園との防災訓練・不審者対応訓練の実施。

５．地域における公益的な取り組み
（ア）住吉交友会へ健康相談・体操教室の月１回の参加。
（イ）地域防災訓練には参加ができなかった。次年度実施予定。

【数値実績】

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
135人	658件	7,985件	9,715円	76,666千円	12.6人（10.5）

聖隷コミュニティケアセンター

2019 年度はコミュニティケアセンターの新たな取り組みとして、障がい事業との連携強化として浜松学園と就労支援おむつの配送取組みを共同して行った。また、店舗運営の見直しを行い以前より課題であった店舗の統合を行った。2020 年度も引き続き障がい事業と連携を構築し新たなサービスを実現していきたい。

１．店舗運営の改善と見直し

（ア） 住吉店と浜松病院店の店舗統合を行い、より効率的な店舗運営ができる基盤を作る事ができた。

（イ） キャッシュレス決済が進んではいるが、店舗利用者の年齢層が高く未だ現金支払いが多数を占めている事により店舗でのキャッシュレス決済の導入までは至らなかった。

（ウ） POS システムを活用し、店舗別の経営状況及び、商品の在庫管理の精度が上がってきた。

２．業務の効率化と経営安定化の推進

（ア）貸与支援ソフトを導入し、2 年が経ちスケジュール管理も全員が共有できるようになった。外出先でも入力作業、発注も行えるようになった事で隙間時間の有効活用ができるようになった。

（イ）貸与支援ソフトの活用の効果もあり、超勤削減を行う事ができた。45 時間/月、360 時間/年の超過者も 0 人で達成する事ができた。

（ウ）自社資産ベッドの稼働率が平均 87％と 90％以上の達成はできなかったが、職員間で目標稼働率の共有と意識を高められた結果、高稼働率を維持できた。

（エ）居宅支援事業所、地域包括支援センターと定期的に紹介率の共有会を行った。平均紹介率も 70％を超える月もあり信頼構築に繋がった。

３．就労訓練事業の導入と実施

（ア）コミュニティ配送センター内にあるおむつを、浜松学園に移転し、おむつ配送業務を就労支援作業メニューに組み込む事ができた。障がい事業との連携を強化する事ができた。

（イ）新たに就労支援事業との連携で車いす・マットレスの施設レンタルを 2020 年度より開始する準備ができた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）聖隷の在宅サービス事業所及び行政が行う地域に向けた取組みに協賛し、福祉用具や介護用品の展示案内を行った。

【2019 事業収益：数値指標】

	ﾚﾝﾀﾙ件数	介護保険 収益	販売 収益	住宅改修 収益	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
ｺﾐｭﾆﾃｨｹｱｾﾝﾀｰ	11,817 件	153,805 千円	335,051 千円	16,637 千円	505,495 千円	25.7 名

浜松市生活自立相談支援センターつながり

生活困窮者自立支援事業は、2019 年度で 5 年が経過した。行政、福祉関係機関、民生児童委員等の認知が進み、相談件数が増加した。(2018 年度 608 件⇒2019 年度 678 件)。これに伴い、複数の課題を抱えている相談者も増加した。様々な関係機関との連携強化、総合的で切れ目のない支援が今後の課題である。また、子どもの学習サポート事業を実施する中で、発達等に課題がある子どもや教室に通えない子どもがおり、総合的支援ができる学習支援教室の運営や訪問型・通信型の学習支援の必要性が明確になった。

【事業計画】

１．地域との連携強化・充実

（ア）各地区民生・児童委員会長会、各圏域の会議へ参加し。連携事例の報告を行った。

（イ）各地区民生・児童委員協議会にて連携事例の報告及び勉強会を実施した。

（ウ）支援終了者に対する企画を実施したが、民生・児童委員の参加できる企画を実施できなかった。民生・児童委員の参加をする企画の目的を明確にする必要がある。

（エ）行政書士、弁護士と連携し、多重債務に苦しんでいる世帯の支援を行い債務の整理及び家家計改善支援に必要な継続した支援を実施した。

２．拠点間の連携強化・充実

（ア）連携拠点である「つながり浜北」との連絡会を年 2 回実施した。また、個別の支援を共有し、2 ケースの支援を連携して行った。

（イ）実践報告会を 7 月に実施し 160 名の参加があった。つながり浜北からの報告も行われた。

（ウ）フードバンクふじのくに、NPO 法人 POPOLO と連携し、緊急一時的に食料が必要な世帯に対してフードバンクの提供及びその後の支援を実施した。また、フードバンクを活用している社会福祉協議会、つながり浜北とも連携し、在庫がない場合に互いに在庫を活用しあう仕組みを構築した。

３．就労支援および就労準備支援

（ア）就労支援対象者のうち、年間 102 名を就職につなげた。

（イ）就職者のうち、正規雇用率 16.6%であった。複数課題がある相談者や就労の前に解決を必要とする課題を抱えた相談者が増加した。

（ウ）就労準備支援事業の対象者が年間 20 名とり、年間 15 名の目標を達成できた。

４．実践の言語化

（ア）自立相談支援事業従事者養成研修に 2 名参加した。静岡ケアセンター学会での発表、選考を経て、聖隷福祉学会において実践を発表した。

（イ）職能団体等が行う研修会に 1 名が 5 回参加できた。

５．学習支援・キャリア形成支援の充実

（ア）浜松市が実施する学習支援事業について 2020 年度より現在の西区に加え、新規に中区の和合せいれいの里、北区のケアセンターいなさについて業務委託を受けることが決定した。

（イ）OB・OG 回の実施。年に 2 回の実態調査アンケートを実施した。また、高校進学後課題がある子どもに対して、訪問支援を行った。

（ウ）キャリア形成支援の一環として「就労体験」を年 3 回実施した。予定していた 4 回目の企画については、新型コロナウィルス拡大防止の為中止となった。

６．地域における公益的な取組について

（ア）生活困窮世帯の子ども（小学 3 年生～中学 3 年生）に対して、主任児童員の協力のもと教室を貸借し、学習サポート事業として学習支援を実施した。

（イ）学習サポート事業を利用している子どもたちに対して、希望を募り無償で聖隷キッチン和合のお弁当を夕食として提供した。

【数値指標】

	つながり			
	浜松市生活困窮者自立支援事業	学習サポート事業	学習支援事業	浜松市ホームレス巡回相談事業
利用者定員	- 名	- 名	25 名	- 名
利用者延べ人数	3,725 名	757 名	143 名	38 名
一日平均利用者数	12.3 名	6 名	3.7 名	1.5 名
稼働率	- %	- %	- %	- %
稼働日数（延べ）	301 日	118 日	39 日	24 日
単価(一人一日当り)	- 円	- 円	- 円	- 円
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	55,184 千円	- 千円	1,315 千円	385 千円
職員数（常勤換算）	10.9 名	1.5 名	−名	- 名

聖隷厚生園信生

障害者支援施設　聖隷厚生園信生寮
聖隷厚生園まじわりの家
障害者相談支援事業所　信生

2019 年度は、1 階ピロティの改修により、訪問看護ステーション細江、聖隷ケアプランセンター細江、聖隷ヘルパーセンター浜松北の移転が行われ、高齢者福祉と障がい福祉の連携、医療と介護の連携強化が図られ、在宅で暮らす方々が住み慣れた地域で生活できるように一体的なサービス提供ができる体制を整えることができた。今後は、利用者個々のニーズに合わせた支援のあり方を各部署が協働して考え、実行できる拠点運営を目指す。

１．利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の提供

(ア)利用者の個別支援計画では、身体を動かすプランを立案し、廃用性を防ぐ取り組みを個別で行うことができた。

(イ)利用者のできることを引き出す内容の個別支援計画を立案し、自律性を高める支援を行った。

(ウ)入所においては、定期的に多職種による嚥下機能評価を実施し、個別支援に反映することができた。一方で、利用者の“食べたい”気持ちに寄り添う支援にまでは至らず、2020 年度の課題とした。

(エ)各部署において虐待セルフチェックを行い、問題点の共有を図り、対策を検討する事ができた。虐待に繋がる恐れのある言葉使いに注意する等、接遇面での取組みは引き続き実行していくこととした。

２．地域共生社会の実現に向けた連携体制の構築

(ア)聖隷厚生園信生寮（入所）・まじわりの家（通所）において関連事業所からの要請に応えて、緊急時等に利用者の受け入れを行う体制を整えた。

(イ)聖隷三方原病院・訪問看護ステーション細江・聖隷ケプランセンター細江・聖隷ヘルパーセンター浜松北・相談支援事業所信生・ナルドで合同の事例検討会を定期開催し、事例を通して共通理解を深めることができた。

(ウ)聖隷厚生園信生寮（入所）のシーツ交換や環境整備業務を聖隷厚生園ナルド工房へ業務委託し、障がい者の就労支援につなげることができた。

３．人材育成と働きがいのある職場環境の整備

(ア)職員で行っていた施設内清掃を切り出し、聖隷厚生園ナルド工房の就労継続支援Ａ型の障がい者雇用へつなげることができた。

(イ)新人教育では、育成スケジュールを明らかにして、新人ができたことを実感して自信が持てる取り組みを行い、計画的に業務を習熟できるようにした。

(ウ)各専門職ラダーを活用した人材育成を行い、スキルアップをすることができた。

(エ)ストレスチェックにおける身体的負担の偏差値が 40 を下回っているため、ノーリフトケアの取り組みを 2020 年度の事業計画の柱とした。

４．安定経営の推進と衛生管理体制の向上

(ア)フェースシート等、利用者個人情報の整理を行うことができなかったため、2020 年度上半期までに実行できるように目標修正した。

(イ)施設修繕及び備品購入は、優先順位を決めて、まとめて価格交渉をするなどして、効率的かつ計画的に実施した。

(ウ)給食業務委託契約では、取引業者と協議して消費税の増税に沿って適正に契約更新を行った。

(エ)利用者の入退所がスムーズにいかずに、機会損失を生み出してしまったため、仕組み作りを 2020 年度の課題とした。

５．環境保護と地域における公益的な取組

(ア)地域の福祉避難所としての受け入れマニュアルの整備が完遂されなかったため、2020 年度引き続き整備を行う。

(イ)特別支援学校や各種学校からの実習・中学校の福祉体験・また、多くのボランティアの方々の受入を実施した。2020 年 2 月に地域住民向け無料介護体験講座を実施し、23 名の方に参加して頂いた。

【数値指標】

■障がい者入所・通所・相談関係事業

<table>
<tr><td rowspan="2"></td><td colspan="3">信生寮</td><td colspan="2">まじわりの家</td><td colspan="2">信生</td></tr>
<tr><td>入所</td><td>短期</td><td>日中
一時</td><td>生活
介護</td><td>機能
訓練</td><td>浜松市
相談支援</td><td>指定
相談支援</td></tr>
<tr><td>利用者定員</td><td>60 名</td><td>10 名</td><td rowspan="2">4,284
時間</td><td>14 名</td><td>6 名</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>利用者延べ人数</td><td>22,092
名</td><td>4,170
名</td><td>4,431
名</td><td>1,572 名</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>1 日平均利用者数</td><td>60.4 名</td><td>11.4 名</td><td>－</td><td>17.2 名</td><td>6.2 名</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>稼働率</td><td>100.6%</td><td>114.0%</td><td>－</td><td>123.1%</td><td>101.9%</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>稼働日数（延べ）</td><td>366 日</td><td>366 日</td><td>366 日</td><td>256 日</td><td>256 日</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>単価
(1 人 1 日当り)</td><td>17,561 円</td><td>9,749 円</td><td>－</td><td colspan="2">14,905 円</td><td>－</td><td>－</td></tr>
<tr><td>サービス
活動収益</td><td>387,956
千円</td><td>40,655
千円</td><td>3,684
千円</td><td colspan="2">89,476
千円</td><td>9,146
千円</td><td>9,905
千円</td></tr>
<tr><td>職員数（常勤換算）</td><td colspan="3">56.4 名</td><td colspan="2">13.5 名</td><td colspan="2">3.2 名</td></tr>
</table>

聖隷厚生園信生

訪問看護ステーション細江
聖隷ケアプランセンター細江
聖隷ヘルパーセンター浜松北

［訪問看護ステーション細江］

１．相談支援事業所ナルド、相談支援事業所信生、まじわりの家の職員と合同ケアカンファレンスを定期開催し、訪問看護の必要な方への利用案内等を行った。
２．聖隷三方原病院の退院調整カンファレンスに参加し、退院後スムーズに訪問看護によるケアが提供できるように連携を図った。
３．三ヶ日町における訪問看護のニーズを把握することができ、聖隷訪問看護ステーション三ヶ日（仮称）の開設に向けての足掛かりを得ることができた。
４．休憩スペースを確保するなどして、職員がリフレッシュできる環境を整えることができた。

［聖隷ケアプランセンター細江］

１．通所の生活介護や就労支援事業所、相談支援事業所の職員と合同事例検討会を月１回行うことができ、障害福祉サービスの特性等を把握し、日々の支援に生かすことができた。
２．聖隷三方原病院の病棟ケアカンファレンスに参加し、入院時情報提供や退院時支援を協働して行うことができ、利用者のスムーズな在宅復帰を支援することができた。
３．介護支援専門員を１名増員し、新規契約件数前年度比 40％増となった。
４．聖隷厚生園信生の合同防災訓練に月１回参加して、非常災害時に備えることができた。

［聖隷ヘルパーセンター浜松北］

１．他事業所と連携し、細江町の契約者数前年度２件から今年度は 12 件へ伸ばすことができた。

【数値指標】

■訪問看護ステーション細江

利用者数		訪問件数		単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
年間	月平均	年間	月平均			
2,222 名	185 名	10,258 件	854 件	10,023 円	104,024 千円	15.0 名

■聖隷ケアプランセンター細江

年間請求件数		平均単価		サテライト（三方原）	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	年間相談件数		
1,589 件	328 件	16,097 円	4,249 円	503 件	27,837 千円	5.7 名

■聖隷ヘルパーセンター浜松北

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平均利用者数	訪問件数		利用者数		介護（回）	予防（月）		
	月間	年間	月間	年間				
43 名	370 件	4,445 件	23 名	283 名	3,738 円	18,415 円	33,690 千円	6.1 名

聖隷厚生園讃栄

2019年度は全国救護施設協議会の作成する個別支援計画書を活用し利用者の「できること」に焦点をあて、自身で取り組める事を増やせるよう支援を実施した。在宅利用者へは訪問看護ステーションやヘルパーセンターと情報共有し、聖隷厚生園として精神疾患を抱えた方への支援強化を図る事に取り組んだ。救護施設と在宅サービス事業との連携が強まった一年となった。

１．利用者の「できること」を引きだす個別支援・集団支援の充実

(ア)個別支援計画書において「やりたいこと」を希望・要望で聞き取り、個別支援計画に盛り込み作成できた。

(イ)園内作業では作業面談にて利用者の希望や能力に合わせた目標を設定した。人間関係等でストレスを感じるなど目標達成できない方も見られた。作業参加できない利用者に対しては外出やリハビリ等余暇支援の充実を図った。

(ウ)利用者からの要望により遠足や食事企画など施設行事を増やし実施できた。
各フロアでもレクリエーション(おやつ企画やプチリハビリテーションなど)について、計画的に「自分でもできる事」を中心に利用者と話し合う事が出来た。

２．医療との連携をさらに強化し、利用者の健康維持向上を図る

(ア)退院後の生活について病院看護師とケアカンファレンスを開催し、施設でも落ち着いて生活が送れるよう情報共有等の退院支援を行った。

(イ)訪問看護ステーションスタッフに地域移行支援会議に参加してもらい、訪問看護の必要性やサービス内容等を協議し、同行訪問の調整を行った。

３．利用者も職員も心地よい住環境づくりに努める

(ア)毎月利用者と職員とが一緒に居室環境整備を行う計画を立てたが、利用者の拒否や業務が重複するなど計画的な介入が困難であった。今後は、日々の生活支援にて日用品の確認や居室内の備品確認を行い、生活環境を整えていく。

(イ)介助入浴、一般浴への促しと清拭の促しをすることで利用者の保清に努めた。
精神症状により入浴拒否される利用者を不定期ではあるが、入浴へ促すことができた。

(ウ)グループワーク等を行い、人間関係など社会生活技能を高める為に取り組むことができた。

(エ)食堂や各フロアの共有スペースのレイアウト変更を行い、テレビの壁掛け変更やソファー・テーブルの移動等、利用者の過ごしやすい空間づくりに取り組んだ。

(オ)福祉サービス第三者評価事業を11月に受審した。結果をもとに、2020年度に改善対策を提案し、取り組むこととした。

(カ)業務改善機能をリーダー会議に持たせ、改善方法等を職場に提案し、雑務や業務の見直し等が課題に挙がり改善につなげている。記録ソフトの効果的使用方法を見出した。

４．障がい者がより自立した生活ができる地域づくりへの貢献

(ア)特別支援学校や各相談支援事業等へ利用案内を行い、「生活訓練事業」について説明し、就労支援事業利用困難ケースの問い合わせが増えた。生活訓練利用率4.5%増、生活介護利用率12.3%減、計画相談24件増、相談支援モニタリング50件増となった。

(イ)讃栄寮にて居宅生活訓練事業を活用し、計画どおり 3 名の利用者が地域に施設移行できている。

(ウ)在宅サービス事業所間でケース検討会議を毎週行う事とし、情報共有に取り組んでいる。2020 年度も継続し、在宅利用者の生活を支援できる体制づくりを継続していく。

(エ)聖隷厚生園近隣に福祉共同住宅「ファーストステップ」を 7 床にて 2019 年 6 月に共同生活援助事業として開始した。2020 年 3 月時点で満床になった。

(オ)浜松市障がい者基幹相談支援センターからの依頼で年間 9 名、延べ日数 50 日間の利用受入ができた。

５．地域における公益的な取組み

(ア)地域の清掃活動に利用者と職員が参加できるよう調整したが、天候悪く中止になった為、参加できなかった。自治会の防災訓練には地域移行支援の利用者が参加する事ができた。

【数値指標】

	讃栄寮			福祉共同住宅 ファーストステップ
	救護施設	救護通所	短期入所 (総合支援法)	
利用者定員	60 名	10 名	4 名	7 名
利用者延べ人数	22,807 名	3,996 名	1,292 名	1,225 名
一日平均利用者数	62.3 名	10.9 名	3.5 名	4.0 名
稼働率	103.9%	109.2%	88.2%	57.4%
稼働日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	305 日
単価（一人一日当り）	9,929 円		5,441 円	4,594 円
サービス活動収益	266,140 千円		7,030 千円	5,628 千円
職員数（常勤換算）	26.0 名			1.5 名

	生活訓練ナルド		相談支援事業ナルド	
	生活訓練	生活介護	浜松市 相談支援	指定 相談支援
利用者定員	10 名	10 名	-	-
利用者延べ人数	1,719 名	2,718 名	-	-
一日平均利用者数	6.4 名	10.1 名	-	-
稼働率	63.7%	100.7%	-	-
稼働日数（延べ）	270 日	270 日	248 日	248 日
単価(一人一日当り)	9,281 円	7,167 円	-	-
サービス活動収益	15,954 千円	19,480 千円	9,077 千円	16,788 千円
職員数（常勤換算）	4.3 名		1.9 名	

聖隷厚生園ナルド工房

2019 年度は制度や法律、社会情勢に合わせた柔軟な対応をし、利用者がやりがいを感じられる就労機会として介護職員のサポート業務を導入することができ、利用者から色々な就労経験ができて良いという声があった。また、安定した就職者を輩出することにより、地域社会で活躍できている。2020 年度に向け、より実践的な場での就労機会を提供することで利用者のやりがいをさらに引き出すための足掛かりを作ることができた。

1. 利用者が仕事にやりがいを感じられる就労機会と工賃の提供

（ア） 【就労継続支援 A 型】

① 菓子製造部門ではインスタグラムを活用し販売情報をお客様に提供することができた。菓子の年間売上は 2018 年度比 13%向上することができた。

② 介護補助作業において、新たに 1 名の雇用ができた。できている所をフィードバックし、利用者が仕事の達成感と自身の成長を実感でき、仕事に定着することができた。

（イ） 【就労継続支援 B 型】

① 信生寮にて食器洗浄やオムツの納品作業を導入し、利用者の就労機会の提供ができた。

② 作業の工程を見直すことで生産性を高めることができ、月額平均工賃が 16,457 円となり、2018 年度比 18%向上することができた。

2. 長く働く力をつける就労支援の実践

（ア） 【就労移行支援】

① 5 名の就職者を輩出することができ、定員の 5 割以上の定着率を維持することができた。

② 作業チェック表に基づく能力評価を行い、できている所をフィードバックし、利用者の自信と仕事への意欲が向上する支援をすることができた。

（イ） 【就労定着支援】

① 職場 3 年定着を意識した支援をし、7 割以上の定着率を達成することができた。

② 就労定着支援員による企業担当者への月 1 回の訪問を続けることができ、利用者の課題の共有ができた。

3. 地域における公益的な取組

（ア）障害福祉サービス事業所の保護者会や施設見学に喫茶を開放し、障がい者就労への理解と交流を図ることができた。

（イ） 介護保険の通所介護事業所の利用者の外出支援につながるように喫茶の見学を実施することができた。

【数値実績】

	ナルド工房			
	就労移行	就労継続Ｂ型	就労継続Ａ型	就労定着支援
利用者定員	10 名	15 名	10 名	－
利用者延べ人数	2,753 名	4,124 名	1,245 名	125 名
1 日平均利用者数	11.0 名	16.4 名	4.1 名	－
稼働率	109.7%	109.1%	40.8%	－
稼働日数（延べ）	251 日	252 日	305 日	－
単価(1 人 1 日当り)	13,802 円	8,422 円	16,244 円	30,136 円
サービス活動収益	37,998 千円	34,733 千円	20,224 千円	3,767 千円
職員数（常勤換算）	15.9 名			

もくせいの里

2019 年度のもくせいの里は、4 月に相談員・介護員・看護師・栄養士の中心的な職員が一度に異動で交代したことから始まった。一時的な混乱は見られたが、比較的早期に順調な運営ができた。それは、双方の職員が互いを理解しようと努め、なにより入居者へのサービスの低下があってはならないとの意識が強かったことが考えられる。現在では、更なるサービスの向上がみられている。

また、2018 年度では入居の欠員状態が続いて厳しい経営状況だったが、2019 年度は一年を通じて満床の状態が続き、さらに 15 名を超える待機者を確保することができた。主な理由としては、行政や地域包括支援センター等へ積極的に訪問してもくせいの里の紹介を行ったことや、入居申込を断らなかったことが考えられる。

さらに、41 年が経過した建物の各部分を改修工事でリニューアルすることができ、ハードとソフトを充実させた 1 年となった。

１．利用者に合わせたサービスの提供

（ア）記録ソフトのウインケアの活用を進め、もくせいの里での記録入力だけではなく、職員間の情報共有や、事故報告書もウインケアで作成して事故分析業務の省力化を行った。また、在宅・福祉サービス事業部内でウインケアを使用している各事業所の記録を確認することで、在宅サービス利用中の入居者の状態を把握することに努めた。

（イ）聖隷厚生園信生寮 1 階にある、訪問看護ステーション細江・聖隷ケアプランセンター細江・聖隷ヘルパーステーション浜松北と連携して延べ 10 件弱の新規のもくせいの里入居者の利用が始まっている。

（ウ）重度化・高齢化の進むもくせいの里の入居者だが、30%が介護認定自立の入居者である。要介護・要支援認定の入居者も含めて可能性を広げることを目的に食事企画を行った。入居者と職員が一緒になって、料理の選択・買い物・テント等の設営・調理・後片付けを行った。普段の生活では見られない能力や表情を見ることができた。入居者の感想では、個々に自信がでて、一体感も高まったとの感想があった。

２．安心と安全を重視したサービス

（ア）現行実施している火災や地震の防災訓練に加えて、不審者侵入時の防犯訓練を行った。一般的に示されている訓練内容では、もくせいの里の設備や職員体制では対応できないことが解り、新たなマニュアルを作成した。

（イ）配食サービス配達時に不在な利用者があった時に、ケアマネージャーや家族に連絡をして所在を確認できたケースがあった。

（ウ）ノロウイルスやインフルエンザの予防講座を入居者と職員と共に受けた。また、職員は業者を招いてノロウイルス嘔吐物処理の実施訓練を行った。

３．職員の資質の向上

（ア）主に職員会議後に、認知症や知的・精神障害特性の理解を深める勉強会を職員が相互に講師となって行った。

（イ）入居者の状態に合わせた食形態の食事を提供するために、ソフト食の提供が充実した施設から異動した職員を中心に勉強会を行った。

４．地域における公益的な取組み

（ア）入居者が近隣の幼稚園を訪問して、園児にお手玉などの昔の手遊びを教えた。

（イ）地元の湖東地区自治会が開催する、近隣の高齢者を公民館に招いてレクレーションやロコモトレーニングを行う湖東地区公民館サロンに、役員やスタッフとして運営に参加した。また、年２回、もくせいの里の昼食を提供した。

５．その他（設備工事）

（ア）厨房の老朽化したコールドテーブルと新品のテーブルとの交換工事を行った。

（イ）もくせいの里は井戸水を使用しているが、塩素消毒を行う薬液注入ポンプを交換した。

（ウ）食堂の古くなったテーブルの再塗装、カーテン交換、床面張替え、手洗い場を二連にする等の改修工事を行った。

【数値実績】

	軽費老人ホーム	食事サービス	計
利用者定員	50 名	―	
利用者実績（延べ）	18,300 名	14,994 名	
利用者実績（日平均）	50 名	48 名	
稼働率（％）	100%	―	
稼働日数（年間）	366 日	310 日	
単価（一人一日当り）	6,172 円	684 円	
サービス活動収益（千円）	112,958 千円	10,254 千円	123,212 千円
職員数（常勤換算）	12.4 名	3.6 名	16.0 名

いなさ愛光園

いなさ愛光園は1997年4月に開設して23年が経過した。2019年4月は「働き方改革」でスタートし、10 月には「消費税率引き上げ」、年が明けて「新型コロナウイルス感染症」と年間を通して、右往左往する1年であった。

上半期は短期入所、通所介護ともに稼働率が高く、10月には介護報酬の見直しや特定処遇改善加算が創設され、介護保険事業収益は増額されたことで、全般的に安定した運営ができた。特別養護老人ホームは新たな人材確保として、12月からはEPA介護福祉士候補生として、フィリピンから2名を迎えた。通所介護は昨年に引き続き、大型台風の影響でサービスを1日中止した。認知症対応型通所介護は四季を通しての花作りや畑作業をすることで利用者の楽しみの場を提供した。認知症共同生活介護は入院や退所後の空床が例年より多く、稼働が下がった。訪問介護は中山間地域の利用状況を確認しながら、サービス提供エリアを広げた。配食サービスは年間約1,895食を提供し、自費の利用者が増加した。居宅介護支援事業所は包括支援センターやサービス事業所と連携し、利用者の自立支援に取り組んだ。在宅介護支援センターは地域の要請に応じて高齢者サロン活動の支援や中山間地域介護予防支援活動等を開催した。

新型コロナウイルス感染症の利用者の影響は少なからずあり、通所介護では少数であるが利用を控える方もいた。新型コロナウイルス感染症は4月になっても感染者数は増加が続き、「緊急事態宣言」が拡大された。今後も感染衛生委員会や職場長会を中心に危機感を持って対応していく。

１．利用者ニーズや地域の福祉ニーズに柔軟に対応する

（ア）利用者本位の福祉サービスを提供するために、特別養護老人ホームは利用者満足度調査を実施し、下半期の活動に活かした

（イ）食事委託業者の協力を得て毎月1回イベント食を提供した。各部署を回ってのライブキッチンは利用者に好評であった

（ウ）認知症共同生活介護、認知症対応型通所介護の運営推進会議や特別養護老人ホームの優先入所判定会に参加した地域の代表者や包括支援センター等と情報共有することで、地域の課題を知ることができた

（エ）居宅介護支援では民生児童委員を交えサービス担当者会議を開催することで地域ニーズについて理解を深めた

２．自立支援・重度化防止に努め、質の高い介護サービスを提供する

（ア）専門的なリハビリを希望する利用者には、理学療法士が個別プログラムを作成し機能訓練を実施した

（イ）口から食べる楽しみを支援するために多職種連携の取組みが進み加算取得に繋がった

（ウ）入所では18名の方が退所され、14名の利用者に対して看取り介護の実践をした

（エ）認知症の理解のために外部研修だけでなく、部署単位で内部研修をした

（オ）病院受診を伴う介護事故は20件、そのうち16件は骨折に伴う事故であった

３．専門性を高め成長が実感できる

（ア）目標参画システムと OJT を効果的に運用しながら、介護テクニカルラダー、相談支援スキルラダー、福祉施設看護ラダー、栄養部門キャリアラダーを運用し自己研鑽をした

（イ）各部署単位で接遇やホスピタリティに関する研修を実施して向上に努めた

（ウ）新人教育体制を 2 年間体制としたことで新人の離職は 0 件であった

（エ）EPA 介護者福祉士候補者 2 名は日本語にも慣れて順調に介護実践が始まった

４．持続可能な安定した施設運営をする

（ア）特別養護老人ホームの入所希望者は 81 名で、昨年比で 19 名増加した。48 名は介護度 3 以上であった。2019 年度内の申込者は 54 名であった。

（イ）聖隷ケアセンターいなさ、もくせいの里と連携を深めることで利用者拡大に結び付けた

（ウ）計画的な更新として、車両 4 台、ベット 30 台、スチームコンベクションオーブン 1 台等を購入した

（エ）2018 年度に ASSET 事業を活用し、空調機器、大型ボイラー及び洗濯乾燥機の更新、照明器具の LED 化をした効果が見られ、水道光熱費及び燃料費については年間を通して減額となり成果を上げた

５．地域における公益的な取組み

（ア）中山間地域介護予防支援活動	（延べ回数　6 回、延べ人数　134 人）
（イ）幼稚園児、小学生等の世代間交流	（延べ回数　4 回、延べ人数　38 人）
（ウ）中学校生、高等学校生の福祉介護体験等	（実人数　1 人、延べ人数　4 人）
（エ）高齢者サロン活動（伊平）の支援	（延べ回数 11 回、延べ人数　277 人）
（オ）社会福祉法人利用者負担軽減事業	（実人員　5 人、延べ人数　1469 人）

【数値実績】

高齢者入所・短期入所・通所関係事業・訪問介護・居宅介護支援・委託事業

	特別養護老人ホームいなさ愛光園			いなさ愛光園デイサービスセンター	
	特養入所		短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	通常規模型	認知症対応型
利用者定員	30名	40名	20名	35名	10名
利用者延べ人数	10,801名	14,882名	6,306名	8,858名	2,214名
一日平均利用者数	29.5名	40.7名	17.2名	28.7名	7.2名
稼動率	98.4%	101.7%	86.1%	81.9%	71.7%
稼動日数	366日	366日	366日	309日	309日
単価(一人一日当り)	13,115円	14,502円	13,319円	9,173円	12,597円
サービス活動収益	142,007千円	216,015千円	83,991千円	81,251千円	27,890千円
職員数（常勤換算）	48.7名		15.7名	13.8名	5.5名

	ほのぼのケアガーデン	いなさ愛光園ヘルパーステーション		聖隷ケアプランセンターいなさ	いなさ愛光園在宅介護支援センター
		訪問看護	居宅介護		
利用者定員	9名	－	－	－	－
利用者延べ人数	3,229名	4,478名	300名	2,014名	－
一日平均利用者数	8.8名	12.3名	0.8名	－	－
稼動率	98.0%	－	－	－	－
稼動日数	366日	362日	362日	366日	366日
単価(一人一日当り)	13,822円	4,608円	2,639円	13,413円	－
サービス活動収益	44,632千円	20,869千円	792千円	29,371千円	8千円
職員数（常勤換算）	8.2名	4.7名		4.0名	

	配食サービス
利用者定員	－
利用者延べ人数	1,895名
一日平均利用者数	6.6名
稼動率	－
稼動日数	289日
単価(一人一日当り)	659円
サービス活動収益	1,248千円
職員数（常勤換算）	－

聖隷ケアセンターいなさ

地域包括支援センター細江
聖隷ケアプランセンターいなさ南部
聖隷リハビリプラザいなさ

2019 年度、聖隷ケアセンターいなさは浜松市の「70 歳現役都市」宣言の基に「高齢でも元気で現役」を意識し、支援が必要になっても地域で暮らし続けられる地域づくりを目指し、各事業活動を展開した。事業活動のエリアである旧引佐 3 町では、公共交通機関の縮小と認知症高齢者の増加に伴い、移動手段が無いことを要因とした在宅生活継続困難者の増加や慢性的なサービス量の不足への対応のために拠点機能の強化を進め、法人内の病院、施設、サービス事業所を中心として地域の医療、介護、障がい、地域の支援者などとの連携を強め支援を行った。

1．医療と介護連携強化への対応

（ア）利用者（患者）の意思決定支援に積極的に関わり、継続して地域支援体制を強化する。

①地域包括支援センター細江

利用者の意思決定支援の周知を目的とした活動として、引佐郡医師会及び浜松市北区意思決定支援プロジェクトと協働し、専門職向け研修、市民向けフォーラムの開催を行った。多くの専門職、住民が参加し、アンケート結果からも必要性を実感することができた。2020 年度も地域に向けて幅広い年代や専門職へのアプローチを行う予定。

地域ケア会議の開催が増え、病院からの認定看護師や他の専門職の参加もあり、利用者の意向を尊重しながら地域の関係者同士の支援体制を強化することができた。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

利用者との契約やモニタリング時、サービス担当者会議時などに積極的に紹介、周知活動を行った。地域住民の意識の高まりに合わせて、どのように実践していくのか、病院、開業医、医療との連携を含めて 2020 年度での検討を行っていく。

病院から終末期として退院される患者を積極的に受け入れ、本人、家族の意向を尊重し、医療と連携したマネジメント業務を行った。

③聖隷リハビリプラザいなさ

サービス提供時に確認ができた際はケアマネジャーに情報提供を行ってきた。まだまだ取り組み事例は少ないが、今後は増えていくと思われる。事業所内での周知を利用者だけでなく、職員内においても進めていく必要がある。2020 年度の課題として研修の参加や職場内カンファレンス実施の中で積極的に取り組んでいきたい。

（イ）在宅で健康が維持できるように多職種連携を推進し居場所作り等に取り組む

①地域包括支援センター細江

地域の専門職や民生児童委員等の支援者の協力を得、サロン活動の実態調査及び活動支援を行った。ケアマネサロンを開催し、地域のケアマネジャーと地域の多職種との連携機会を増やすことができた。また、元気はつらつ教室及び住民型デイサービスの事業継続への支援を行い、介護予防機能の充実に努めた。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

聖隷三方原病院サテライト介護保険相談業務を通じ、看護相談、退院支援看護師などとの連携関係がより深まった。退院支援以外の場面においても様々な相談が互いの専門性を活かし行うことができた。

③聖隷リハビリプラザいなさ

配置できる職員の確保ができ、個別機能訓練加算Ⅱの算定が安定的にできるようになった。3～4 か月毎の間隔で外出サービスを行った。買い物支援については、外出との兼ね合いを考慮し、2020 年度実施する方法を検討し開始予定。

２．認知症要援護者、被虐待要援護者等への対応

（ア）認知症要援護者への対応

①地域包括支援センター細江

地域の住民への認知症の理解を進め、地域での見守り体制を強化することに力を注いだ。特に認知症サポーター養成講座と家族介護者教室、サロン訪問時の講話を通じ、認知症の正しい理解と見守り、発見機能について幅広い年代に周知することができた。2020 年度についても引き続き認知症の症状や対応方法の周知に努め、虐待につながる前の早期発見と早期介入の仕組みづくりも進めていく。

②聖隷ケアプランセンターいなさ南部

いなさ愛光園の各種事業と連携し、認知症要援護者、家族支援を行った。虐待に関する発見機能が研修等により強化され、被虐待要援護者への対応のみならず、介護者への支援にも早めに着手することができた。

③聖隷リハビリプラザいなさ

プログラム開発にまで至ってはいないが、事例を通して支援の仕方や MCI（軽度認知障がい）への関わり方を模索し始めた。次年度も継続しつつ、先行研究等も参考にして実践につなげていく。

（イ）被虐待要援護者等への対応

地域の専門職及び支援者に向けての虐待対応に関する研修を開催し、発見機能の強化を行った。また、地域ケア会議を複数回開催し、多職種、複数事業所がチームとして被虐待者のみならず、養護者支援も視野にいれた対応を行った。次年度についても虐待発見機能の強化とチームによる対応に注力していく。

３．地域防災力強化の対応

地域民生委員を中心として地域の防災について確認を行い、課題の抽出を行った。次年度については抽出された解題への取り組みを行っていく。ケアセンターとしては防災への備えの確認や装備の見直しを行った。災害時の事業継続計画運用については 2020 年度の課題として取り組む。

４．地域における公益的な取組

聖隷ケアセンターいなさ全体

（ア）ボランティアポイント事業の活用について地域のサロンやシニア倶楽部、ロコモーショントレーニング団体に向けて情報提供による活用支援を行った。今後も活用への支援継続をし、地域の中の支えあい体制を整えていきたい。

（イ）高齢者の非専門職雇用継続のために、情報共有の工夫や業務内容の見直しを行った。

【数値実績】

地域包括支援事業（地域包括支援センター細江）

浜松市 受託収入	予防支援 ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄA・B	内 再委託件数	予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ単価 （円）（10月から改訂）		総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
47,583 （千円）	予防支援　3,764件	2,863件	4,390円	4,400円	82,029 （千円）	8.6　人
	ﾏﾈA　2,597件	1,794件	4,390円	4,400円		
	ﾏﾈB　1,540件	―件	2,190円	3,195円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンターいなさ南部）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査 年間件数	訪問調査 単価(円)	総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
1,748件	331件	15,491円	4,036円	37件	4,400	29,453千円	4.8名

通所介護事業（聖隷リハビリプラザいなさ）

介護給付			予防給付		単価(円)		総収入 （千円）	職員数 （常勤換算）
平均 利用者数	月間 利用者数	年間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
22.8人	587.3人	7,048人	94.6人	1,136人	6,591円	26,146円	76,776千円	16.5名

聖隷ケアセンター三方原

訪問看護ステーション三方原
聖隷ケアプランセンター三方原
聖隷デイサービスセンター三方原

【事業報告】

１．浜松市北部エリアにおいて「必要とされる」ケアセンターになる
（ア）介護・リハビリテーション・障がい・小児ケアに関する相談に応じることができた
（イ）共生型サービス(自立訓練・機能訓練)の利用者を受け入れることができた
（ウ）緩和ケア認定看護師を中心として「意思決定」を支援することができた
（エ）介護保険外サービス（外出・外食レクリエーション）を年 5 回実施でき、定期化できた
（オ）他事業所の開設に伴い重複するエリアを見直し、断らないように受け入れを継続した

２．利用者一人ひとりの思いに沿ったケアを提供するための質の向上を目指す
（ア）福祉学会の発表を通じて 3 事業所合同で事例検討行い、関わり方を振り返った
（イ）ケアプラン立案するためのコミュニケーション能力を高める研修が十分できなかった
（ウ）アウトカム評価を毎月実施し、入力するシステムができた
（エ）日々の実践や成果を振り返り、ケアセンター学会にて発表できた
（オ）ICT の活用と書類の流れを見直し、効率的な業務改善を図ることができた

３．地域における公益的な取り組み
（ア）健康秋祭り・家族会など地域の方が参加できるイベントを開催できた
（イ）ロコモーショントレーニングサロン活動を継続できた
（ウ）地域の防災活動に参加できなかったが、ケアセンター内の防災計画の見直しを行った
（エ）ボランティアの人数を増やし、受け入れを継続できた

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション三方原）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数(常勤換算)
162 人	822 件	9,865 件	9,642 円	98,987 千円	15.6 名

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター三方原）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
2,001 件	327 件	15,893 円	3,963 円	24 件	4,360 円	33,938 千円	5.9 名

通所介護事業（聖隷デイサービスセンター三方原）

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	月間 利用者	年間 利用者	介護 （月）	予防 （月）		
36.0 人	934.2 人	11,211 人	62 人	748 人	6,221 円	32,604 円	94,903 千円	15.0 名

通所介護事業／共生型サービス（自立訓練・機能訓練）

平　均 利用者数	月　間 利用者数	年　間 利用者数	単価
0.4 人	12 人	142 人	8,501 円

浜北愛光園

特別養護老人ホーム浜北愛光園　　浜北愛光園デイサービスセンター
障害者相談支援事業所浜松東　　訪問看護ステーション貴布祢
聖隷ケアプランセンター浜北　　地域包括支援センター北浜
聖隷チャレンジ工房浜北　　生活介護事業所きらめき

2019 年度、事業運営では、地域ニーズの高まりを踏まえ、まず、就労継続支援 B 型を定員 15 名から 25 名に、生活介護を定員 10 名から 20 名にそれぞれ増員した。それに伴い、「聖隷厚生園きらめき工房」を、「聖隷チャレンジ工房浜北」と「生活介護事業所きらめき」の 2 つの事業所に分け、より専門性の高いサービス提供が可能となる体制へ変更した。

また、2020 年 4 月、磐田市に開設された幼保連携型認定こども園、児童発達支援事業、訪問看護ステーションの複合施設「聖隷こども園こうのとり富丘」への基盤作りとして、2018 年度に引き続き、訪問看護ステーション貴布祢が磐田市内サテライト事務所を起点に利用者確保や関連機関とのネットワーク構築等に努めた。

組織開発では、「①専門業務を仕分ける⇒②周辺業務を集約する⇒③高齢者や障害者をケアサポーターとして雇用し、周辺業務を任せる」という流れを確立することで、業務の省力化・効率化が図れ、人員不足による弊害を少なからず抑制できた。また、その他、外部委託業者と契約していた施設内業務を切り出し、就労支援メニューに転換することで、新たなプログラムや働き先の創造にも繋がった。

１．制度の枠を超えた支援体制の構築

（ア）デイサービスは 2018 年度の設備改修により、集団では落ち着くことができない認知症利用者が小人数で落ち着いて過ごすことができる空間を設定できた。併せて、認知症に特化した対応に専念できたことで、帰宅願望等の周辺症状が緩和する等、事業所として認知症対応力が向上した。

「聖隷厚生園きらめき工房」は、定員増に伴い、「聖隷チャレンジ工房浜北」と「生活介護事業所きらめき」の 2 事業所となった。「聖隷チャレンジ工房浜北」では、外部委託業者へ委託契約していた施設内業務等を積極的に受託し、就労訓練メニューの拡充を図るとともに、利用者工賃の賃上げも実現できた。「生活介護事業所きらめき」では、簡易な施設内業務を任せることで、やりがいや働きがいを感じてもらう機会が増加した。

訪問看護ステーション貴布祢は前年度に続き、磐田市での展開に注力し、「聖隷訪問看護ステーション富丘」の基盤造りと円滑な新規事業所開設に努めた。

（イ）高齢者福祉事業と障害者福祉事業、施設サービスと在宅サービスという制度の枠を超えた検討を重ねるため、「地域課題解決会議」を立ち上げ、地域課題の検出と解決に努めた。

（ウ）地域課題検出に向け、会議内で複数回の事例検討を進めることで、制度の枠を越えて支援を継続していくためには「人生会議」の活用が不可欠であることと、身寄りのない方の統一した支援の重要性を共通認識し、2020 年度の目標に設定した。

２.「安心して暮らし続けられる」取り組みの創出と定着

（ア）入所前訪問を専門職数名で行うことで、漏れのないニーズ抽出に努めた。入所後の意向もサービス担当者会議や看取り期のムンテラ等を通し、利用者・家族の意向を具体的に把握し、ニーズに即したサービス提供に努めた。

（イ）2018 年度に続き、各フロア・ユニットでのリスク度を定期的に数値化し、施設全体での調整を図った。結果、介護者が原因となる重篤な事故は回避できた。

（ウ）多職種・多事業所が連携し、支援困難者の受け入れを随時検討し、調整が図れた。結果、特別養護老人ホーム（短期入所含む）、通所介護とも稼働率は堅調に推移した。

（エ）直接的介護方法は個別性に重視したものとなっているが、利用者自身のやりがいや生きがいについては具体的な検討に至らなかったため、2020 年度の重要課題とする。

（オ）ケアサポーターの雇用により、利用者の生活全般を根底から見直すことはできた。
また、計画的に認知症ケア等の専門研修に参加することで、各フロアにおける知識・技術の底上げができた。

３．新たな働き方の創造

（ア）介護テクニカルラダーに則すことで、根拠を持ったケアが実践できるように教育・指導が行えた。ただし、教育者の負担増加や教育内容の格差等は否めないため、2020 年度はｅ-ラーニング等の活用を検討し、教育負担の軽減、教育水準の均一化を図っていく。

（イ）ケアサポーターの雇用は 9 名に至る。ケアサポーターに介護の周辺業務を切り出すことで、介護職が力を入れたい直接介助に時間を転換することができた。

（ウ）記録システムの活用、中間浴槽の導入等により、業務整理が図られ、省力化が進んだ。結果、身体レベルに合致した入浴が可能になる等、利用者の負担軽減にも繋がった。

４．運営安定化の推進

（ア）排泄支援加算、褥瘡マネジメント加算等の新たな加算算定も計画的に実施できた。
稼働状況はもとより、サービス活動収益も当初の予算通りに推移できた。

（イ）水光熱費、消耗備品の購入、外部委託業者の契約等の適正化が図れた。

（ウ）施設の老朽化に伴い設備の更新や改修は随時発生したが、都度、優先順位を検討し、計画的な更新、改修が行えた。

５．地域における公益的な取り組み

（ア）防災対策委員会メンバーが中心となり、12 月に高薗自治会防災訓練に参加。静岡災害派遣福祉チーム移送支援用具の説明や福祉避難所としての役割等を説明し、参加者の理解を深めた。また、天竜川洪水被害を想定し、障害福祉施設と共同避難訓練の計画を進めている。

（イ）浜北区障がい者自立支援連絡会や各事業所連絡会が開催した研修会への参加、共同運営等を通して、浜北区における専門職育成に貢献できた。

（ウ）年 4 回の広報誌の発行、各種研修生の受け入れは例年通りに実施できた。加えて、出雲殿主催の「終活セミナー」と連携し、地域住民を対象とした介護保険制度の説明や施設見学、サービス利用相談等を定期的に実施できた。

【数値実績】

■高齢者入所・短期入所・通所・相談支援関係事業

	浜北愛光園				デイサービス		障害者相談支援浜松東
	特養入所		短期入所		通所介護		
	従来型	ユニット型	従来型	ユニット型	一般型	予防	
利用者定員	50 名	100 名	20 名	20 名	40 名		
利用延数	18,702 名	36,249 名	5,853 名	5,143 名	8,570 名	197 名	
一日平均利用者数	51.2 名	99.3 名	16.0 名	14.1 名	28.5 名	16.4 名	
稼動率（％）	102.5%	99.3%	80.2%	70.4%	72.9%		
稼動延日数	366 日	366 日	366 日	366 日	301 日		
平均介護度	4.3	3.8	3.1	2.9	2.0		
単価（一人一日）	12,336 円	14,019 円	11,231 円	15,198 円	10,539 円		
サービス活動収益（千円）	230,710 千円	508,172 千円	65,733 千円	78,161 千円	92,393 千円		9,504 千円
職員数(常勤換算)	34.3	66.4	11.8	11.7	16.5		3.9

■訪問看護事業（訪問看護ステーション貴布祢）

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
164 名	837 件	10,045 件	9,920 円	99,648 千円	13.6 名

■居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浜北）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
2,280 件	366 件	15,837 円	4,074 円	25 件	4,400 円	40,682 千円	6.6 名

■地域包括支援事業（地域包括支援センター北浜）

浜松市受託収入（千円）	予防プラン請求件数	うち再委託件数	予防プラン単価（円）	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
35,950 千円	3,433 件	2,354 件	4,390 円	50,551 千円	6.3 名

■聖隷チャレンジ工房浜北／生活介護事業所きらめき

	定員	利用延べ人数	稼働率	稼働日数	単価	ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
就労移行	15 名	3,713 名	78.3%	316 日	11,310 円	41,994 千円	10.8 名
就労継続	25 名	6,797 名	87.7%	310 日	9,373 円	63,706 千円	
就労定着		44 名			48,727 円	2,144 千円	
生活介護	20 名	2,487 名	51.8%	240 日	8,320 円	20,692 千円	5.7 名

森町愛光園

特別養護老人ホーム森町愛光園
森町愛光園天宮サテライト
森町愛光園デイサービスセンター
森町愛光園ホームヘルパーステーション
聖隷ケアプランセンター森町
森町愛光園在宅介護支援センター
聖隷放課後クラブはなえみ森町
聖隷相談支援事業所森町

2019 年度 森町愛光園は、地域の児童やその保護者のニーズに応えるため、聖隷放課後クラブはなえみ森町の定員を 10 名から 20 名に増員を図るべく、特別養護老人ホームの食堂兼機能訓練室スペースの用途変更を行った。変更された区画の改修を行い、2020 年 4 月にスタートできる準備ができた。

次に、施設内の様々な場所で老朽化が進む設備・備品の更新や改修を行った。具体的には非常用自家発電装置の入替え、デイサービストイレのリフォーム、浴室照明器具の LED 化と増設、入居食事テーブルの総入替えを行った。テーブルの変更により、分散して提供していた食事サービスが一か所で可能となり、移動について利用者及び職員の負担軽減を行うことができた。この取り組みは 2020 年度も引き続き行い、利用者サービスの向上、職員の働く環境の改善に寄与したい。

最後に、職員確保が困難な状況が続いている。2019 年度、職員募集の新聞広告チラシにて、介護サポートができる職員や、聖隷放課後クラブはなえみ森町の保育士について 2 名確保することができた。今後も森町の地域性を考慮した有効な採用活動を行い、サービスの質の維持向上に努めていく。

1. 利用者の尊厳を守り、利用者主体の支援の実践
   （ア）利用者一人ひとりの尊厳、プライバシーが守られるよう、接遇面の強化を図った。
   （イ）認知症の理解促進や看取りケア、重症化予防・健康管理、各種のリスク管理への取り組みを多職種協働で実践した。
   （ウ）利用者一人一人が目標・役割を発揮でき、安心して利用できるケアの提供や環境作りを検討した。
   （エ）給食委託業者との協働のもと、利用者個々へ配慮された、安全で楽しみのある食事の提供のため行事食、誕生日企画を行った。

2. 地域共生社会の実現に向けた活動
   （ア）地域共生社会の実現のため、障害者総合福祉法・児童福祉法・介護保険法の理解を深め、各相談支援機関との連携を図ることに努めた。
   （イ）隣接する一宮幼稚園との交流事業を行うことができた。新型コロナウイルスの影響で卒

園式には出席できなかった。

（ウ）はなえみ森町において、地域のニーズに応えるため、2020 年 4 月 1 日より定員を 10 名より 20 名に増員することができた。

（エ）特別支援学校卒業後のサービスについて、保護者の皆様と協議の場を設けた。

3. 人材育成と働きがいのある職場環境の整備

（ア）各専門職ラダーを活用し、目標参画システムと連動させ人材育成を図った。

（イ）介護支援システム等を活用し、リスクマネジメントにおいて業務の効率化を行った。しかし日誌類の削減は出来なかった。

（ウ）人事企画部人材開発課と連携し、EPA 介護福祉士候補生の就業・学習支援を行ったが、2019 年度中に 2 名の EPA 介護福祉士候補生が帰国した。

（エ）パート職員に対し、事業団統一資料を活用した教育は実施できなかった。

（オ）腰痛予防に向けて、介護ロボットの検証を行ったが導入には至らなかった。

4. 健全経営の推進と衛生管理・防災管理体制の向上

（ア）待機者が減少する中、積極的にアウトリーチを行った。

（イ）施設の老朽化が進む中、修繕計画、設備更新計画を在宅・福祉サービス事業部と連携して推進することができた。

（ウ）新たな介護保険外サービスの開発は出来なかった。

（エ）消費増税に適切に対応することができた。

（オ）利用者・職員の集団感染を防ぐことができた。誤嚥・窒息対応の勉強会を開催した。

（カ）自然災害発生時に備え、非常用自家発電装置の入替えを行い、停電時、森町愛光園本体の非常灯・非常電源が確保できた。

5. 地域における公益的な取組

（ア）「森町地域福祉計画・地域福祉活動計画」の推進に寄与するため、森町役場、森町社会福祉協議会が主催する各種会議に参加した。また東京 2020 パラリンピック聖火採火式森町実行委員会に委員として参画した。

（イ）地元小学校・中学校からの福祉体験、袋井特別支援学校の実習・体験利用の受入を行った。また、高校の介護実習の受入、高校授業への職員派遣を行った。例年通りではあるが、各種ボランティア活動の場として、施設機能を提供できた。

（ウ）住民内覧会の開催はできなかったが、天宮サテライトにおいて、公立森町病院かわせみ保育園との交流事業をおこなうことができた。

【数値実績】

	特養		天宮ｻﾃﾗｲﾄ	短期入所	通所介護	
	従来型	ユニット型	ユニット型	従来型	介護	予防
利用者定員	60 名	20 名	29 名	12 名	42 名	
利用者延べ数	21,908 名	6,814 名	10,343 名	3,339 名	7,272 名	1,271 名
１日平均利用者数	59.9 名	18.6 名	28.3 名	9.1 名	23.6 名	4.1 名
稼動率	99.8%	93.1%	97.5%	76.0%	67.6%	
稼動日数（延べ）	366 日		366 日	366 日	308 日	
単価（一人一日当り）	12,146 円	15,114 円	13,218 円	11,550 円	10,042 円	
サービス活動収益	369,096 千円		136,715 千円	38,566 千円	85,794 千円	
職員数（常勤換算）	38.7 名	11.3 名	20.7 名	7.8 名	13.1 名	

	在宅介護支援ｾﾝﾀｰ	居宅介護支援		訪問介護			介護合計
		介護	予防	介護	予防	障害	
利用者定員							
利用者延べ数		1,865 名	264 名	4,131 名	988 名	411 名	
１日平均利用者数				11.5 名	2.7 名	1.1 名	
稼動日数（延べ）				360 日			
単価（一人一日当り）		16,069 円		3,702 円		3,639 円	
サービス活動収益		34,211 千円		18,955 千円		1,496 千円	684,833 千円
職員数（常勤換算）	0.1 名	5.0 名		5.9 名			102.6 名

	放課後等デイサービス	相談支援事業		障害合計
		特定相談	障害児	
利用者定員	10 名			
利用者延べ数	2,785 名	75 人	69 人	
１日平均利用者数	11.3 名			
稼動率	113.2%			
稼動日数（延べ）	246 日			
単価（一人一日当り）	11,818 円			
サービス活動収益	32,915 千円	2,075 千円		34,990 千円
職員数（常勤換算）	5.6 名	0.8 名		6.4 名

聖隷ぴゅあセンター磐田

聖隷こども発達支援センターかるみあ
聖隷放課後クラブはなえみ磐田
相談支援事業所磐田みなみ
聖隷チャレンジ工房磐田
聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田
磐田市発達支援センターはあと
磐田市子育て支援総合センターのびのび
磐田市南部高齢者包括支援センター
磐田市南部地域障害者相談支援センター

2019 年度は、高齢者地域包括支援センター・障害者相談支援センターの受託開始、子育て支援総合センターのびのびの組織変更と新たな事業体を迎えた。聖隷ぴゅあセンター磐田が開設して 3 年、子育て家庭から 8050 問題を抱える家庭まで幅広い年齢層からの相談を受ける体制を整えることができた。また、2020 年聖隷こうのとり富丘開設に伴う聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田移設準備とともに、児童発達支援・保育所等訪問支援の在り方について再編成を行った。全事業を通して、利用者に応じた支援が提供できるよう、集団を活用した関わりに加え、家庭訪問を含めた個別の関わりに注力した一年であった。

【施設理念】

ご利用者が“その人・その家族らしく”「生きる力」を培い、地域の一員となるために、わたしたちはこどもから大人まで途切れの無い一貫した支援を提供します。

【経営方針】

１．利用者満足度の高いサービスを提供する
２．地域からの要請に応じたサービス展開
３．生産性・効率性の向上と経営の安定化

【事業・運営計画】

1．利用者満足度の高いサービスを提供する

（ア） 子どもへの発達支援

① 客観的な指標に関する勉強会を実施。領域別目標を設定し、年間月間目標を作成した
② 子どもの反応、行動を見る力を養うため、日々の振り返り方法を見直した
③ 移動動物園など新しい行事を取り入れ、利用者・保護者より高評価の声をいただく
④ 新規利用保護者を対象に、ペアレントプログラムを実施した

（イ）家族支援の充実

①ビデオ等を活用し、保護者が子どもの理解と成長について言語化できる場面を設定し

た

②保護者の思いを引き出せるよう、家庭訪問・懇談会・保護者満足度評価等を実施した

③保護者に焦点を当て、講演会・手作り工作等保護者同士が楽しめる行事を企画した

（ウ）高水準の就職実績と工賃実績

①パンの外部販売時等、役割や目標を利用者と設定し、やり遂げる体験を提供した

②6 名就職者を輩出し、就労 6 か月定着者は同数の 6 名となる

③個別面接等にて利用者の思いを言語化・共有し、主体的に行動できるよう支援した

（エ）磐田市発達支援センターはあと

①機関訪問や連携にて、園や学校での合理的配慮につながるケースが増加した

②関係各課と意見交換し、必要な研修会を共同企画し講師派遣を行った

（オ）磐田市南部地域包括支援センター・磐田市南部障がい者相談支援センター

①関係機関の意見を吸い上げ、社会福祉協議会の協力のもと福祉マップを作成した

②8050 問題等、地域ケア会議を活用し、関係機関・地域の見守り等協力体制を整えた。

（カ）磐田市子育て支援総合センターのびのび

①出会いの広場 44 回（延べ 1860 名）開催し、子育家庭・サロンのサポートを行った

②ファミリーサポートセンター事務局の職員対応システムマニュアルを作成した

③一時預かり保育における柔軟な対応（延長等）ができるよう職員配置を検討した

２．地域からの要請に応じたサービスの展開

（ア）各事業体から捉える地域課題に対して役職者で検討する場を設けた

（イ）保護者会開催等、2020 年 4 月度開園に向け、聖隷こうのとり富丘の準備を行った

（ウ）停電災害時を想定し、必要な物品の見直しを行った

３．生産性・効率性の向上と経営の安定化

（ア）目標稼働率・次年度稼働を意識した新規受け入れ・利用回数を検討し、予算稼働を上回った

（イ）業務分掌を見直し、担当が主体的に動けるようリーダーがサポートする体制を整えた。

（ウ）各職員の専門性が発揮できるよう、業務の流れを検証、マニュアルを作成した

４．地域における公益的な取組

（ア）研修講師 10 回・施設見学 55 名や実習 40 名ボランティア 438 件を積極的に受け入れた

（イ）地域イベント 36 回に参加し、障害福祉・障害者就労に関する情報発信を行った

（ウ）私立幼保に対するコンサルテーションを 8 日（26 件）実施した

（エ）のびのびにて、発達が気になる親子の療育と集いの場を 11 回（延べ 221 名）実施した

（オ）地域の交流センターにおいて、多世代間の交流の場作り２回（延べ 223 名）を行った

（カ）「福祉なんでも相談窓口」として、磐田市・社会福祉協議会と協力体制を整えた

【数値指標】

	ﾁｬﾚﾝｼﾞ工房 就労移行	ﾁｬﾚﾝｼﾞ工房 就労継続	ﾁｬﾚﾝｼﾞ工房 生活訓練	ﾁｬﾚﾝｼﾞ工房 定着支援	はあと
利用者定員	14名	10名	6名	－	－
利用者延べ人数	4,237名	2,600名	932名	－	－
一日平均利用者数	14.3名	10.1名	3.6名	－	－
稼働率	101.6%	87.5%	58.8%	－	－
稼働日数（延べ）	298日	297日	264日	－	－
単価（一人一日当り）	8,966円	8,610円	8,052円	－	－
サービス活動収益	37,987千円	22,385千円	7,504千円	1,561千円	2,470千円
常勤換算職員数	7.2名	3.7名	1.3名	0.2名	8.8名

	かるみあ 児童発達	かるみあ 保育所等	はなえみ放 課後ﾃﾞｲ	豊田 児童発達	豊田 保育所等
利用者定員	30名	－	20名	10名	－
利用者延べ人数	7,967名	467名	5,050名	2,307名	386名
一日平均利用者数	32.5名	－	20.4名	9.6名	－
稼働率	108.4%	－	103.3%	96.1%	－
稼働日数（延べ）	245日	－	247日	240日	－
単価（一人一日当り）	16,602円	11,043円	11,922円	14,945円	10,984円
サービス活動収益	132,265千円	5,157千円	60,208千円	34,478千円	4,240千円
常勤換算職員数	20.6名	1.2名	11.5名	4.7名	0.5名

	磐田みなみ (特定)	磐田みなみ (障害児)	のびのび	南部包括	南部相談
利用者定員	－	－	－	－	－
利用者延べ人数	－	－	－	－	－
一日平均利用者数	－	－	－	－	－
稼働率	－	－	－	－	－
稼働日数（延べ）	－	－	－	－	－
単価（一人一日当り）	－	－	－	－	－
サービス活動収益	2,394千円	6,313千円	20,974千円	22,771千円	10,446千円
常勤換算職員数	1.1名		5.5名	3.0名	2.0名

浅田地区在宅複合事業

訪問看護ステーション浅田
聖隷ケアプランセンター浅田

１．訪問看護ステーション浅田

（ア）ケアプランセンター浅田と共に、終末期・重度障がい・困難ケースの積極的な受入れや訪問看護師出向研修支援事業への参加をとおし、地域包括ケアシステムの一環として機能する事業所つくりに取り組んだ。

（イ）研修・セミナーに年２回以上参加、職場内伝達講習、難病利用者の意思決定支援の事例発表、浜松市障がい者基幹相談支援センター相談員や専門看護師を助言者に招いた事例検討会等をとおして、職員の実践能力向上に取り組んだ。

（ウ）事業所内の防災体制と事業継続計画を見直すと共に、発災時・コロナウイルス感染症発生時の対応を聖隷の浜松地区訪問看護ステーション間でまとめ、利用者への説明を行った。

（エ）訪問看護ステーション富丘開設に向けて、磐田での訪問看護の足場つくりを行った。

２．聖隷ケアプランセンター浅田

（ア）昨年から引き続きターミナルや難病など医療依存度の高いケースの依頼が多く、病院や地域包括支援センターからは訪問看護ステーション浅田との同時利用の依頼が続いた。複合事業所として地域に認知、評価されつつあることが感じられた。

（イ）レスパイト入院や退院支援を通じ、すずかけセントラル病院や浜松南病院の相談員と連携した。また、すずかけセントラル病院とスムーズな在宅移行についての話しあいが持てた。

（ウ）スタッフの学習意欲が高く、事業所内勉強会の実施、様々な研修への参加と伝達講習を行うことで支援の質向上に取り組むことができた。

３．地域における公益的な取り組み

芳川地域防災訓練での救護実演、都盛町高齢者サロンでの地域資源に関する講話や健康講話、浜松市南区の多職種連携の会に継続参加等、地域の取り組みに役割を持って参加した。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション浅田）

保険区分	平均利用者数	月平均訪問件数	年間訪問件数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	110	526	6,318	8,839 円	55,847 千円	12.8 名
医療	54	337	4,054	11,677 円	47,339 千円	

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター浅田）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
1,033 件	379 件	15,583 円	4,087 円	17,634 千円	3 名

静岡県立浜松学園

2019 年度は指定管理初年度のため、50 年以上続く長い歴史と重い伝統を不安や混乱なく継承し、安定した運営を行うことを第一義に据え、運営を行った。“暮らす”環境を整えるため、居室のリフォーム（床・壁紙・カーテン・LED）とロフトベットや学習机の設置を行った。また、“働く”可能性の拡充のため、作業訓練メニューとしてパソコンを活用したデータ管理業務・倉庫管理業務を導入した。次に、「通所を開始してほしい」という中学校からのニーズに応え、2019 年 10 月には『聖隷チャレンジ工房浜松学園』を開所した。さらなる利用者地域ニーズを反映できるよう、静岡県と協議を重ねた結果、12 月より静岡県主催で「静岡県立浜松学園あり方検討会」が実施され、今後の施設運営の在り方について一定の方向性が示された 1 年となった。

【施設理念】
『働く』・『暮らす』　―　その人らしい未来を描けるようともに歩む　―

【経営方針】
１．安全・安心に事業を継承する
２．現状を分析し、将来に向けた取り組みを開始する
３．地域ニーズを把握しながら、新たな価値を創造する

【事業・運営計画】
１.安全・安心な事業の継承
（ア）“生きる力”を身に付けることができるような支援に努める
①個別支援が可能な時間を設け、洗濯や掃除等生活スキルを身に付ける取り組みを行った
②利用者が自己選択できる場面を設定し、「責任感と最後まで取り組む大切さ」を伝えた
③利用者自身がコミュニケーションパターンを認識できるような関わりを行った
（イ）家族支援の充実を図る
①家族会や学園便りを通して学園生活の様子を伝えるとともに、家庭への連絡手段を工夫した
②就労継続に向け、余暇の過ごし方等ご家庭と協力体制を整えた
（ウ）目指す社会人像を利用者自身が明確にする
①利用者自身が得手不得手を理解できるよう、「作業訓練日誌」にて一日の振り返りを行った
②作業訓練場でのヒヤリハットは、利用者と一緒に対応策を考え、安全管理を学ぶ機会とした
③利用者が“働くイメージ”を持てるよう、職場見学・職場実習を行った
（エ）発達支援連絡会や説明会・体験会など広報活動を行い、新入園生 28 名受け入れた
（オ）業務分掌を作成し、職員が意識的に動ける体制を整えた

２．現状分析、将来に向けた取り組みの開始
（ア）社会情勢に合わせた作業種目の導入

①4 月より、スキャナーを活用した PDF 化の訓練種目を開始した
②聖隷コミュニティケアセンターの倉庫管理（おむつ配送）業務を開始し、10 月に聖隷チャレンジ工房浜松学園を開設した
（イ）新たな働き方・働き場所の構築
①オール静岡ベストコミュニティ等関係機関と連携体制を整え、職場開拓を行った
②法人内事業所との協力体制を整え、利用者に応じた職場実習先を検討した

３．地域ニーズを把握し、新たな価値を見出す
（ア）進路困難な児童の受入れについて特別支援学校と協議し、随時入所枠で 1 名受け入れた
（イ）2020 年度に向け、コース別プログラムを選択できるよう体制を検討した
（ウ）育成会や相談支援事業所・学校等地域が望む浜松学園像を県へ提言した

４．地域における公益的な取組
（ア）実習受け入れ、年間を通してボランティアを受け入れた
（イ）防犯防災対策として、非常灯の設置、樹木剪定・非常食の見直しを行った

【数値指標】

	施設入所支援（指定管理）	就労移行（指定管理）	就労定着支援（指定管理）	就労移行（自主事業）
利用者定員	60 名	60 名	20 名	20 名
利用者延べ人数	6,446 名	5,085 名	8 名	626 名
1 日平均利用者数	17.6 名	21.2 名	－名	5.1 名
稼働率	29.4%	35.3%	－%	25.9%
稼働日数（延べ）	366 日	240 日	－日	119 日
単価（一人一日当り）	3,646 円	5,649 円	35,625 円	9,510 円
サービス活動収益	23,505 千円	28,726 千円	285 千円	5,953 千円
常勤換算職員数	8.6 名	5.8 名	－名	5.2 名

浦安市高洲高齢者福祉施設及び
浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

浦安市ケアハウス

浦安市高洲高齢者デイサービスセンター

浦安市猫実高齢者デイサービスセンター

浦安市高洲地域包括支援センター

2019 年度は､介護保険施設の全事業について利用者の稼働の計画数値を達成することができた。特別養護老人ホーム入居者の介護度が高くなり入院が多くなったが、空床利用の短期入所で地域の利用者のニーズに応えながら施設の稼働も維持できた。通所介護では第三者評価を受審して利用者からも高評価を受けている。ケアハウスは開設からの入居者の重度化が進み、安心安全の生活を提供するために今後のケアハウスの事業の方向性を明確する課題が残された。

一方、人員の確保は年を増すごとに厳しい状況となり、職員採用の紹介料や派遣職員の費用が大きく増加の傾向にある。2019 年度は働き方改革で有給休暇の取得、長時間労働の適正化に積極的に取り組むとともに離職防止も様々な取り組みを実施したが、2020 年度からは確保できる人員で今まで以上のサービスの質と量を提供できるよう、現場の革新（フィールドイノベーション）に取り組んでいく。

１．入居者・利用者が安心安全に生活できるよう、個々のニーズに合ったサービスを提供する

（ア）浦安市特別養護老人ホーム・短期入所生活介護

①国際生活機能分類の視点でのプラン作成には個人差があるが、施設ケアマネジャーを中心に個別に関わっているため今後も継続していく。プラン作成・実施・評価のサイクルは概ねできている。

②2019 年度は、尿路感染症で入院された方が 7 名であったが、入院になる前に予防できたケースもあるため、日々のケアを振り返り各専門職で個々の状態を共有し、必要なケアができるようにしていく。

③2019 年度 11 名の方が、施設で最期を迎えられた。家族と多職種との話し合いが十分にできなかったケースもある。また、看取りを経験している職員も少なくなってきているため、「その人らしい最期」を迎えるための研修等を実施していく必要がある。

④嚥下プロジェクトを発足し、嚥下評価を定着させることができた。また、その都度食事形態や食事環境を見直すことができ、誤嚥性肺炎での入院者は 3 名となった。

（イ）浦安市ケアハウス

①日常生活自立度（身体機能）・認知症生活自立度（認知機能）による入居者の状態像確認、利用の法的根拠などを基に、入退居要件の確認をはじめ、浦安市高齢者福祉課と協議を開始した。

②体力測定の結果から、個別の課題を書面でお知らせするとともに、健康ウォーキングを行いフレイル予防に努めた。

③懇談会を通じ、ケアハウス内で発生する事故等の周知・啓発を行った。

（ウ） 通所介護

①個別機能訓練を利用者の約 95%に対して実施し運動意欲向上につながった。

②ボランティアの受け入れを積極的に行い、2018 年度に比べ個人ボランティアが増えた。

③地域ニーズに応える為、独居世帯・老々世帯を対象に朝食・服薬管理サービスを継続した。

（エ）浦安市高洲地域包括支援センター

①目標であった新たなサロン活動の発足には至らなかったが、2018 年度同内容のサロン活動は開催。大学等の地域資源と地域住民をつなぐ役割を果たした。

②サロン活動の場を活かし地域ケア会議を開催、そこでの課題を協議体へ報告。今後は、新たな地域資源の形成に向け活動を行っていく。

③相談内容も児童・障がい・高齢と多岐にわたり、地域住民の相談窓口として専門外のことでも相談を受け止め担当機関への連携を行ってきた。また、虐待件数が 2018 年度の 1.5 倍に増え、3 職種の専門性を活かし分担して対応した。

２．職員が専門職としてやりがいを持って仕事に取り組むことができる

（ア）正職員は全てラダーを実施し、自己の能力を客観的に把握し、レベルアップを図ることができた。目標参画面談でも個々に実施状況の確認ができ、スキルアップに繋がっている。

（イ）研修後振り返りのアンケート機能を活用し、職場に戻った後に復習できる環境を整えた。また、個別研修のための映像資料を作成し、研修方法の幅を持たせることに注力した。その他、シラバスの作成に着手し業務効率向上に向けて取り組みを開始した。

（ウ）職種毎のラダー実施と、業務における役割で必要な研修への参加をするとともに、職場会での伝達講習及び資料の閲覧により共有した。

（エ）介護支援システムに関しては、記録業務での超勤削減のためにタブレット使用を啓蒙しているため、2020 年度も工夫しながら継続していく。

（オ）EPA11 期生 2 名の受け入れや無資格・未経験の方の採用もできた。受け入れフロアでは、プリセプターを中心に教育している。今後は、無資格・未経験対象の育成システムを整備することが課題である。

３．経営の安定化を図る

（ア）浦安市特別養護老人ホーム

①尿路感染や転倒事故等による入院に関しては、ケアの見直しや個々の特性を把握した関わりをすることで予防できたケースもあった。

②2019 年度は、退所から入所まで平均 8.6 日かかっている。下半期からは、空き部屋をショートステイで活用することができた。ショートステイから直接入所へ移行できているケースもあるため、今後も相談員同士の連携を強化していく。

③経口維持加算については、管理栄養士と連携し 10 月より 40 名の方の算定ができた。

（イ）短期入所

緊急のショートステイ利用の相談に対し、25 名の受け入れを行った。（そのうち措置 5 名）相談員を中心に各職種で連携を図りながらスムーズな受け入れができている。

措置での受け入れの際、地域包括支援センターや市役所との連携が今後の課題である。

（ウ）ケアハウス

書類作成から面談の流れで行っていた事前調査を、面談から行うことで状態把握が迅速になるとともに、入居判定審査会に諮る状態ではない方へのアプローチが円滑に進んだ。また、要介護・支援認定を受けている方だけでなく、生活不便や状態変化のある方については、積極的にご家族も含めアプローチをし、必要に応じ相談機関と連携を図った。

（エ）通所介護

①高洲デイサービスセンター　登録者 68 名、一日平均利用 22.4 名を維持できた。

②猫実デイサービスセンター　登録者 75 名、一日平均利用 21.0 名を維持できた。

（オ）介護支援システムを継続活用し、また介護周辺業務の可視化・整理を行い、長時間労働の削減につながった。

４．防災体制の確立

高洲地区全体での訓練実施やマニュアルの見直し、風水害マニュアルの新規作成など、防災・防犯体制の充実を図ることができた。

５．地域における公益的な取組

看護師・社会福祉士・介護福祉士・管理栄養士の実習受け入れを実施した。また、市内の中学生の職場体験を受け入れた。個人ボランティアは、1 名の新たな受け入れができた。

（ア）東京福祉専門学校　介護福祉士　（実人数 2 名　延べ日数　44 日）

（イ）順天堂大学　医療看護学部　（実人数 48 名　延べ日数 220 日）

（ウ）慶応大学　看護学部　（実人数 4 名　延べ日数　16 日）

（エ）了徳寺大学　看護学科　（実人数 16 名　延べ日数 68 日）

（オ）東洋大学　社会福祉士　（実人数 2 名　延べ日数　46 日）

（カ）その他（中学生体験等）　（実人数 12 名　延べ日数　7 日）

【数値実績】

	特 養	短 期	ケアハウス	高 洲デイ	猫 実デイ	地域包括	地域包括（予防）	総合計
利用者定員	100 名	50 名	50 名	25 名	25 名	－	－	250 名
利用者延数	36,228 名	16,239 名	17,214 名	6,355 名	6,283 名	－	－	82,319 名
一日平均利用者数	99.0 名	44.4 名	47.0 名	20.6 名	20.3 名	－	－	－
稼働率（%）	99%	89%	94%	82%	81%	－	－	－
稼働日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	309 日	309 日	－	－	－
単価（一人一日当り）	－	－	－	－	－	－	－	－
サービス活動収益（千円）	515,172 千円	218,119 千円	91,417 千円	43,826 千円	49,836 千円	26,023 千円	5,424 千円	949,817 千円
職員数（常勤換算）	64.7 名	28.4 名	7.0 名	7.1 名	8.6 名	3.8 名	0.6 名	120.2 名

介護老人福祉施設　浦安愛光園

2019 年度は安心・安全な体制の再構築と経営の安定を重点目標に取り組んだ。特別養護老人ホームでは、良質なサービス提供の要となる職員に対して 0JT や研修方法の見直しを行い、介護技術の向上やケア方法の統一を図ることができた。指導に使用するマニュアルについても防災・感染・事故等を中心に介護技術マニュアルも一部改訂し安全面の強化に着手した。介護職員の採用は関東第１エリアで協力しながらも、無資格・未経験者を正職員として採用し育成していく方法を取り入れた。高齢者・障がい者・外国人の採用は継続的にできているが、ICT 化は導入の検討に留まった。相談支援事業所は２年目の目標である各事業所との連携強化に努め、高齢者・障がい者のニーズにワンストップで対応ができるようになり、訪問看護ステーション浦安から浦安ベテル障がいショートステイに障がいサービスを繋いでいくモデルケースを作ることができた。

経営面は働き方改革の中で取り組んだ業務改善や多様な人材の適正配置等も効果的で、年間を通して収支が安定した。

【施設理念】

私たちは、ご利用者の“暮らし”“つながり”“その人らしさ”を大切にします

【経営方針】

１．それまで大切にしてきた“暮らし”が続けられるよう支援します

２．家族、友人、地域、社会との“つながり”が保てるよう支援します

３．一人ひとりの意思・人格を尊重し、“その人らしさ”が実現できるよう支援します

【事業・運営計画】

１．安心・安全で信頼されるサービスを提供する

（ア）介護支援システムで施設内の情報共有が可能となり、他ユニットでの同様の事故や繰り返し起こる事故を減少することができた。

（イ）各委員会でマニュアルを見直す機会を作り、現状に合わせて改訂することができた。

（ウ）入居者数名を対象にエンディングノートを作成することはできたが、実質的な運用は 2020 年度となった。

（エ）パーソン・センタード・ケアをユニットで実践し、聖隷浦安学会で発表できた。

２．人材の育成と働き方改革への挑戦

（ア）集合研修に参加できない職員に対して回覧で資料を配布したり、ユニット内での伝達方法を見直すことで、フォロー体制を整えることができた。

（イ）研修内容の構成を見直し、ロールプレイや技術チェックを取り入れることで理解度や習得状況を確認することができた。

（ウ）入浴と排泄について、ユニットリーダーを中心にフロア毎に 0JT することができた。

（エ）施設内でロールモデルがまだまだ少ない。無資格者や中途採用者の道標となる先輩職員を育成していく必要がある。

（オ）有給休暇取得と超勤削減の目標数値は未達成であったが、職場単位で働きやすい環境を目指し、意図的に3連休以上の取得率を上げることができた。

３．地域共生社会の実現のため関係機関との連携を強化し利用者のニーズに即したサービスを提供する

（ア）空床障害ショートステイ実績なし。

（イ）各事業所と連携を図ることで「要介護」「要支援」「障がい福祉」のニーズに、ワンストップで対応が行えるようになった。

（ウ）訪問看護ステーション浦安の利用者を浦安ベテルホームの障害ショートステイの利用に2件繋げることができた。

（エ）2019年度は介護保険へ移行するケースはなかったが、2020年度以降に65歳以上に達する方は数名いるため支援していく。

４．経営を安定させる

（ア）年間を通して収支は安定した。

（イ）介護周辺業務を担うケアサポーターの新規採用が3名できた。

（ウ）新たなICT導入は検討に留まった。入浴の仕組みを検討する中で、機器導入による業務効率と生産性の向上を検証していくことが課題である。

５．地域における公益的な取組みと地域貢献

（ア）介護保険利用者負担軽減制度の利用実績なし。

（イ）はぐくみ浦安と協同で障がい者のボランティアや職場体験を募ったが、利用には至らなかった。

（ウ）高洲中学校特別支援学級との交流（年2回）

【数値指標】

	特養（ユニット型）	はぐくみ浦安	総計
利用者定員	74名	－	－
利用者延べ人数	26,153名	220名	－
一日平均利用者数	71.5名	－	－
稼働率	96.6%	－	－
稼働日数（延べ）	366日	246.5日	－
単価（一人一日当たり）	15,082円	14,556円	－
サービス活動収益（千円）	394,452千円	4,340千円	398,792千円
職員数（常勤換算）	45.8名	1.1名	46.9名

介護老人保健施設 浦安ベテルホーム

4 月に市内初のリハビリテーション病院が開設され、地域における利用者の流れが大きく変化したが、入所においては、年間稼働率が 88.2%で対予算 1.2%（対前年-1.0%）で稼動予算達成、ユニット型居室では在宅強化型、従来型居室では加算型を 1 年通じて算定、特に短期入所空床利用において、1 日平均利用者が 5.2 名（対予算+2.2 名）と好調であった。通所リハビリテーションでは、地域のニーズに応えるべく開始した短時間型サービス利用者が順調に増え 1 日平均利用人数が 37.3 名で、対予算で+1.3 名（対前年で+3.2 名）で稼働予算を達成した。その結果、2006 年の開設以来初となる黒字を達成することができた。「働き方改革」法改正に伴い、働きやすい職場づくりに職員・施設が一丸となって臨み、上半期に 3 名の介護職員の退職があり非常に厳しい状況ではあったが、目標であった年間有休取得 5 日以上、年間超過勤務 360 時間以内は対象職員全員が達成することができた。

１．利用者個々のニーズに合わせた“その人らしい”在宅生活、施設生活支援の実践

（ア）入所と在宅サービスの交互利用（ミドルステイ）について、新規利用者を確保する為の新たなパンフレットを作成することは出来なかったが、在宅ケアマネジャーに対しては継続的な周知を行った。

（イ）積極的に入所前後訪問に出向き、在宅生活のイメージ作りやスケジュール化ができた。

（ウ）短期入所窓口業務を分担したことにより、ユニット型居室のみならず、従来型居室でのミドルステイ利用者も増加した。

（エ）生活行為（家事動作、洗濯、調理等）訓練を実践する為の談話室改修は未着手であった。

（オ）通所リハビリテーションにおいて、生活行為向上リハビリテーションは未実施であった。

（カ）外出レクリエーションは年間計画通り実践できたが、利用者個々のニーズに沿った活動ではなかった。

２．未来の施設運営を担う人材が、専門性と自己実現を追求し働き続けたいと思う職場の創造

（ア）利用者のアセスメント能力やリスク管理能力向上のために、ヒヤリハット・事故カンファレンスは継続を行ったが、目標であった内部研修は未開催であった。

（イ）年間研修計画を基に、事業団内部研修へは計画通り参加できたが、外部研修への参加数は、低調であった。

（ウ）全職員へのサービス接遇教育は行わなかったが、一部の職場においては実践できた。

（エ）連続休暇を希望する約 90%の職員が、4 日以上の連続休暇（年 1 回以上）を取得できた。

（オ）メンタルヘルス不調者 1 名発生、再検査受診率 100%達成

３．更なる経営安定化へのチャレンジ

（ア）地域への更なる浸透を図り、入所、短期入所の稼働率年間 87%以上を達成する

①入所件数の安定確保（14.5 件/月平均）、稼働率年間 88.2%で予算達成

②ユニット型居室は在宅強化型、従来型居室は加算型を維持

③障がい者ショートステイ受入れ継続（4.2 名/月）

（イ）通所リハビリテーションにおいて、目標であった短時間型サービスの利用 5 名/日以上を

達成した。

（ウ）介護支援システムの更なる活用や、5S 活動（整理・整頓・清潔・清掃・躾）を通じて業務整理を徹底し、2018 年度より超勤を一人当たり 30%/年間　削減する目標であったが、結果は 23.4%/年間の削減であった。

（エ）職員の健康・リスク管理能力を高めることにより、感染症や転倒による入院、レベル 3 以上の事故を 2018 年度比 50%削減する目標であったが、結果は 2018 年度比 137.5%となった。

４．防災・防犯体制の強化

（ア）高洲地区一体となった防災訓練を年 3 回実施し、また風水害訓練も行った。

（イ）不審者対応訓練を実施、マニュアルも作成できた。

５．地域における公益的な取組

（ア）順天堂大学医療看護学部看護師の実習受け入れ　（32 名　15 日間）
介護福祉士の実習受け入れ　（東京福祉専門学校 2 名）
理学療法士の実習受け入れ　（東都大学 1 名　5 日間）
作業療法士の実習受け入れ　（東京福祉専門学校 1 名　6 日間）
ボランティア受け入れ　（団体 7 グループ、個人 14 名）
障害者雇用　（パート職員 2 名継続雇用）
高齢者雇用　（パート職員 4 名継続雇用）
浦安市認知症サポーターキッズ参加　（市内 3 小学校　4 年生 270 名）
高齢者体験講習会実施　（市内 1 小学校　5 年生 120 名）
職場体験受入れ　（市内中学生　3 名）

（イ）生活保護受給者の受入れは、年間で 5 名、減免者は 1 名であった。

【数値指標】

	入所			通所リハビリ		合計
	従来	ユニット	短期入所	一般（短時間含）	予防	
利　用　定　員	56 名	44 名	空床利用	45 名		145 名
利用者延べ数	17,896 名	12,494 名	1,908 名	10,263 名	1,279 名	43,840 名
1 日平均利用者数	48.9 名	34.1 名	5.2 名	33.2 名	4.1 名	－
1 日平均利用者総数	88.2 名			37.3 名		125.5 名
稼　動　率	88.2%			82.9%		－
稼動日数（延べ）	366 日			309 日		－
単価（1 人 1 日当り）	15,002 円			11,560 円		－
サービス活動収益（千円）	484,530 千円			133,428 千円		617,958 千円
職員数（常勤換算）	－			－		77.7 名

浦安せいれいクリニック

１．年間外来利用者数は1,752名、2018年度より＋89名と増加し、一日平均利用者数で＋0.9名の受診増加となった。1 人当たりの単価も対予算で＋130 円と数値指標において全て予算を上回った1年であった。ただし、12月より火曜日及び水曜日午後を担当している医師が外来担当をすることができなくなり、他営業日が非常に混雑する状況もあったが、予約調整を行って、受診を希望する利用者の受入れを継続することができた。

２．浦安せいれいの里及び浦安市高洲高齢者福祉施設の利用者、入居者の初期診療、日常的な健康管理を行うことができた。

３．1年を通じて、浦安せいれいの里及び浦安市高洲高齢者福祉施設の感染症拡大防止のための役割を担った。

【数値実績】

一日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価 （1人1日当り）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
7.8名	1,752名	224日	3,330円	17,558千円	2.3名

聖隷ケアプランセンター浦安

2019 年度は、各医療機関を中心に連携を密に図ることで看取りのケースを多く支援することができ、2020 年度からの特定事業所加算Ⅳの取得要件を満たすことができた。また浦安ベテルホーム、浦安市高洲地域包括支援センター、そして新たに市内に開設されたリハビリ病院とも連携を図ることで、新規利用者を獲得することができた 1 年であった。

【事業・運営計画】

１．地域包括ケアシステムの遂行と役割を明確化する

（ア）各事業所との関係が深まり地域の会議などから横のつながりはできたが、社会資源の構築までには至らなかったので、2020 年度の継続目標とする。また同一敷地内で受託している浦安市高洲地域包括支援センターや聖隷はぐくみ浦安との連携を図ることで、多岐にわたる相談を行いワンストップで終わるように努め、スムーズにサービス調整を行うことができた。

２．専門性の高い人材の育成

（ア）他事業所と共同で事例検討会を行い事業所内でもその視点を共有し個々でケアマネジメントに活かすことができた。しかし当事業所で地域に向けた事例検討会を主催するというところまでは至らなかった。

（イ）各自目標参画に落とし込み、1 年間課題解決に取り組んだことで、レベル認定の底上げができ、個々のスキルアップにつなげることができた。

３．安定した経営

（ア）勤務帯を新たに作り、その日のスケジュールに合わせた勤務にすることで、2018 年度より 2 割を超える超過勤務時間削減を行うことができた。

（イ）病院に対しての挨拶回りや、病院主催の研修会に積極的に参加し、顔の見える関係を作ることで病院からの紹介ケースを多く持つことができた。その結果、看取りケースを 2018 年度より増やすことができた。

４．地域における公益的な取組み

（ア）浦安高洲地区での地域貢献イベントに参加をして継続的に働きかけたが、市のイベントへの参加等が出来なかったので、2020 年度は積極的に参加をしていく。

【数値実績】

１日平均 利用者数	年間 利用者数	稼働日数	単価（１人 １日当り）	サービス 活動収益	職員数 （常勤換算）
－	1,770 名	246.5 日	14,871 円	26,322 千円	3.8 名

聖隷訪問看護ステーション浦安

2019 年度は、2018 年度に続き経営が安定し、税引前当期活動増減差額で黒字達成を継続することができた。10 月には稲毛海岸にサテライトを開設し、利用者数も徐々に増えてきており計画通りのスタートを切ることができた。

新規利用者の申し込みは多いが、それに対応できる職員を確保することができず、申し込みの調整をしなければいけない状況もあった。サテライトについては 4 月から広報活動を行い、利用者に対して、丁寧な看護を提供することで徐々に利用者数を増やすことができたと考える。

１．聖隷訪問看護ステーション浦安の特徴を生かし、地域のニーズに柔軟に対応する

（ア）精神障がいの方に対しては、聖隷はぐくみ浦安や他事業所への周知もされ、16 人（昨年 6 人）の精神障がいの方の利用を受入れることができた。指定されている精神科訪問看護の研修に参加し、職員全員に対し伝達講習によって知識を深めた。

アロマケアについては、資格を持っている職員を中心に 8 人の方に実施。痛みが軽くなるなどの高評価を得ている。

（イ）東京海上日動ベターライフサービス㈱の居宅介護支援事業所・訪問介護事業所と連携し、居宅介護支援事業所に看護を必要とする利用者の依頼があった際には、当事業所への紹介・依頼も継続されている。定期的に会議を行い、情報共有や勉強会を行った。

２．東京海上日動ベターライフサービス㈱とケアローソンと協働し、2019 年 10 月にサテライト稲毛海岸を開設し、新たな訪問看護ステーションとしての運営形態を構築する

（ア）10 月からの開設に向け 4 月から広報活動を行い、診療所や居宅介護支援事業所より紹介があり、2020 年 3 月には利用者 13 名、訪問件数 101 件となった。

（イ）東京海上日動ベターライフサービス㈱の居宅介護支援事業所からは 6 人の依頼があり、訪問介護事業所とは 3 人の利用者に対して連携している。

３．地域における公益的な取組

（ア）サテライト開設時に市民向け講座を行い、その後、ケアローソンにて定期的に健康相談に応じた。

（イ）了徳寺大学と順天堂大学の看護学生の実習を受け入れ、実習指導を行った。

【数値実績】

	介護（有償含む）		医療		合計		
	浦安	サテライト	浦安	サテライト	浦安	サテ	計
利　用　者	698 名	51 名	312 名	21 名	1,010 名	72 名	1,082 名
訪 問 件 数	3,623 件	300 件	2,184 件	150 件	5,807 件	450 件	6,257 件
単価（1 件当り）	9,375 円		10,379 円		9,897 円		
サービス活動収益	35,749 千円		26,174 千円		61,923 千円		
職員数（常勤換算）					平均　8.0 名		

松戸愛光園

特別養護老人ホーム松戸愛光園
松戸愛光園ショートステイ
松戸愛光園デイサービス
松戸愛光園ケアプランセンター
聖隷はぐくみ松戸

2019 年度の松戸愛光園は、高齢者人口の増加が続く関東地区において、地域の高齢者の入所ニーズを受け入れられるように、松戸市の公募に応えて特別養護老人ホーム、短期入所生活介護において増床を実施した。また、通所介護においても、より多くの高齢者や障がい者が利用できるように定員の増加を実施した。

人材確保については、昨年に引き続き EPA フィリピン介護福祉士候補生を 2 名迎え入れ、合計 4 名の EPA フィリピン介護福祉士候補生が在籍することとなった。受け入れている各職場では仕事をしながら学習支援をすすめる仕組みづくりができた。

１．地域ニーズに合わせた高齢者・障がい者サービスの提供

（ア）地域で必要とされている障がい者事業について施設内での検討を重ね生活介護事業の開設を 2020 年度事業計画とした。

（イ）通所介護事業では認知症予防、機能訓練等の取組を充実し、軽度から重度の状態にある高齢者ニーズをとらえて稼働率が向上でき、1 月に定員を 29 名から 34 名に増加した。

（ウ）看取りケアの充実をすすめて、年間 18 名の利用者を施設で看取ることができた。

（エ）居宅介護支援事業と相談支援事業との更なる連携を図り、地域で年齢や制度による垣根のない相談窓口としての機能を実施できた。

（オ）高齢者数が増加する地域のニーズに応えるため、10 月に特別養護老人ホーム 3 床増床と短期入所生活介護 1 床増床を行った。

２．多様な人材が活躍できる職場づくりと人材育成

（ア）昨年に引き続き EPA 介護福祉士候補生 2 名を受入れた。また、EPA 介護福祉士候補生が仕事をしながら日本語学習をすすめられる仕組みづくりを行えた。

（イ）介護職の業務仕分けをすすめて、高齢者や障がい者などの多様な人材が活躍できる職場づくりを継続できた。

（ウ）効率的な業務を行えるように障がい事業への記録システム導入を実施した。

（エ）ユニット間での連携を積極的に行うことで、働きやすい職場づくりを進めて年間離職率を 6.9％とすることができた。

（オ）職員の個別教育プログラム作成・実施や、障がい施設への見学実習などに取り組み、多様な福祉ニーズを担える職員の育成を行えた。

（カ）各学校等からの見学や実習を積極的に引き受け、地域の介護人材育成に取り組むことで、2020 年度は 3 名の介護職新卒採用に繋げることができた。

３．将来を見据えた計画的な整備更新

（ア）更新時期を迎えた空調設備、エレベーターについて設備更新を行った。

（イ）老朽化した公用車の買い替えを行った。

４．地域との繋がりを意識した社会貢献活動の実施

（ア）松戸ニッセイエデンの園と共に地域清掃活動は実施できたが、新型コロナウイルス感染症の影響で、恒例のチャリティバザーは中止となった。

（イ）社会貢献活動として月１回施設周辺地域の清掃活動を実施できた。

【数値実績】

	特養入居	短期入所		通所介護		
		介護	障害	介護	総合事業	障害
利用者定員	103 名	21 名		34 名		
利用延数	35,942 名	6,611 名	78 名	5,715 名	1,641 名	241 名
一日平均利用者数	98.1 名	18.1 名	0.2 名	18.8 名	5.3 名	0.8 名
稼働率（%）	96.7%	88.0%		81.3%		
稼働延日数	366 日	366 日		309 日		
単価（一人一日）	14,875 円	14,700 円	11,191 円	11,552 円	3,819 円	8,945 円
サービス活動収益（千円）	534,627 千円	98,058 千円		74,443 千円		
職員数（常勤換算）	64.1 名	12.5 名		11.9 名		

	ケアプランセンター		障害者（児）相談支援事業
	介護	予防	
利用者定員	—		—
利用延数	1,343 名	571 名	392 名
一日平均利用者数	—		—
稼働率（%）	—		—
稼働延日数	—		—
単価	17,131 円	4,938 円	13,578 円
サービス活動収益（千円）	26,071 千円		5,522 千円
職員数（常勤換算）	4.4 名		1.6 名

横須賀愛光園

特別養護老人ホーム横須賀愛光園
横須賀愛光園　デイサービスセンター
西第二地域包括支援センター
聖隷訪問看護ステーション横須賀
聖隷ヘルパーステーション横須賀
聖隷ケアプランセンター横須賀

2019 年度は、人員の確保が困難を極める状況の中で、訪問看護の閉鎖集約を図り、地区としてできる事を具体化することに注力した。その結果、空床を活用した障がい者短期入所の推進と通所介護における障がい者共生型生活介護の指定など新たな地域ニーズの受け入れを開始することができた。

そして、この情勢下においても、各事業の稼働状況は順調に推移し、施設経営は全般的に安定することができた。また、働き方への意識と工夫により超過勤務が全体で 2018 年度比 22%減を達成することもできた。

一方で介護職員の教育支援体制の再構築や、間接業務の切り分けなど、計画を可視化しすすめる力の醸成には課題を残す結果となった。今後は人員の確保のみならず施設の老朽化による諸問題について猶予がない状況となっており、それら諸問題を改善しつつ計画的に実施できる運営を目指していく。

【施設理念】　『安心して、明るく楽しく生きる』
【経営方針】
１．地域ニーズに合わせて連携し、切れ目のない障がい者も含めた地域福祉を展開する
２．互いに補い合って、安全でやりがいのある職場風土の醸成
３．職員一人ひとりの資質向上と多様な人材が活躍できる体制の整備
４．決められた時間で良質なサービス提供

【事業・運営計画】
１．事業の集約と組織の再編成を行い、継続したサービス提供を行う
（ア）2019 年 3 月末を持って訪問看護ステーション油壺、2020 年 3 月末に逸見サテライトを聖隷訪問看護ステーション横須賀へ統合し、限られた人数の中で三浦市も含めたサービス提供を継続することができた。
（イ）地区管理会議を実施し、地区全事業として障がい事業の展開や事務運営の検討を行った
２．地域ニーズの分析と共生型サービスの展開
（ア）障がい者空床型短期入所において数件ではあるがリピーターを獲得することができた
（イ）地域のニーズや近隣の特別支援学校の状況を踏まえて、通所介護において共生型生活介護の指定による運営を開始することができた
３．働き方の改革と多様な人材の確保、育成

（ア）職員一人ひとりの働き方への意識と、各部署における工夫により超過勤務時間前年比 22%減を達成できた

（イ）EPA 候補生の教育支援体制について検討を行い、学習時間の確保と業務内におけるコミュニケーションを推進した

（ウ）安全衛生委員会と管理会議を中心に、有給取得率の向上と腰痛予防など労働災害防止に係る取り組みを継続することができた

4．各事業が利用者一人ひとりに合わせて質の高いサービス提供を行い、経営の安定化を図る

（ア）特別養護老人ホーム

①リーダー会を中心に接遇についてのアンケートの実施や学習会、マニュアルの整備を行い、利用者、家族評価の向上が見られた

②入院者減少に向けて、水分摂取の推進やヒヤリハットのタイムリーな評価による再発事故防止について推進できた

③システム活用についての検討やケアプランのシステムへの移行については課題が残った

④空床の短期入所活用を促進し、入所ベッドの稼働率 98%を達成することができた

（イ）短期入所

①担当者同士のコミュニケーションを促進し、法人内の在宅サービスからの情報提供が促進された

②障がい者空床利用について、スムーズな受け入れができるよう事前の勉強会やカンファレンスの実施ができた

（ウ）デイサービス

①新たなニーズへの対応を目指して、共生型生活介護の指定を受けた

②機能訓練について加算取得の検討と届出を行い、実施に向けて調整をしていく

③システムの活用促進と業務効率化について具体的な取り組みができなかった

（エ）西第二地域包括支援センター

①地域における支え合い活動の推進のため、予防講座の開催や地域サロン、広報活動にてアピールをすることができた

②配置人員数の遵守ができ、地域の相談に柔軟に対応できるよう新たな職員の育成に取り組むことができた

（オ）聖隷訪問看護ステーション横須賀

①統合により訪問エリアが広くなったが、スケジュール調整の工夫や業務の効率化を図ることでサービスの継続ができた

②看護の質の向上を目的に全職員の研修参加や岩戸養護学校との研究活動を計画的に行った

③就職説明会への参加や実習受け入れを積極的に実施したが、採用につなげることができなかった

（カ）聖隷ヘルパーステーション横須賀

①職員の資質向上のための研修や勉強会を年間計画通り実施することができた

②タブレットの活用など介護支援システムの活用促進に取り組み、超過勤務削減につなげることができた

（キ）聖隷ケアプランセンター横須賀

①地区内連携によるケアの継続体制への参画を意識した教育指導が実施でき、通所介護や短期入所の紹介率の向上にもつながった

②特定事業所加算Ⅱの取得を継続することができた

５．地域における公益的な取り組み

（ア）横須賀市ふれあいフェスティバルや高齢者福祉シンポジウムなどの活動を通じて地域に向けた情報を発信することができた

（イ）地域に向けた認知症予防福祉講座の開催と地域行事への参加を行うことができた

（ウ）地域ボランティアセンター運営への参加を継続することができた

【数値実績】

	横須賀愛光園		短期入所	デイサービス	地域包括支援センター
	従来型	ユニット型			
利用者定員	64 名	40 名	16 名	30 名	－
利用延数	22,892 名	14,396 名	5,063 名	6,182 名	－
一日平均利用者数	62.5 名	39.3 名	13.8 名	20.0 名	－
稼動率（％）	97.7%	98.3%	86.4%	66.7%	－
稼動延日数	366 日	366 日	366 日	309 日	－
単価（1 人 1 日）	12,155 円	14,770 円	12,125 円	9,537 円	－
サービス活動収益	278,243 千円	212,631 千円	61,388 千円	58,959 千円	34,380 千円
職員数(正・エ A)	24.7 名	18.0 名	7.0 名	3.8 名	4.1 名
職員数（パ・ア）	8.5 名	9.6 名	1.2 名	5.0 名	1.0 名

	聖隷訪問看護ステーション横須賀		聖隷ヘルパーステーション横須賀			
	介護給付	医療給付	介護給付	総合事業	自立支援	有償等
月平均利用者数	139 名	53 名	86.6 名	8.25 名	－	－
月平均訪問件数	656.2 件	336 件	830.5 件	34.5 件	－	－
単価	11,211 円/件	12,950 円/件	4,169 円/件	12,576 円/人	－	－
サービス活動収益	138,234 千円		69,839 千円			
職員数(正・エ A)	9.0 名		6.0 名			
職員数（パ・ア）	6.4 名		2.6 名			

聖隷ケアプランセンター横須賀								
年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	サービス活動収益	職員数	
介護	予防	介護	予防				正･エ A	パ・ア
1695 件	24 件	16,897 円	4,024 円	78 件	4,564 円	29,609 千円	3.0 名	2.0 名

宝塚せいれいの里

特別養護老人ホーム宝塚すみれ栄光園、短期入所生活介護
宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター、聖隷ケアプランセンターすみれ
宝塚すみれ栄光園園内保育所

宝塚せいれいの里は施設理念として「一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ」を掲げ、その人らしい生活の実現に取り組んできた。それを支える職員体制については、介護職員が不足する中、2018 年度より取り組んだ、介護業務の仕分けによる介護非専門職の導入が、行政によるセミナー開催・市報への掲載もあり、大きく進んだ。介護非専門職の導入は、介護職員が入居者の変化に対応できる体制を作るだけでなく、超過勤務の削減にも繋がり、働き方改革の一端を担っている。

入居の退去者は 28 名と大きくは変わらないが、介護・看護が連携し早目の受診を行うなど、長期の入院者を少なくし、経営的には安定することができた。短期入所では、はぐくみ花屋敷と連携し、障がい者の継続的な利用に繋がっている。通所介護は、次期介護報酬改定を見据えて、機能訓練のアウトカム評価を導入すべく、市内リハビリテーション病院と契約を取り交わした。居宅介護は職員の退職・補充があったものの、大きく件数を落とさず、短期入所・通所介護の稼働率に貢献した。事業所内保育所は、2019 年度途中に宝塚市が 3 歳児以降の連携園条件を撤廃したこともあり、地域枠利用が増えた。国の方向性が地域共生社会へと向かう中、宝塚せいれいの里においても障がい者の雇用を進めた。浜松での取り組みを参考に、宝塚せいれいの里の中で役割を担う形を作りつつある。

学会発表や生活環境への取り組みといった職場におけるチーム作りだけでなく、同世代・入職時期に合わせた研修を行うことで、職員の横の繋がりも意識して取り組んだ。

社会福祉法人として求められる地域公益活動は、地域サロンの活動支援、高齢化が進む公団団地での活動のほか、地域コミュニティと協力し、災害時避難所開設訓練への参加、小中学生を対象とした車椅子体験の実施など、啓蒙活動は継続して行っている。

【施設理念】
一人ひとりの想いを真心と愛で結ぶ

【事業・運営計画】
１．入居者・利用者一人ひとりに安心と穏やかな暮らしを提供する
（ア）フロアを生活の場として捉えるための「設えコンテスト」は、各フロアの入居者に合わせて、継続した取り組みが行われた。
（イ）介護職・看護職が連携し、体調変化に早期に気付く事で、早目の受診を行い、入院の長期化を少なくした。
（ウ）個別・全体の行事を計画的に企画し、入居者個々が楽しめる内容に注力した。
（エ）支援計画やアセスメントを、ウインケアを活用した作成に切り替えた。

２．職員がいきいきと働ける職場環境、職員教育の推進

（ア）年２回のオリエンテーションの際に、聖隷・地区の歴史、ケアの基本といった聖隷スタンダードとなる研修を実施。

（イ）係長１名の登用を行った。リーダーは出来るだけ多くの者が経験できる様に、施設内の異動も合わせて行った。

（ウ）介護システムの活用は、デイサービスを中心に人員削減が行えるまでに至った。介護ロボット導入では、兵庫県の助成を活用し、就寝時見守りセンサーの導入を行った。

（エ）介護非専門職の導入による、介護職の専門性向上に取り組んだ。また、障がい者の雇用を進め、浜松を参考に役割を担う仕事を作った。

３．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化と、シームレスなサービス提供

（ア）介護システムにより、聖隷内の利用者情報が一元化され、利用前の情報を活用している。通所においては、市内リハビリテーション病院とアウトカム評価のための契約を行った。

（イ）防災委員が中心となり、火災を想定した総合防災訓練を実施。また、アンピックによる緊急通報訓練も実施した。

（ウ）事業所内保育所、長期休み時の自習室解放は、他の聖隷事業所からも利用があった。

４．地域に信頼される施設運営と公益的取組

（ア）地域コミュニティ運営委員会や地域サロンへの、定例参加を行った。

（イ）施設内の会議室の利用だけでなく、双方がそれぞれの催事へ参加した。地域の運動会では、小学生を対象とした車椅子体験教室も定例開催となった。

（ウ）隣のマンション自治会と災害時相互協定の準備を進めた。地域の避難所開設訓練に参加するなど、福祉避難所を含めた地域の安心拠点の役割を担っている。

５．環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

【数値実績】

	特養入所（ユニット）	短期入所	通所介護（一般）	居宅介護支援		合計
				介護	予防	
利用者定員	100 名	20 名	30 名			
利用者・請求延べ数	34,979 名	6,992 名	6,463 名	2,085 件	244 件	
1 日平均利用者数	95.8 名	19.2 名	21.7 名			
稼働率	95.8%	95.8%	72.2%			
稼働日数（延べ）	365 日	365 日	304 日			
単価（1 人 1 日・件当り）	15,534 円	14,911 円	11,478 円	16,128 円	3,694 円	
ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）	572,539 千円	106,756 千円	74,944 千円	37,673 千円		791,192 千円
職員数（常勤換算）	74.2 名	14.6 名	16 名	6.9 名		111.7 名

宝塚せいれいの里

介護付きケアハウス　ケアハウス宝塚

ケアハウス宝塚は、平均介護度は特養より低いものの、平均年齢では上回っており、身体介護、認知症介護共に、軽度から重度まで幅広いケアを行っている。特別養護老人ホームや療養型施設へ移る利用者も多く中間施設の役割を担うと共に、特定施設入居者生活介護施設として終いの棲家としての側面を持っており、2019 年度も 7 名を施設で看取ることができた。これは、ケアハウス宝塚で最後まで生活する事を希望される入居者、家族の期待に応えられているからと考えている。

それを支える職員体制については、比較的介護度の低いフロアにて、夜勤体制を 1.0 勤務から 1.5 勤務へ変更を行った。宝塚せいれいの里として取り組んでいる、介護非専門職の導入と合わせて、日中の必要な時間帯の職員体制を厚くすることで、介護職が専門性を発揮できる環境作りに取り組んだ。また、宝塚せいれいの里において、採用後 4 年以下の退職者が多い事から、ケアハウスの職場長を中心として、新卒採用者・同期採用者を対象とした、横の繋がり、想いの共有、相談できる関係作りを意識した研修を実施した。

行事・イベントは、ボランティアの協力を得ながら定例開催ができている。余暇活動や趣味活動、外出企画においても、入居者の希望を取り入れた内容に充実し、好評を得ている。

【施設理念】

一人ひとりの想いと真心を愛で結ぶ。

【事業・運営計画】

１．入居者の状態・多様なニーズに応じたケアサービスを提供できる体制

（ア）介護職・看護職が連携し、体調変化に早期に気付く事で、早目の受診を行い、入院の長期化を少なくした。

（イ）住み替えは、新入居と合わせて、ユニット間、フロア間で実施した。

（ウ）アフタヌーンコンサートや、お茶会、聖書を読む会などの企画を定例化することで、外出といった個別ニーズへの対応を充実することができた。

２．多職種が協働し、個別支援が出来る職場運営

（ア）採用後 4 年以下の退職者が多いことから、2019 年度は新卒採用者を対象に、横の繋がりを意識した研修を行った。2020 年度は中途採用者にも広げていく。

（イ）相談員体制は非常勤 1 名を加え、WINCARE の活用と合わせて、介護職員のアセスメント能力向上に向けて、OJT を通じた助言を行う体制を構築した。

（ウ）比較的介護度の低い 6 階にて、夜勤 1.5 勤務を導入した。これにより、日中時間帯の職員体制を厚くした。

（ウ）介護非専門職の積極的導入を行い、介護職が利用者の変化に対応できる体制を作った。介護非専門職の導入は、常勤職の超過勤務削減にも繋がった。

３．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

（ア）入居待機者登録システムを宝塚地区で活用し、各施設の相談員が情報を共有し、タイムリーな情報提供を行うことで、契約数は 70 室を維持した。空床期間日数も 2018 年度の平均 12 日から 2019 年度は平均 9 日と短縮した。

（イ）防災委員が中心となり、火災を想定した総合防災訓練を実施。また、アンピックによる緊急通報訓練も実施した。

４．地域に信頼される施設運営と公益的取組

（ア）地域コミュニティ運営委員会や地域サロンへは、定例参加を行った。

（イ）施設内の会議室の利用だけでなく、双方がそれぞれの催事へ参加した。地域の運動会では、小学生を対象とした車椅子体験教室も定例開催となった。

（ウ）隣のマンション自治会と災害時相互協定の準備を進めた。地域の避難所開設訓練に参加するなど、福祉避難所を含めた地域の安心拠点の役割を担っている。

５．環境活動への取組

新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者へ影響でない範囲内で実施した。

【数値実績】

	軽費老人ホーム （特定施設入居者生活介護）
利用者定員	70 名
利用者延べ数	24,565 名
1 日平均利用者数	67 名
稼動率	95.9%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（1 人 1 日当り）	14,250 円
総収入（千円）	354,021 千円
職員数（常勤換算）	43.95 名

宝塚せいれいの里

介護付有料老人ホーム　結いホーム宝塚

2019 年度における入居者募集状況は、年度末にかけて近隣に競合施設が開設されたことで入居申込者数の減少はあったものの、継続して入居者数 100 名を維持することが出来た。宝塚地区内施設の待機者情報を共有し、入居申込書の書式を共通にしていること、宝塚地区内における聖隷の在宅事業所の認知度と評価が高いことが入居申込者の確保につながっている。

2019 年度の退居者数は 24 名とほぼ例年どおりの年間退去者数となった。入居者の約 4 分の 1 が入れ替わったが、平均年齢は 90 歳を超え、年々上昇している。また、24 名の内、9 名の方が施設内で逝去され、過去最多を記録した。終の棲家としての役割を担える体制が整ってきている。

入居者の平均介護度は開設年度の 2.0 から徐々に上昇してきたが、2019 年度は 4 月度 2.6 から 3 月度 2.8 へと 0.2 上昇した。開設当初からの入居者が経年と共に介護度が上がってきており、重症化への対応並びに入院に繋がらないよう日頃から健康管理に努めることが求められてきている。

入居者の食の楽しみを叶えるために、数年来の念願であった選択食を導入し、入居者が嗜好等により食事を選択する機会を設けることが出来た。一人ひとりの生活の質の向上につなげるために、イベントやアクティビティーに力を入れてきた。運動会、クリスマス会等の季節行事に加え、初めての全体日帰り旅行を企画し、淡路島へ訪れた。フロアを超えた入居者の交流を図る機会となった。

１．入居者・家族の期待に応えるサービスの提供

（ア）これまでの外出先で好評であった場所に加え、新たな外出先を開拓した。施設全体の外出企画として、淡路島へ初めての日帰り旅行を実施した。

（イ）季節ごとの食事レクリェーションを充実させると共に、数年来の念願であった選択食を開始することが出来た。

（ウ）介護度が上昇した入居者の部屋をレイアウト変更し、その人に合わせた生活環境を提供した。また、家族に対する報告・対応を改善し、信頼の獲得・維持に努めた。

（エ）早めの受診で重症化を防ぎ、入院しても早期退院に結び付けることができた。介護員を講師とした施設内研修を開催し、職員の意識の底上げを図った。

（オ）夜間想定防災訓練を実施すると共に、1 階から 2 階への入居者の避難を想定したシミュレーションを実施した。

２．職員が生き生きと働ける職場環境、職員教育の推進

（ア）技術チェックツール・ラダーを活用し新人教育を行い、一定の成果を得た。また、既存職員の技術レベルの確認、外部研修への参加者からの伝達講習を行い、全体の介護技術の底上げを図った。

（イ）アクションラーニングのために個別に集まることを止め、会議・カンファレンスの中でより職場の課題に即応した形でアクションラーニングを実施できた。

（ウ）間接・直接業務の切り分けを行い、間接業務を短時間の高齢パートに振り分けることて業務の効率化を行った。

（エ）入浴リフトを 2 台導入した。これにより全フロアへの入浴リフト配置を達成し、職員の負担解消につなげることが出来た。

３．宝塚せいれいの里内事業・宝塚地区施設における連携強化とシームレスなサービス提供

（ア）地区内の施設入居申込書の統一、入居待機者管理システムを活用し、待機者情報を各施設の相談員が共有することで、稼働率を維持することができた。

（イ）企業主導型事業所内保育所は、事業団内施設職員だけでなく、近隣事業所との共同利用及び地域枠の受入れを行った。園児数は年度を通じての増減の波が激しかったが運営を継続できた。

４．地域に信頼される施設運営と公益的な取り組み

（ア）宝塚安倉あんしんステーションを拠点として、老人会やサロンへ職員を派遣し、活動内容を増やすことができた。

（イ）市内各地区の民生委員、訪問看護ステーション、ケアマネジャーの研修の場として、施設を開放した。

（ウ）隣のマンション自治会と災害時相互協定の準備を進めた。地域の避難所開設訓練に参加するなど、福祉避難所を含めた地域の安心拠点の役割を担っている。

（エ）インターンシップの受入れ、小林聖心女子高校のボランティア受け入れを行った。

５．環境活動への取り組み

（ア）新しい施設として設備機器の省エネルギー化は進んでいる。運用面で、照明の点灯範囲・時間、空調の温度・時間設定など、利用者への影響がない範囲内で実施した。

（イ）近隣自治会の地域清掃活動に参加した。

【数値実績】

	介護付有料老人ホーム
利用者定員	100 名
利用者延べ数	35,689 名
一日平均利用者数	96.3 名
稼動率	96.3%
稼動日数（延べ）	365 日
単価（一人一日当り）	16,664 円
サービス活動収益（千円）	594,707 千円
職員数（常勤換算）	58.2 名

介護老人福祉施設　宝塚栄光園

2019 年度は、開設 40 周年を迎え宝塚栄光園として入居者の生活環境の整備と職員の労働環境の充実の実践を行った。多床室の入居者の家族が面会の際にゆっくり過ごすスペースがなかったために、フロアの一角を面会スペースに変更した。また、ICT 機器やケアサポーターの雇用を積極的に導入することで職員の業務効率改善に取り組み、時間にゆとりができ、入所者へのケアサービス向上に繋がった。宝塚エデンの園附属診療所との連携は引き続き強化できており、医師の往診、作業療法士によるリハビリテーションの評価を実践することができた。胃ろうや喀痰吸引といった特定行為を必要とする入居者は年間で定員の平均 23%となり、職員の認定特定行為実地研修は 3 名修了することができ、認定特定行為従事者の確保も図ることができた。2019 年度末では新型コロナウイルス感染症の影響もあり、若干稼働率は下がったが、年間を通して、経常利益では介護老人福祉施設、短期入所生活介護合計で予算を大きく上回ることができた。

【施設理念】

『自分にしてもらいたいと望むとおり、人にもそのようにしなさい。』

【経営方針】

宝塚栄光園の従事者は、各事業における個々の利用者の障がい、疾患、要介護状態に応じて可能な限り、最期までその人らしい生活が実現できるように、常に利用者の立場に立ったケアサービスを総合的に提供していく。

【事業・運営計画】

１.「『最期のとき』を安心してむかえたい」に応えていくため

（ア）『最期のとき』を安心して迎えられる体制づくりの実施

①多床室であってもご家族とゆっくり過ごせる空間作りを実施することができた。

②利用者の安心のために夜間や早朝の往診について、宝塚エデンの園附属診療所との医療協力体制を引き続き継続することができた。

③医療が必要な利用者（痰吸引、胃ろう等）を平均定員の 23%受け入れた。

（イ）『最期のとき』を安心して迎えられる環境づくりのため

①地域住民向けに実践している「看取りケア」についての講習会実施は地域の要望により「介護実践」の講習会に変更となったため、実践できなかった。

②ナースコール設備を更新し、連動のインカム導入で職員間の情報共有の強化を図れた。

（ウ）認知症があっても、『最期のとき』まで利用者一人ひとりの尊厳を守る

①施設内研修を通して認知症のご入居者に対して「ひとりの人間として」職員教育を実施することができた。

②2 名が認知症リーダー研修を修了し、他職員と共に認知症ケアの実践を行った。

２．職員を守る

（ア）業務見直しについて

①ケアサポーターの導入により業務の切出しを行い、介護職が抱えている業務の削減を行うことができた。

②周辺業務を担うケアサポーターを６名採用することができた。

（イ）巡視０（ゼロ）を目指して

①ICT 機器の導入は行ったが、夜間巡視を０にすることはできなかった。

３．地域を守る

（ア）地域社会との連携を強化

①新型コロナウイルス感染症の影響もあり、ゆずり葉台自治会と共同での防災訓練の実施を行うことができなかった。

②ゆずり葉台自治会への定期的な参加や福井・亀井自治会福祉部主催の食事会への協力等を行うことができた。

（イ）次の「宝塚栄光園」を見据えた施設整備

①修繕が必要な個所への適切な対応を行うことができた。

４．その他公益事業

（ア）地域の高齢化に対応した宝塚市福井町自治会への給食材料の提供事業、またお花見の送迎実施。

（イ）地元大学から２名の管理栄養士の現場実習受け入れの実施。

（ウ）地元大学生の教員過程における介護等体験に５名の受け入れ実施。

【数値指標】※特養・短期とも従来型のみ。（個室 19 室、2 人室　3 室、4 人室　15 室）

	介護老人福祉施設	短期入所生活介護	合計
利用者定員	70 人	15 人	85 人
利用者延べ人数	24,639 人	5,421 人	30,060 人
1 日平均利用者数	67.3 人	14.8 人	82.1 人
稼動率	96.1%	98.7%	96.6%
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	366 日
単価（1 人 1 日当り）	12,690	12,161	
サービス活動収益(千円)	315,272	65,862	381,134
職員数（常勤換算）	45.9 人	6.5 人	52.4 人

聖隷ケアセンター宝塚

宝塚第二地区在宅複合事業（社会福祉事業）

聖隷ヘルパーステーション宝塚
聖隷逆瀬川デイサービスセンター

１．利用者のニーズに対応できる事業所作りをする。
（ア）身体介護に特化した職員の育成に重点を置き、医療依存者への受け入れを広げる。
①喀痰吸引資格の特定の者（3 号）資格保持者が 2 名増え 8 名となり、医療依存者の受け入れができた。
（イ） 要支援者への新たなサービスを見出していく。
①定期的な検討会は実施できたが、新たなサービスの開始には至らなかった。
（ウ）認知症ケアに特化したサービスを継続して運営する。
①認知症予防に重点を置いたサービスへの転換が図れた。
（エ）他職種との交流を図り、合同の勉強会を開催し多方面の知識を広げる。
①年間計画に沿って、定期的に勉強会の開催ができた。
（オ）施設職員との交換研修を実施し、在宅ケアを周知してもらう。
①開催に向けて検討してきたが、サービス内容や時間などが決定するまでに至らなかった。

２．業務の ICT 化を進めていく
（ア）WINCARE を活用して業務のペーパーレス化を図る。
①今まで紙に記載していた利用者の記録は、全て WINCARE 上に移行できた。
（イ） WINCARE を活用して他職種との情報交換や密な連携を図る。
①聖隷事業所とは FAX で報告を行っていたが、WINCARE を活用したことで、より密な情報交換や連携が図れた。
３．職員の育成を図る
（ア）在宅介護の中心であることを意識して行動できる職員の育成をする。
①勉強会を通じて、ヘルパーステーションやデイサービスセンターが行っていることが、施設入居者にも繋がっていることが理解でき、在宅介護の中心であることを意識して行動できる職員に育っている。
（イ） 職員の知識の向上を目指し、公的機関研修を活用し積極的に参加を促す。
①年間計画に沿って、計画的に参加できた。

４．地域における公益的な取組
（ア）地域の高齢者や家族を対象とした介護教室勉強会を開催する。
①地域に出向いて勉強会を開催した。

【数値実績】

訪問介護事業（聖隷ヘルパーステーション宝塚）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間訪問件数	年間訪問件数	月間利用者	年間利用者	介護（回）	予防（月）		
98.8 人	887 件	10,645 件	63.3 人	760 人	4,375 円	18,366 円	81,555 千円	15.8 名

通所介護事業（聖隷逆瀬川デイサービスセンター）

介護給付			総合事業		単価(円)		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（回）	総合事業（月）		
26.7 人	685 人	8,225 人	22 人	266 人	10,317 円	39,673 円	95,886 千円	16.9 名

宝塚第二地区在宅複合事業（公益事業）

聖隷訪問看護ステーション宝塚
聖隷ケアプランセンター宝塚
逆瀬川地域包括支援センター

１．生活の質にこだわった支援の提供

（ア）看護小規模多機能型居宅介護開設・訪問看護ステーション再編の準備を行う。

①看護小規模多機能型居宅介護開設については今後の事業展開の選択肢の一つとして検討を継続していく。

②訪問看護ステーション再編に関しては、聖隷訪問看護ステーション山本との 2 事業所で宝塚エリアをカバーしていく。人事交流・兼務応援体制を構築し、両ステーションの人材育成を視野に入れた職員の異動を行った。

（イ）施設・在宅を問わず、地区内の看護・介護・相談の連携を強化し、医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者を受け入れられる態勢を整える。

①医療ニーズの高い利用者・看取り期の利用者の支援は、聖隷ケアセンター宝塚の強みとして体制作りを進めることができている。

②ターミナルケア件数の要件を満たし 2020 年度機能強化型訪問看護管理療養費Ⅰを算定する。

（ウ）2020 年度の特定事業所加算Ⅳ算定を視野に、継続的にターミナルケアマネジメント加算を算定する。

①3 事業所で連携し、2020 年度特定事業所加算Ⅳ算定のための要件を達成できた。

（エ）地域ケア会議を活用しながら、関係機関・住民との一体的な支援をマネジメントする。

①意図的な地域ケア会議の活用には至らず。専門職同士のネットワーク作り、そこに住民を巻き込むこと、共に課題である。

２．職員同士で成長し合える環境作りと次世代の管理者候補の育成

（ア）互いの事業・関係制度を理解できる合同の勉強会を行う。

①訪問看護ステーション主催のアドバンス・ケア・プランニングの勉強会に参加し、考え方を学んだ。

（イ）法人内事業所の連携強化と共に、職員個々がフィードバックし合える関係性を構築する。

①法人内事業所間の連携を深めることを目的とした意見交換会を実施。管理者だけでなく職員も参加したことで、職場内での共有や方向性の統一が図りやすくなった。

（ウ）他施設も含めたリーダーを担える職員の把握と、育成を目的とした人事交流を行う。

①各事業ともに育成を目的として意図的に人事交流を図っている。異動した職員が新たな役割を担い組織を活性化させている。

３．地域における公益的な取組

（ア）住民主体の会議に出席し、地域が必要としている資源を把握し、創るものを見出す。

①宝塚市社会福祉協議会地区センターと連携しながら意図的に関わることで、見守り、災害時の要援護者支援、居場所作り、移動支援等の取り組みを少しずつ積み上げることができている。

②ケアセンターの近隣住民からはより利用しやすい「場所」としての機能を求められている。

（イ）地域の住民主体の取り組みに対し、専門職としての側面的支援を行う。

①介護力を身に着けたいという老人会の学習会で講師を担った。内容の提案も行い、2 地区内の事業所と協働して取り組んだ。

（ウ）地区内聖隷デイサービスセンターを拠点とした地域活動を協働する。

①聖隷逆瀬台デイサービスセンターとナイトサロンを実施、聖隷デイサービスセンター結いと食を通じた繋がり作りを実施した。今後、住民主体で運営できるように働きかけていく。

【数値実績】

訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーション宝塚）

	平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
医療	58 人	569 件	6,832 件	9,875 円	12,696 千円	20.4 名
介護	130 人	652 件	7,821 件	7,888 円		
予防	23 人	95 件	1,143 件	6,910 円		

居宅介護支援事業（聖隷ケアプランセンター宝塚）

年間請求件数		平均単価(円)		訪問調査年間件数	訪問調査単価(円)	ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防				
3,677 件	371 件	17,573 円	3,865 円	2,459 件	4,900 円	6,258 千円	14.9 名

地域包括支援センター事業(逆瀬川地域包括支援センター)

年間請求件数		平均単価(円)		ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
予防	予防（委託）	予防	委託（委託）		
5,344 件	2,629 件	4,459 円	685 円	5,963 千円	13.0 名

聖隷ケアセンター北神戸

聖隷訪問看護ステーション北神戸
聖隷ケアプランセンター北神戸
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸

2019 年度は訪問看護では職員の退職等により訪問調整や新規の受け入れの調整をするなどして人員体制、経営ともに上手く運営できない 1 年であった。ケアプランは安定経営が維持できた。障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸は 2019 年度で閉鎖する。近郊に精神科病院があり地域移行が進んでおり利用者は増加傾向であった。退院前からの調整や支援者との顔の見える関係作りを継続し、信頼と実績を積み上げている。11 月より所長交替となったが、地域の特色や動向を把握し、聖隷がすべきことを考え、訪問看護とケアプランセンター併設の強みを生かしたサービス提供を強化していきたい。

１．2019 年度事業計画・予算の達成度

（ア）①訪問看護はターミナル看取り 4 件と増やすことはできなかった。癌末期に限らず、高齢者、非がん利用者への在宅看取りに繋げるアプローチが弱かった。介護保険では毎日訪問や週 3 回訪問の方が終了となり週 1 回、週 2 回利用が多く予算未達である。

②小児の新規依頼は 3 件。神戸市小中学校における医療的ケア支援業務は継続している。

③精神科病院からの地域移行もあり、精神疾患者の新規依頼は増えている。精神訪問看護事例検討会に参加し、対応力や専門的知識が深まった。認知症初期集中支援からチーム員として関わり、そのうち困難症例依頼は 2 件受ける。

（イ）ケアプランセンターは継続的に新規依頼が増え、特定事業所加算 2 の取得により安定している。訪問看護と連携し、難病や医療依存度の高い方の関わりには密な連携を図り、素早く対応している。

（ウ）障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸は 2019 年度で閉鎖となる。相談支援担当者への変更はトラブルなく移行できた。

２．各機関との連携強化の達成度

（ア）①北区地域包括ケア推進協議会での地域の課題解決への取り組みを訪問看護の代表として参加する。

②認知症初期集中支援チーム員として、北区の認知症困難事例について支援機関へとつなげ課題解決できた。

③神戸市看護大学での精神科訪問看護事例検討会に定期参加し、事例発表にて困難事例に対し助言を受け、対応力・知識の向上へつながった。

３．地域における公益的な取組

（ア）神戸市小中学校における医療的ケア支援業務として週 2 回小学校訪問する。

（イ）神戸市看護大学生実習の受け入れ、及び神戸市看護大学臨床教授・臨床講師を務める。

（ウ）介護保険認定審査会審査員として２名を派遣する。

（エ）神戸市北区認知症初期集中支援チーム員として１名を派遣する。

（オ）兵庫県立こころの医療センター精神科看護師の訪問看護実習を受け入れる。

【数値指標】

訪問看護事業（訪問看護ステーション北神戸）

平均利用者数		月訪問件数		年訪問件数		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	医療	介護	医療	介護	医療	介護	医療		
75 人	60 人	390 件	419 件	4,689 件	5,036 件	8,839 円	10,231 円	92,590 千円	10.4 人

居宅介護支援事業（ケアプランセンター北神戸）

年間請求件数		平均単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
1,084 件	638 件	16,300 円	3,550 円	20,815 千円	4 人

障害者相談支援事業（聖隷はぐくみ北神戸）

年間請求件数		平均単価(円)				ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
者	児	者	児				
145 件	17 件	15,949 円	16,607 円	－	－	2,527 千円	1 名

宝塚第二地区在宅複合事業

聖隷逆瀬台デイサービスセンター
聖隷デイサービスセンターあゆむ

加齢・病気・認知症等によりできなくなることが増えていく喪失感に寄り添いながら、デイサービスに通うことで社会との繋がりを感じられる支援を目指し、サービスを提供している。
サービスの安全性向上を目的に、2017 年度の特殊浴槽入替えに続き、入浴設備のさらなる改装も実施。多様な介護ニーズに対応できるようソフト面・ハード面の整備ができた１年であった。

[事業・運営計画]

1．中重度から更なる重度化へ個別のニーズに対応可能な体制の構築

（ア）在宅生活の最期までを支えるデイサービスとして、看取り期の利用者も含めたニーズに応える事が出来る体制を強化する。

（イ）基準該当生活介護サービスの定着を図り、障害特性を理解したサービスの質の向上を図る。

（ウ）日中一時支援では、医療的ケアを必要とする児童の受け入れ体制と対応力の拡充に努める。

（エ）一人でも多くの利用者へ対応ができるように、また職員の介護負担の軽減の為にも、最新福祉機器の導入を図る。

・要介護 3 以上の利用者受け入れ約 50%を、年間通じ維持できた。

・障害者（児）へのサービスを継続できており、共生型サービスへの移行も検討したい。

２．根拠に基づいた認知症ケアの提供

（ア）状態に合わせた認知症ケアを実践し、支援の効果と評価を示す事が出来るようにする。

（イ）作業療法士と協働した個別・集団プログラムを実施し、認知症状の進行抑制に取り組む。

（ウ）認知症介護実践者・実践リーダー研修参加による専門性の向上。

・レスパイトケアだけでなく、認知症・家族介護負担・行動障害の 3 点を評価・数値化しケアに対しての改善点を明確にし、根拠ある認知症ケアにも繋げることができた。

３．住み慣れた地域で安心して暮らす事が出来るサービスの提供

（ア）支援困難や急性期認知症利用者の柔軟な受け入れ体制の構築。

（イ）利用者の状態に合わせたケアが出来るように、新たな体制構築と対応力の拡充に努める。

（ウ）利用者が役割と社会との繋がり・喜びを感じられる事ができるサービスの提供。

・聖隷訪問看護ステーションの作業療法士と連携し、個々の利用者の症状に合わせた多様なアプローチもできている。根拠に基づく認知症ケアが提供できるよう 2020 年度以降も継続する。

４．チームケアを推進し、サービス（ケア）の質を向上

（ア）目標参画・介護ラダーの運用を確実に実施し、職員個々の目標達成と行動化を明確にし、サービスの質向上へと繋げる。

（イ）求められるニーズに迅速に対応できるように介護技術（障害分野も含め）向上の勉強会を定期的に実施。

（ウ）多種多様な人材が活躍できる環境を作り、人材の確保と育成に取り組む。

・職場会議にて定期的に勉強会に取り組んだ。現場での OJT と勉強会とリンクさせている。

５．施設老朽化に伴う設備改修

（ア）修繕・買換え箇所を明確にし、計画的に更新する事で、業務の効率化と経費削減を図る。

・入浴設備としてシャワード・バスが導入できた。安心・安全な入浴ケアに努めている。

６．地域における公益な取り組み

（ア）地域に必要とされるデイサービスとして、法人内の他事業所と連携し、地域住民に向け地域交流会や介護予防に関する講習会の開催。地域住民も多く利用する施設の強みを活かし、地域住民への認知症理解に繋がる啓蒙活動を行う。

（イ）認知症利用者を支える家族の不安や悩み解消の為、継続した家族介護者交流会を開催する。

（ウ）逆瀬台自治会と共に、防災訓練実施等を通した連携強化を図る。

・地域推進会議を実施し、家族、行政機関との話し合いの場を設けることができた。

・地域住民向けに施設開放を行い、ナイトサロンを開催できた。単発で終わらず継続できるように関係機関と連携していく。

【数値目標】

通所介護事業（聖隷逆瀬台デイサービスセンター）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
23.5 人	610 人	7,314 人	3 人	31 人	12,376 円	40,374 円	102,687 千円	22.2 名

地域密着型サービス認知症対応型通所介護事業（聖隷デイサービスセンターあゆむ）

介護給付			予防給付		単価(円)		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（月）	予防（月）		
6.8 人	174 人	2,085 人	人	人	17,008 円	円	35,489 千円	5.9 名

聖隷デイサービスセンター結い

2019 年度はセラピストを増員配置し、機能訓練を中心としたサービスの質向上に尽力した。
自立支援と要介護状態の重度化防止のために、より質の高いサービス提供を今後も目指していく。

【事業・運営計画】

1．医療から介護への連携体制を構築し、維持期・生活期まで切れ目のないサービスを提供する

（ア）他機関と連携・協働し医療から介護へ、シームレスに移行する仕組みをつくる

①ICT を活用し、他機関のセラピストとの連携体制を構築する

②生活機能向上連携加算を算定する

（イ）生活の質向上を実感できる機能訓練へ再構築する

①評価尺度を共有し、多職種協働する

②在宅復帰直後（退院後）の利用者受け入れを 2018 年度比 15%up させる

③法人内のセラピストの連携体制を活用し、スキルアップを図る

・NEC 歩行測定システムを導入し、ADL 改善度をデータとして利用者に明確に提示、機能維持・改善への動機づけに結び付けることができた。

・他法人の医療機関との連携に着手、外部セラピストと共に機能訓練の評価・計画ができた。

・退院後の利用者受け入れは 2018 年度比の 10%増加に留まり、目標値には至らなかった。

2．介護保険給付の対象とならない高齢者ニーズに対応できるサービスを生み出す

（ア）身近な場所で高齢者が定期的に集い、身体を動かす場をつくる

①地域住民が通える介護予防教室を開催する

②介護予防教室の運営には地域住民が参画できるよう図る

③次期介護報酬改定を見据え、他業種との連携したフレイル対策事業を検討する

・2019 年度末に介護予防教室開催を予定していたが、感染症予防にて中止。2020 年度に見送る。

3．地域における公益的取り組み

（ア）地域住民が気軽に集える場をつくる

①営業時間外の施設開放を検討する

②地域行事に参加し、場所・人員の提供などに協力していく

・地域イベントには定期的に参加し、地域との関係性構築ができている。今後も継続していく。

【数値指標】

介護給付			予防給付		単価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
平均利用者数	月間利用件数	年間利用者数	月間利用者	年間利用者	介護（日）	予防（月）		
8.5 人	219 件	2,632 件	106 人	1,268 人	6,364 円	31,466 円	56,563 千円	10.6 名

聖隷コミュニティケアセンター宝塚店

2019 年度は、2018 年度改定以降、貸与価格の上限設定や全国平均価格の更新により単価が下がっている状況の中で、介護保険の自己負担割合に 3 割が新設され、福祉用具を取り巻く環境が更に厳しくなった。加えて働き方改革による時間外労働の上限設定が導入され、業務の見直しによる勤務体制の変化など職員の仕事に対する意気込みにも影響があった。しかし業務の見直しを諮ったことで「ONE　TEAM」で働く重要性に気付き、改善しなくてはという意識が職場に高まったことは 2020 年度に繋がると考えている。

【事業・運営計画の振返り】

1. 介護保険サービス外貸与の仕組み作り

（ア）介護保険外サービスが標準になりつつある状況で、自費プランが多いことが選ばれるポイントとなってきた。介護保険のサービスとバランスを取りながら既存の自費ベッド、車椅子の貸与規定を一部緩和し使い易くした。また有料老人ホーム向けの自費プラン（ベッド、歩行器）を、介護保険貸与で取扱いが無い商品で作ることができた。

2. 貸与から販売へ移行する利用者の獲得

（ア） 介護保険サービスの負担割合が 3 割の方が比較的多い、在宅サービスを利用できない有料老人ホームやサービス付高齢者住宅に積極的に営業を行い、入所者へ向けた車椅子、歩行器や自助具等の相談、販売を増やすことができた。

（イ）障がい者補装具給付による電動車椅子販売の実績を作る事ができた。障害者給付による販売は、引き続き取扱い範囲を広げていく。

3. 地域における公益的な取組

（ア）宝塚安倉あんしんステーションにおいて、地域住民を対象とした福祉用具、住宅改修の相談を聖隷の他事業所と共に実施した。また、福祉用具の勉強会を、地域の方や他法人職員向けに実施した。

【数値実績（見込み）】

	レンタル件数（件）	介護保険収益（千円）	販売収益（千円）	住宅改修（千円）	ｻｰﾋﾞｽ活動収益（千円）
宝塚店	9,224	100,054	56,294	18,086	174,434

花屋敷栄光園

特別養護老人ホーム花屋敷栄光園
花屋敷デイサービスセンター
花屋敷地域包括支援センター
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
宝塚市障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷
聖隷訪問看護ステーション山本
聖隷ケアプランセンター花屋敷

花屋敷栄光園は開設から 20 年を迎えた。地区を取り巻く環境の変化とともに多様なニーズへの機能と対応力を高めるために組織体制や施設環境を変容してきた。節目となった 2019 年度は、訪問事業の体制整備と相談支援の機能強化を目的に「聖隷訪問看護ステーション山本」と「聖隷ケアプランセンター花屋敷」がある聖隷ケアセンター宝塚第 2 を閉鎖し、花屋敷栄光園へ統合した。また、統合にともなう施設改修だけでなく、厨房機器や送迎車両等の更新、消費税増税に伴う居住費と食費の改定も行った。体制においては、人材育成やマネジメントに注力、職員のスキル向上や資格取得などの効果が得られた一方、重大事故が発生し更なるリスクマネジメント強化に努める年度であった。

【施設理念】

互いに愛し合いなさい

利用者、家族、職員、ボランティア、地域住民が、共にその人らしいいきいきとした暮らしの創造のために、互いを尊重し合い、地域全体の福祉の向上に寄与する

【経営方針】

１．利用者のニーズに応じたケアと選ばれるサービスの提供
２．専門職として実践できる人材の育成
３．地域共生社会実現のため継続したサービスと相談支援機能の充実
４．運営安定化の推進
５．地域における公益的な取組み

【事業・運営計画】

１．利用者のニーズに応じたケアと選ばれるサービスの提供

（ア）相談員を中心に、定期的なカンファレンスだけでなく、状態変化に応じたケア及びプラン修正が図れてた。

（イ）利用者の体調変化等に伴う情報の共有方法やユニット間の協力体制等の見直し、病状の悪化や事故の再発防止に努めた。

（ウ）特別養護老人ホーム・訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所等との合同会議にて、デイサービスやショートステイを中心に利用者の受入れ拡大を検討することができた。

（エ）管理栄養士が中心となり、味覚だけでなく視覚的にも楽しめる調理に取組み、季節の催事

等で提供することができた。

２．専門職として実践できる人材の育成

（ア）計画的に階層別研修や地区研修に参加したことで職員個々の意識変化やスキル向上に繋げることができ、新入職員を中心とした既存の育成スキームの見直しを行うことができた。

（イ）ラダー評価によるスキル覚知に留まっている。目標参画に連想させたキャリア支援に努めたい。

（ウ）継続的に喀痰吸引等研修や認知症実践者研修に受講することができており、専門的スキルの向上と有資格者の増員を図ることができた。

（エ）ケアやリスクに対し、係長が率先して課題提議と取組みをリーダーと共に実践することができた。

３．地域共生社会実現のため継続したサービスと相談支援機能の充実

（ア）花屋敷栄光園に聖隷ケアプランセンター花屋敷と聖隷訪問看護ステーション山本を統合したことにより、より身近な関係性が築け、相談支援機能の充実だけでなく各サービス間での協働意識に繋げることができた。

（イ）地域住民や障害者ニーズの把握は限定的な範囲に留まっている。今後も相談支援事業所や地域包括支援センターが各種ネットワーク等に参画し把握に努める。

（ウ）短期入所・生活介護サービスともに少数ではあるが定期利用に繋げることができた。
今後は、レスパイトだけでなく退院時支援や緊急ショートステイ枠も含めた支援体制の構築を図りたい。

４．運営安定化の推進

（ア）ケアサポーターの業務や範囲が限定的であり、全職場に反映させることができていない。
継続して業務の仕分けを進め、専門と非専門業務による効果的な人員配置に努める。

（イ）会議・委員会、委員構成も見直しを図った。また、記録システムの活用により記録等の省力化を促進することで、業務負担や時間外労働の軽減を図ることができた。

（ウ）事業所統合による施設改修や電動ベッドや送迎車両、厨房機器等の更新を行った。

５．地域における公益的な取組み

（ア）地域の催しへの参加や会議技術講習等を継続的に取組むことができた。

（イ）地域の防災会議に参加し、防災訓練では簡易ベッドの説明や貸出し等を行った。

【数値指標】

高齢者入居・短期入所・通所関係事業・相談支援事業

	特養入所 ユニット型	短期入所 ユニット型空床型	通所介護 通常規模型	通所介護 予防型
利用者定員	108 名	12 名	47 名	
利用延数	38,447 名	4,591 名	8,525 名	1,061 名
一日平均利用者数	105 名	12.6 名	27.8 名	3.5 名
稼動率（％）	97.3%	104.7%	79.3%	
稼動延日数	365 日	365 日	307 日	
平均介護度	4.1	3.0	2.2	1.5
単価（一人一日）	15,014 円	14,406 円	10,143 円	
ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	582,303 千円	66,578 千円	98,416 千円	
職員数（常勤換算）	74.6 名	9.8 名	20.2 名	

	地域包括支援事業 (花屋敷地域包括支援センター)		障害者相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	障害児相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)	宝塚市相談支援事業 (聖隷はぐぐみ花屋敷)
宝塚市受託収入(千円)	31,208 千円		—	—	13,065 千円
年間請求件数	予防ﾌﾟﾗﾝ請求件数	4,487 件	356 件	176 件	—
	予防ﾌﾟﾗﾝ委託件数	729 件			
平均単価	予防ﾌﾟﾗﾝ単価(円)	4,981 円	14,943 円	14,966 円	—
ｻｰﾋﾞｽ活動収益(千円)	49,925 千円		4,964 千円	2,787 千円	13,065 千円
職員数（常勤換算）	9.7 名		2.3 名		

	聖隷訪問看護ステーション山本				聖隷ケアプランセンター花屋敷			
	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数(常勤換算)
医療	3,215 件	9,700 円	98,880 千円	13.6 名	—	—	—	—
介護	7,050 件	8,430 円			3,569 件	17,000 円	62,201 千円	11.3 名
予防	961 件	8,430 円			220 件	4,000 円		

ケアハウス花屋敷

ケアハウスの使命でもある、健康寿命の延伸への取り組みであるが、年度末に起こった新型コロナウィルスの影響で、充分な関わりが出来ない形で2019年度が終了した。1年を通しては、毎日のラジオ体操、健康体操の充実を図り、健康維持に役立てたと思う。
また、入居者が中心となって、野菜の栽培や園のアプローチ部分の庭造り、花屋敷栄光園の庭造りなどを行い、収獲した野菜を入居者皆で食べることが恒例行事となっている。
人生の最終段階における支援として、2019 年度は入居者の方に毎月の誕生日会の中でアドバンス・ケア・プランニングについてお話していたが 2 月以降は実施出来ず、その取り組みは次年度引き続き実施していく。

１．入居者の心身の変化にタイムリーに対応できる体制と対応力の強化

（ア） 職員が採用できずに新年度スタート、体調不良の職員もあり、体制づくりについては思うようには進められなかった。

（イ）基本情報と緊急時の医療的な処置の希望などについてご本人に確認する

①入居者の心身の状況、生活状況については定期的に訪問し、情報収集を行った。また、毎日、午後の 30 分を情報共有と支援検討の場として活用することができた。

②急変時や老衰等になった際の医療的な処置の要否や人生の最終段階の過ごし方、過ごす場所についての聞き取り等については、導入のための入居者へのお話にとどまり、次年度継続して取り組む。

２． 健康維持増進のための取り組み。

（ア）職員のアイデアで、ヨガを取り入れたり、セラバンドやボールを使い、健康体操のバリエーションを増やして実施した。

（イ）毎年恒例になってきた、焼き芋の会は、入居者が中心となって育てたサツマイモを、入居者と一緒に準備し、皆で味わう会となっており、今年もボランティアの方を招待し、一緒に楽しむことができた。その他、季節ごとに園内行事を行い、ADL に変化があっても参加しやすい内容で実施した。

３．ケアハウスらしい「健康的で美味しい食事」の提供を復活させる

（ア）委託業者職員と栄養士が協力し、ケアハウスの求める食事に近づけるよう努力した結果、徐々に改善した。しかし、人件費高騰の折、食事に係る費用が限られた中での原材料の質の向上には限界があると感じている。

４．運営の安定化の推進

（ア）計画していた見学会等は諸事情により実施できなかったが、問い合わせや見学希望者はあり、入居率は 99.8%であった。

（イ）訪問看護ステーション山本とケアプランセンター花屋敷が花屋敷せいれいの里に移転しさらに連携しやすくなった。一体的に地域の方々を支える仕組みをつくるべく、協議を重ねている。

５．災害時の準備、避難方法等、よりシンプルでわかりやすいものにバージョンアップして3月に実施の予定であったが新型コロナウィルス感染拡大の影響で中止となった。

６．地域における公益的な取り組み

地域の幼稚園園児が歌やお遊戯を披露してくれる敬老会などは入居者にとって待ち遠しい行事であり、入居者の皆さんの笑顔を見れる喜びを職員も感じている。園児にとっても良い経験になっているとの言葉をいただいている。また、地域の方々が色々な形で園を訪れてくださり、喫茶コーナーで談笑されるなどご利用いただいている。

入居者状況（2020年3月31日現在）

（ア）年齢

	人数（名）	最高年齢（歳）	最低年齢（歳）	平均年齢（歳）
男性	21	97	75	85.8
女性	79	98	70	86.9
合計	100			平均（86.8）

（イ）介護度内訳（名）

要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５	合計
24	20	18	12	0	0	0	74

（ウ）入居前居住地（名）

宝塚市	44	市外（他府県込）	56

【数値実績】

定員（名）	100
稼働率（%）	99.8
単価（一人一日：円）	4,274
総収入計（千円）	156,111
職員数（名）	13.5

介護老人福祉施設　聖隷カーネーションホーム

特別養護老人ホーム聖隷カーネーションホーム
聖隷カーネーションホームデイサービスセンター
聖隷カーネーションホームデイサービスセンターうっとこ
聖隷ケアプランセンター淡路、聖隷在宅介護支援センター淡路、
障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ

2019 年度の聖隷カーネーションホームは、高医療対応、リハビリテーション及び認知症ケアの強化、リスクマネジメントの改善等の内部強化を図り、利用者の安心・安全・安楽を向上させるとともに、淡路エリアの中核施設として岩屋地区（淡路栄光園）及び津名地区（聖隷ケアセンター津名）における新規事業計画の企画推進、聖隷こども園夢舞台の運営支援、エリア内各拠点に対する事務サポートの強化に尽力した。それらの結果、施設内における重大事故の抑制や苦情の減少、認知症対応型通所介護の利用者増加、EPA 外国人介護福祉士候補者の受け入れ、障害者雇用、聖隷ライフサポート津名の開設支援などの成果があった。その一方で、ケアサポーターなど新たな担い手の発掘や、職員負荷軽減のための機器導入は充分とはいえず、2020 年度も更に取り組みを継続する。そして、これからも淡路地域において利用者と職員の双方の幸福を実現できる、魅力ある総合福祉拠点を目指していく。

１．より安心・安全で質の高いサービスの追求

（ア）設備や介護者が主因となる事故を防止するために、インシデント報告件数を増加させることができた。しかし事故防止への活用はまだ充分でなく、2020 年度も継続して取り組む。

（イ）利用者の状態や希望とケアプラン内容の適合状況を適時確認・評価できるように改善が進んだが、ケアプラン更新体制の合理化・省力化には至らなかった。

（ウ）より広い利用者層に対応できる施設づくりを促進するために、重度の認知症や在宅酸素利用者など支援困難者を受け入れるとともに、そのための勉強会を開催した。

２．多様な人材の発掘・育成と、職員が成長・活躍できる環境づくりの促進

（ア）事業計画と連動した目標管理及び達成支援の浸透を図り、組織目標と個人目標のリンク件数の増加を図った。一部の職場では必要な面接機会を確保できなかったため、取り組みを継続していく。

（イ）ケアサポーターの増員によって専門職・非専門職の仕事の分離を図った。業務の整理と切り分けは進んだが、ケアサポーターの確保が少人数に留まったため、引き続き人材の発掘と確保に努めていく。

（ウ）認知症ケア対応力を高めていくために、認知症専門研修の受講を継続するとともに、受講者によるフィードバック研修・伝達講習会を開催した。

３．サービス品質の改善と生産性向上の両立

（ア）施設を社会資源として地域住民に有効活用してもらうために、利用ニーズと稼働率を意識

した利用者受入体制の改善を図った。入退所に伴う空床を前年度 93 床から 27 床に、入院に伴う空床を前年度 773 床から 506 床に、それぞれ大幅に削減することができた。

（イ）利用者・職員双方の安全・安心・安楽を図るために介護機器の導入・更新に取り組んだ。全館の空調設備を補助金活用して総更新し、住環境及び職場環境の向上を図ることができた。新たな機器の導入には至らなかったが、移乗補助具の追加導入や活用範囲の拡大によって介護者の負担軽減を図った。

（ウ）個別機能訓練加算Ⅰを取得し、サービスの質と収益の向上に繋げることができた。今後も安定的に加算要件を満たすことができる体制づくりと、サービスの質の維持向上を図る。

４．公益的な取り組みの継続と新たなニーズの開拓

（ア）在宅介護支援センター淡路が中心となって「淡路市高齢者住宅安心確保事業」の実施を継続し、淡路市との協力のもと潜在的な福祉ニーズの発掘に努めた。

（イ）聖隷淡路エリア全体として、淡路市保健福祉計画の促進に資する事業提案（津名地区・岩屋地区）について、淡路市健康福祉部との協議を継続した。

（ウ）行政機関及び地域の他事業者との協力のもと、認知症サポーター養成講座（7 回）及び同ステップアップ講座（1 回）を実施できた。また、独居高齢者訪問を年間 606 件実施した。

【数値実績】

	特養入所	短期入所	通所介護		
	従来型	従来型	一般型	総合事業	認知症対応型
利用者定員	54 名	16 名	30 名		12 名
利用者延べ人数	19,209 名	5,720 名	6,136 名	856 名	3,068 名
一日平均利用者数	52.4 名	15.6 名	19.8 名	2.7 名	9 名
稼動率（%）	97.2%	97.7%	75.8%		75.1%
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	309 日		340 日
平均介護度	3.73	3.17	2.09		2.34
単価（1 人 1 日当り）	11,683 円	10,962 円	9,798 円	3,968 円	11,715 円
サービス活動収益（千円）	224,831 千円	63,719 千円	63,835 千円		35,949 千円
職員数（常勤換算）	28.9 名	7.3 名	11.2 名		5.6 名

	聖隷ケアプラン センター淡路		聖隷はぐくみ	聖隷在宅介護 支援センター淡路
年間請求件数	介護	予防	20 件	
	1880 件	433 件		
訪問調査年間件数	58 件			
サービス活動収益（千円）	32,084 千円		232 千円	7,135 千円
職員数（常勤換算）	5.2 名		0.4 名	1.2 名

介護老人福祉施設　淡路栄光園

特別養護老人ホーム淡路栄光園
淡路栄光園デイサービスセンター

2019 年度、淡路栄光園の事業報告に当たり、いくつかの実践を振り返る。入居部門では、近隣コンビニエンスストアより移動販売車の定期訪問を実施。おやつ等、利用者が希望する日用品の対面販売で、利用者にとって「買ってきてもらう」ことから、「自分で選んで買う」というサービスへ変化させることができた。また介護現場では介護周辺業務を切り出し、地域社会とのつながりが薄れている方々に、就労機会を提供する試みを実施。地域貢献とともに、介護職員の負担軽減、利用者のための時間の創出に成果を得た。通所介護では、個別リハビリテーションの提供や小規模通所介護への体制作りに注力し、サービスの質や事業安定性の向上につながった。

これらの取り組みは、それぞれ大きな取り組みでないかもしれないが、職員自らが考え熱心に実践し得られた成果であり、利用者のためにという視点で大きな意義があったと感じる。2020 年、事業開始 21 年目となる淡路栄光園は、これら利用者や地域から求められる視点に立った、さらなる実践を重ねていく。そして、そのために必要となる「淡路栄光園の新たな体制」、人材や機器、システムに重点を置いた現場の再編にも積極的に取り組み、5 年 10 年先を見据えたサービスの質と継続性の両輪において強化を図っていきたい。

【施設理念】

「家族の心とまなざしでむかえる」

【経営方針】

1．利用者満足向上のために、利用者の個別性、医療管理や障害に合わせた受け入れ、ケアの提供を図る。
2．職員満足向上のために、職員個々が目標とする技術の向上に努めつつ、業務負担の軽減、生産性の向上を図る。
3．健全経営向上のために、幅広く利用者を受け入れる体制を整えつつ、地域の利用ニーズに合わせて収支バランスのとれた事業規模にする。
4．地域社会貢献のために、私たちのサービスがもっと身近で利用でき、地域に貢献できる活動を実施する。

【事業・運営計画】

1．利用者満足向上のための取り組み

（ア）転倒による重大事故を防ぐため、早期のカンファレンス実施と自動ブレーキ車椅子などの機器導入や環境整備によって発生件数が、昨年度年間 7 件が 2 件に減少。入居者の生活安全性の向上につながった。

（イ）島外の障害施設入所者の受入を検討。市障がい担当者と障害施設を訪問し、受入のルート開発を行い入居申請につながった。今後の継続的な受入関係も構築できた。

（ウ）訪問看護よりセラピストの派遣を受け、通所介護で個別リハビリテーションを実施。効果の書面伝達などの活動を通じ、利用者の重度化予防や自立支援の促進を図れた。

２．職員満足向上のための取り組み

（ア）精神症状のある利用者が穏やかな生活を送れるよう、介護職員が直接、家族や精神科医師等と話し合う機会を設けたことにより、同分野に対する職員の意欲を高める事ができた。

（イ）兵庫県が実施するケア・アシスタント事業に応募し、3 名のトライアル雇用を実施。介護周辺業務の切り出し及び業務指導で就労につながり、業務負担の軽減に成果を得た。

３．健全経営推進のための取り組み

（ア）通所介護は今年度、利用定員を 25 名に変更。1 日当たり平均利用者数 17.1 人の実績を受け、職員体制も含め小規模通所介護への事業変更の準備を整え、2020 年 4 月より開始予定。

（イ）島外（神戸・阪神）を中心とした市外の老健、居宅事業所へ営業を強化し、新規利用者 15 名（利用延べ 363 床）の利用につながり、空床の活用を図れた。

４．地域社会貢献のための取り組み

（ア）地域サポート型施設として、関係機関との協議を持ち（年 2 回）見守り活動（電話・訪問 576 件）を実施。また、地域向けセミナーとして栄養士による講演会を実施した。

（イ）利用者にとって通所介護サービスがより身近に感じられるよう、通所介護の住宅地域内移転の可能性について、具体的な協議を重ねることができた。

【数値指標】

	特養入所	短期入所	通所介護	
	従来型		一般	総合事業
利用者定員	60 名	17 名	25 名	
利用者延べ数	21,213 名	6,247 名	4,177 名	1,070 名
一日平均利用者数	58.0 名	17.1 名	13.6 名	3.5 名
稼働率	96.7%	100.6%	68.4%	
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	307 日	
単価（一人一日当り）	11,691 円	11,434 円	8,928 円	4,554 円
サービス活動収益	248,159 千円	71,428 千円	42,223 千円	
職員数（常勤換算）	36.6 名	8.9 名	8.2 名	

聖隷ケアセンター津名

聖隷訪問看護ステーション淡路
聖隷ケアプランセンター淡路第二
聖隷ヘルパーステーション淡路

2019 年度は地域における在宅サービス拠点の強化を目指し、淡路市の中心地にセンターを移転した。移転後はセンター機能を充実させる為委員会や研修会等の整備充実を図り、新規通所介護事業開設に向けた検討を継続的に行いながらケアセンターの枠組みを強化した。センターの中心となる訪問看護事業については、ターミナル件数の月変動等により機能強化型訪問看護管理療養費の算定が不可となった。しかし、機能強化型訪問看護ステーションの役割である 24 時間対応・頻回訪問・重症者への訪問等を実施しながら、積極的な活動を継続した。今後もセンター内事業の更なる協働で地域から信頼される事業運営を継続していく。

1.機能強化型ステーションとして、質の高い看護・リハビリテーションを実施する
（ア）アドバンス・ケア・プランニングを意識した看護やリハビリテーションが実践できるよう研修会を実施した。
（イ）地域の関係者に向けた看取りのカンファレンスを実施し、支援経過を共有できた。
（ウ）主治医や家族と連携しながら満足度の高い看取り支援を実施した。
（エ）積極的な看取り支援にて、2020 年度機能強化型訪問看護管理療養費 2 が算定可能となった。
（ウ）WINCARE での情報共有を促進し、会議やカンファレンスの充実で質の向上を図った。

2.ケアセンターのチーム力や総合力を向上させ、満足度の高いサービスを提供する
（ア）ターミナルケース等において、専門性を意識した分業をマネジメントできた。
（イ）地域の幅広いニーズに対し、専門職が 1 チームとなって活動する機会が増加した。
（ウ）訪問リハビリテーションの効果的な訪問時間や回数について検討し、ゴール確認を行った。
（エ）ヘルパーは生活支援減少に取り組むと共に、職員体制の見直しを図ることができた。
（オ）ケアプランセンターは特定事業所加算を取得し看護と共に看取り支援も行うことができた。

3.通所介護事業所（リハビリテーション強化型デイサービス）を開設する
（ア）地域の高いリハビリテーションニーズに対応できる聖隷ライフサポート津名の開設準備ができた。
（イ）リハビリテーション対象者の状態に応じ、訪問と通所介護を選択できる事業所体制を整えた。
（ウ）生活力向上・認知機能向上・自立支援等を特色とした事業の周知を図ることができた。

4. 地域における公益的な取り組み

（ア）「まちの保健室」を 13 回実施した。

（イ）「家族介護者教室」への協力、関係機関を対象とした学習会を 4 回開催した。

（ウ）看護専門学校・看護大学・研修医実習等を受け入れた。

【数値実績】

聖隷訪問看護ステーション淡路

平均利用者数	月訪問件数	年訪問件数	単価(円)	サービス活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
246 人	1,584 件	19,006 件	8,415 円	161,898 千円	24.7 名

聖隷ケアプランセンター淡路第二

年間請求件数		単価（円）		訪問調査年間件数	サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防			
750 件	256 件	13,535 円	4,747 円	24 件	11,367 千円	1.9 名

聖隷ヘルパーステーション淡路

	月訪問件数	年訪問件数	単価（円）	サービス活動収益(千円)	職員数（常勤換算）
介護給付	1,157 件	13,881 件	4,064 円	79,777 千円	21.6 名
総合事業	262 件	3,149 件	2,814 円		
自立支援	473 件	5,674 件	4,117 円		
有償訪問	50 件	597 件	1,242 円		

聖隷こども園夢舞台

2019 年度は 146 名でスタートし、途中入園児を含めると 156 名の受け入れとなった。

新園舎に移り 2 年目を迎え,職員と共に業務の進め方や伝達の仕方など,ひとつひとつ考えながら進んでいった。

また、淡路エリア福祉研究発表会の立ち上げや参加を通して、職員が保育の研究を自主的に行動していくことを意識できるよう投げかけていった。

１．入所状況

4 月に新入園児、0 歳児 2 名、1 歳児 12 名、2 歳児 3 名、3 歳児 10 名、4 歳児 1 名の 28 名を迎え計 146 名でスタートであった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

(ア)保育内容

① 統合保育の実践

障がい児 2 名（療育手帳 2 名）、発達が気になる児：5 歳児 4 名、4 歳児 4 名、3 歳児 1 名、2 歳児 2 名（市の巡回相談にかかっている児）が在籍となった。淡路市の巡回指導、発達心理相談、保健師により発達が気になる子どもの対応について助言・指導を受け、他機関と連携をしながら進めていった。

② 交流

小中学校の行事に参加、独居老人、保育実習生、老人会、婦人会、社会福祉協議会、消費者団体、漁業協同組合など、地域との関わりを深めることができた。

(イ)地域ニーズに対応

① 延長保育

地域の特性上、18:00～19:00 の延長保育を利用する児童の数は少ないものの、少人数で家庭的な保育を展開していくことが出来た。

② 一時預かり

年間延べ利用者数 301 名。一時預かり事業への問い合わせが多く、年間を通じて定期的に預かる子どもと、緊急の受入にも可能な範囲での対応を行った。

③ 病後児保育

1 月より開設。登録児 29 名、(在園児 18 名、他園児 11 名)受け入れ実績 16 名。

市内の周辺保育所に「ほけんだより」の配布、病後児保育事業の案内・説明等についても実施した。

(ウ)職員研修

聖隷が主催する「あゆみ合同研修会」「宝塚保育学会」「淡路地区聖隷学会」「聖隷保育学会」に参加。職員が宝塚の保育園を訪問し「聖隷の保育」を見て学ぶ機会を設けた。自己評価の分析・評価についても行い、今後の課題にも繋がった。

３．地域における公益的な取組

(ア)トライやるウイークでは、地元中学生の職場体験実習の受け入れ、希望する高校生・大学生のボランティアの受け入れを積極的に行った。

(イ)わいわいクラブ(淡路市主催の未就園児を対象とした子育て支援事業)との連携として、こども園の行事に参加を促すことができた。

(ウ)近隣の方々に対して、園の行事への招待や訪問を行った。

(エ)淡路地区の高齢者施設との交流や訪問を通し、世代間交流の機会を持つことができた。

【数値実績】

①歳児別入所児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	2	3	3	3	4	6	6	6	6	6	6	53	4
1歳児	21	21	21	21	21	22	24	24	24	24	24	24	271	22
2歳児	24	23	24	23	23	23	24	24	24	24	24	24	284	23
3歳児	26	26	27	27	27	27	29	29	29	29	29	29	334	27
4歳児	48	49	49	49	49	49	49	49	49	49	50	50	589	49
5歳児	25	23	23	23	23	23	24	24	24	24	23	23	282	23
合計	146	144	147	146	146	148	156	156	156	156	156	156	1813	148

②保育日数及び出席状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
延人数	2666	2467	2800	2898	2313	2437	2919	2838	2694	2582	2512	1835	30961
保育日	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290
日平均	111	112	112	111	88	105	116	118	112	112	109	73	1279
一時預り	39	39	35	47	31	37	16	18	15	8	14	2	301
病後時保育	4	3	0	0	3	3	1	0	0	0	1	1	16
延長保育	85	96	92	134	108	143	138	160	181	151	163	142	1593

③職員の状況(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正/ゾ)	20	20	20	20	20	20	21	21	21	21	21	21
保育教諭(パ)	6	6	6	7	7	7	7	7	7	7	7	7
保育補助	2	2	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計	31	31	31	32	32	32	34	34	34	34	34	34

奄美佳南園

特別養護老人ホーム奄美佳南園・デイサービス・ホームヘルプ事業所
訪問入浴事業所・在宅介護支援センター・春日デイサービス
・聖隷チャレンジ工房カナン

2019 年度は奄美佳南園が開設より 45 年を迎えた。これまで高齢者施設を中心としたサービスを実施してきたが、近年は制度の枠を超えた連携を行い、地域の障がい者に就労支援事業や共生型のサービスを提供することで地域共生社会の実現に向けたサービスを実践した。

また、介護職員の人材確保が厳しい中、専門職と非専門職の業務分担を整理した上で、専門職以外の業務を高齢者雇用に切り替えることで、介護職員の業務の省力化・効率化を実現した。

訪問介護事業では利用者及び担い手である職員が減少し、これまで家事援助中心のサービス形態から、専門性の高い身体介護サービス中心のサービス提供を目指すこととなった。

2020 年度は介護機器を積極的に導入し、職員の健康維持・腰痛防止と質の高いサービス提供を実施し、既存サービスの強化を図りたい。

【事業実績】

１．利用者満足向上のための取り組みとして

（ア）医療的ケアが必要な入居者の尊厳を大切にしたサービスを提供するために、アセスメントを徹底し、利用者の残存機能を生かした口腔ケア等の実践とともに、支援を強化するために認定特定行為業務従事者 4 名、研修を計画的に実践した。

（イ）感染対策として職員や利用者に手洗いチェッカーを活用した効果的な手洗いを実施した。

（ウ）利用者が安心して暮らせるよう、入院後に定期的な訪問を実施し、入院期間の減少に取り組んだ。（一人当たりの入院日数 2018 年度比・約 30 日減）

（エ）聖隷チャレンジ工房カナンの訓練作業について、作業評価やフォローの実施を強化することで、作業能力の向上と仕事のやりがいへと繋げ、利用定着や実習実施に結び付いた。

２．職員満足向上のための取り組みとして

（ア）鹿児島県が実施する「介護職員てつだい隊」制度を利用し高齢者を雇用することで、介護業務の省力化・効率化を推進した。

（イ）特殊浴槽機器の導入・活用により、介護職員の腰痛軽減や職員の離職防止に努めた。

（ウ）聖隷チャレンジ工房カナンへの委託業務（ベッドメイク作業、洗濯・衣類たたみ・衣類配達、室内外の清掃作業）により、介護職員の業務の省力化・効率化を実現した。

３．事業の成長と安定した運営基盤の構築として

（ア）長期入院の削減や、入院中の空きベッドを高齢者や障がい者に短期入所として利用促進することで、効率的なサービス利用に取り組むことができた。

（イ） 就労支援事業の稼働率向上のため、営業活動を事業所全体で定期的に振りかえり、次の営業活動に生かすことで、新規利用者の獲得に取り組むことができた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア）春日デイサービスセンターの「ゆてぃもれ会」や在宅介護支援センターの「サロン」実施による高齢者等の居場所づくり・生き甲斐づくりに努めた。

【数値指標】

	特養入所		短期入所		訪問給食	生活困窮
	従来型	ユニット型	従来型	障害		一時生活支援
利用者定員	50 名	30 名	10 名			
利用者延べ人数	17,911 名	10,805 名	3,309 名	132 名	22,760 名	342 名
一日平均利用者数	48.94 名	29.52 名	9.04 名	0.36 名	62.19 名	0.93 名
稼動率	97.87%	98.41%	90.41%	3.63%		
稼動日数（延べ）	366 日	366 日	366 日	366 日	366 日	366 日
単価（一人一日当り）	12,056 円	14,472 円	11,649 円	10,451 円	670 円	6,007 円
サービス活動収益	215,945 千円	156,375 千円	38,549 千円	1,380 千円	15,249 千円	2,055 千円
職員数（常勤換算）	30.4 名	19.6 名	6.1 名		2.9 名	

	奄美佳南園デイサービス			春日デイサービス	
	地域密着	介護予防	生活介護	地域密着	介護予防
利用者定員	18 名			15 名	
利用者延べ人数	3,316 名	287 名	387 名	2,311 名	1,829 名
一日平均利用者数	10.56 名	0.91 名	1.23 名	7.38 名	5.84 名
稼動率	58.67%	5.06%	6.83%	49.20%	38.93%
稼動日数（延べ）	314 日	314 日	314 日	313 日	313 日
単価（一人一日当り）	10,125 円	4,940 円	7,472 円	10,762 円	4,777 円
サービス活動収益	33,575 千円	1,418 千円	2,892 千円	24,872 千円	8,738 千円
職員数（常勤換算）	7.8 名			6.9 名	

	訪問入浴介護		ホームヘルプ		聖隷チャレンジ工房カナン	
	介護	障害	介護	障害	移行支援	継続Ｂ
利用者定員					6 名	14 名
利用者延べ人数	528 名	139 名	5,332 名	738 名	1,661 名	2,540 名
一日平均利用者数	1.69 名	0.45 名	14.60 名	2.02 名	6.39 名	9.77 名
稼動率					106.47%	69.92%
稼動日数（延べ）	312 日	312 日	365 日	365 日	260 日	260 日
単価（一人一日当り）	15,725 円	12,532 円	3,897 円	4,158 円	12,708 円	10,081 円
サービス活動収益	8,303 千円	1,742 千円	20,781 千円	3,069 千円	21,109 千円	25,607 千円
職員数（常勤換算）	3.1 名		6.9 名		8.2 名	

		年間利用数	稼働日数	単価	サービス活動収益	職員数（常勤換算）
在宅介護支援センター		1,240 名	237 日		6,003 千円	1.5 名
居宅介護支援	介護	798 名	232 日	19,275 円	15,382 千円	3.0 名
	予防	384 名	232 日	4,072 円	1,564 千円	

春日保育園

2019 年度は様々な問題を抱え個別の対応を必要とする家庭が増え、行政機関と連携し見守りを行った。保護者支援として、4 年前から取り組んでいる発達にかたよりがある子を対象にした「親子教室」や「ペアレントプログラム」の内容を充実させ開催した。子どもの成長をしっかり受け止め、次のステップに進めるきっかけになった。新しい事業として、地域に呼び掛けて保育所の仕組みを知ってもらう「新米パパママ保育所体験」の開催や、園内の保護者対象には気軽におしゃべりができる「子育てサロン」を行い保育所の広報及び保護者間の連携にも繋がった。

また、業務の効率化を図る為、パソコンの台数を増やして職員の記録業務の軽減に繋がった。園内の組織的な仕組みを処遇改善の役割であるリーダーが担うことで、他面に渡り意識を持ち改革することも出来た。

そして 2018 年同様 0.1.2 歳児の入所が多いことから、行事開催の見直しや保育環境の整備と保育の実践を検討し、多年齢交流の見直しを更に図れた。子どもの様子や発達年齢に応じた状況を保護者へ伝え、保護者からの相談に丁寧に対応することで情報交換ができた。

毎年開催の保育学会に向けての取り組みは、職員の研究意識を深め保育の質を向上させ、さらにキャリアアップ等の専門分野研修を受講することで、保育の質を向上させた。今後も、地域ニーズに合わせた課題をみつけ取り組んでいきたい。

1．入所状況

年間入所率は 91.8%であった。4 月当初 113 名（うち新入児 22 名受け入れ）で開始し、年度途中入園 18 名、退園 9 名であった。

2．保育の専門性の向上

（ア）研修会やキャリアアップ研修へ参加し、専門性の向上に努めた。

（イ）園内研修、エリア合同研修会、保育職ラダーの活用

3．統合保育の実施と専門機関との連携

（ア）のぞみ園利用児童（9 名在籍）を積極的に併行通園として受け入れ、情報交換を密に行い、個別支援計画をたて保育の実践をした。

（イ）保育所等訪問支援により、個別の課題対応ができた。

（ウ）巡回相談や発達相談会を促すことで次のステップへ繋がった。

4．地域における公益的な取組

（ア）中学校、高校の職場体験の受け入れ及び看護福祉専門学校、養成校の実習受け入れを積極的に実施した。

（イ）園庭開放（随時）、あそびのひろば（月 1 回）により、地域に在住する親子が利用した。

（ウ）ボランティアの受け入れを積極的に行い、地域の方に保育園を知る機会を設けた。

（エ）広報誌配布（月 1 回）による活動の報告や行事参加の呼びかけにより、地域の住民や子ども達への案内ができた。

（オ）奄美佳南園との交流により、高齢者等との世代を超えた関わりができた。

５．食育と環境教育

（ア）玄関にある献立表ボードに関心を持ち食に対する意識を持ち食べる意欲に繋がった。

（イ）クッキング活動を通して、料理への興味や関心を持つことができる様に取り組んだ。

６．身体発達の向上

ボランティア活動により体力測定を行うことができた。保護者へ発達状況を知らせ、身体発育の視覚化をみせることにより体操教室の実践で身体能力を高め、達成感の増進から様々なことに自信を持って活動する意欲の向上へとつながる取り組みができた。

【経営実積】

①　歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
0歳	5	8	10	10	11	11	11	12	14	15	15	15	137
1歳	25	25	25	26	25	25	24	24	24	24	24	24	295
2歳	23	23	23	23	24	25	25	25	25	25	25	25	291
3歳	13	15	15	15	16	17	17	18	18	18	18	18	198
4歳	24	23	23	23	23	23	23	22	22	22	22	22	272
5歳	22	23	23	23	22	22	22	22	22	22	22	22	267
計	112	117	119	120	121	123	122	123	125	126	126	126	1460

②　保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ数	2188	2184	2457	2643	2156	2316	2507	2434	2497	2191	2330	2512
保育日数	24	24	25	26	26	23	26	24	24	23	23	25
一日平均	87	91	98	101	82	100	96	101	104	95	101	100

③　職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
園長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	12	12	12	11	11	12	12	12	12	12	12	11
保育士(パ)	7	7	8	8	8	8	8	8	8.5	8.5	8.5	8.5
栄養士(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	3	3	3	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5	2.5
保育補助(パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
事務員（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
合計(換算数)	28	28	29	27.5	27.5	28.5	28.5	28.5	29	29	29	28

のぞみ園

児童発達支援センター、保育所等訪問支援、
放課後等デイサービス、相談支援

2019 年度は、早期療育支援へつなげるための地域支援、専門職の配置と手厚い支援体制作り、適正加算の取得などに取り組み、安定した経営状態を維持することができた。また、奄美エリア各施設と連携して階層別研修、各種専門研修、職場をこえた人事交流などを実施し、育成と職場定着支援にも取り組むことができた。

しかし、支援を必要とする子どもの増加、小学校低学年期以降から自立に向けた継続性のある支援体制、複合的な課題を抱える家族への支援など改善できていない課題も多い。

これらを踏まえ、2020 年度は人材育成・雇用定着支援を継続して行いつつ、ライフステージに応じた切れ目のない継続性のある支援体制を実現できるように、奄美エリア各施設と連携しながら実効性のある取り組みを行っていく。

【事業・実績】

１．児童発達支援センター・放課後等デイサービス事業所としての機能の充実と経営の安定化

（ア）看護職の配置による体制強化と、看護職員加配加算・児童指導員等加配加算の取得により、経営の安定化、感染症予防対策、基礎疾患や医療的支援が必要な子どもの支援体制強化に取り組むことができた。

（イ）地域生活における支援、支援者間の連携をより充実することを目的に関係機関と年 1 回の情報交換会を相談支援専門員を中心に開催することができた。

（ウ）子どもの将来、成長した先の自立を意識した支援が行えるように放課後等デイサービス~~事業~~の職員を中心に就労支援事業所の見学研修を実施することができた。

（エ）聖隷かがやきの施設整備に伴い、龍郷町在住児の移行と職員の異動、合同職員研修の開催等を行うことで運営面の協力を実践できた。また、奄美エリアこども部連絡会議を通して 3 施設間で課題共有と、課題解決の為の取組の実践等、連携強化に取り組んだ。

２．働きやすい職場環境作りと積極的な人材育成への取り組み

（ア）雇用定着と支援スキルの向上を目的とした保育・相談ラダーの運用と各階層別研修、資格取得研修、外部講師による専門研修等を計画的に実施することができた。

（イ）奄美エリア各施設と連携して、職員交流会の開催、船漕ぎ大会への合同参加、職員同士が交流を深め繋がりが持てる取り組みを行うことができた。

３．地域における公益的な取組

（ア）のぞみ園・聖隷かがやき合同の地域の子育て支援を目的にした親子教室を年 8 回開催することで子育て支援と、療育支援へのつなぎの支援にも取り組むことができた。

（イ）鹿児島県発達支援通園事業所連絡協議会、あまみ療育ネットワークとの連携を通して、地域の支援者向け研修会を 5 回/年開催することができた。

【数値指標】

	児童発達支援	保育所等 訪問支援	放課後等 デイサービス	相談支援
利用者定員	25 名		20 名	
利用者延べ人数	6,204 名	30 名	4,203 名	556 名
一日平均利用者	26.06 名	0.12 名	17.51 名	名
稼働率	104.2%		87.55%	
稼働日数（延べ）	238 日	238 日	240 日	238 日
単価（一人 1 日当り）	13,034 円	19,600 円	7,936 円	19,940 円
サービス活動収益	80,860 千円	588 千円	33,354 千円	11,087 千円
職員数	16.4 名	0.7 名	7.2 名	3.4 名

聖隷かがやき

2019 年度は、移転・新築により北大島地区における児童発達支援センターとしての新たなスタートを切る年となった。定員を 20 名に増やし、年齢、障害別による環境設定が可能となり、一人ひとりの子どもに合った、より丁寧な療育が実現することができた。また、放課後等デイサービスを併設することで、未就学から学童への移行がスムーズになり、地域で過ごす安心できる場所として利用希望者も増えて地域からの信頼を得ている。

今後は障害福祉の職員の専門性を向上させる取り組みを行い、より質の高い支援体制つくりを行っていきたい。

【事業実績】

１．療育施設としての機能の強化と経営の安定化

（ア）アセスメントの見直しで、今の子どもの姿から発達段階を確認した上で、目標設定することで、得意な事を伸ばし、苦手な事を軽減できてきた。

（イ）親子通園にて声掛けや待つタイミングなど、子どもとの向き合い方を助言することで保護者の意識変化となった。食事の楽しさから食への意欲や姿勢につながる事など多くに結びつく大切さを実感してもらえた

（ウ）行政主催の親子教室からの見学や地域の保育所や学校、専門学校からの見学者が増え、地域理解へと結びつき、新規利用の増加となった

（エ）専門性を高める為、欠席時対応加算、児童指導員配置加算の取得に取り組んだ。

２．働きやすい職場環境作りと人材育成への取り組み

（ア）県療育等支援事業での専門家による遊びの指導を受けて、職員の課題に対する向き合い方が変化し、療育への質が高まってきた。
県通園施設連絡協議会主催研修で利用児の地域での成長について発表し評価を得た。

（イ）保護者との面談の中で子どもの成長を共に実感し、家庭の中、地域の中での困りごとが減る喜びから仕事への喜びにつながり職員の定着が進んだ

（ウ）奄美エリア子ども部連絡会議を月 1 回開催し、職員同士の横のつながりや、キャリアアップ研修への参加を得て個々の目標を明確化した

３．地域交流と地域貢献（公益的な事業への取り組み）

（ア）親子教室を開催し、子育ての迷いやしんどさを感じる保護者への支援として「楽しく遊ぶ場」として支援を提供した

（イ）近隣の生活介護の事業所との交流で顔が見える関係性作りができた

（ウ）園を開放し地域の子育て中の親子との交流の場を設け 80 名程の来場があった

【数値実績】

	児童発達支援	保育所等訪問支援	放課後等デイサービス	相談支援
利用者定員	20 名		10 名	
利用者延べ人数	2,620 名	34 名	1,405 名	115 名
一日平均利用者数	10.6 名	0.14 名	5.8 名	1.6 名
稼働率	53%		58%	
稼働日数（延べ）	246 日	246 日	242 日	183 日
単価(一人一日当り)	12,700 円	14,377 円	5,670 円	14,369 円
サービス活動収益（千円）	33,273 千円	489 千円	7,966 千円	1,652 千円
職員数（常勤換算）	6.2 名	0.9 名	2.0 名	0.2 名

聖隷ケアセンター沖縄

聖隷訪問看護ステーションゆい
聖隷居宅介護支援センターゆい
聖隷デイサービスセンターゆい

2019 年度、センター全体では職員体制が整備でき、内部の委員会や研修等安定した運営が行えている。訪問看護事業は医療保険利用者が増加し、今までにない利用者確保ができるようになった。居宅介護支援事業所は職員体制が安定したことで地域包括支援センター等の信頼が高まり、新規依頼が増加してきている。通所介護事業は開設 3 年目となり、地域のニーズに合わせ半日コースを廃止。依頼も多く、順調な運営ができている。

１．訪問看護事業（訪問看護ステーション）

（ア） 職員体制が安定したことにより、新規利用者の受け入れがスムーズになり、2018 年度実績比 119%であった。予算達成率は 82%であった。

（イ） 病院からターミナルケースを受けたことで、医療保険利用者件数の増加、その後の新規依頼につながった。また、理学療法士の配置に伴い、病院、他法人居宅介護支援事業所、地域包括支援センター等に営業活動を行い、利用希望者は増加している。

（ウ） ミニデイサービス・他法人デイサービス事業所との業務委託契約を継続し、地域の障がい者相談支援事業所との連携等の基礎作りができた。

２．居宅介護支援事業（ケアプランセンター）

（ア） センター長が居宅介護支援事業の管理者となったことで、併設の事業の状況を確認しながら事業の実施ができた。職員が 2 名から 3 名へ増員したが、新規の依頼が少なく請求件数は苦戦した。後期に入り、管理者変更の周知、職員の定着による信頼か、嘉手納町、北谷町、読谷村地域包括支援センターからの依頼が増加傾向。予算達成率 92%であった。

（イ） 2020 年 2 月より特定事業所加算Ⅲを取得。これにより定期的なカンファレンスの開催、居宅事業所のルール作り、相談員ラダーの開始など、ケアマネジメントの質の底上げができた。

３．通所介護（デイサービス）

（ア） デイサービスの増収になると見込んだ個別機能訓練加算Ⅰは、管理者兼務が沖縄では認められず２ヶ月のみの算定となった。

（イ） 支援困難ケースの依頼はなかったが、新規依頼を断らず受け続けることで、好調だった昨年と同等の（2018 年度実績比 103%）受け入れができた。

（ウ） デイサービスの行事に地域のボランティアを招くなど、利用者への三線指導等地域住民を巻き込んだ事業運営ができた。

４．地域における公益的な取り組み

（ア） 嘉手納自治体主催の「高齢者遠足」の救護班（訪問看護）としての要請はあったが、日程の都合により参加できず。

（イ） 認知症支援活動（ＲＵＮ伴）は沖縄からの参加がなく不参加。

（ウ） 嘉手納町認知症施策である「ゆるカフェ」に居宅支援事業所・デイサービスで協力参加。2020 年度も継続予定。

【数字実績】

１．訪問看護事業（聖隷訪問看護ステーションゆい）

月訪問件数（件）		年間訪問件数（件）		平均単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
医療	介護	医療	介護	医療	介護		
75.8	138	910	1,658	10,923	8,280	24,040	4.0

２．居宅介護支援事業（聖隷居宅介護支援センターゆい）

年間請求件数（件）		平均単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防		
674	244	12,258	4,469	92,585	3.0

３．通所介護事業（聖隷デイサービスセンターゆい）

月平均件数（件）		年間件数（件）		平均単価（円）		サービス活動収益（千円）	職員数（常勤換算）
介護	予防	介護	予防	介護	予防		
365.4	70.1	4019	771	8,553	5,007	38,328	7.96

聖隷こども園わかば

2019 年度は初めて 1 号認定子どもの受け入れを行い、またニーズの高い乳児を中心に 183 名の園児を受け入れることができた。幼児クラスとしてはまだ定員に達していないが、乳児の受け入れが多かったことから園としても安定した運営につながった。在園児下の子の途中入園が多く、職員の確保が難しかったことから一般の入園を受けることが不十分であった。職員にとって働きやすい環境を整えるためにも人材確保は今後も見通しを持って行っていきたい。

「保育の質の向上」に向けて、より質の高い教育・保育を行っていくために、引き続き「フォトラーニング」を取り入れ、園内勉強会等で深めていった。職員一人ひとりが保育の質の向上を意識し、職場内研修及び外部研修への参加を行うことで課題は見つかったが、具体的な保育環境の見直しまで取り組めなかったため、2020 年度の課題としていきたい。また、保育士の処遇改善の取り組みを活かし、職員の経験をもとに副主任・専門リーダー等の役割を担うことで、職員のキャリアアップにつなげられるようになった。そして 2019 年度も役割に応じた研修の受講をし、今まで以上に自分の役割を意識できるようになってきた。今後も役割をより明確にし、計画的に研修への参加を進めていき、職員の仕事に対するモチベーション向上に繋げていきたい。今後も子どもたちの最善の利益を考え、子どもたちに対してより質の高い教育・保育の提供ができるよう保育内容の充実を図るとともに、職員にとって働きやすい職場環境の構築のために尽力していく。

【入所状況】

年間平均入所率は 87.1%

途中入所は 0 歳児 10 名　1 歳児 1 名　2 歳児 1 名　4 歳児 1 名　・転居により 4 名途中退園

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1．より質の高い教育・保育を実践する

（ア）幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき、園児の発達の連続を考慮して、0 歳から小学校就学前までの一貫した教育・保育を展開していくことを目標として取り組みを進めた。乳幼児の理解に基づいた指導計画にあたっては、引き続き保育システムを利用することで、保育者の経験値に頼ることなく一定の視点が与えられ PDCA サイクルを用いて保育の質の向上を目指す指針となった。

（イ）乳幼児が自ら色々な発見をすることのできる環境設定や、継続して遊びを繰り広げることのできる環境づくりを目指し、子どもの姿をより丁寧に見ていきながら職員だけでなく、保護者へも発信して園内で共有することができた。なお、継続した取り組みについては、保育学会の場で発表し、講師からの助言や他園での実践を自園の取り組みに生かすことができた。

2．保育職としての専門性を高める

（ア）職員一人ひとりが園の理念・目標を理解する中で、改めて子どもを丁寧に観る姿勢を、フォトラーニング等を通して学ぶことができた。

（イ）保育職ラダーと自己評価の取り組みを通して、職員が自己の課題を明確にし、業務に取り組むことで資質向上につながった。

３．独自の取り組み

（ア）食育では、日々の食事体験を大切にするとともに、管理栄養士を軸に子ども・保護者に向けた食への意欲・関心を育てていく取り組みを継続的に行った。また、厨房職員が園の理念を見直し、子どもに関わる一職員としての自覚をより強める研修ができたことで、改めて園全体で食育のことを考える機会になった。

（イ）子育て支援ひろばでは、年間を通して多くの子育て親子が参加した。常設のひろば・妊婦支援・孫支援・発達に不安のある子どもへの支援、週１日は地域に出向いた出張ひろば等も行い、特に、相談事業に力を注いだ。

４．地域における公益的な取組み

（ア）地域性を活かし、近隣施設との交流や、学生の受け入れ等を通して、世代間が交流できる機会を積極的に作った。また、園庭の開放や、電話による地域の子育て家庭に対する育児相談を行った。

【数値実績】

①　歳児別入所児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	11	12	13	14	14	16	16	18	18	20	21	21	194	16.1
1歳児	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	358	29.8
2歳児	36	36	36	35	35	35	35	36	36	34	34	34	422	35.1
3歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
4歳児	31	32	32	32	32	32	31	31	31	31	31	31	377	31.4
5歳児	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32.0
合計	174	176	178	178	178	180	179	182	182	182	183	183	2,155	179.5

②　保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	3233	3099	3283	3635	2953	3199	3479	3615	3557	3231	3302	3533	40,119	3,343
保育日数	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290	24.1
１日平均	134	140	131	139	113	139	139	150	148	140	143	141	1657	138
一時預かり	0	0	1	3	4	4	5	1	0	0	2	0	20	1.6
病後児保育	8	9	16	24	0	7	22	6	9	0	4	3	108	9.0
延長保育	39	65	65	69	55	46	76	57	67	47	58	53	697	58.0

③　職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21
保育教諭(パ)	13	13	13	13	12	12	12	12	12	12	12	12
看護師（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師（パ）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
管理栄養士（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士助手（パ）	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
計	46	46	46	46	45	45	45	45	45	45	45	45

聖隷こども園桜ヶ丘

2019 年度は、定員 190 名のところ 178 名の園児を受け入れることができた。0 歳児の入園は、在園児下の子優先利用制度と育児休暇制度の充実により、1 歳前の入園希望者が減少し、4～6 月の入所児童数も同様に減少している。最終的には 0 歳児の定員 21 名の園児を受け入れることはできたが、今後、地域の子育て家庭への相談機会や親子ひろばや園見学等で、園のアピールをして年度初めからの入園につなげていきたい。

2019 年度は、「子どもが、主体的に遊べる環境づくり」に重点を置いて、園内外の研修に参加し、物的・人的環境を見直しながら、子どもの姿をより丁寧に観て、発達段階を考慮した保育室の環境設定を行い子どもの発達を保障していった。

保育システムの導入をして業務の ICT 化を図り 3 年が経つ。業務の効率化や書式の統一化について、浜松地区の副主任と共に改善し始めている。職員の意見を取り入れながら、職員の資質向上を図ると共に職員が働きやすい環境を整えて人材確保にもつなげていきたい。

【入所状況】

4 月新入園児 18 名、年度途中新入園児は、0 歳児 16 名、2 歳児 1 名、5 歳児 1 名、計 18 名であった。転居等家庭の都合で 2 名が退園した。年間平均入所率は 93.6%であった。

【事業目標及び重点施策への取り組み】

１．質の高いサービスを提供する。

（ア）保育の資質向上を目指して、園内の勉強会にて、運動遊び・リトミック・救急法等について講師を招き学んだ。また限られた職員だが、事業団保育職海外研修、キャリアアップ研修を受講し、教育・保育の専門性を身につけることに繋がった。

（イ）園内研修では、幼児・乳児のグループに分かれて、子どもの姿をより丁寧に観察し、「環境」についての研究を深め、子どもが主体的に遊べる環境づくりを行った。

（ウ）統合保育では、発達に課題のある子に対して、保護者と保育者が情報共有をし、療育機関の巡回指導も行い連携を図り、就学へ繋げていった。

２．安定した運営の意識を持つ。

（ア）職員一人ひとりが施設設備を丁寧に扱い、省エネルギーやエコロジーを心がけた。

（イ）一時預かり事業は、問い合わせの電話に対して可能な範囲で受け入れを行った。

（ウ）職員体制の不足から十分な環境整備が思うようにできなかったが、職員間で協力し運営にあたることができた。

３．地域における公益的な取組

（ア）小・中・高校生の職場体験や、看護科及び保育科の学生の実習などの受け入れを積極的に行った。また、近隣小学校との連携を図り年長児の小学校体験を行い、就学に対する不安を軽減し、期待感に繋がった。

（イ）地域の自治会やシニアクラブの方と年間を通した関わりが持てた。地域の文化祭等の行事の参加については年々、保護者の理解も得られるようになり参加が増えた。園内での

交流では、共に過ごすことを喜び、世代間交流の良い機会となっている。

４．環境を通して教育・保育の充実を図る

（ア）隣家で借りている畑で季節の野菜を栽培し、子どもが中心となって世話を行った。また収穫やクッキングを通して食への興味を深めることができた。調理師が、献立のメニューに関する絵本の読み聞かせを通して食育活動を定期的に行った。

（イ）保育室にコーナーを設置し、子どもが主体的に遊べる環境を整えた。また、職員間で玩具の勉強会を行い年齢、発達にあった玩具や手作り玩具を提供し保育の展開をした。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
0歳	5	5	5	8	11	15	16	19	19	20	20	21	164	13.6
1歳	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	29	359	29.9
2歳	30	30	30	30	30	30	29	30	30	30	30	30	359	29.9
3歳	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32
4歳	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396	33
5歳	32	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	395	32.9
合計	162	163	163	166	169	173	173	177	177	178	178	178	2057	171.1

② 保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	月平均
延人数	3016	2882	3108	3368	2578	3106	3546	3512	3371	3294	3045	3304	38130	3177
保育日	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290	24
日平均	125	131	124	129	99	135	141	146	140	143	132	132	1577	132
一時預かり	18	6	12	14	17	3	5	1	0	0	0	0	76	6.3
延長保育	63	71	96	109	44	64	61	59	70	69	59	59	824	68.6

③ 職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施 設 長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭	17	18	18	18	17	17	17	17	17	17	17	17
保育教諭(パ)	12	13	13	14	14	14	14	15	16	15	15	15
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理員(パ)	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	2
その他	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育助手	4	4	4	4	4	4	4	3	3	3	4	4
合　計	43	45	45	46	45	45	45	45	46	45	46	47

聖隷こども園ひかりの子

2019年度は、「幼児教育・保育の無償化」が始まり、常に待機児童を抱える状態であった。そのため、可能な限り一時預かり保育の受け入れを行い対応した。学童保育や親子ひろば、エンジェルリトミック、子育て相談会等の事業も安定した利用数があり地域の子育て家庭に向けて広く園をアピールする機会となっている。また、園内に於いては、定期的に勉強会を行い入園から修了までの個々の発達や学びの連続性を踏まえ、発達課題に即した教育・保育を目指し、保育の質の向上に努めた。保育の内容や方法を具体的に見直すことで、若手職員の育成と同時にベテラン職員の振り返りの機会となり学びに繋がった。一方で保育士の働き方や業務改革が社会的に注目されている中、ICT化のスムーズな運用や業務の見直しが急務の課題である。

【入所状況】

4月の新入園児33名、年度途中入所は0歳児11名、2歳児1名、3歳児1名、4歳児1名の計14名であった。うち3，4歳児（1号認定）については、夏休み明けの9月からの入園であった。また、転居等家庭の都合で10名が退園した。年間平均入所率は85.4%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

１．教育・保育の質の向上

（ア） 保育理念に基づくキリスト教保育について、月刊の冊子を基に職員間で想いを伝え合うことで、保育の軸となる考え方や互いの保育観を理解し合う機会を持った。また、保育の実践記録を共有することで自身の保育を振り返り、PDCAサイクルを意識して次への展開や見通しを持った保育に繋がるよう努めた。

（イ） 年齢に応じた運動機能の発達を理解し、遊びを通して子どもの活動意欲に繋げられるよう、職員の知識、技術を深めるまでには至らなかった。また、保護者と子どもの育ちについて相互理解を深めることはできたが、今後更に園児の個別目標やねらい、保育の意図を的確に伝えることで更なる専門性の向上を目指したい。

２．職員の資質向上

（ア） 保育職ラダーや自己評価を基に自己の目標や役割を見出し、必要な研修に参加することで保育力の向上を図った。また、保育職海外研修や幼稚園教諭免許更新講習、経験年数に応じたキャリアアップ研修（保健衛生研修、障がい児研修、乳幼児保育研修、マネジメント研修）にも参加して、より専門性を高めることができた。

（イ） モンテッソーリ勉強会の伝達講習を園内で行い、職員間で共有することで理念に基づく保育実践に繋げるよう努めた。

３．教育・保育関係機関との連携

（ア） 小学校へのスムーズな移行のために、近隣の市野与進こども園との年長児交流保育を年２回行った。また、保護者を対象に小学校長による講演会を開催し、就学に対する不安を軽減、解消することができた。

４．地域における公益的な取組

（ア） 親子ひろばでは温かな雰囲気と対応を心がけ、職員や親同士が顔見知りとなり継続的に子

育ての悩みや楽しさを共有できる場となった。

（イ） 地域の図書館にて、隔月行われるブックスタート事業に合わせて育児相談会を行った。気になるケースについては、園内の親子ひろばにも誘い継続的な保護者支援を実施。

５．保育環境の改善、施設整備

（ア） 園児数が増加しホールが手狭になったため、隣接の一時保育室の段差を無くしアコーディオンカーテンで仕切ることで必要に応じてスペースの確保ができるよう改修工事を行った。また、ホールの天井が高く蛍光灯の交換が職員では難しいため、LED に交換した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数(名)

月	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	10	11	11	12	12	14	15	16	17	19	19	21	177	14.8
1 歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30.0
2 歳児	36	36	36	36	35	36	36	36	36	36	36	36	431	35.9
3 歳児	42	42	42	42	42	43	43	42	42	42	42	42	506	42.2
4 歳児	42	42	40	39	39	40	40	40	40	40	40	40	482	40.2
5 歳児	39	39	39	39	39	39	39	38	38	38	38	38	463	38.6
合計	199	200	198	198	197	202	203	202	203	205	205	207	2419	201.6

② 保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数(名)	3639	3344	3699	4044	3291	3432	4025	3846	3805	4590	3435	3600	44750	3729.2
保育日数(日)	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	24	289	24.1
1 日平均(名)	152	152	148	156	127	149	161	160	159	200	149	150	1863	155.3
一時預かり(名)	0	0	5	25	5	4	15	12	13	8	8	3	98	8.2
延長保育（名)	65	70	72	79	51	49	54	63	61	73	74	48	759	63.3
学童保育(名)	220	168	160	225	246	146	150	147	178	161	148	176	2125	177
親子ひろば（名)	42	47	65	64	39	69	71	50	52	55	56	0	610	50.8

③ 職員の状況(名)

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長（正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正・パ)	21・20	21・20	20・20	20・20	20・20	20・20	20・19	20・19	20・19	20・19	20・19	20・19
調理師(正・パ)	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・6	1・5	1・6	1・6	1・6
看護師（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員（パ)	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
保育補助・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・1	1・1	1・1	1・1	2・1	2・1
計	56	56	55	55	55	55	53	53	52	53	54	54

聖隷こども園めぐみ

開園3年目となった2019年度は、新たに1号認定の受け入れが始まり定員も166名となった。3歳以上児の人数も年々増え、入所率も徐々に上がってきている。しかし0歳児の定員が10名と少ないため在園時の下の子どもしか受けいれられない現状や、定員が増える3歳児についても連携園の地域枠の受け入れのため一般の受け入れが難しい点など、当園の様々な課題が明確になってきた。今後は定員の見直しなど抜本的な対策に取り組みたい。

2019年度は当初よりぎりぎりの職員数でスタートしたが、年度途中に産休等で休みに入る職員が重なり保育士確保が1番の課題となった。そして、職員の働きやすさ、仕事へのモチベーションをあげていくためには、業務改善が必須であり、保育士としての仕事の喜びや生きがいを覚えながら、同時に専門職として知識や技術を身に着けていくことが出来る環境を今以上に整えていきたいと思う。

今後も子どもたちの「最善の利益」を考え、より質の高い教育・保育の提供が出来るよう保育内容の充実を図ると共に、職員にとって働きやすい職場環境に取り組み人材確保・育成に力を注ぎたい。

【入所状況】

年間入所率は86.5%。途中入園は0歳児が4名（すべて兄弟枠）、2.3.5歳児それぞれ1名が年度途中に退園（転居・認定条件が変わり入園の条件を満たさなくなったための退園）

【重点目標及び重点施策への取り組み】

1．保育の質の向上

（ア）聖隷保育の勉強会やキャリアアップ研修等に参加する機会が増え、学びを職員間で共有する時間を作った。学びを実践につなげ、聖隷の保育の質の向上に取り組んでいったが、効果的な時間の作り方等更なる工夫が必要であると感じた。

（イ）聖隷保育学会への取り組みを通して、大学から講師を迎えるなど職員が学びあう機会がもてた。今後も職員全体で研究に向けた関わりを続け、保護者にも情報提供をし、家庭と園とが連携して子育てをしていく具体的な形を示していきたい。

2．和合せいれいの里の施設利用者との交流〈共生社会の実現〉

（ア）高齢者、障がい児・者、乳幼児など色々な人が見近に生活しているという恵まれた環境を最大限に生かすために、日常的な交流や行事の合同開催を通して施設利用者や職員間の交流が進められた。こうした交流の継続が聖隷の理念（ノーマライゼーション）の理解につながると実感した。

3．子育て支援と地域における公益的な取組

（ア）親子ひろばや育児講演会を開催し、地域の子育て家庭に安心して過ごせる場の提供を行っていったが、地域に対しては更に認知度をあげる必要を感じている。在園保護者に対しては面談の機会を増やし、特に就学前の面談は保護者の不安をサポートする良い機会になった。

（イ）長期休暇時の学童の受け入れ、夕食提供といった園独自の支援を継続した。利用する家庭も定着し保護者から一定の評価を得ているが、子どもの生活リズムを整えるという支援とし

ては提供時間の検討が必要と感じる。

４．保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくり

（ア）記録業務における保育システムの活用ができておらず、業務省力化につなげられていない。今後は他園とも情報を交換しシステムを有効活用しつつ専門職としてのスキルアップを図れるようにしていきたい。

【数値指標】

（ア）歳児別入所保育児童数(名)　　入所率　86.5%

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	7	7	8	9	9	9	9	9	10	10	11	11	109	9.08
1歳児	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	22	264	22.0
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	23	287	23.9
3歳児1号	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36	3.0
3歳児2号	31	31	31	31	31	31	31	30	30	30	30	30	367	30.5
4歳児2号	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	32	384	32.0
5歳児2号	24	24	23	23	23	23	23	23	23	23	23	23	278	23.1
計	143	143	143	144	144	144	144	143	144	144	145	144	1725	143.75

（イ）保育日数及び延べ出席・利用状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数	2672	2506	2614	2737	2089	2416	2715	2556	2531	2480	2514	2529	30359	2529.9
保育日数	24	22	25	26	22	23	25	24	23	22	24	21	281	23.4
一日平均	111	113	104	105	95	105	109	107	110	113	105	120	108	108
一時預かり	0	7	8	5	6	3	3	3	2	4	3	2	46	3.8
病後児保育	4	1	4	11	14	4	4	0	1	0	9	0	52	4.3
親子ひろば	4	2	2	3	7	6	6	6	4	4	6	0	50	4.1
延長保育	87	110	116	114	68	119	128	138	129	126	131	124	1390	115.8

（ウ）職員の状況（名）　11月正規職1名、1月パート職1名産休入り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
保育士(パ)	6	6	5	5	5	5	5	5	6	6	6	5
保育補助	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3
看護師（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
管理栄養士(委託)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	31	31	30	31	31	31	31	31	32	32	32	31

聖隷浜松病院ひばり保育園

2019 年度は、0 歳児入所において従業員枠の職場復帰の期日延長で前半の入所が停滞したが、後半には増加し定員に達することができた。一方、1 歳児の需要が多く定員を超えて受け入れを行った。2 歳児は、年度途中に入園もあったが、3 歳の誕生日を迎えた際に幼稚園へと転園する園児が多くあった為、在籍数は減った形となった。幼児クラスでは縦割り保育に取り組んで 3 年経過し、保護者の理解を得ながら保育を進めることができた。

また、園舎園庭拡張工事が 12 月に無事完了し、定員増に向けての取り組みを行った。園舎園庭が拡張し広いスペースができたことにより、保育、行事等で園児や親子が集う場所が増え有効活用できている。学童の受け入れは近くの教会を借りていたが、園に学童用の部屋が確保され園内で一緒に過ごすことができるようになった。今後も多くの利用者を受け入れ長期継続利用して頂ける環境を整えたい。

業務改善においては、保育記録、会議の持ち方の見直しを行い記録業務の省略化、会議時間の短縮を図ることができた。そして、無線 LAN への切り替えも行い効率よく業務遂行ができつつあるが、今後も継続して取り組んでいきたい。

１．入所状況

年間平均入所率は 75.1%、途中入所は 0 歳児が 14 名あったが、他は入退園それぞれあり同程度で推移。最終的には 4 月より 15 名増となった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）専門性の向上を図る

①研修計画に沿って、個々の職員に合った研修への参加を促し学びの場を提供できた。キャリアアップ研修、海外研修への参加が可能となるように職員配置の配慮をした。

②保育職ラダーや自己評価を行い、個々の評価や課題を明確にすることができた。

③聖隷保育勉強会での学びを職員に向けて伝達研修を行い保育の質向上の機会を提供できた。

（イ）運営の安定化を図る

①光熱費に関しては省エネルギーなどに意識して行動できた。教材については教材庫を常に職員が整理整頓し、無駄なく教材を活用することができ意識の向上につながった。

②書類の整理に取り組んだことで職員の作業量の軽減につながり、クラス内での話し合いの時間の確保につながった。

③毎月のクラス会議内でクラス運営、課題について話し合う時間を新たに設けるようにしたことで、職員同士の意見、情報交換の機会が増えた。

（ウ）質の高い保育サービスの提供

①園内研修や外部研修などで新保育所保育指針への理解を深める機会が持てなかった為、教育に視点をあてた活動を展開することができなかった。

②自己評価を行い、集計から見えた園の傾向を職員と共有し弱みの改善に取り組んだ。

③聖隷保育学会や保育士交換で得た情報を参考にしながら、少人数保育を自園の保育に活かしている。

３．地域における公益的な取組

（ア）人形劇観劇を開催したが、地域への発信ができず園児のみの観覧だけとなってしまった。

（イ）訪問看護ステーションと共同で消防立ち合い訓練を実施し、自助共助意識を向上できた。

【数値実績】

① 児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	8	8	8	9	11	17	18	19	19	21	22	168	14.0
1歳児	32	34	34	34	34	34	34	33	34	34	34	34	405	33.8
2歳児	21	21	21	21	21	21	21	22	21	21	21	18	250	20.8
3歳児	11	12	12	13	13	13	13	13	13	13	13	13	152	12.7
4歳児	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216	18.0
5歳児	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144	12.0
計	102	105	105	106	107	109	115	116	117	117	119	117	1,335	111.3

②保育日数および延べ出席（利用）状況

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数(名)	1,777	1,873	1,927	2,108	1,662	1,790	2,212	2,097	2,148	1,926	1,809	2,058
保育日数	24日	24日	25日	26日	26日	23日	25日	24日	24日	22日	23日	25日
一日平均	74名	78名	77名	81名	63名	77名	88名	87名	89名	87名	78名	82名

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正)	20	20	20	20	20	21	21	21	20	20	20	20
保育士(パ)	8	8	8	8	7	6	7	7	8	8	8	8
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育補助	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
事務員/用務員	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1	1/1
計	35	35	35	35	34	34	35	35	35	35	35	35

聖隷のあ保育園

2019 年 4 月 1 日より、市街地の中心部に位置するマンションの一階部分で定員 19 名の小規模保育事業 A 型施設として開設した。未だ解消されていない待機児童対策と、近隣企業に勤めている家庭、近隣の子育て家庭の支援を併せて行った。新設施設として、まずは利用者が安心して預けられ信頼が得られるような保育内容の充実を図ると共に、利用者や地域のニーズの把握に努めた。また、連携施設である「聖隷こども園ひかりの子」「聖隷こども園めぐみ」とは食事提供や土曜保育などにおいてスムーズな連携を図ることができた。2019 年度は、連携施設への 3 歳児以降の転園はなかったが、今後の動向を早めに探り保護者支援に努めていきたい。市の中心部に位置するため、転勤による入退園の変動が多かった。

１．入所状況

4 月は 8 名でスタートし、3 月末には 17 名の在籍を維持し年間入所率は 87.5%となった。初年度なので 2 歳児の入園希望が少ないのは予測できていたが、転勤による変動が多く現状を保ちにくかった。年度途中に予測以上に入園の申し込みがあったが、保育士の確保ができず定員にまでは満たなかった。

２．年度事業目標・年度重点施策

①保育の質の向上。利用者に質の高い保育・保護者支援を行う。

（ア）新規事業となるため、聖隷でこれまで培ってきたキリスト教保育を基盤に保育を形づけることができるよう職員へ丁寧に伝えることを重視した。

（イ）小規模保育事業に関する外部研修への参加はほとんどできなかった。

（ウ）養護と教育が一体になった保育を子どもの成長発達に関連付けて行うために、常に子どもを観察し子どもを理解するよう勉強会で知識を深めることができた。

（エ）保育環境を子どもの発達と併せて考え、内容と環境を常に見直し改善することができた。

②保育システムによる業務省力・働きやすい職場環境づくりを目指す。

（ア）保育システムに慣れることに精一杯だったので、2020 年度は業務省力化を目指す。

（イ）職員間でお互いにコミュニケーションをはかり、報告、連絡、相談に努めたが、さらに危機管理について深めていきたい。

（ウ）職員が働きやすい環境を整え、個々に心身の健康維持に努めた結果、職員の病欠がほとんどなく離職者もいなかった。

③地域における公益的な取組

（ア）地域の子育て家庭のニーズを知ることで保護者理解、育児支援につながり、懇談会等で活かすことができた。

（イ） 地域に向けて発信し認知度を上げるべく、市役所に園だよりを置き、見学者の受け入れ、育児相談に力を入れた。

【数値実績】

（ア）歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	2	2	3	4	4	6	7	7	7	7	7	7	63	5.25
1歳児	4	3	4	5	5	5	6	6	6	6	6	6	62	5.17
2歳児	2	2	3	2	2	2	4	4	4	4	4	4	37	3.08
計	8	7	10	11	11	13	17	17	17	17	17	17	162	13.5
										入所率				87.5%

（イ）保育日数および延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数（名）	146	118	184	218	150	219	323	312	262	279	250	279	2740	228.3
保育日数（日）	20	19	20	22	17	19	21	20	20	19	17	21	235	19.5
一日平均（名）	7.3	6.2	9.2	9.9	8.8	11.5	15.3	15.6	13.1	14.6	14.7	13.2	139.4	11.6
延長保育（名）	1	1	1	0	1	0	0	0	0	2	0	0	6	0.5

（ウ）職員の状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
職場長（非）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正）	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
（パ）	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
管理栄養士（委託）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員（兼務）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
計	9	9	10	10	10	10	10	10	10	10	10	10

こうのとり保育園

日本の少子高齢化と人口減少の進行は、これまでの推測を超える厳しい状況にあり、国や社会の存続に大きな影響を及ぼす、先送りすることのできない重要課題となっている。2019 年 10 月 1 日から、子育て家庭の負担軽減のために、幼児教育・保育の無償化が始まった。一方で、保育現場では保育士の人材不足等が深刻な課題となっている。国を挙げて進められている「働き方改革」には課題も多いが、そんな中、園内で取り組むことのできる業務改善を考え合い、実践に結び付けた。まだまだ課題は多いが、職員がクラスや職種や身分といった隔たりを超えて、ワンチームとなって施設運営に携わってきた。今後も、国の課題解決を待つだけではなく、保育の質をおとすことなく、時間の使い方やチーム力強化といった視点で、考え合って進みたい。

【入所状況】

4 月新入園児 16 名、年度途中新入園児 14 名のうち、育休明け 0 歳児が 12 名で、年間入園率は 123.3%であった。

【重点目標及び重点施策への取り組み】

１．保育の質の向上

（ア） 統合保育の実践

2019 年度は、年長児クラスの身体に障がいのある児童や自閉症スペクトラムそしてダウン症に加えて知的発達遅滞の児童の 4 名の障がいのある児童が卒園を迎えた。

就学にあたっては、専門機関と連携しながら、保護者との面談を繰り返し持ちながら就学先を決定した。健常児と共に過ごすことで、障がいのあるないに関わらず、お互いが刺激し合い、育ち合える環境を生み出すことにつながった。職員も保育実践の中で、違いのある中で育つ意義を改めて感じることができた。

（イ） 歳児別・異年齢別クラスを更に小人数に分けた細やかな保育の実践

少人数に分けて保育を行うことの意義や目的を考え、具体的な場面を通して、ひとり一人の子どもの姿を丁寧に捉えることができている。その効果を職員同士で語り合い、共有化することで、保護者にも子どもの成長の様子を伝え、喜び合うことができた。

課題はあるが、実践を積み重ねていくことで更なる効果を生み出していきたい。

２．利用者（保護者と子ども）を中心に置いた子育て支援

クラス懇談会や個人面談やクラスだよりを通して、ひとり一人の子どもの育ちを映像や写真等を使い、具体的に伝えることで、子どもの育ちにはそれぞれに違いがあり、子ども同士が影響し合いながら生活していることを伝えることができた。連絡ノート等を通して、家庭では見られない園での姿に、子どもの成長を喜ぶ声が聞かれた。

３．職員の専門性を高め、働きやすい職場環境の整備

保育の質の向上をめざしキャリアアップ研修を受講し、教育・保育の専門性を身に付けることに繋がった。今後、職員全体の学びとして広げていくことが課題である。

（ア） 園内研修(学習会・園内学会)、保育学会、福祉学会、聖隷合同研修(基督教保育研修)

（イ） 聖隷保育園浜松磐田地区初任者研修、保育職ラダーの活用（自己評価と上司面接）
（ウ）外部研修…保育の質向上のためのキャリアアップ研修、給食研修、その他（視察）

４．地域における公益的な取り組み
（ア）サマーショートボランティアの受け入れ（市内中高生）、学校探検（市内小学・高等学校）、泉町老人会の寿会との交流等を通して、多世代の方たちが子育てに関わり、子育てに興味や関心を持てるように継続して取り組んできた。地域に根ざすことを目的として進めてきた。

５．保育環境の改善の改善、施設整備
（ア）修繕…園庭と園庭遊具の整備、園舎周りの囲い塀、プールの循環器、雨どい
（イ）購入…駐車場の土地購入と整備、職員トイレの取り換え、給食室の冷凍庫の取り換え

【数値実績】

①　歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	11	12	14	16	16	16	17	17	17	19	19	182	15.1
1歳児	24	24	25	25	26	26	26	26	26	26	26	26	306	25.5
2歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
3歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
4歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25
5歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25
計	135	138	140	142	145	145	145	146	146	146	148	148	1,724	143.6

②　保育日数及び延べ出席（利用）状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数（名）	2,546	2,453	2,555	2,915	2,331	2,593	2,901	2,896	2,875	2,518	2,483	2,717	31,783	2,648
保育日数（日）	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25	290	24.2
1日平均（名）	106	111	102	112	89	112	116	120	119	109	107	108	1311	109.2
一時預り（名）	48	68	83	109	86	123	132	147	124	122	109	78	1,229	102.4
延長保育（名）	46	35	46	55	61	47	64	69	72	58	73	68	694	57.8
学童保育（名）	24	9	7	52	112	7	4	7	20	9	10	23	284	23.6
休日保育（名）	16	27	9	23	12	35	32	28	14	30	39	31	296	24.6
病後児（名）	3	10	8	9	2	5	3	1	3	10	6	0	60	5
支援ｾﾝﾀｰ（名）	490	362	502	528	524	519	541	479	546	353	401	317	5,562	463.5

③　職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士（正・パ）	15・24	15・25	15・25	15・25	14・25	15・25	15・24	14・24	14・24	14・24	14・24	14・24
看護師（正）	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師（正・パ）	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・2	1・3	1・3	1・3	1・3	1・3
事務員（正・パ）	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2	0・2
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	6	7	7	7	8	8	8	8	8	9	9	9
計	52	54	54	54	54	55	54	54	54	55	55	55

＊育児休職中職員１名

聖隷こども園こうのとり東

放課後児童クラブ“オリーブ”

2019 年度は 10 月よりの無償化の影響で入園希望が増えたが、保育士不足から十分な受け入れが出来なかった現状がある。最終的には保育園枠の定員 200 名がほぼ埋まる状況まで園児数が増えた。特に幼児数増加に伴い、園庭の面積が課題であったが 3 月末に拡張工事が終了し、安心安全且つ十分に体を動かすことができる環境が整った。2020 年度もアドバンス・ケア・プランニングを学びながら子どもが夢中になって遊び、運動機能の向上に繋がる教育保育を展開していきたい。

2019 年度は“絵画を学ぶ”をテーマに子どもが表現したくなる、描きたくなるような環境を整え、保育者が子どもの絵の中にどんな想いが込められているのか読み取る、共感する力をつける事を目的に学んできた。絵画に特化し学んできたが、子ども理解に加え、子どもが求めている環境を察知し、整えるという学びは他の教育・保育に通ずる事が共有され、保育力向上に繋がった。

放課後児童クラブは、年々希望者が増加している為、受け入れの基準を決め、丁寧に説明をしながら入所決定をしていった。

１．入所状況

幼稚園枠(1 号認定)4 月は 7 名だったが 3 月は 4 名と 2 号認定に移行するケースが多かった。

2・3 号認定子どもは、200 名定員に対し 195 名まで入所した。

２．年度事業目標・年度重点施策

（ア）2019 年度の事業の振り返り

①保育の質の向上：職員一人ひとりが保育理念を基に、こども園での教育・保育を意識し実践の振り返りを行う事で理解につなげた。特に、アクティブラーニング、モンテッソーリ、ACP、表現活動により、物的及び人的な環境設定の大切さを学んだ。副主任・リーダー保育教諭には、役割を明確にしてこれらの主軸になっていく必要性があると感じた。

②保護者支援の実践：保護者総会にて、園の理念と目標、こども園での教育・保育を具体的な場面を写真や動画で示しながら解りやすく伝えた。

外国人の保護者に対し保護者会役員に誘い、行事の中に異文化要素を入れることで、交流のきっかけを作った。

③統合保育・他機関との連携：発達に問題のある子どもに対して、保護者と保育者が状況等を共有し、療育に関する連携を進めた。また、「磐田市発達支援センターはあと」「児童発達支援センター心愛つう」と繋がりを持ち、具体的な関わり方を学んだ。

一方で配慮が必要な園児に対し、療育を進めたいがなかなか理解を得られない家庭も多く、伝達の難しさを実感した。

④食育の推進と環境：田んぼ、畑活動を通し、自分たちで作ったお米や野菜を皆でおいしく戴くことが何よりの食育と考える。栄養士による食育講座を年長が学んだ。それにより苦手なものも体にとって必要な栄養だということを理解し食べることに繋がる子もいた。又、日常の保育では給食メニューの紹介や旬の野菜をとりあげて話しをしたり、食の学びを意識した保育を行った。

⑤放課後児童クラブ“オリーブ”

目的：「児童にとって居心地のいい居場所」「保護者にとって安心の場」「保育園にとって大きな異年齢の場」を提供する。

定員：40 名

対象児童：市内 1 年生～6 年生

（イ）公益的な取り組み

地域の高齢者と積極的に交流を図った。看護師による血圧測定や園児と共に行う行事や食事では、「元気を貰う」と喜んでもらい、一人暮らしの高齢者にとって楽しみな時間を共に過ごすことができた。

子育て支援の一環で園庭を開放し、看護師による身体測定をきっかけに育児相談につながり、地域の親子にとって良い場所になっている。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	7	9	11	10	11	14	15	17	19	21	21	21	176	14.6
1 歳児	33	35	36	36	36	36	36	36	36	36	36	36	428	35.6
2 歳児	34	34	35	35	35	35	35	36	36	36	36	36	423	35.2
3 歳児	38	38	38	37	37	37	37	37	38	36	39	39	451	37.5
4 歳児	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	30	360	30
5 歳児	36	36	36	36	36	34	34	34	34	34	34	34	418	34.8
計	178	182	186	184	185	186	187	190	193	193	196	196	2,256	188

②保育日数及び延べ出席(利用）状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
延べ人数	3,367	3,166	3,442	3,465	3,037	2,963	3,913	3,854	3,447	3,167	3,346	3,366	40,533	3,377.7
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25	292	24.3
一日平均	140.0	131.9	132.3	138.6	116.8	128.8	150.0	160.5	149.8	137.6	145.4	134.6	1,666.3	138.8
一時保育	5.0	25.5	29.5	49.5	4.0	36.0	44.0	32.5	18.0	24.0	49.0	48.5	365.5	30.4
延長保育	40	37	61	78	54	50	80	89	81	83	100	98	851	70.9
学童保育	419	534	555	559	636	485	567	524	486	418	440	478	6101	508.4
病後児	1	3	13	12	6	4	2	4	12	2	5	3	67	5.5
外国人保育	20	20	20	19	19	17	17	17	17	17	16	16	215	17.9

③職員の状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士(正･パ)	20・16	20・16	20・16	21・16	21・16	21・16	21・16	20・17	20・17	20・18	20・18	19・18
看護師(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(パ)	5	5	5	5	5	5	5	5	5	4	4	4
事務員（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
補助他・ｱﾙﾊﾞｲﾄ	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5
計	49	49	49	50	50	50	50	50	50	50	50	49

聖隷こども園こうのとり豊田

2019 年度は、10 月の消費税増税と同時期に幼児教育無償化が始まり、幼児教育の変革期となったが、磐田市や在宅・福祉サービス事業部と連携を図りながら状況に応じた適切な対応を行った。近年の子育てを取り巻く社会の変化(核家族化・少子化・子育てのメディア化等)に伴い、子育て家庭が孤立する傾向にあることを踏まえ、こども園としての役割を見出し、様々な方法で保護者支援に取り組むことが出来た。ビデオカンファレンスや話し合いを通して、教育・保育を職員皆で考え合い、協働性が高められ保育の質の向上に繋がった。

1. 入所状況

4 月に新入園児 26 名を迎えて 157 名でスタートした。年度途中は、0～2 歳児クラスへの入所が 11 名であった。また、2 号認定の園児が 1 名退園した。最終的には 2、3 号認定が定員 140 名に対して 105%、1 号認定が定員 15 名に対して 4.3%の入所率であった。

2. 年度事業目標・年度重点施策への取り組み

(ア)保育の質の向上

一人ひとりの発達・興味・行為や活動のテンポに応じた適切な援助を行う為に『緩やかな育児担当制保育』を取り入れてから 2 年目の年となり、2019 年度は、乳児クラス全てが取り組んだ。保育の様子を撮影し、職員全体でビデオカンファレンスを行い考え合いながら進めていくことが出来た。今まで以上に応答的な保育ができるようになり、一人ひとりの成長に応じた自立を促すことができる等、職員自身も実感を得ながら進めていくことができた。

(イ)　家庭と連携して子育てを共有する

保護者には、年間を通して、保育参加を奨励した。保育参加同日に担任(必要に応じて園長・主幹保育教諭も参加)と保護者との面談を実施。園での様子や家庭での子育て等について情報共有を行い、その後の教育・保育や子育てに繋げることが出来た。保育参加の効果として、教育・保育の可視化・乳児期の生活面の援助等を保育教諭がモデルとなって実践することで、子育てのヒントとなる幼児期の友達同士の関わりや成長等についての理解を深める等が挙げられる。

保護者会講演会を子育てに役立つ内容(絵本・食育について)で年 2 回実施し、多数の参加があった。講演後、保護者の連絡ノートや年 1 回実施の嗜好調査より家庭で実践する様子が見ることができ、園と家庭が共に学び合う良い機会となった。

(ウ)職員間で連携し保育の専門性を高め、働きやすい職場環境を作る

外部研修として、キャリアアップ研修・階層別研修・専門分野の研修（給食・看護・磐田保育士会部会等）・海外視察研修等に積極的に参加し、職員会議で共有した。2018 年度に引き続き、聖隷クリストファー大学の細田直哉氏により、園の教育・保育の観察、指導、アドバイスを受け、現状の課題を明確化し、課題に対する取組みを実践する事が出来た。

(エ)地域における公益的な取り組み

地域の子育て家庭に園庭を開放、ベビープログラムや育児講座（離乳食講座・幼児食相談）の場を設け、子育て相談を実施した。

(オ)環境整備・修繕

購入：2歳児保育室の職員用の棚　幼児ワゴンフック　乳幼児室内玩具他

修繕：園庭木製遊具液体ガラス保護他

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数(名)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	8	9	12	14	16	17	18	18	18	18	18	18	184	15.3
1歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
2歳児	29	29	29	29	30	30	30	30	30	30	30	30	356	29.6
3歳児	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	34	408	34.0
4歳児	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420	35.0
5歳児	31	31	31	31	30	30	30	30	30	30	30	30	364	30.3
計	163	164	167	169	171	172	173	173	173	173	173	173	2044	170.2

②保育日数及び延べ出席(利用) 状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
延べ人数(名)	3095	2948	3136	3465	2221	3104	3541	3294	3268	2958	2939	3157	37126	3093.8
保育日数(日)	24	22	25	26	21	23	25	24	24	23	23	25	285	24
一日平均(名)	133	131	129	130	116	126	130	133	132	123	129	120	1532	127.6
一時預り(名) (内こひつじ)	7 (0)	25 (15)	28 (21)	37 (19)	13 (7)	41 (20)	43 (20)	38 (16)	34 (16)	36 (20)	38 (18)	25 (12)	365 (178)	30.4 (14.8)
一時預かり（幼稚園型）	14	29	33	19	3	10	14	10	9	13	14	13	181	15.1
延長保育(名)	123	266	399	568	692	851	1026	1168	1337	1491	1634	1762	11317	943.1
学童保育(名)	159	147	157	196	235	139	140	126	140	129	97	180	1845	153.7

③職員の状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長(正)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育教諭(正)	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16
保育教諭(パ)	18	18	18	18	17	17	17	17	18	18	18	18
管理栄養士(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
看護師（パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
調理師(正・パ)	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・4	1・3	1・3
事務員(パ)	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
用務員･保育補助(パ)	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
計	47	47	47	47	46	46	46	46	47	47	47	47

野上あゆみ保育園

のがみっこくらぶ・にじっこくらぶ

保育所保育指針の改訂により全職員で『全体的な計画』を作成する上で、少人数での話し合いで発言の機会が持てるように心掛けた。園内研修は取り組みたい内容が同じ者同士で進めた。保護者との関係をテーマにするグループが他職員を巻き込むなど、保護者とのかかわりに悩みを持つ職員が多いこともあり、保護者との距離を縮める取り組みの一つとして面談フェアを新たに行った。２ヵ所の学童保育運営から、小学生を取り巻く実態が少し見えてきている。子どもの育ちや人権を守る現場で子どもたちや保護者へ何ができるかを職員と共に考えていきたい。

１．入所状況

4 月に 0 歳児 8 名、1 歳児 6 名 、逆瀬川あゆみ保育園より 4 歳児 13 名、計 27 名の新入園を迎え、106 名でスタートした。定員 90 名に対して 117.7%の入所率であった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育…障がい児（3 歳児 1 名、5 歳児 2 名）が加配対象であった。市の精神科医や臨床心理士による年間 4 回の巡回指導と職員の知識向上のための研修に協力を得た。クラスの一員としての視点を持ちつつ、場面に応じた個別の声かけや配慮を行った。

②交流…聖隷逆瀬川ディサービスセンターにてクリスマスページェントを行った。4 歳児クラスで一緒になる逆瀬川あゆみ保育園の 3 歳児クラスの子どもへは、焼き芋やクリスマスページェントに誘うなど交流する機会を設けた。

③保護者に向けて…保護者の声を直接聞けるよう新しく面談フェアを行った。希望者は数名だったが話を聞く時間を設けたことで、その後の保護者の目立った意見は聞かれなかった。保護者向けのアンケートから気持ちを吸い上げ、参加型の企画を考え行った。

④動植物…土作りから夏野菜の生長を楽しんだ。柑橘類の食べ比べでは、日にちが経っても種類の名を上げ子ども同士楽しむ姿が見られた。飼育していたカブトムシの幼虫やザリガニの卵が孵化し希望園児へ配った。苦手な保護者も保育者の声かけで持ち帰っていた。

⑤防災…訓練を様々な時間帯に行ったことで、経験の浅い職員も動きを考える機会となった。

（イ）地域のニーズに対応

①一時保育…年間を通してニーズは常にあった。また、問い合わせの電話も多数あり、登録の面接を随時行った。月平均で 131 名、一日平均約 7 名の利用実績があった。

②延長保育…18 時 16 分～19 時が 16 名、19 時以降は約 2 名の申請があった。仕事の都合などで延長申請以上の時間まで残る子どもが多かった。

（ウ） 職員研修

①年 1 回（9 月）あゆみ合同研修（発達とあそび）

②第六回宝塚保育学会は、やり方を検討し分科会形式で行った。発表グループメンバーに直接質問ができるディスカッション方式で少人数での活発な話し合いの場となったと感じる。

③保育の質を高めるため、外部研修やキャリアアップ研修に多く参加した。

④園内研修…「保護者交流」「保育の連続性を見つめなおして」「運動」「園庭」「ベビーマッサージ」「子育て支援」の 6 グループが取り組み宝塚保育学会、宝塚地区学会に参加した。

３．地域における公益的な取組

（ア）『トライやる』（中学生仕事体験活動）は中学校 2 校より、計 9 名の受け入れを行った。

（イ）園庭開放、季節の製作、寄せ植えやアロマオイル利用体験、おもちゃライブラリー、影絵などを児童館と協力して行った。保育士が企画担当をする中で、在宅で子育てをする親子の現状を知る機会を設けた。母親向けの講座なども行い、幅広い支援を目指した。

４．学童保育

4 月よりのがみっこくらぶは定員 19 名、にじっこくらぶは定員 25 名で待機児童がいる状態で始まる。それぞれ、子どものやりたい思いを聞きながら、活動を組み立てた。

【数値実績】

① 歳児別入所保育児童数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0 歳児	8	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	107	8.92
1 歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
2 歳児	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	180	15.0
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14.0
4 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
5 歳児	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	27	324	27.0
合計	106	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	107	1283	106.92

② 保育日数及び出席状況（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	1979	1981	2009	2270	1795	1873	2218	1990	2051	1884	1863	1786
保育日数	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25
一日平均	82.5	90.0	80.4	87.3	87.3	81.4	88.7	82.9	85.5	81.9	81	71.4
一時保育	125	125	134	133	110	149	164	157	129	142	144	63

③ 職員数（名）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	13	13	13	15	16	14	15	15	15	15	15	15
計	34	34	34	36	37	35	36	36	36	36	36	36
調理（委託）	6	6	6	6	6	7	7	6	6	6	6	6

野上児童館

中高生の居場所づくりとして、開館時間を延長して中高生タイムを月 1 回実施した。部活動があり、参加人数は伸び悩んだが児童館職員の声掛けや楽しめる企画を考えたことで若干の参加が見られた。来館者の保護者では、ご自身が話を聞いてもらいたいと支援を求めていることが多く傾聴のスキルアップが継続して必要だと感じる。

特技を持っている保護者に、他の保護者への講師をお願いすることで、自身が輝く場となるよう児童館のあるべき姿を広げていきたい。

１．利用状況

乳幼児並びに小学生の利用は定着し、安定した来館者数となっている。中高生の利用につながる方法として引き続き全児童へチラシの配布で児童館の存在を知らせ、利用定着を目指したい。

２．活動報告（地域における公益的な取組を含む）

（ア）乳幼児子育て支援活動

「こあら」「うさぎ」「パンダ」と 3 つのグループでそれぞれのねらいを持ち、未就園児の親子を対象にプログラムを行った。子どもの育ちを意識した内容を取り入れることで、保護者がコミュニケーションを取りやすい雰囲気作りを心がけた。ミニ運動会は、好評で多くの参加者が楽しんでいた。

（イ）小学生集団あそび支援活動

「児童館まつり」は、子どもボランティアが 13 名集まり準備から参加をした。夏休みには工作、12 月にはお楽しみ会等、目的を持って活動を行う経験も取り入れた。クッキングやランチタイムを導入し、長期休暇の時期は、昼食持参で長時間過ごせるようにした。

（ウ）中高生の居場所づくり推進事業

近隣の中学校と連携し、「赤ちゃん学校へ行こう」へ 20 名が参加した。中学生と乳児の触れ合いは、とても有意義なものであると感じた。中高生向けのお菓子作りを予定したが新型コロナウィルス感染防止のため休館となり行うことができなかった。

（エ）実習生やボランティアの受け入れ

中学生の職業体験活動 6 名、実習生 1 名を受け入れた。

（オ）運営委員会の充実

運営委員会は、年間 3 回行った。出席者との意見交換を取り入れ率直な意見を傾聴した。

３．職員の資質向上

外部研修に参加し個々のスキルを高めるよう意識を持ち、研修で学んだことを職員会議で共有する場を設けた。課題やケースについて、各職員の考えを共有しながら方針を決定するようにした。

また、宝塚市内の各児童館が連携して行う事業（ミニたからづか）に参加することにより、

他児童館と交流を持つことで、職員のスキルアップにつながった。

【数値実績】

① 利用状況　本館　（単位：名）

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
4 月	380	544	38	3	965	378	1343	24	55.96
5 月	390	317	6	0	713	382	1095	22	49.77
6 月	452	384	3	0	839	447	1286	25	51.44
7 月	461	1061	18	2	1542	497	2039	26	78.42
8 月	576	977	31	0	1584	551	2135	25	85.40
9 月	483	318	0	0	801	436	1237	23	53.78
10 月	564	288	4	0	856	500	1356	24	56.50
11 月	508	204	10	0	722	428	1150	24	47.92
12 月	679	389	39	0	1107	439	1546	24	64.42
1 月	410	224	16	0	650	357	1007	22	45.77
2 月	407	257	9	0	673	381	1054	23	45.83
3 月	15	13	1	0	29	11	40	1	40
計	5325	4976	175	5	10481	4807	15288	263	58.13

② 利用状況　出前児童館　（単位：名）

	常設　型				派遣　型				イベント型
	回数	就学前	小学生以上	大人	回数	就学前	小学生以上	大人	回数
4 月	14	149	1	126	2	1	52	0	0
5 月	13	129	0	120	2	4	103	0	0
6 月	14	127	0	117	2	3	133	0	0
7 月	14	152	0	129	2	3	53	0	0
8 月	14	102	1	84	2	0	0	0	0
9 月	13	144	0	128	2	5	158	0	0
10 月	14	152	0	136	2	4	94	7	0
11 月	13	159	0	156	2	1	41	6	0
12 月	12	124	0	103	2	2	178	0	0
1 月	13	136	0	121	2	2	173	2	0
2 月	13	138	0	117	2	2	146	2	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	147	1512	2	1337	22	27	1131	17	0

＊3/3 より新型コロナウィルス感染防止により、休館となる

逆瀬川あゆみ保育園

「子どもが安心して過ごせる環境作り」に取り組む中で「今、子どもが興味関心を持っていること」にポイントを絞り、環境構成を作ることを園全体で取り組んだ。中でも子どもの発達と玩具については、グループを作って定期的に勉強会を開き、学びを重ねた。その上で、保育に活かし、その成果を学会で発表をすることができた。このことは、ひとり一人を大切にする保育につながるため、今後も継続して取り組む。

10 月より幼児教育・保育の無償化が実施された。対象人数が少ないこともあり、特に問題なく進めることができている。2 月から年度末にかけて新型コロナウィルスの感染拡大防止のために「卒園式」など行事の簡素化や育休中の家庭に家庭保育の協力を仰いだ。今後も状況の変化に柔軟に対応していけるよう、あらゆることを想定しながら運営をしていくことが必要となる。

１.入所状況

4 月に新入園児（0 歳児 9 名、1 歳児 2 名、2 歳児 1 名）12 名を迎え、計 51 名でスタートした。

２.重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

3 歳児は、加配児と共にひとり一人の違いを認め合う保育の実践に努めた。2 歳児は、臨床心理士による巡回指導を受け、集団で過ごす中で配慮が必要だと感じる子どもの保護者に個人面談を行い、2020 年度の加配対応へとつなげた。

②世代間交流

花の日や収穫感謝祭には近隣のデイサービスセンターへ訪問し、高齢者とふれあった。野上あゆみ保育園との交流も 3 歳児を中心に定期的に行ったが、コロナウィルスの影響で、年度末に予定していた同園への進級を見越した交流は中止することとなった。

③食育

3 歳児は、月 1 回のクッキングを行った。また野菜や果物の形や色、香りや感触を確かめる体験（りんごの食べ比べ等）をし、季節を感じることができた。定期的に開催することで、子どもたちの食への興味も増している。1，2 歳児もおやつのおにぎりを自分でにぎったり、果物の皮むきを目の前で見たりと積極的に食育活動を行った。

（イ）保育ニーズに対応

①延長保育

18 時 15 分～19 時の延長保育を行い、一日平均約 6.4 名の利用があった。19 時の迎えに間に合わない場合は、ファミリーサポート等を利用することで対応している家庭も増加している。

②一時保育

年度初めに積極的に新規の受け入れを行い、その後も継続的に受け入れをしたことで、例年より多くの利用人数となった。非定型の家庭の多くが幼稚園に進級していくため、次年度以降新たに新規の受け入れが必要となる。

（ウ）地域における公益的な取組

①中学生体験活動「トライやるウィーク」で市内 2 校の中学 2 年生、保育実習生 3 名を受け入れた。

②園庭開放は週 1 回、室内開放は月 6 回実施し、親子の憩いの場を提供した。室内開放はニーズが多いため、より多くの親子が利用できるよう 2020 年度は登録方法を変更する。保育士がプログラムを作成し、地域の保護者と交流する中で情報発信や収集を行った。

（エ）保育室環境の改善、施設整備

地階ホールのエアコンが故障したため、新しく設置した。不特定多数の人がビル内に出入りするため、不審者対応として、玄関と職員通用口に防犯カメラを設置した。

【数値指標】

① 歳児別入所保育児童数

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10月	11月	12月	1 月	2 月	3 月	計	月平均
0 歳児	9	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	141	11.75
1 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
2 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
3 歳児	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168	14
合計	51	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	54	645	53.7

② 保育日数及び出席状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
延べ人数	945	944	975	1133	878	947	1101	1019	1063	958	941	934
保育日数	24	22	25	26	26	23	25	24	24	23	23	25
1 日平均	39.38	42.91	39	45.58	33.77	41.17	44.04	42.46	44.29	41.65	40.91	37.36
一時保育	94	111	132	126	100	124	148	134	118	138	149	86

③ 職員の状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13	13
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
パート	16	16	17	18	18	18	18	18	18	18	18	18
計	32	32	33	34	34	34	34	34	34	34	34	34
調理（委託）	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4

御殿山あゆみ保育園

2019 年度「一人ひとりを大切に」を園目標に掲げ取り組んだ。また、園目標に繋がる「聖隷福祉事業団の理念継承」にも意識を持ち、施設見学に行く職員も含め全体に伝える機会を設けた。保育環境を整えるために各クラスで成長発達にあわせた玩具の購入や全体としては乳児クラストイレの温便座のとりつけ、エアコンの全取り替え、園庭の日よけ取り付け工事などにも着手した。世代間交流として近隣のデイサービスの方々にクリスマスページェントを見に来ていただいたり節分に鬼の面をつけて訪問した。ただし３月についてはコロナウィルス感染防止のためにデイサービス利用者との交流は出来なかった。

１．入所状況

4 月に 31 名の新入園児を迎え、計 131 名（緊急枠含む）でスタート。0 歳児クラスは在園児兄弟が多く 5 月で定員の 15 名となった。

２．重点目標及び重点施策への取り組み

（ア）保育内容

①統合保育

障がい児は、5 歳児クラスに 3 名、4 歳児クラスに 1 名、3 歳児クラスに 2 名が在籍した。年間 2 回の専門医による巡回指導を受け、専門機関と連携を取ることができた。また、保護者との面談も定期的に行い、コミュニケーションを図った。発達心理相談員による年 3 回の巡回指導により、困惑する事が多い子どもの対応について助言を受けた。講義にも参加し、全職員に周知した。月に１度ケース会議をもち状況の共有を行った。

②危機管理・防災

危機管理委員会・防災委員会を月に１回行い、ヒヤリハットや危険個所の検証、職員への周知、防災用品の検討や購入など様々な取り組みを行い職員の意識向上に努めた。

③食育

管理栄養士から次月メニューの食材説明（旬の物など）や、自分たちで収穫した野菜のクッキング等を通して食べ物への関心が高まった。

（イ）地域のニーズに対応

①延長保育

7 時～7 時 30 分、18 時 15 分～19 時の延長保育を行った。登録者は、4 月からずっと、6 名のままだった。18 時 15 分までは子どもの利用が沢山あるが、過ぎると極端に減り、保護者も料金のかからないい 18 時 15 分にあわせて迎えに来ていた。

②一時保育

4 月のスタート時は、非定型児の利用が多く 3 月まで長期継続したため、大きな利用者の増減も無く、安定した利用人数であった。慣らし保育や人見知りの強い児童には、特定の職員が関わるようにし、信頼関係を築き親子共に安心して利用できるよう努めた。

③子育て支援

室内開放、園庭開放、子育て講演会、親子ふれあいあそび、離乳食試食会、看護師によるミニミニ講座や子育て相談を行った。開放に参加し、在宅保護者の悩みやニーズを聴く機会を設けた。子育て支援は、延べ 1497 名の参加があった。

（ウ）保育環境の改善、施設整備

園庭ひよけ設置部分工事、プールの再塗装、コット棚扉等修理、エアコン全面とり替え工事定期的に保育環境の見直しを行った。

（エ）職員研修

園内研修は、危機管理やわらべうたなどを行った。資料を配布し、自主学習を促した。「第５回宝塚保育学会」を開催し、グループごとに研究を行い各学会や園内で発表した。また、外部研修への積極的な参加や外部講師を招いて保育環境についても学んだ。

３．公益的な取り組み

「中学生仕事体験活動」は近隣中学生４名、短大保育科の保育実習は２名、インターンシップは大学生１名を受け入れた。行事で近隣高齢者デイサービスへの訪問も行った。駐車場を開放し、高齢者に対してお花見のできる場を提供した。

【数値実績】

①歳児別入所保育児童数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	月平均
0歳児	14	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15	179	14.9
1歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
2歳児	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288	24.0
3歳児	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300	25.0
4歳児	18	18	18	18	18	18	19	19	19	19	19	19	222	18.5
5歳児	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	26	312	26.0
合計	131	132	132	132	132	132	133	133	133	133	133	133	1589	132.4

②保育日数及び出席状況

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
延べ人数	2,317	2,529	2,416	2,339	2,070	1,973	2,513	2,430	2,222	2,119	2,308	2,344
保育日数	24	24	26	25	26	23	26	24	23	23	23	25
一日平均	96.5	105.4	92.9	93.6	79.6	85.8	96.7	101.3	96.6	92.1	100.3	93.8
一時保育	117	119	140	137	130	123	163	167	132	139	149	145

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
パート	16	17	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
計	39	40	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
調理(委託)	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5

③職員数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
施設長	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
保育士	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19
看護師	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
事務員	2	2	2	2	2	1	1	1	1	1	1	2
パート	16	17	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20
計	39	40	43	43	43	43	43	43	43	43	43	43
調理(委託)	7	8	7	7	7	7	7	7	7	7	7	5

御殿山児童館

2019 年度は、乳幼児親子プログラムに力を入れて取り組んだ。継続的に実施される「リトルきらりん」、「ベビーきらりん」を中心に保護者同士の仲間作りを意識して、事業に取り組むことができた。また、「ママのリフレッシュタイム」では新たなことに挑戦し、ベビーダンスやリトミック遊びなど、たくさんの方に好評を得た。

児童健全育成プログラムでは、子どもたちの声を大事に、ひとりひとりの声をしっかりと聴くように丁寧に対応した。プログラムも見直し、参加しやすい環境、時期を整えた。その結果、多くの小学生が参加でき、充実したプログラムを提供することができた。

年長児童健全育成プログラムでは、子どもたちが自分たちで考え行動することを目標に中高生タイムを行った。月 1 回のクッキングでは参加したことのある中高生がお手本となり、手洗いや調理を子どもたちで行うことができた。昨年より実施しているカラオケは、自分たちで用意し、楽しみ、片付けも自分たちで行うなど成長を感じることができた。

３月はコロナウィルス感染拡大防止対策の為児童館業務の縮小からはじまり閉館に追い込まれた。そのため利用者の数字は激減した。

【事業・運営状況】

1. 地域との連帯の強化

（ア） 地域との関わりを深め協力体制をとれるよう地域の会議に出席し、児童館での利用者の様子や気になる親子・児童についての情報の共有と連携に努めた。また、子どもたち、地域の方にボランティアとして関わってもらい花壇の整備等の活動を充実させることができた。

2. サービスの質の向上

（ア）乳幼児親子を対象とした子育て支援プログラムは、参加したい親子すべてが参加できるよう内容や時間帯などを工夫するとともに、発達年齢に応じた遊びや仲間作り活動を提供し「子育ち」・「親育ち」を支援した。

（イ）小学生を対象にした集団あそび支援プログラムについては、運動遊びや自然体験活動・創作活動や視聴覚活動等、みんなで楽しく遊べる内容の充実を図り、様々な体験を通じての仲間作りを行った。また、事業への参画活動も行った。

（ウ）中高生を対象にした居場所づくり推進事業では、毎週１回開館時間を延長して行った。月に１回のクッキングでは、「生きる力」を養うことを目的に、自分ひとりの力で作ることができるメニューを提案している。毎回たくさんの中高生が参加し、「家に帰って家族にふるまった」など嬉しい声が聞くことができた。

（エ）出前児童館事業として、児童館が近隣にない地域に出向き、地域住民のより身近な居場所作りと、地域の子育て力の向上に繋がる、遊びのノウハウの提供や安全管理の指導を行った。

（オ）図書推進活動では図書委員を設置し 2 年が経過し、絵本や、本の知識を深めることができた。年代別に推薦する図書を利用者に紹介するなど、来館者の絵本、本への関心を高めることができた。

（カ）利用者の声をより集められるように意見箱を設置した。貴重な意見は職員会議等で話し合い検討し、対応できる案件は対応をした。

3. 職員の資質向上

（ア）宝塚市児童館交流研修に参加し、技術や実施プログラムの内容の向上に努めた。

（イ）児童館事業に携わる職員全員が同じ方向性で取り組んでいけるように、月 1 回の職員会や担当（乳幼児・小学生・中高生・出前）ごとの部会を行い話し合いの機会を持った。

4. 公益目的事業

（ア）「トライやるウィーク」（中学生社会体験活動）では中学校の生徒 6 名、聖和短期大学の保育実習では 2 名を受け入れた。

【延利用者数】

	就学前	小学生	中学生	高校生	こども計	大人	合　計	開館日数	一日平均
4 月	1,120	1,152	297	54	2,623	659	3,282	24	136.75
5 月	1,077	659	159	50	1,945	615	2,560	22	116.36
6 月	1,060	717	206	46	2,029	726	2,755	25	110.20
7 月	958	1,296	283	70	2,607	861	3,468	26	133.38
8 月	789	1,405	216	82	2,492	728	3,220	25	128.80
9 月	1,058	573	129	28	1,788	733	2,521	23	109.61
10 月	1,111	466	128	40	1,745	655	2,400	24	100.00
11 月	1,123	423	181	45	1,772	632	2,404	24	100.17
12 月	1,026	515	153	60	1,754	626	2,380	24	99.17
1 月	907	527	91	42	1,567	544	2,111	22	95.95
2 月	913	367	86	47	1,413	590	2,003	23	87.09
3 月	48	7	0	2	57	28	85	1	85.00
計	11,190	8,107	1,929	566	21,792	7,397	29,189	263	110.98

【出前児童館回数・利用者数】

	常　設　型				派　遣　型				ｲﾞﾝﾄ型
	回数	就学前	小学生	大人	回数	就学前	小学生	大人	回数
4 月	4	74	0	62	7	23	44	23	0
5 月	3	54	0	45	9	38	200	35	0
6 月	4	55	0	47	10	28	207	26	0
7 月	4	70	0	61	8	27	69	22	0
8 月	4	63	0	51	5	20	23	18	0
9 月	4	85	0	66	7	23	176	23	0
10 月	4	76	0	52	7	23	146	21	0
11 月	4	64	0	47	7	15	219	13	0
12 月	4	74	0	61	7	22	73	19	0
1 月	3	45	0	35	7	17	117	16	0
2 月	3	64	0	52	7	20	128	19	0
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	41	724	0	579	81	256	1402	235	0

高齢者公益事業部

浜名湖エデンの園の耐震対策建替工事は4号館増築部の建設、1・2号館の解体を経て2019年3月から新1・2号館の建設が始まり、2020年5月にグランドオープンの予定である。新1・2号館は建築基準法の基準値に対して1.5倍の耐震強度があり、厨房機器には非常用電源を備える。2017年9月の起工式から2年半を超える長期の工事にご理解ご協力をいただいた入居者、地域の方々、関係業者、職員に深く感謝申し上げる。

2019年度は標準サービス（当事業部の運営する有料老人ホームが入居者に提供するサービスの基準）でサービスの「量」を確定した。有料老人ホームは事業者の創意工夫によりサービスの独自性を打ち出して高齢者の多様なニーズに対応ができる反面、サービスの自由度が高いがゆえ、事業者が提供するサービスと入居者が期待するサービスに差異が生じかねない面がある。自立期から終末期まで、入居契約等で入居者に約束したサービスを当事業部のすべての有料老人ホームで過不足なく提供するため、可視化した標準サービスを確立する。

2020年2月以降、全施設で新型コロナウイルス感染症対策のため入園制限、入居者全体会や行事の開催自粛等、長期にわたって入居者の生活に不便をかけている。入居検討者向けのセミナーや見学会等も中止せざるを得ない状況となった。これらは入居者、職員の安全を守るために最善を尽くすために実施したものである。予測困難な自然災害への対策とともにインフルエンザやノロウイルスを超える感染症への対策を講じる必要性を認識させられた。

１．聖隷理念の継承とエデン価値の進化

浜名湖エデンの園の耐震対策建替工事を遂行したことは、エデンにとって理念につながる「永続性」を示すことができ、大きな成果となった。また、この工事が有する意義は、有料老人ホームとしては全国初となる本格的な建替工事であるという点にもある。今後の事業部内の各施設の建物更新にとどまらず、他法人の有料老人ホームの建替工事等の参考になるものだと考えている。

２．経営の安定と永続性の確保

2019年度の入居契約は、契約件数128件で予算を達成できたが、契約金額は38億8千万円で予算未達となった。2020年2月以降は新型コロナウイルス感染症の影響で入居者募集活動は実質的にほとんど行うことができなかった。

横浜エデンの園は要介護認定者が入居される有料老人ホームだが、特別介護金が入居時自立の施設と同一の価格設定だった。適正な収支を維持するため、行政と事前協議のうえ入居者向けの説明を実施し、2020年4月から価格改定を行うこととした。

３．人材の採用・育成・定着の強化

人材の採用が困難な地域については、関東・関西採用センターとの連携により、職員採用に結びつけた。また、人事異動等で対応するとともに、人材の採用を支援する制度を整備した。

2017年度から在宅･福祉サービス事業部と共同で実施しているノルウェー研修は3回目となり、2018年度に引き続き各施設介護部門の中堅職員4名を派遣した。日本老人福祉財団との交流研修

は5年目を迎え、2019年度は係長級の職員計7名が参加した。

４．サービスの質・安全・効率の向上

標準サービスは、2019年10月にサービスの「量」を確定した。引き続き、事業部の各サービス責任者会を通じて標準サービスの「質」を洗い出し、可視化に取り組んでいる。この「量」と「質」の評価基準を作成し、事業部として各施設のサービスを定期的に評価できる体制づくりが今後の課題である。

慶應義塾大学SFC研究所と共同研究を深め、当事業部の各施設で活用できるEOL（End of Life）ケアの質改善ツールを開発し、2020年度に藤沢エデンの園で入居者・家族を対象とした予備調査を実施することとなった。

５．新しい時代に向けた先駆的・開拓的な事業の発想

新規開設に向けた検討、視察等を重ねているが、2019年度も具体化には至っていない。団塊世代が後期高齢者となる2025年に向けて有料老人ホームの市場規模は確実に伸びるため、当事業部の最重要課題として2020年度も引き続き取り組みたい。

即時に情報共有できるインカム（無線機）は、2019年度に1施設で導入し、計6施設での導入が完了した。ETS2020（EDEN TOTAL SYSTEM 2020・業務基幹システム）は2019年8月から各施設に順次導入し、2020年1月に全施設で稼働が完了した。2020年度は入居者募集システム等の付加機能を開発のうえ導入する予定である。

６．地域における公益的な取組

自治体や地域自治会等との災害時の協定は9施設で締結しており、2019年度は地域との防災訓練に4施設が参加した。各施設では、介護フェスタ、専門職による介護講座、認知症講演会、認知症サポーター養成講座、納涼祭、地域の清掃活動等を行った。地域にとって良き隣人であり続けるため、地域に開かれた施設運営を推進した。

【数値実績】

（直営施設）		浜名湖	宝塚	松山	油壺	浦安	横浜	藤沢1	藤沢2	計
目標件数		21件	27件	13件	30件	20件	9件	5件	3件	128件
募集実績		15件 17名	27件 30名	8件 9名	30件 38名	22件 29名	10件 10名	9件 11名	7件 7名	128件 151名
入居率	期首	94.0%	91.9%	87.0%	92.0%	92.9%	94.0%	97.1%	74.0%	92.2%
	期末	93.7%	92.2%	88.0%	94.8%	94.6%	90.0%	97.6%	82.0%	92.9%

サービス活動収益	9,341,071千円

介護付有料老人ホーム　浜名湖エデンの園

2019 年度は、1.2 号館耐震対策建替工事の本体工事が本格的に始まった。工事は、入居者にはもちろん、近隣施設や地域住民の安全を最大限図りながら着実に行い、予定通り 2020 年 4 月に新 1.2 号館の竣工・引き渡しを迎える運びとなった。また、新 1.2 号館への新入居希望者も早い段階から申し込みが始まり、2020 年 3 月末時点でほぼ満室に近い状況を達成できた。5 月の新 1.2 号館グランドオープンに際しては、内外向けのイベントも計画され、3 年以上に及ぶ工事の区切りを、入居者や職員と祝う節目となるはずであった。しかし、2020 年 1 月頃から始まった新型コロナウイルスの感染拡大により、ウイルスの園内への侵入防止対策が最重要課題となり、入居者の生活に様々な制限をお願いせざるをえなくなり、企画していたイベントや通常のサービス等はほとんど中止となってしまった。

その他、消費税増税(2019 年 10 月)及び 16 年ぶりとなる食事料金値上げ（2020 年 1 月）など、入居者に負担増をお願いする特別な出来事についても、大きな混乱もなく対応ができた。

サービス面では、基本的考え方のパーソン・センタード・ケアを中心に、新たにアドバンス・ケア・プランニング（ACP）の取り組みを全課で開始した。また、介護予防運動教室については、個別化や体力に合わせたプログラムに変えることで、サービスの質と入居者満足度の向上を図った。

経営面では、工事による赤字収支の中でも、適切なタイミングでの介護保険申請や区分変更を進め、介護保険収入は予算を大きく上回った。また支出については、経費削減に努めた結果、2018 年に比べ、収入で 2.9%増加、支出で 1.6%削減できた。

１．個人の意思を尊重したエデンオリジナルサービスの確立と実践

（ア）パーソン・センタード・ケアの考え方に基づくサービスの実践には継続して取り組んだ。

（イ）ACP カンファレンス、デスカンファレンス等を通じて、その人らしい生活を支える取り組みを推進できた。

（ウ）アドバンス・ケア・プランニング（ACP）の取組みを全課で開始した。

（エ）事業部で設定した「標準サービス」との比較により、現行の浜名湖エデンの園のサービスを検証した。

２．次世代を担う人材確保と育成

（ア）園内研修等を通じて「聖隷理念」「施設理念」の継承・発展させる人材育成に取り組んだ。

（イ）「働き方改革」に基づいた超過勤務の削減と有給休暇取得率の向上に効果をあげた。

（ウ）障がい者雇用等で新たに 2 名を雇用し、定着もできるなど、一定の成果を得た。

（エ）園長が職員全員との面談を行い、職場の問題点を把握し改善につなげられた。

３．安定した経営基盤の確立と事業の永続性の確保

（ア）募集担当を中心に園全体で募集活動に取り組み、新 1・2 号館居室はほぼ満室が見込めた。

（イ）各課で業務改善を実施し、食事サービス課やケアサービス課で目に見える改善ができた。

（ウ）管理会議で毎月の経営報告と介護収支を追加して経営理解を深めた結果、予算を大きく上回る赤字削減が達成できた。

４．安全管理の徹底を図ったサービスの提供

（ア）リスク発生時の対応と予防の取り組み強化には継続して取り組んだ。

（イ）実践に近い形で防災・感染予防・行方不明捜索訓練を実施できた。

（ウ）新型コロナウイルスへの対応については、作成済みの新型インフルエンザ等についての BCP（事業継続計画）を適用し、適切に対応ができた。

（エ）インカム等を活用して、精度の高い情報共有に取り組んだが、更なる取り組みが必要である。

５．入居者が暮らしやすい新しい浜名湖エデンの園づくり

（ア）2020 年度グランドオープンに向けた運用検討を行い、課題を共有、解決することができた。

（イ）工事に伴う入居者への精神的支援とサービス体制づくりについては、高齢者公益事業部の支援も得ながら取り組んだ。

（ウ） サービスカーの定員拡大等を目的に、車両をマイクロバスに変更する計画を立てた。

６．地域における公益的な取組

2018 年度に登録をした「浜松ささえあいポイント事業ボランティア受入施設」を継続した。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	311 戸（53）戸	108 名	256 名	364 名

表２：地域別契約状況

	北海道	東北	関東	中部	近畿	中国	四国	九州	計
人数	1 名	1 名	62 名	281 名	14 名	3 名	0 名	2 名	364 名
構成比	0.3%	0.3%	17.0%	77.2%	3.9%	0.8%	0%	0.5%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	25 名	71 名	95 名	76 名	56 名	30 名	7 名	4 名	0 名	364 名
構成比	6.9%	19.5%	26.1%	20.9%	15.4%	8.2%	1.9%	1.1%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
84.4 歳	83.1 歳	84.9 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	9 名	12 名	(12) 名
女	9 名	12 名	(12) 名
計	18 名	24 名	(24)名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	113 名	11	17	44	11	13	12	5
期末人数	120 名	20	7	45	16	19	8	5
月平均人数	123.0 名	17.8 名	14.3 名	46.3 名	16.1 名	13.3 名	10.3名	4.9 名

サービス活動収益（入園金・施設有料・診療所）	1,257,714 千円

ウェル・エイジング・コミュニティ　宝塚エデンの園

2019 年度は 40 周年という節目の年であり、理事長講演を含めた開園祭を始め、様々な企画行事を立案し入居者サービスに努めた。また、サービスの標準化に伴う生活支援サービスの見直しなど、大きな業務改革を起こした年度でもあった。

具体的には新たな業務基幹システム（ETS2020）が導入され、タブレットによる事務所外での入力作業が可能になった事など大きな業務効率に繋がった。また、一般居室ケアサービス課の業務のうち事務職員でも対応可能な業務を明確にし、業務の再構築を試みることができた。最低賃金が高騰する中、介護職員確保は益々困難になると思われ、引き続き検討を継続したい。

2019 年度の募集活動は新入居 27 件 31 名と目標の契約件数を達成する事ができた。しかし退去者数は 33 名と、2017 年度、2018 年度に続き多くの逝去による退去が続くこととなった。その中でも年度末の入居率は 92.2％と年度当初より 0.3 ポイント上がる結果となった。

１．入居者満足の向上

（ア）喫煙室を廃止し談話室を増設することで、より多くの入居者が利用可能な環境を整えた。

（イ）C 棟大食堂内の椅子・テーブルを更新し、環境改善に努めた。

（ウ）入居者情報を共有する「私の軌跡」の仕組みを構築し、運用に向けて進める事ができた。

（エ）外部講師を招聘し接遇勉強会を開催した。また事務職員による不適切ケア、身体拘束の有無の巡回を行い、別の視点でチェックする仕組みが確立できた。

（オ）園の取組みや計画などについて、引き続き入居者運営懇談会を通して情報共有を継続することができた。また、介護保険サービスの料金、一般居室入居者へのケアサービス内容、外部病院入院時の注意事項など、情報を提供することができた。

２．職員満足の向上

（ア）入居者の要介護度が上昇傾向にある中、業務内容精査のもと事務部門・ケア部門の業務を再構築し、より質の高いケアサービスの提供に向けての体制を進めることができた。

（イ）複数職場によるカンファレンスが定期的に開催され、密な職場間・職員間連携を実践することができた。

（ウ）No 残業デーの取組みを定期的に確認する事で職員の意識と実施率の向上につながった。また、ETS2020 の更新によりタブレットによる入力が事務所外でも可能となり、記録業務の短縮を図ることができた。

３．健全経営体制の維持

（ア）新規入居契約は 27 件、31 名と目標通りの入居契約を締結することができた。しかし退去者数は 33 名であり、期末入居率は 92.2％と目標の 93％に未達であった。

（イ）附属診療所は、外来・入院とも予算未達であった。特に入院部門はレスパイト入院の対象入居者が少なかったことが影響し、予算 13.0 人に対し 10.6 人となった。

（ウ）全国有料老人ホーム協会の第三者評価を受審し、高い評価を受けることができた。

（エ）夏場には職員スペースの冷房運転を 11 時～13 時の間停止することで、契約上限の電力を超えることなく、対応することができた。

４．安全・安心な暮らしの提供

（ア）専用入館証を廃止したことで全ての入館者の管理が可能となり、精度の高い感染予防、防犯予防が行えることとなった。

（イ）園内の防犯カメラの更新及び追加設置を行い、不審者侵入の抑止力となる対応が行えた。

（ウ）食事に関する意見書を職員が可視化できる仕組みに変更し、入居者からの意見をより早く認識できるように変更した。また、各職場で検討したインシデント・アクシデント報告に対する対策を、全課で共有し内容を精査する運用を更に深めた。

５．地域における公益的な取組

（ア）自治会と防災訓練、防犯カメラの設置を進め、より高い連携を構築することができた。

（イ）宝塚いきいき百歳体操推進事業に参画し、地域の介護予防普及啓発に努めた。当園は逆瀬川地域を担当し、ケアマネージャーとリハビリテーションスタッフによる事例検討３回、地域住民に対しての運動指導２回、運動指導リハビリテーションスタッフによる課題検討会１回に参加。地域に根付いた活動に協力することができた。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	376 戸（55 戸）	99 名	332 名	431 名

表２：地域別契約状況

	近畿	関東	東海	甲信越	中国	北海道	北陸	四国	九州	計
人数	374 名	19 名	18 名	2 名	8 名	1 名	2 名	5 名	2 名	431 名
構成比%	86.7%	4.4%	4.1%	0.5%	1.9%	0.2%	0.5%	1.2%	0.5%	100%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	28 名	67 名	110 名	97 名	68 名	44 名	15 名	2 名	0 名	431 名
構成比%	6.5%	15.5%	25.5%	22.5%	15.8%	10.2%	3.5%	0.5%	0%	100%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.5 歳	82.4 歳	83.9 歳

表５：入・退去状況

人数	入居	退去	（死亡退去）
男	8 名	14 名	14 名
女	23 名	19 名	17 名
計	31 名	33 名	31 名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
期首人数	103.1 名	7.5 名	7.2 名	32.1 名	22.7 名	16.4 名	11.8 名	5.4 名
期末人数	101.0 名	9.0 名	5.8 名	29.5 名	23.9 名	19.7 名	10.1 名	3.0 名
月平均人数	107.8 名	8.2 名	8.1 名	31.8 名	23.3 名	18.9 名	13.9 名	3.6 名

サービス活動収益（入園金・施設有料・診療所）	1,685,144 千円

介護付有料老人ホーム　松山エデンの園

2019 年度においては、園の目標とする施設の将来像である開園 50 年に向かって園運営を安定させ、安らぎの住まいを継続して提供していく為の基本構想を策定し、各施策を達成する為の計画を示すはじまりの年であった。新規入居者獲得による入居率 90%達成を目指した。新規入居が 9 名となり、入居率の予算達成は実現できなかったが、募集体制の見直しや新たな広報の取り組みなど 2020 年度に繋げる活動となった。人材確保については、次世代を担う職員の採用から育成に向けた課題解決に取り組むことができた。2018 年のような自然災害は発生しなかったが、建物の計画的な修繕と防災対応の強化は、2020 年度も継続して対応しなければならない。

新型コロナウイルスの発生により、年度末においては満足のいくサービス提供ができない状況となってしまったが、入居者と職員の安全を守ることを第一に考えた対応が結果的に入居者の信頼を深める事につながったと感じている。2020 年度は開園 40 周年を迎える。地域と共に歩んできたエデンの園の歴史を継続できるよう職員一丸となってよりよい運営に取り組んでいきたい。

１．安定した園運営を永続するための入居率の向上

（ア）新規契約戸数 11 戸 13 名を目標としたが、8 戸 9 名であった。

（イ）園内行事に招き、実際の園生活を楽しみながら体験していただく募集活動ができた。引き続き入居者の声が届く募集活動を行っていく。

（ウ）介護棟への直接入居検討者の見学から、1 名入居契約を行った。

２．人材の育成

（ア）職員が人材紹介できる環境づくりを行い、欠員補充を行うことができた。

（イ）次世代を担う職員が積極的に自ら取り組める育成体制の整備を行った。

（ウ）入居者が安心安全に暮らせるエデンであり続けるため、職員倫理・接遇の研修を実施した。

（エ）全体研修や各課の職員と入居者が交流できる園内行事を開催した。

３．よりよいサービスの提供

（ア）定期的な居室訪問で入居者のニーズを聞き取り対応する中で、入居者へ寄り添う支援の実施に取り組んだ。

（イ）認知症予防や介護予防の講演の実施、体力測定や体操教室等の活動から入居者が継続して健康管理を行える積極的支援に力を注いだ。

（ウ）食事メニューの改善や新たな取組等、おもてなしの心を大切にした食事満足度向上、喫食率が向上する食事提供を目指した。また、ケアサービス課と連携して入居者が最期までおいしく食べることができる食事を提供するように努めた。

（エ）ターミナルケアは、プランの作成・実施・評価から介護居室における看取りの意向について、自立時からの意思確認を各職員が共有し、取り組むことができた。

４．安心・安全な施設環境づくり

（ア）苦情やリスクに迅速に対応できるよう職場間の連絡体制の見直しを行った。2020 年度からは、インカム、無線機等の新しいシステムを活用し、園全体で対応できる対応を目指す。

（イ）土砂災害について、自治体の協力要請や体制の整備に積極的に取り組んだ。
松山ベテル病院と連携して防災体制の強化を継続して対応していく。

（ウ）各感染予防対策の見直しを行い、フェーズシートを用いた訓練を実施した。

５．地域貢献・交流の推進

（ア）2019 年度は地域、聖愛会と合同の防災避難訓練や防犯訓練を行った。

（イ）2018 年に引き続き松山ベテル病院と合同研修や学会発表を行い、専門性を高めあう交流連携を深めている。

６．地域における公益的な取組

（ア）市民清掃、地方祭等、地域との交流活動を積極的に行った。

（イ）地域の方が講演や介護予防活動に参加した。2020 年度も引き続き開催する。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	125 戸（14 戸）	42 名	97 名	139 名

表２：地域別契約状況

	四国	近畿	関東	東海	九州	中国	計
人数	111 名	11 名	8 名	5 名	1 名	3 名	139 名
構成比	79.9%	7.9%	5.8%	3.6%	0.7%	2.1%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	7 名	30 名	41 名	23 名	22 名	8 名	4 名	3 名	1 名	139 名
構成比	5.0%	21.6%	29.5%	16.5%	15.8%	5.8%	2.9%	2.2%	0.7%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.96 歳	83.55 歳	84.37 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	3 名	5 名	(5) 名
女	6 名	8 名	(8) 名
計	9 名	13 名	(13) 名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	57 名	18 名	2 名	9 名	6 名	10 名	8 名	4 名
期末人数	60 名	19 名	3 名	10 名	4 名	11 名	6 名	7 名
月平均人数	57 名	19.3 名	3.2 名	9 名	3.4 名	11.8 名	6.4 名	3.9 名

サービス活動収益（入園金・施設有料）	508,967 千円

介護付有料老人ホーム　油壺エデンの園

2019年度は、募集活動の充実とメディア再々放送の効果もあり、何とか予算件数を達成できた。セミナーなど募集活動への入居者協力に感謝申し上げるとともに、テーマ、ポイントを絞った見学会など職員努力によるものも功を奏した。

運営面ではETS2020（業務基幹システム）がスムーズに稼働され、さらにサービス内容の可視化や適正化を図る準備が整った。設備整備については、5か月に及ぶ6,7号館改修工事や南共用棟の空調更新など計画改修については混乱なく実施できた。また、経営面では入居率こそ向上したが、慢性的な診療所の収益減により、施設会計は非常に厳しい結果となった。施設会計の改善は入居率向上や診療所の経営改善が必須であり、さらなる募集活動や診療所体制の立て直しを図りたいが、何よりも新型コロナウイルスから入居者、職員を守ることが最優先課題である。

１．安心、安全を基盤としたサービスの質向上

（ア）　トータルサービス提供のための部署間連携は、少しずつ取れつつある。

（イ）　ETS2020稼動によりサービスの可視化や適正化が図れた。

（ウ）　自立者向けの行事は充実したが、フレイルの方向けや入居者参画型企画が望まれる。

（エ）　喫食率を向上させる検証や広報、アイデア創出に期待したい。

（オ）　拘束・虐待等の権利擁護についての定期研修は実施できた。

（カ）　リスクマネジメントは、骨折事例は減少したが対策立案の検証が必要である。

２．自ら考え行動できる職員の育成

（ア）　職場環境については、定期的な職場巡視を実施したことと敷地内禁煙とした。

（イ）　インカム（無線機）運用が軌道にのり部署間の連携が図れた。

（ウ）　介護、看護、調理補助といったサービス系職種の採用困難と欠員が続いた。

（エ）　職員は、利用者の思いに寄り添う感性をさらに養う必要がある。

（オ）　施設内外での交流研修の実施はできた。

（カ）　ストレスチェック実施率（98%）は向上したが、分析や具体的計画が不十分であった。

３．安定した施設運営・経営

（ア）設備改修は計画的に実施できた。老朽化による改修箇所が多いことが課題である。

（イ）新入居者件数は実績30件41名(予算30件40名)と予算達成し、入居率は94%以上となった。

（ウ）新規介護認定者の増加と既存認定者の適切な区分変更により、介護報酬は増加した。

（エ）各課協力体制で業務改善を図り、欠員状況下で効率性が向上した。

（オ）皮膚科・整形外科の外来実施、意見箱設置など収益向上に努めたが、患者数は入外とも予算未達で厳しい会計状況となった。

（カ）EQCによる各部署の書式統一が図られたが、マニュアル整備は順次実施する。

４．環境・省エネへの取組みと地域との関わり

（ア）継続的に電気デマンド管理(最大需要電力管理)は実施し、省エネを図った。

（イ）介護フェスタ・納涼祭等の活動を実施したが、外部発信など工夫が必要である。

（ウ）衛生委員会による職場巡視を定期実施し、各部署の整理整頓を促した。

5　災害時の対策、防災教育の徹底

（ア）導入したインカムを活用して、地震・火災総合訓練と職員による夜間想定訓練を実施した。また、津波想定訓練を初めて実施した。

（イ）　台風 15 号、19 号の関東直撃（停電等）を経験し、入居者・職員の対策意識は向上した。

（ウ）　地域防災協定を三浦市と締結し、連携体制強化の一歩となった。

6　地域における公益的な取組

(ア)社会福祉協議会の協力のもと地域への開放も含めた介護フェスタを開催した。

(イ)看護学生・専門学校の実習の受け入れ 69 名、延べ 17 日間

(ウ)海外施設の見学受け入れ

【数値実績】

表１：契約状況　（単位:名）

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	402（96）	159	339	498

表２：地域別契約状況　（単位:名・%）

	関東	近畿	東海	九州	信越	四国	北海道	中国	東北	外国	計
人数	460	12	13	2	5	0	1	0	3	2	498
構成比	92.4	2.4	2.6	0.4	1.0	0.0	0.2	0.0	0.6	0.4	100.0

表３：年齢構成　（単位:名・%）

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	39	88	122	98	80	47	20	4	0	498
構成比	7.8	17.7	24.5	19.7	16.1	9.4	4.0	0.8	0.0	100.0

表４：平均年齢　（単位:歳）

平均	男性	女性
83.7	82.7	84.1

表５：入・退去状況　（単位:名）

	入居	退去	(死亡退去)
男	13	5	(4)
女	28	16	(14)
計	41	21	(18)

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）　（単位:名）

	合 計	内　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	118	21	20	21	13	13	17	13
期末人数	131	19	27	26	18	13	15	13
月平均人数	136.5	21.4	27.4	26.6	16.0	14.3	17.3	13.5

サービス活動収益（入園金・施設有料・診療所）	1,759,551 千円

介護付有料老人ホーム　浦安エデンの園

2019年度は、入居者の声を反映した運営を進めるため、意見交換の場を増やすことを目指し、臨時全体会や初の試みとして食事を考える会の全体会を開催した。また、運営懇談会の開催回数を2020年1月より増やし、意見をより多く聴くための機会づくりに取り組んだ。防災の面では、これまでの想定を超える災害が続いたことを踏まえ、防災に関する備えの見直しを開始した。また、2018年度から進めてきた「居場所づくり」については、支援を必要とする入居者のためのデイルームが完成し利用を開始した。顔見知りの関係が築け、利用については定着したため、今後は内容の充実を図り楽しめる時間の提供を行う。共用部の使い方については、入居者と共に考え話し合いを重ね、9月より新ルールによる運用を開始した。また、利用状況が一目でわかるボードを掲示し、利用しやすいよう改善した。募集活動においては、浦安地区に住み続けたいという地域特有のニーズに合わせた企画を中心に行い、年度末の入居率は94%となった。2020 年度はさらに募集活動に注力し入居率 95%以上を目指し安定した経営を推進していく。

１．良質なサービスの追求

理念である「ご入居者を真ん中においた生活の創造」を実現するために、入居者の満足度調査結果や懇談会及び意見交換会等を開催し積極的に意見を聴く中から問題点を探り改善に取り組んだ。また、エデン・クオリティ・コントロール（EQC）を推進し、提供するサービスの可視化･標準化を行い、サービスの質の向上に努めた。イベント企画や運営については、入居者参画型を推進し、入居者と共に楽しめる企画づくりを行った。レストラン運営では、入居者の意見を反映したメニュー変更や食材の質の向上を図るとともに、備品の更新などの環境改善を実施した。

２．働きがいのある職場風土の醸成

働きがいのある職場作りのため、専門性を高めスキルアップを図れるよう、外部研修への参加や目標参画システムと各職種ラダーの活用、職場長による面談を通して意識向上に努めた。メンタルヘルス向上の取り組みについては、ストレスチェックの受検100%を継続できている。更にストレスチェックの結果から職場改善計画を立案し、職場の環境改善に取り組んでいる。

３．安心・安全な施設づくり

施設関連では老朽化に伴う設備更新を行い環境改善に努めた。災害対策強化については、災害用備蓄食料の備蓄量を増やすことに加え、必要物品の見直しや更新を行った。防犯・防災訓練についても、継続実施し入居者の安全・安心につながるよう取り組んだ。また、感染症に関しては、インフルエンザ・ノロウイルスの感染拡大ゼロを達成することができた。しかし新型コロナウイルス感染への危険は現在も継続しているため、今後も新たな策を講じながら感染防止に努めていく。また、社会的に禁煙や分煙が進んでいることに合わせて敷地内を禁煙とした。

４．安定した施設経営の実現

経営面では地域での新規顧客の獲得を狙ったイベントを各課参画型で企画実施した。職員全員が募集担当という意識で全課が協力し入居者募集に注力した結果、入居率向上を図ることが出来た。環境・省エネへの取り組みについては、既存棟共用部照明の LED 化工事の実施、レストランの食材廃棄率減少の取り組み等を行った。

５．地域における公益的な取組

近隣保育園と津波・高潮時の緊急一時避難場所提供に関する協定を締結し、合同の避難訓練を継続実施している。また、入居者と職員合同での地域の美化活動を年 2 回実施した。地域交流やイベント開催においても開放型を意識し地域に根差した施設を目指している。

【数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	212 戸（34 戸）	72 名	174 名	246 名

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	北陸	計
人数	225 名	8 名	3 名	2 名	0 名	7 名	1 名	246 名
構成比	91.5%	3.3%	1.2%	0.8%	0.0%	2.8%	0.4%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	17 名	40 名	49 名	64 名	40 名	30 名	6 名	0 名	0 名	246 名
構成比	6.9%	16.3%	19.9%	26.0%	16.3%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
83.4 歳	80.9 歳	84.4 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男	7 名	5 名	（5 名）
女	22 名	17 名	（17 名）
計	29 名	22 名	（22 名）

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	66 名	15 名	4 名	16 名	7 名	8 名	10 名	6 名
期末人数	70 名	16 名	6 名	15 名	9 名	10 名	9 名	5 名
月平均人数	66.4 名	13.7 名	7.2 名	15.7 名	9.1 名	8.7 名	5.7 名	6.3 名

サービス活動収益（入園金・施設有料）	833,230 千円

介護付有料老人ホーム　横浜エデンの園

2019年度は、「お一人おひとりに寄り添えるケア」を実践した年であった。「認知症ケア」「エンド・オブ・ライフケア」の継続実践により、様々な「チームケア」を実現出来た。

各地に大きな被害をもたらした台風15号・19号による被害は極僅かであったが、公共交通機関の計画運休等、都市型施設である当施設の運営上の課題が浮き彫りとなった。

2019年度末より世界中に拡散し続けている「新型コロナウイルス」の流行拡大防止対策からは、地域社会、関連する事業者との連携など、入居者・職員の安全・安心な生活を維持するために、正しい情報収集に基づく早期の対策が求められ、現在も継続している。

１．安全・安心・良質なサービスの提供

「認知症ケア」については、「認知症ケアマッピング」（DCM）の継続実施に加え認知症予防活動から進行防止活動等、対象者の状態に応じた様々なアクティビティ活動を日常生活の中に習慣化することが出来た。反面、2019年度初旬より職員の退職により認知症専門ケア加算の算定要件を満たせず、加算請求を中止した。認知症介護実践者研修受講者を増やし2020年度より再度算定を開始する予定である。「認知症ケア」に関しては、予防活動やDCMも含め継続した。

リスクに関しては、リスク管理体制の維持・継続と、質的分析を行いPDCAを強化することにより減少している。

「エンド・オブ・ライフケア」については、聖隷横浜病院との協力・連携のもと、継続実践した。聖隷横浜病院の緩和ケアチームと職員とで開催している「デスカンファレンス」は2018年度末より、家族にも参加していただき、「思い出カンファレンス」と改名した。

「思い出カンファレンス」の開催により、家族・職員のグリーフケアに繋がっている。

２．人財の育成

再雇用制度の利用により、定年で退職した職員は0名であった。職員間の感謝を言語化し伝える活動を継続することによりモチベーションは維持でき、メンタル不全者は0名であった。

「働き方改革」については、労働の合理化に苦戦中であり、有給休暇の取得については一部の職員のみの消化となり、個人差が大きい結果となった。

３．経営基盤の安定と永続性の確保

介護保険収益については、入居率98%・平均要介護度3.0以上を目指したが、入居率は2018年同様96%前後で推移し平均要介護度も2018年度同様2.6前後で推移したことにより、予算未達となった。2017年度より導入した「認知症専門ケア加算」が職員の退職の為、算定できなくなったことも要因である。

最低賃金の引き上げが続き職員の人件費が高騰していることから、2020年度以降の特別介護金の見直しを行い、入居者・身元引受人に対して説明会を開催した。

４．地域における公益的な取組

「地域における公益的な取り組み」として、2020 年 3 月に学生の春休み期間に「ふれあい食堂」の開設を予定し、社会福祉協議会の方々と事前打ち合わせを行い、開設準備を進めていたが、「新型コロナウイルスの感染対策」の為開催を延期した。

地域防災活動についても、同一法人以外の福祉施設や事業所との連携強化を強く求められている。「ふれあい食堂」活動等を通じて、新たな連携に繋げたい。

５．環境・省エネ活動への取り組みの強化

活動は継続しているが、事業ゴミ等の実質的減量は図れなかった。

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	45 戸(0 戸)	8 名	37 名	45 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	42 名	1 名	2 名	0 名	0 名	0 名	0	45 名
構成比	93.4%	2.2%	4.4%	0%	0%	0%%	0%	100%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	13 名	13 名	13 名	4 名	1 名	0 名	1 名	0 名	0 名	45 名
構成比	28.9%	28.9%	28.9%	8.9%	2.2%	0%	2.2%	0%	0%	100%

表 4：平均年齢

平均	男性	女性
90.4 歳	90.9 歳	90.4 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	4 名	5 名	(5 名)
女	6 名	6 名	(6 名)
計	10 名	11 名	(11 名)

表 6：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	46 名	1 名	4 名	9 名	8 名	10 名	7 名	7 名
期末人数	45 名	0 名	5 名	7 名	10 名	6 名	12 名	5 名
月平均人数	47.2 名	1.1 名	4.2 名	7.8 名	9.5 名	7.8 名	10.0 名	6.8 名

サービス活動収益（入園金・施設有料）	383,823 千円

聖隷藤沢ウェルフェアタウン

2019 年度は、状況や変化を早期に察知し適切なサービスの提供が後追いにならない体制を整備することを掲げ、そのために高齢者複合施設の強みである多事業・多職種の連携をさらに強化し、知識・技術・アイディアによって、利用者サービスの質をさらに高めていくことを目標としてきた。その結果として、有料老人ホーム事業や介護老人福祉施設においては、高い入居率が維持され、訪問・通所事業では、多くの競合他社の市内参入にもかかわらず、安定した経営の維持が、実績や成果としてあらわれた。

また、社会福祉法人の重要な役割である地域社会への貢献を実践するために、「藤沢市家族介護者教室事業」の継続、地域の看護学校への講師派遣、軽度認知症および認知症状を早期に発見するためのシステム構築を目指す企業との連携・協力等の取り組みを、利用者や行政の協力のもと実施することができた。

2019 年度末には、新型コロナ感染症による緊急事態宣言により、神奈川県もこれまでに経験をしたことがない状況に陥り、ウェルフェアタウンも、その対応・予防策にスタッフ全員の力を結集して取り組んできた。2020 年度以降も、利用者を守るため、さらには職員を守るためにどのような準備や行動をするかについて継続的重点的に取り組んでいく。

その他、2019 年度にウェルフェアタウンの各事業所が取り組んできた活動について、以下の通り成果を報告する。

【藤沢エデンの園一番館】

2018 年度と同様に入居率は 100%に近い率を維持することができた。一方、入居者平均年齢も 81.0 歳（2020 年 3 月末現在）となり、入居者の日常生活自立度や要支援・要介護認定者の日常生活も様々な変化をしており、2018 年度からの課題でもあった運営体制や生活支援サービスの在り方について、より精緻に検討し改善を求められる 1 年であった。それら課題解決には、高齢者公益事業部の重点施策であった「エデンの園における標準サービスの在り方の検討」も参考に、一番館の取り組むべきサービスを検討、改善してきた。

また、2019 年度は ETS2020（業務基幹システム）導入により、入居者の日常生活の情報把握・管理を強化することで、情報交換が効率的効果的になされる環境を整えることができた。

【藤沢エデンの園二番館】

2019 年度は、一番館からの住み替えが 6 名、直接入居が 6 名、計 12 名の新規入居を受け入れた。二番館は、介護老人福祉施設と異なり、新規入居者の身体状態や介護度が幅広いことから、ケアスタッフには負荷が大きくなる状況もあったが、業務体制の見直しや、各種研修会や勉強会、スタッフ個々の自己研鑽により、一定の評価ができる運営を維持してきた。

しかし、インシデントやアクシデントがいくつか発生している状況を鑑み、それぞれの原因を明確にし、再発させない情報体制と環境づくりが 2020 年度の継続課題である。

今後も、入居者にとって終の棲家である二番館が、より安全で安心な住まいとなるよう、職員一丸となって知識と技術の研鑽を継続していく。

【藤沢愛光園・藤沢在宅サービス部門】

これまでも重点的に取り組んできた「利用者一人ひとりを大切にしたケア」「入院に至らせないケア」の実践を継続し、2018 年度を超える利用率・入所率を達成した。介護職員の安定確保にも注力してきたが、スタッフ確保は将来的にも厳しい状況が見込まれていることから、フィリピンとの EPA によるフィリピン国籍の介護福祉士候補者 2 名の受け入れをスタートした。また、ケアスタッフの業務における身体的な負担軽減のために、介護ロボット導入を積極的に推進し、導入に至っている。2020 年度も、職員の心を込めたサービスにより、地域の皆様が困った時・必要な時に一番に利用したい施設を目指す。

訪問事業・通所事業も愛光園と同様、2018 年度以上に安定した運営・経営がなされた 1 年であった。その要因は「原則、どのようなケースであっても断らない」在宅部門の運営姿勢に尽きると評価している。ウェルフェアタウンが位置する湘南大庭地区は、藤沢市の中でも高齢化率が突出していることから、企業や他法人の通所・在宅事業所の新規開設が続いているが、上述の運営姿勢を継続しつつ、地域においてより必要不可欠な事業所を目指していく。

1．最善を追求したサービスの提供

2019 年度も、職場や職種を超えてウェルフェアタウン全体で、利用者中心のケアが行われるよう、虐待防止、身体拘束ゼロへの取り組み、介護技術、認知症ケア等の理解と実践のために勉強会や研修等、多くの機会を設けてきた。スタッフには、聖隷が掲げる 5 つの使命に立ち返り、一人ひとりが重要な役割を担っていることを再認識し業務を遂行していく風土の醸成を推進してきた。

2．「提案・改善・改革」の継続（PDCA/企画力・実践力の強化）

2017 年度から掲げている「提案・改善・改革」の継続は、ウェルフェアタウン全体、および事業所ごとの取り組みにより、様々な成果が出ている。代表的な成果として、2019 年度の聖隷福祉学会において、藤沢愛光園の事例発表が優秀賞を受賞したことがあげられる。

3．その時その場が育成の機会：(OJT/接遇の強化)

接遇においては、ご利用者・ご家族からご意見をいただくことも散見され、2018 年度同様に、十分な成果にはつながっていない。管理者・役職者のマネジメント力が、まだまだ足りないことを再認識し、OJT をはじめ職員教育・育成の更なる強化を図りたい。

4．自然災害に備えた地域との連携体制の確立

2019 年度は、藤沢市内にも様々な自然災害が発生した 1 年であった。実際に被災した他のエデンの園の情報を共有することで、ウェルフェアタウンが、様々な自然災害にどのような準備や対応をしていくのかについて、1 年を通して検討を継続してきた。

また、新型コロナウィルスの感染防止により「シニアのための防災フェスタ 2019」は中止としたが、新しい企画や手段により、災害に強いウェルフェアタウンを目指す。

5．地域の行方不明高齢者ゼロ活動への参画

企業との連携と関係者の協力により、2020 年度末までの実証施策として、ウェルフェアタウン内に入居者の見守りセーフティネットのシステムを構築した。このシステムが、地域における公益的な活動のひとつとなるよう、実用化に向けて取り組みを継続していく。

【藤沢エデンの園一番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	204（55 戸）	84 名	175 名	259 名
サービス活動収益	381,176 千円			
職員数(常勤換算)	47.94 名			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	四国	計
人数	231 名	8 名	14 名	1 名	2 名	2 名	1 名	259 名
構成比	89.1%	3.1%	5.4%	0.4%	0.8%	0.8%	0.4%	100.0%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	3 名	19 名	57 名	77 名	57 名	33 名	13 名	0 名	0 名	259 名
構成比	1.2%	7.3%	22.0%	29.7%	22.0%	12.8%	5.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
81.0 歳	81.5 歳	80.5 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	3 名	(0) 名
女	8 名	9 名	(1) 名
計	13 名	12 名	(1) 名

*退去数には二番館への住み替え数を含む

サービス活動収益（入園金・施設有料）	803,931 千円

【藤沢エデンの園二番館－数値実績】

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	41 戸（0 戸）	11 名	30 名	41 名
サービス活動収益	166,282 千円			
職員数(常勤換算)	37.55 名			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

表２：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	中国	東北	計
人数	37 名	1 名	1 名	0 名	1 名	1 名	41 名
構成比	90.4%	2.4%	2.4%	0.0%	2.4%	2.4%	100.0%

サービス活動収益（入園金・施設有料）	273,840 千円

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	5 名	11 名	9 名	10 名	5 名	1 名	0 名	0 名	0 名	41 名
構成比	12.2%	26.8%	22.0%	24.4%	12.2%	2.4%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
86.3 歳	85.3 歳	87.3 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	7 名	(7) 名
女	7 名	2 名	(2) 名
計	12 名	9 名	(9) 名

*入居数には一番館の退去数を含む

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	37 名	0 名	4 名	6 名	8 名	10 名	4 名	5 名
期末人数	41 名	1 名	3 名	5 名	9 名	12 名	6 名	5 名
月平均人数	40.5 名	0.7 名	3.6 名	5.4 名	7.9 名	11.6 名	6.5 名	4.8 名

【藤沢愛光園－数値実績】

	特養入所		短期入所		合計
	既存	ユニット	既存	ユニット	
利 用 者 定 員	名	100 名	名	20 名	－
利用者延べ数	名	35,348 名	名	6,553 名	－
稼 動 延 日 数	365 日		365 日		－
一日平均利用者数	名	96.7 名	名	17.9 名	－
稼 働 率	%	96.7%	%	89.6%	－
単価（1人1日当り）	14,764 円		14,285 円		－
サービス活動収益	522,821 円		93,640 千円		616,461 千円
職員数(常勤換算)	65.9 名		12.8 名		78.7 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷訪問看護ステーション藤沢】

	月間 利用者数	月間 訪問数	年間 訪問数	単 価	サービス 活動収益	職員数 (常勤換算)
実績	94.1 名	582.0 件	6,984 件	10,619 円	68,994 千円	9.8 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ヘルパーステーション藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		自立支援		単　　価			サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	月間利用者数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	月間訪問数	年間訪問数	介護給付(回)	予防総合事業(回)	自立支援(回)		
実績	36.6 名	480.8 件	5,769 件	161.3 件	1,936 件	200 件	2,405 件	3,934 円	18,538 円	4,496 円	42,988 千円	5.2 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷ケアプランセンター藤沢】

	年間請求件数		単　　価		訪問調査		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	介護	予防	介護	予防	件数	単価		
実績	1,383 件	673 件	16,614 円	4,969 円	138 件	5,000 円	26,388 千円	3.1 名

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引消去前の数値

【聖隷デイサービスセンター藤沢】

	介護給付			予防・総合事業		単　価		サービス活動収益	職員数（常勤換算）
	1 日利用者数	月間利用者数	年間利用者数	月間利用者数	年間利用者数	介護給付(回)	予防総合事業(回)		
1 日	24.6 件	633 件	7,600 件	17.0 件	205 件	10,216 円	42,950 円	91,366 千円	11.1 名
半日	1.89 件	49.0 件	584 件			6,150 円			

*ｻｰﾋﾞｽ活動収益は内部取引前の数値

ウェル・エイジング・プラザ　奈良ニッセイエデンの園

2019 年度、有料老人ホームにおいては、新規契約戸数の予算を上回る契約戸数を達成することができ、一般居室は高い入居率を継続した。大食堂の中庭の整備も行い、開園 30 周年記念に向けた 3 年計画 1 年目の大規模な外構の植栽整備も実施した。また、身体拘束・虐待防止に向けての教育、接遇面への教育は年間を通し実施、今後も継続して行っていく。4 月から国の施策として「働き方改革」関連法が施行され、職員が健康でいきがいを持って働ける環境づくりにも尽力した。ケア面においては入居者、利用者のその人らしい生活を支えるしくみ「エデン版地域包括ケアシステム（いきいき生活室）」の活動が定着してきている。入居者ボランティアグループ「虹のわ」の認知度も高まり、14 名の入居者が園内活動から河合町の地域活動へと幅を広げている。また、入居者の生活の質の向上、生涯学習支援として外部講師を招き、エデン大学 4 講座を実施した。2～3 月にかけては新型コロナウイルス感染防止に向けた対策で園の行事・サークル・外出等の自粛・中止等で入居者の心身面においてストレスがかかる状況になっている。クリニックにおいては、物忘れ外来の運用を開始した。また、2019 年度から策定を始めた個室料（特別室 5 室）の運用を積極的に行ったことで、収益が確保でき経営面が改善された。奈良ベテルホームにおいては、年間を通して「在宅強化型老健施設」の運用を継続し行ったこと、また通所リハビリテーションの利用者数も下半期にはほぼ予算どおり推移したことで、収益確保に繋がった。在宅事業においては、医療・介護・地域との連携を引き続き強化することで、安定した利用者確保を目指し取り組んだが、利益計上が厳しい事業所があった。災害対策については国内外におけるコロナウイルスによるパンデミックを教訓に、しっかりと振り返りを行い、今後の対策に活かす必要がある。

各施設別の取り組みについては、以下の通り報告する。

◆有料老人ホーム「奈良ニッセイエデンの園」

１．聖隷理念の浸透とトータルケアサービスの実践

いきいき生活室の運営が安定期に入り、入居者の安心を支えるための取り組みとして、新たに 10 月より音羽山観音寺の佐々木慈瞳副住職によるグリーフケアや終末期のメンタルサポートについての個別相談、グループではお話を聞く会を月 1 回開催した。介護居室では終末期ケアの職員への意識付けと対応職員の不安をフォローするための継続した勉強会を実施した。また、介護技術、排泄グループを立ち上げ、勉強会の開催や必要物品の見直し等、職員全員が統一したケアを実践した。居室サービス課のデイサロン万葉では、暮らしの脳トレ機器を導入し、入居者が介護予防に対して主体的に取り組める環境を整備した。また、健幸チェック（身体機能測定、栄養面、MCI 発見、生活面）を年 2 回実施し、3 ヶ月の短期集中プログラムにつなげる取り組みを継続して実施している。一般居室の介護保険契約者が歯科往診を受けることができる体制が整い、週 1 回の定期往診を行っている。

２．安定した経営基盤の確立

一般居室から介護居室への住み替えを必要な方へ適切に進めることにより、一般居室の新入居 20 件 30 名の入居契約につなげ、年間新規販売戸数の目標値 1 件増を達成できた。また、介護保

険新規契約数は 17 件、必要に応じて区分変更手続きを推進したこと、10 月から特定処遇改善加算の増額もあり 2018 年度を上回る結果となった。食事関連では、喫食率アップへの取り組みとして、管理栄養士による大食堂でのランチョンセミナーやシリーズメニュー（店長おすすめメニュー・ほっこり和食・ご当地メニューなど）の考案などを行ったが、喫食数は伸びず予算未達の状況であった。また、働き方改革、生産性向上についての意識改革のため、職場長・役職者を中心に施設外ワークショップを実施した。今後、ICT･AI 化により事務作業の軽減、省力化を推進する。また、ロボット導入など、デモ機による試行の環境作りを現場が主体となって選定することが重要である。

３．人材の育成・活用・定着の強化

職員の高齢化と特に看護・介護職員の採用困難な状況で、安心して働ける環境を求職者へアピールし、採用強化につなげるため、奈良県介護事業所認定制度の審査を経て、認定内示を受けることができた。また、採用強化と同一労働同一賃金の課題への取り組みとして、パート職員の処遇改善を実施した。結果、大きく反応はなかったが、今後も引き続き働き手のニーズを取り入れながら、確保に向けて尽力していく。目標参画や各種ラダーを実施、活用し、専門職としての知識と技術の向上に向けて取り組んでいる。障がい者雇用への取り組みとして、トライアル雇用を導入し、職場を上げた支援風土づくりに努め、雇用率 2.86％を達成（目標数値：2.30％）した。また、1 名が障がい者職業生活相談員の資格を取得をした。

４．サービスの質・安全・効率の向上

エデン標準サービス導入に際し、基準を参考に既存のサービスの見直し、評価を実施した。基準を大幅に超過する過剰なサービスについての見直しが必要になる ETS2020(業務基幹システム)更新、買い物代行ネットスーパー利用、インカム無線機導入等による業務効率化をサービス向上へつなげるための評価方法について検討する。全職員を対象に身体拘束、高齢者虐待防止の勉強会を実施した。コンプライアンス委員会では情報共有し不適切ケア防止に努め、身体拘束をしない、させない、風土作りとして、常に不適切ケアへの議論、検討を繰り返していく仕組み作りを継続する。

人材育成委員会が主導し、接遇マニュアルを改訂、各職場で接遇チェックリストを年 2 回実施、評価を行った。また、感染拡大防止のため、引き続き職員教育の徹底、園全体での感染の情報連携を図っている。リスクにおいては、転倒骨折事例や服薬についてのリスクが多く発生していることもあり、同じ事故を起こさない対策や分析力のアップに向けた取り組みが求められる。

５．地域における公益的な取組及び他施設との連携

河合町からの依頼で、地域住民対象にした「しゃきっと教室」事業を継続して委託され、リハビリテーション・介護・事務等の職員を派遣し体操の指導等を行った。また、7 回目となる地域の総合防災訓練と大和川一斉清掃が新型コロナウイルス感染防止のため中止になった。園全体の取り組みでは、地域連携グループが中心となり、近隣住民・入居者等を対象にした家族介護教室を年 2 回実施した。内容は排泄介助（おむつの使い方)、エデンで提供している介護食のテーマで行った。また、RUN 伴 2019 への参加（10/20）と介護の日ふれあいフェスタを開催した。ベテルホーム利用者と家族、地域の方、エデン入居者に向けての月 1 回の「認知症 Café」を継続して実施した。世代間交流の取り組みとして、有料老人ホームは河合町立幼稚園へ入居者と訪問（6・10 月）し交流の場を持った。ベテルホームにおいては、近隣の河合第三小学校へ訪問し介護授業

を実施した。また、日本郵便の手紙文化振興企画に協賛し、町内小学校へのハガキ寄贈により、地域児童の言語活動充実に寄与することができた。

■入居者募集活動状況

新規契約戸数は 20 戸で、(対 2018 年-3 戸) その内、10 戸が 2 人入居であった。また、退去が 20 戸(一般居室 10 戸、介護居室 10 戸)、介護居室への住替えが 9 戸(対 2018 年比-2 戸)あった。その結果、年度末の入居状況は一般居室 358 戸 (対 2018 年比+2 戸)、介護居室 46 戸 (対 2018 年比-2 戸) となり、入居率は一般居室 98.9%、介護居室 92.0%、全体で 98.1%であった。

■介護保険状況

介護保険認定者は 2020 年 3 月 31 日現在で要支援 1 : 21 名 (含介護居室 1 名)、要支援 2 : 28 名 (同 0 名)、要介護 1 : 34 名 (同 10 名)、要介護 2 : 17 名 (同 7 名)、要介護 3 : 20 名 (同 12 名)、要介護 4 : 13 名 (同 11 名)、要介護 5 : 7 名 (同 6 名)、合計 : 140 名 (同 47 名) となった。

介護保険認定者数は、2019 年度当初の 140 名から変更はなかった。

【数値実績】

■表 1:契約状況 (3 月末現在)

	居室数	契約数 (内複数入居)	入居率
一般居室	362 人	358 (112) 人	98.9%
介護居室	50 人	46 (1) 人	92.0%
合 計	412 人	404 (113) 人	98.1%

(3 月末現在)

男 性	女 性	全 体
155 人	362 人	517 人
30.0%	70.0%	100.0%

■表 2:地域別契約状況 (3 月末現在)

	近畿	関東	中国	東海	北陸	四国	九州	北海道	合計
件数	358 人	19 人	1 人	19 人	2 人	4 人	1 人	0 人	404 人
構成比	88.6%	4.7%	0.2%	4.9%	0.4%	1.0%	0.2%	0.0%	100.0%

■表 3:年齢構成 (3 月末現在)

	～60	～64	～69	～74	～79	～84	～89	～94	95～	合計
人数	0 人	6 人	27 人	54 人	108 人	100 人	123 人	68 人	31 人	517 人
構成比	0%	1.2%	5.2%	10.4%	20.9%	19.3%	23.8%	13.2%	6.0%	100.0%

■表 4:平均年齢 (3 月末現在)

男 性	女 性	全 体
81.1 歳	82.8 歳	82.3 歳

■表 5:入・退居状況

	入居	退去(内死亡退去)
男性	10 人	10 (10) 人
女性	20 人	16 (13) 人
合計	30 人	26 (23) 人

■表 6:介護保険利用者 (介護保険請求者数)

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	128 人	20 人	25 人	33 人	13 人	14 人	16 人	7 人
期末人数	129 人	19 人	26 人	33 人	14 人	18 人	12 人	7 人
月平均人数	127.8 人	21.3 人	24.8 人	31.3 人	14.8 人	15.2 人	14.2 人	6.2 人

◆高齢者総合福祉センター「ふれあいプラザ」

2019 年度は、新型コロナウイルスの影響による講座・催しの中止が重なり、講座開催数及び参加者数が減少した。その中で芸術分野の文化教養講座「オペラ茶論」を計 4 回実施し、いずれも定員を上回る申込みがあり、講座内容も好評であった。また、新規企画していた「美術講座」は講師候補者の退職で開催が不可能になった。外部への企画調査を積極的に行い、文化教養講座の安定開催を目指す。ホールイベントは、台風によるまほろばホールでのコンサートの中止等があったが SDGs 講演会、音楽イベントを 2 回開催したため、回数は同数開催となった。外出企画は「逍遥の会」のバリエーションを増やし、奈良の寺院巡る企画が好評であった。今後は外出企画に拘らず、文化教養講座、ホールイベント等においても奈良に関連する企画の開催を目指す。

◆ニッセイ聖隷クリニック

2019 年度は、入院部門において病床改修が完了した 5 床より個室料を算定する運用を開始した。また、地域患者の受け入れも積極的に行った。リハビリテーション部門においては、医療におけるリハビリテーションを受け入れるため、医療機関への渉外を行った。外来部門はもの忘れ外来を開始し、受診者の情報を地域包括支援センターへ共有し、サービスの開始や見守りを行う運用を開始した。外来患者数については、地域の高齢化に伴い減少が続いている。健診部門は、入居者数の増加に伴い、定期健康診査の受診者数が大幅に増加し、また人間ドックではお連れ様キャンペーンやオプションキャンペーンにより受診者数の向上に努めた。

◆奈良ベテルホーム

2018 年 4 月の介護報酬改定において介護老人保健施設は 5 つの報酬区分に分けられた。奈良ベテルホームはそのうちの上から 2 番目に高報酬である「在宅強化型」を取得することを目指し 2018 年度中に取得することが出来た。2019 年度はこの報酬区分をしっかりと維持し、安定した事業運営を目指した。結果、在宅強化型で必須なポイントは年間を通して獲得することができ、在宅強化型老健を維持することができた。また、入所、短期入所の稼働率も予算には届かなかったものの 2018 年度よりも数値を伸ばす事が出来た。通所リハビリテーションにおいては利用者獲得に様々な取り組みを行ったにも拘らず上半期は思うように利用者数を伸ばすことができなかったが、9 月以降の下半期はほぼ予算通りの数値を維持することができた。設備面の改修も終わり、懸案であった開設時からのベッドについても 2019 年度で全ての入れ替えが終了し、利用者にとって快適な環境を提供することが出来たことは職員にとっても喜びであった。

◆ニッセイせいれい在宅介護サービスセンター・ベル西大和店

2019 年度、訪問介護収益は利用者の入院や施設利用により、利用者数、時間、回数とも減少した。福祉用具の利用者数は増加したが、ベッドやエアマットなど単価の高い収入が利用者の入院、施設利用により減少し、収益が予算未達となった。また、サービスの依頼があってもケアパートナー不足により毎日のケアを受けることが出来なかったことも利用者減、収入減の原因となった。園内では、介護居室サービス課、ベテルホームの介護人員不足により職員派遣を行った。

◆訪問看護ステーション西大和

2019 年度は、訪問件数、利用者数共に大幅に低迷し訪問件数の減少、平均利用者数、訪問件数共に大幅な予算未達となった。上半期の低迷は、職員の体調不良による欠員に伴い新規依頼をストップしていたことが響き、後半にまで影響したと考えられる。

◆ニッセイせいれいケアプランセンター西大和

2019 年度は、地域包括ケアシステム構築に向けて関係者と協働する中で、地域ケア会議への参加などにより連携強化とケアマネジメントの質の向上を推進し、医療・介護・地域との連携を強化したことが利用者数の増加につながり、予算を達成し利益を上げることができた。

◆地域における公益的な取組

（ア）実習生受入(実人数 36 名　延べ日数 190 日）

（イ）外部ボランティア受入（実人数 19 名、延べ日数 102 日、延べ人数 513 名）

　　行事ボランティア受入（実人数 25 名、延べ日数 51 日、延べ人数 248 名）

（ウ）介護の日ふれあいフェスタ開催（入居者約 130 名、外部約 20 名）

（エ）文化教養講座（開催数 43 回　参加者 975 名）

（オ）地域住民・入居者を対象としたコンサート・講演会（開催数 9 回　参加者 1,432 名）

（カ）河合町開催マーケットへ参加・売上金は町社協寄贈（来場者約 5,000 名、売上 91,720 円）

（キ）RUN 伴 2019 への参加（入居者 2 名、利用者・家族 11 名、職員 12 名）

（ク）エデン介護教室（年 2 回開催(3 回目コロナ感染影響にて中止）：参加者 51 名）

（ケ）ベテル介護教室（年 2 回開催：参加者 21 名）

（コ）ベテル河合町第三小学校来園、訪問（年 2 回、児童 25 名）

（サ）献血（実人数 36 名）

ウェル・エイジング・プラザ　松戸ニッセイエデンの園

開園から23年が経過し入居者の平均年齢は85.0歳とますます高齢化が進んだ。その影響もあり2019年度はご逝去者数が35名と非常に多く、開園以来最多の年度となった。今後も園での高齢化及び介護保険認定者の増加は続いていくと思われ、その対策の一環として介護居室増設のための新館建築計画に着手した。2020年度は建築計画を確実に進め、将来的な入居者増加に伴う増収までの準備期間としたい。

また、2019年度は日本列島に大型台風が立て続けに上陸し、千葉県にも大きな被害をもたらした。幸いにも当園に大きな被害はなかったものの、災害対策強化の必要性を強く感じた年でもあった。また年度終わりには世界中で新型コロナウイルスの拡大が発生し、当園でもその対応に追われることとなったが、2020年度はまずはこの感染対応に注力しつつ、入居者の「命」を守ることを最優先とした運営を行っていきたい。

1、2019 年度事業の振り返り

◆有料老人ホーム「松戸ニッセイエデンの園」

（ア）各課の協力と情報の融合による総合力の発揮とサービスの向上

募集見学会時においても「介護・看護・看取り体制」についてのセミナーを開催するなど、将来的な自分自身の方針を具体化してもらう契機を提供する事に努めた。クリニック入院および退院時等の多職種カンファレンスを継続し居室での生活が安全かつスムーズに行えるよう連携することができた。

（イ）人材育成と連携

パートを含めた全採用職員対象の基礎研修を実施し、当園で働く意義や目的について共通認識を持たせることで“辞めさせない”組織風土づくりに取り組んだ。また、各課で不適切ケア（接遇を含む）に関する職場目標を策定し、不適切ケア防止を実践し職場風土の醸成を図った。

（ウ）経営基盤の安定

募集広報室が企画する見学会では、各課職場長が持ち回りでセミナー講師を担当するなど、施設全体で入居者募集に取り組んだ。介護判定委員会の場を利用し、クリニック病床の利用状況を共有する事で、一時介護室の適正利用を図った。また、各課の情報共有を密にすることで、円滑な住替えを図った。

（エ）リスク管理体制の強化

2019 年度は大型台風の上陸もあり、地震・火災だけでなく、自然災害に耐えうる、ハード・ソフトの両面の見直しを開始した。また、非常用自家発電機の大規模な点検整備を実施し、災害時に備える準備を行なった。

（オ）社会・地域への貢献と連携

入居者の協力のもと、社会福祉活動『フードバンク』に参加し、千葉県社会福祉協議会をとおして『フードバンクちば』へ 2 回寄付を行なった。

◆松戸ニッセイ聖隷クリニック

診療報酬改定はなかったものの診療単価は予算を上回る結果となった。高額薬剤の注射や点滴、往診の増加が高単価の要因である。一方で患者数については、特に外来部門において内科外来だけでなく、皮膚科外来、整形外来も安定的に患者数を確保しているため予算達成となった。

◆高齢者総合福祉センター

既存教室の PR（絵画・押し花・トールペイント・フラワーアレンジメント・エンジョイアート）をニッセイエデン便りで行い、あわせて見学・体験会を実施したりするなど、ご入居者及び近隣住民の幅広い年齢層にも配慮するような試みを行った。結果、教室利用者延数は 2,356 名であった。

◆ニッセイエデンヘルパーステーション（訪問介護）

新規利用者のうち、要支援者が 2018 年度は全体の 8%であったが、2019 年度は 30%であることが特徴的である。このことは介護認定が厳しくなっていることを表していると思われる。2006 年 7 月契約の利用者が今夏逝去され 13 年に渡り担当ヘルパーやケアマネジャー、関わったすべての介護・医療関係者の連携で、ご自宅での看取りとなり、ご家族から感謝の言葉をいただいた。

2、地域における公益的な取組

・教職員免許特例法に基づく介護等体験受入を行った。（実人数 3 名、延べ日数 15 日間）
・「ニッセイ夏祭りフェス」へ参加した。
・ニッセイ緑の財団協力のもと『樹木名プレート』の作成を行なった。
・ペットボトルキャップ回収により、95 kg分を NPO 法人エコキャップ推進協会へ寄付

表１：契約状況

	戸数（複数入居）	男性	女性	計
人数	331（74）戸	108 名	297 名	405 名

表２：地域別契約状況

	関東	東海	東北	近畿	信越	北陸	中国	北海道	合計
人数	382 名	10 名	2 名	3 名	2 名	2 名	4 名	0 名	405 名
構成比	94.3%	2.5%	0.5%	0.7%	0.5%	0.5%	1.0%	0.0%	100%

表３：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人数	27 名	98 名	110 名	80 名	43 名	39 名	7 名	0 名	1 名	405 名
構成比	6.7%	24.2%	27.2%	19.8%	10.6%	9.6%	1.7%	0.0%	0.2%	100.0%

表４：平均年齢

平均	男性	女性
85.0 歳	84.0 歳	85.4 歳

表５：入・退去状況

	入居	退去	(死亡退去)
男	5 名	5 名	(5)名
女	11 名	28 名	(27)名
計	16 名	33 名	(32)名

表６：介護保険利用者（介護保険請求者数）

	合 計	内 訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	125 名	31 名	17 名	25 名	19 名	8 名	14 名	11 名
期末人数	121 名	22 名	19 名	26 名	26 名	7 名	14 名	7 名
月平均人数	120.0 名	25.1 名	19.6 名	23.4 名	23.4 名	7.4 名	12.3 名	8.8 名

ケア付き高齢者住宅　明日見らいふ南大沢

2019 年度、明日見らいふ南大沢(東京都住宅供給公社からの運営受託事業)は開設して 24 年目を迎え、2020 年 3 月 31 日現在で 333 世帯、ご入居者 370 名、平均年齢が 86.3 歳で終えることとなった。2019 年度は、健康長寿を目的として新たにスクエア 9 を導入して一定の成果を上げることができた。2 月以降は新型コロナウィルスが全国的に猛威を振るう中で、状況に応じたタイムリーな対応と入居者のご理解・ご協力のおかげで幸いなことに現在まで感染者を出さずに済んでいる。2019 年度事業の結果・成果について以下のとおり報告する。

【 施設理念 】

私たちは、ご入居者が終の棲家として、お互いがふれあい、孤独ではなく安心して生活できる施設創りを目指します。

【 経営方針 】

1.サービスの質の向上
2.安心・信頼できる施設運営
3.人材確保と育成の強化
4.東京都住宅供給公社と連携した施設運営

【 事業・運営計画 】

1.入居から看取りまでその人らしく生活することを支えるサービスの提供
（ア）「健康長寿」に繋がるプログラムの定着と新しいプログラムの開発
『スクエア 9』を本格導入し、一定の成果を上げることができた。
（イ） 介護・生活利便サービスの充実に向けた取り組み
スマートフォン講演会を開催し好評を得ることができた。
（ウ）要介護未認定入居者や困難事例に対する支援の実践
（エ）入居時からシームレスな情報共有の仕組みづくり
（オ）入居者の意志を聞き取る体制づくり
居室訪問の機会を利用して全ての入居者から看取り期の意思を聞けるようになった。
2.人材の育成
（ア）役職者のマネジメント能力の向上(問題発見・解決能力、判断力、組織性・専門性の両立、動機づける力、承認できる力)
役職者を対象にマネージャー研修を実施しマネジメント能力向上に取り組んだ。
（イ）自信につながる専門領域の習得
（ウ）各課の役割を理解し、連携強化を図れる職員の育成
（エ）権利擁護・リスクマネジメント能力の向上
3.地域との交流・協力関係づくり
（ア）納涼祭・介護セミナー等を通じて開かれた施設づくり

今年新たに地域の商店（アイス、軽食）に納涼祭に出店参加した。

（イ）高齢者あんしんセンターとの繋がりによる専門職としての活動の機会づくり

（ウ）入居者の経験や知識を活かした地域貢献活動の場所づくり

４.地域における公益的な取組

（ア）入居者と共同・協働による活動（ペットボトルキャップ回収等）

（イ）環境美化活動の継続（周辺ゴミ拾い活動）

（ウ）省エネへの取り組みの継続

５.入居者募集

（ア）セミナー他、公社募集業務への協力と連携

入居募集セミナーで講師を務めるなど協力することができた。

（イ）募集事務所と連携して新規入居者のスムーズな受入れ

（ウ）職員全員が入居者募集担当であるとの自覚を持って入居検討者を迎える

■2020 年 3 月 31 日時点

【数値実績】

表 1：契約状況

	戸数（複数入居）	男　性	女　性	計
人　数	333 戸（37 戸）	100 名	270 名	370 名

表 2：地域別契約状況

	関東	近畿	東海	九州	北海道	甲信越	東北	中国	計
人　数	348 名	6 名	8 名	1 名	1 名	3 名	2 名	1 名	370 名
構成比	94.0%	1.6%	2.2%	0.3%	0.3%	0.8%	0.5%	0.3%	100.0%

表 3：年齢構成

	95 以上	94-90	89-85	84-80	79-75	74-70	69-65	64-60	60 未満	計
人　数	19 名	94 名	131 名	78 名	33 名	14 名	1 名	0 名	0 名	370 名
構成比	5.1%	25.4%	35.4%	21.1%	8.9%	3.8%	0.3%	0%	0%	100.0%

表 4：平均年齢

全　体	男　性	女　性
86.3 歳	86.2 歳	86.3 歳

表 5：入・退去状況

	入居	退去	（死亡退去）
男　性	2 名	5 名	（5 名）
女　性	13 名	15 名	（14 名）
計	15 名	20 名	（19 名）

表 6：介護保険利用者（介護保険請求）

	合 計	内　　訳						
		要支援 1	要支援 2	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5
期首人数	101 名	14 名	10 名	24 名	16 名	15 名	12 名	10 名
期末人数	104 名	18 名	11 名	21 名	11 名	19 名	13 名	11 名
月平均人数	107.6 名	15.4 名	10.0 名	23.2 名	16.2 名	16.6 名	14.8 名	11.4 名

法人本部

2019 年度は改元と共に、働き方改革関連法施行、出入国管理法改正、消費税増税といった法人経営に大きな影響がある法律改正が行われた。働き方改革関連法で求められた長時間労働の是正や、有給休暇の取得数の義務化などについて現状を把握し、改善に向けた対応を進めた。また、出入国管理法改正では介護在留資格に「特定技能」が追加されたが、聖隷としては従来からの EPA、在留外国人雇用および留学生への対応を強化することとした。定年延長(再雇用制度)、両立支援や障がい者雇用など多様な働き方の推進にも取り組んだ。10 月から消費税が 8%から 10%に増税された。増税に伴う諸改訂、税率変更、軽減税率に適切に対応した。人材確保、人材育成の制度整備や取り組みを進めると共に、健康経営の推進など働く環境の整備、web 会議システムの導入など生産性の向上、電子カルテの導入や医師採用など事業部・施設への支援、コンプライアンス啓発の推進や災害対策、情報漏洩を想定した訓練など危機管理の強化にも取り組んだ。法人本部として聖隷福祉事業団全体の経営力向上に向けた活動ができた。

【各部の報告】

《総務部》

2019 年度は、2019 年 4 月施行の働き方改革関連法への対応として、長時間労働の是正、有給休暇取得促進を図るために、各月ごとに集計表を作成し各会議体において現状報告を行った。また、長時間労働が顕著な施設には直接調査・指導を行った。

人材確保と働きがいのある組織とするために、病気と仕事の両立支援における新たな制度を検討し、失効年休積立制度などを導入した「がんと就労支援に関する規則」を 2019 年 4 月より施行したのに続き、定年制度（再雇用制度）の検討を人事企画部と協力して行い、新制度の運用を 2020 年 4 月より開始することができた。非正規雇用者については同一労働同一賃金を見据えて、手当や休日の見直しを検討した。

健康経営については、有所見者の再検査受診率を向上させるために、聖隷健康保険組合と連携し体制整備を行い運用を開始した。また、健康経営優良法人などの認定制度は継続して取得することができた。

先駆的取り組みとしては、移動時間や経費削減を目的として、WEB 会議システムを給与担当者会で導入し、総務課長会でも試験導入した。定型業務の効率化を目的として、事業団内統一で利用している申請書等の様式やマニュアルをデスクネッツの文書管理内に保管する仕組みを整えた。また RPA（ロボティック・プロセス・オートメーション）の導入についても検討を行った。

災害対策への取り組みとしては、災害備蓄品の管理方法の見直し、備蓄倉庫の整備、停電時の非常電源として使用できるよう電気自動車リーフを導入した。

《人事企画部》

社会・地域からの更なる期待に聖隷が応えるために、2019 年度はより一層、人材採用・育成の強化に努めた。

保育職は初の単独説明会を開催し、新規事業に向けて例年より多い 37 名を採用した。また、介護職・福祉職・事務職は現場の魅力を発信できるようインターンシップの開催回数を例年より増やし入職希望者の増加に繋げられるような工夫を行った。

外国人人材の採用は、EPA 介護福祉士候補者や留学生の受け入れを継続し、人数の拡大に注力した。2019 年度は 21 名の EPA 介護福祉士候補者（フィリピン人）を受入れた。更に他法人から外国人介護福祉士 2 名（インドネシア・ベトナム）の転職希望者を採用した。外国人受け入れ実績は約 102 名となり帰国（一定の就労したのち帰国者も含む）・不合格を除くと現在、80 名が介護現場で活躍している。また、聖隷奨学金制度を活用した留学生が 7 名おり、聖隷での活躍に向けて学び、就職までのサポートを行っている。特に人材不足が叫ばれる介護現場は職員として成長してもらえるようグローバル人材の活躍を推進していく。

障がい者雇用は、事業団内就労支援施設や外部機関と連携して実習から雇用に繋げた結果、採用数が増え定着も図ることができた。障がい者の多様な働き方も促進され、障がい者法定雇用率が 2.4%まで向上した。

また、採用力強化、離職防止の視点で定年制度（再雇用制度）の見直しを行った。雇用期間の延伸、処遇向上、ワークライフバランスの充実を柱に新制度の検討を重ね、60 歳を超えてからの採用・雇用を含めた再雇用制度として 2020 年 4 月より運用を開始した。看護職員においてはキャリアアップの施策として「聖隷看護職人事・育成システム」の運用を開始した。聖隷の持つ様々な看護領域を看護職が理解し今後の看護職の役割拡大に向かう一つのシステムとしてスタートさせることができた。

聖隷の人材評価としてコンピテンシーを活用しているが内容の精査、活用の拡大・推進に向けて新コンピテンシーの提案を行った。新コンピテンシーは福祉・介護職員等特定処遇改善加算の対応として試用され今後、職種別ラダーとの併用を考慮したうえで人材育成のツールとして準備ができた。また、職種別ラダー未着手だった事務職は、プロジェクトを発足し検討を進めた。2021 年度以降の「事務部門ラダー」運用となるよう継続する。

事業団が提供する外部事業は、介護職員初任者研修・介護福祉士実務者研修・喀痰吸引等研修・医療的ケア教員講習会であり、法人内外の福祉施設の介護職、看護職のスキルアップに貢献している。2019 年度、新規研修として生活援助従事者研修を開講した。また、看護師特定行為研修の指定研修機関として 2019 年 10 月に「栄養および水分管理に係る薬剤投与関連」の区分を開講した。2020 年 2 月には「術中麻酔管理領域パッケージ」の区分追加が認定され、看護師がチーム医療において役割をさらに発揮するための研修を開講した。静岡県主催事業を受託している「外国人介護人材受入れ準備セミナー」「外国人介護職員のための日本語研修」に加え、2019 年度は「外国人介護人材集合研修」も受託し 3 事業を企画運営した。

人事企画部として、事業団の採用から育成、制度構築や地域への研修提供を通して「人づくり組織」への挑戦に貢献することができた。

《財務部》

2019 年度は、相次ぐ大規模投資の竣工に伴い、過不足のない資金繰りを実行するため、銀行借入と業者支払の管理を徹底するとともに、借入額を必要最低限とする等、中長期的な財務体質を意識しつつ借入の意思決定を行った。

また、10 月の消費税増税についても、システム、レジ、契約書の見直しを行う等、税率の変更と軽減税率の導入をスムーズに進めることができた。

さらに、2020 年 4 月の新財務システムのスタートに向けては、財務部員一人一人がそれぞれの管理項目の責任者となり、ベンダーとの打ち合わせをはじめ、内部の検討会議においてもリーダーシップを取り、責任をもって取り組んだ結果、ほぼ予定通り計画を進めることができた。2020 年度はシステムの安定と共に、当初の目的である経理業務のさらなる効率化を目指していきたい。

関連法人（芙蓉協会、恵愛会、聖愛会）への経営支援についても、総合企画室との定例会議を発足させ、財務部としては、特に銀行対応やキャッシュ・マネジメントについての支援を行った。

《総合企画室》

厚生労働省の「社会福祉法人の事業展開等に関する検討会」での社会福祉連携推進法人制度の創設に関して財務部、総務部、在宅福祉サービス事業部と共同して提言を行った。ドクターズサポートセンターを医師キャリア支援センターに改編。医師募集を業務の中心に据えて活動し、紹介会社経由などで 5 名の常勤医師の獲得に関与ができた。聖隷佐倉市民病院、聖隷横浜病院の新棟開設支援、聖隷淡路病院でのデータ処理等の支援、芙蓉協会、恵愛会、聖愛会への経営支援などに取り組んだ。また、旧聖隷淡路病院跡地の売却を完了した。

ホームページ、社内報を通じて社会福祉法人広報に積極的に取り組むと共に、Facebook を開始し秘書広報課の活動自体の認知度を高める取り組みを開始した。来る 2020 年の聖隷福祉事業団創立 90 周年記念事業の準備を本格的に開始。記念式典、祝賀会、記念誌発行、記念品等の検討手配を行い、記念式典では京都大学本庶佑博士に記念講演を受諾いただいた。

《総合情報システム部》

2019 年度は、情報システムグランドデザインに基づく業務システムの構築を進めてきた。病院系システムは、5 月に浜松市リハビリテーション病院、9 月に聖隷袋井市民病院、2020 年 3 月に聖隷淡路病院で電子カルテシステムの導入が行われた。この 3 病院プロジェクトでは、本部として導入検討から契約、稼働作業までの支援を重点的に行った。新たな取り組みとして、サーバ等の機器を 3 施設共同利用、浜松市内のデータセンターに設置することで、システム稼働後のサーバ管理を本部が一括で行うことによる施設負担の軽減、BCP 対策を実現した。高齢者公益事業部では、現行システムの老朽化に伴い 8 月より順次新システムへの切り替えを行った。タブレット端末などを活用した新たな記録システムの構築を行い、現場業務の効率化を実現している。次年度もさらなる業務効率化が進むよう機能強化を継続する。他事業部においても、施設開設にあたり早期から参画し無線 LAN やモバイル端末などの ICT 活用による業務効率化が図れるよう支援を行った。次年度 4 月より稼働する新財務システムにおいても、AI 技術を搭載した次世代 ERP システ

ムの構築を進めており、スピード経営や現場業務の効率化に更なる貢献を行いたい。

災害対策の観点では、昨年に引き続き、各システムのクラウド化や遠隔バックアップなどの対応を進めている。新稼働を迎えた各業務システムのデータ保存及び閲覧の機能を遠隔地で構築し、BCP 実効性の向上を図っている。7 月にはサイバーインシデント対応について、7 月に法人本部を対象として訓練を実施した。これにより緊急時における組織的対応をスムーズに行うための方針策定の必要性が改めて認識された。次年度以降、CSIRT 構築など社内体制整備、運用検討などについて継続検討を進めていく。

また将来の情報部門の在り方、次世代の情報部門を担う人材育成について、情報システム責任者会を中心に検討を行った。新しい変化には情報システム部門の意識統一が必要と考え、システム部門に所属する全役職者を対象としたとした検討会を計画している。今後も事業団の各サービスの質向上に寄与するシステム構築に努めたい。

《監査室》

2019 年度は 79 事業所及び法人本部各部署に対して内部監査を実施した。1 施設当たりの指摘数は減少し、適正な業務活動を確認することができた。また、テーマ監査として病院施設基準監査を継続して行った他、要請に基づき関連法人施設の監査も実施した。

内部通報窓口における相談件数は、2018 年度と比較して大きな変動は見られなかった。例年同様、ハラスメントに関する相談が過半数を占めた一方、SNS の利用に関する相談など、内容が多様化する傾向が見られた。

コンプライアンス啓発活動については、2018 年度と同様、研修用教材の作成、提供を行った。7 月には、SNS 等の利用に伴うトラブルを未然防止する目的で「ソーシャルメディア利用ガイドライン」を新たに作成し、全施設に配信した。また、関連法人の要請に基づき、ハラスメント防止や個人情報保護の研修に対して講師派遣を行った。

2019年度施設整備事業報告

施設種別	病院		
施設名	総合病院聖隷三方原病院 地域障がい者総合リハビリテーションセンター		
所在地	静岡県浜松市北区根洗町字西598番1		
工事名	聖隷三方原病院 地域障がい者総合リハビリテーションセンター新築工事		
事業完了年月日	2019年9月27日		
施設の構造	鉄骨造（地域障がい者総合リハビリテーションセンター） 鉄筋コンクリート造（屋外機械室）		
延床面積	地域障がい者総合リハビリテーションセンター1F：2898.95㎡ 2F：78.29㎡ 屋外機械室1F：26.30㎡		
総事業費	土地購入費	229,900,000	
	建築工事費	1,020,794,000	（税込）
	設計監理費 等	49,743,000	（税込）
	備品費	73,843,477	（税込）
	その他費用 （ネットワーク構築費など）	22,118,000	（税込）
	事業費　計	1,396,398,477	（税込）
財源	銀行より借入（本部借入金含む）	630,000,000	
	福祉基金繰入	250,000,000	
	自己資金	516,398,477	
	財源　計	1,396,398,477	
備考			

2019年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷横浜病院
所在地	神奈川県横浜市保土ヶ谷区岩井町２１５
工事名	聖隷横浜病院新外来棟建築工事
事業完了年月日	2019年9月30日
施設の構造	鉄筋コンクリート造、他
延床面積	新外来棟10405.89㎡ロータリー1128.54㎡立体駐車場2588.96㎡その他174.95㎡： 合計14298.34㎡
総事業費	¥6,009,120,000（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	

2019年度施設整備事業報告

施設種別	病院
施設名	聖隷佐倉市民病院
所在地	千葉県佐倉市江原台2-36-2
工事名	聖隷佐倉市民病院第4期工事
事業完了年月日	4期工事全体は2019年11月29日
施設の構造	鉄骨鉄筋コンクリート造、一部鉄骨造、コンクリート造
延床面積	B号館分：2,629.98㎡　手術棟：262.56㎡
総事業費	¥4,838,400,000.－　（税込、工事費のみ）
財源	借入金を含む自己資金
備考	

2019年度施設整備事業報告

施設種別	老人デイサービス（通所介護）		
施設名	聖隷トライサポート和合		
所在地	静岡県浜松市中区和合町５５５番地		
工事名	和合愛光園新規デイサービス増築改修工事		
事業完了年月日	2019年7月15日		
施設の構造	鉄骨造・平屋建て		
延床面積	540.01㎡		
総事業費	建築工事費	153,789,840円	
	設計監理費	6,354,720円	
	その他	329,600円	地質調査・確認申請申請他
	備品費	14,316,350円	リハビリ機器・家具・家電他
	事業費　計	174,790,510円	
財源	自己資金	174,790,510円	
	合計	174,790,510円	
備考			

2019年度施設整備事業報告

施設種別	児童発達支援センター	
施設名	聖隷かがやき	
所在地	鹿児島県大島郡龍郷町赤尾木字手廣1679-2	
工事名	聖隷かがやき移転新築工事	
事業完了年月日	2019年6月14日	
施設の構造	RC造・平屋建て	
延床面積	400.00㎡	
総事業費	建築工事費	177,372,440円
	外構工事費	11,627,560円
	設計監理費	7,574,040円
	その他	1,543,320円
	備品費	15,409,448円
	事業費　計	213,526,808円
財源	国県市補助金（法定）	100,118,000円
	市中銀行借入金	50,000,000円
	聖隷福祉公益事業推進基金	60,000,000円
	当初自己資金	3,408,808円
	財源　計	213,526,808円
備考		

2019年度施設整備事業報告

施設種別	幼保連携型認定こども園、児童発達支援事業所、訪問看護ステーション	
施設名	聖隷こども園こうのとり富丘 聖隷こども発達支援事業所かるみあ富丘 聖隷訪問看護ステーション富丘	
所在地	静岡県磐田市富丘677-1	
工事名	（仮称）聖隷こども園富丘等複合施設新築工事	
事業完了年月日	2020年3月13日	
施設の構造	RC造・2階建て	
延床面積	2,763.84㎡	
総事業費	建築工事費	716,943,294円
	外構工事費	43,079,706円
	設計監理費	37,986,000円
	その他	776,000円
	備品費	100,888,050円
	土地購入費	237,196,025円
	事業費　計	1,136,869,075円
財源	国県市補助金（法定）	278,555,000円
	磐田市単独補助金	91,852,000円
	福祉医療機構借入金	105,000,000円
	市中銀行借入金	46,000,000円
	聖隷福祉公益事業推進基金	437,196,025円
	当初自己資金	178,266,050円
	財源　計	1,136,869,075円
備考		

法人の概要

・ 法人名　　社会福祉法人 聖隷福祉事業団（せいれいふくしじぎょうだん）

・ 創立　　1930 年（昭和 5 年）5 月

・ 基本理念　　キリスト教精神に基づく「隣人愛」

・ 代表者　　理事長　山本（やまもと）　敏博（としひろ）

・ 所在地　　静岡県浜松市中区住吉 2 丁目 12 番 12 号（法人登記）

・ 事業内容　　１．医療事業（病院・診療所・ホスピスなど）
２．保健事業（健康増進・健康診断・人間ドック・疾病予防・労働環境測定など）
３．福祉事業（特別養護老人ホーム・障害者支援施設・救護施設・無料又は低額診療・保育事業・有料老人ホーム事業など）
４．介護サービス事業（介護老人保健施設・通所事業・訪問看護ステーション・在宅訪問事業など）

・ 事業規模　　施設・事業数　：　158 施設　355 事業　（2020 年 3 月時点）
職員数　：　15,664 名（非常勤含む）　（2020 年 3 月時点）
サービス活動収益：　1,195 億円　（2019 年度）

実施する事業の概要

【第1種社会福祉事業】

2020年3月31日現在

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
救護施設	聖隷厚生園讃栄寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	奄美佳南園	80	1974年5月1日	鹿児島県奄美市
特別養護老人ホーム	森町愛光園	80	1993年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	森町愛光園天宮サテライト	29	2012年4月1日	静岡県周智郡森町
特別養護老人ホーム	いなさ愛光園	70	1997年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園	102	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園初生サテライト	29	2012年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	和合愛光園和合サテライト	29	2014年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	浜北愛光園	150	1999年4月1日	静岡県浜松市
特別養護老人ホーム	宝塚栄光園	70	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	花屋敷栄光園	108	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	宝塚すみれ栄光園	100	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
特別養護老人ホーム	淡路栄光園	60	1999年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	聖隷カーネーションホーム	54	2014年4月1日	兵庫県淡路市
特別養護老人ホーム	横須賀愛光園	104	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
特別養護老人ホーム	浦安市特別養護老人ホーム(受託経営)	100	1999年8月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	浦安愛光園	74	2006年4月1日	千葉県浦安市
特別養護老人ホーム	松戸愛光園	103	2003年5月1日	千葉県松戸市
特別養護老人ホーム	藤沢愛光園	100	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
軽費老人ホーム	もくせいの里	50	1978年12月1日	静岡県浜松市
軽費老人ホーム	ケアハウス花屋敷	100	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	ケアハウス宝塚	70	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
軽費老人ホーム	浦安市ケアハウス(受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
障害者支援施設	障害者支援施設 みるとす	20	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者支援施設	聖隷厚生園信生寮	60	1978年4月1日	静岡県浜松市
障害児入所施設	聖隷おおぞら療育センター	170	2006年10月1日	静岡県浜松市

【第2種社会福祉事業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療保護施設	聖隷三方原病院	934	1942年11月9日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園わかば	206	1966年11月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園桜ヶ丘	190	1975年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園ひかりの子	236	1976年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園めぐみ	166	2017年4月1日	静岡県浜松市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり東	215	1978年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園こうのとり豊田	155	2011年4月1日	静岡県磐田市
幼保連携型認定こども園	聖隷こども園夢舞台	120	2017年4月1日	兵庫県淡路市
保育所	こうのとり保育園	120	1971年11月1日	静岡県磐田市
保育所	春日保育園	120	1972年4月1日	鹿児島県奄美市
保育所	逆瀬川あゆみ保育園	45	2002年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	御殿山あゆみ保育園	120	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
保育所	野上あゆみ保育園	90	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
事業所内保育所	聖隷浜松病院ひばり保育園	145	2015年4月1日	静岡県浜松市
事業所内保育所	聖隷めぐみ保育園	30	2015年4月1日	静岡県浜松市
小規模保育所	聖隷のあ保育園	19	2019年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
地域子育て支援拠点事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
地域子育て支援拠点事業	磐田市子育て支援総合センター のびのび(受託経営)	—	2003年7月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園わかば	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園桜ヶ丘	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園ひかりの子	—	2009年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園めぐみ	—	2017年4月1日	静岡県浜松市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり東	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	聖隷こども園こうのとり豊田	—	2011年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	こうのとり保育園	—	2009年4月1日	静岡県磐田市
一時預かり事業	春日保育園	—	2009年4月1日	鹿児島県奄美市
一時預かり事業	逆瀬川あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	御殿山あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	野上あゆみ保育園	—	2009年4月1日	兵庫県宝塚市
一時預かり事業	聖隷こども園夢舞台	—	2017年4月1日	兵庫県淡路市
病児保育事業	聖隷こども園わかば	4	2015年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
病児保育事業	こうのとり保育園	6	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園こうのとり東	4	2015年4月1日	静岡県磐田市
病児保育事業	聖隷こども園夢舞台	3	2019年1月1日	兵庫県淡路市
児童厚生施設	御殿山児童館	—	2003年4月1日	兵庫県宝塚市
児童厚生施設	野上児童館	—	2008年11月4日	兵庫県宝塚市
助産施設	聖隷浜松病院併設助産所	10	1969年6月1日	静岡県浜松市
助産施設	聖隷三方原病院併設助産所	6	1994年9月19日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	横須賀愛光園デイサービスセンター	30	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園デイサービスセンター	20	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	奄美佳南園春日デイサービスセンター	15	1996年11月1日	鹿児島県奄美市
老人デイサービスセンター	森町愛光園デイサービスセンター	42	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人デイサービスセンター	いなさ愛光園デイサービスセンター	45	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	和合愛光園デイサービスセンター	62	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	浜北愛光園デイサービスセンター	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷トライサポート和合	40	2001年8月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター初生	50	2004年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザIN高丘	65	2007年4月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター三方原	65	2011年3月15日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷リハビリプラザいなさ	45	2015年10月1日	静岡県浜松市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	40	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	花屋敷デイサービスセンター	59	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷逆瀬川デイサービスセンター	40	2000年4月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターあゆむ	12	2010年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター結い	18	2013年6月3日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	宝塚すみれ栄光園デイサービス センター	30	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
老人デイサービスセンター	デイサービスセンター淡路	35	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	聖隷カーネーションホーム デイサービスセンター	42	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人デイサービスセンター	浦安市高洲高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	浦安市猫実高齢者デイサービス センター(受託経営)	25	1999年10月1日	千葉県浦安市
老人デイサービスセンター	松戸愛光園デイサービスセンター	34	2003年5月1日	千葉県松戸市
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンター藤沢	40	2011年4月1日	神奈川県藤沢市

施設(事業)の種類	施　設　名	定 員	開設年月日	所　在　地
老人デイサービスセンター	聖隷デイサービスセンターゆい	20	2017年4月1日	沖縄県中頭郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(奄美佳南園)	10	1999年4月1日	鹿児島県奄美市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(森町愛光園)	12	1993年4月1日	静岡県周智郡
老人短期入所事業	老人短期入所事業(いなさ愛光園)	20	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(和合愛光園)	20	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(浜北愛光園)	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(宝塚栄光園)	15	1993年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(花屋敷栄光園)	12	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業 (宝塚すみれ栄光園)	20	2014年4月1日	兵庫県宝塚市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(淡路栄光園)	17	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	16	2014年4月1日	兵庫県淡路市
老人短期入所事業	浦安市特別養護老人ホーム (受託経営)	50	1999年8月1日	千葉県浦安市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(松戸愛光園)	21	2003年6月1日	千葉県松戸市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(横須賀愛光園)	16	1992年6月1日	神奈川県横須賀市
老人短期入所事業	老人短期入所事業(藤沢愛光園)	20	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
老人介護支援センター	奄美佳南園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
老人介護支援センター	いなさ愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人介護支援センター	森町愛光園在宅介護支援センター (受託経営)	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人介護支援センター	聖隷在宅介護支援センター淡路 (受託経営)	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年10月1日	鹿児島県奄美市
老人居宅介護等事業	森町愛光園ホームヘルパーステーション	—	1998年10月1日	静岡県周智郡
老人居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1997年10月1日	兵庫県宝塚市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	1999年4月1日	兵庫県淡路市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
老人居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
認知症対応型老人共同生活援助事業	ほのぼのケアガーデン	9	2001年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	いなさ愛光園ヘルパーステーション	—	2017年11月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 居宅介護等事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	奄美佳南園	—	1993年2月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション初生	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 重度訪問介護事業	聖隷ヘルパーステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター	—	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	2012年3月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 同行援護事業	聖隷ヘルパーステーション横須賀	—	2013年3月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	生活訓練事業所ナルド	10	2010年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(生活訓練)	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷厚生園まじわりの家	6	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷デイサービスセンター三方原	共生型	2018年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 自立訓練(機能訓練)	聖隷トライサポート和合	共生型	2019年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 共同生活援助	福祉共同住宅　ファーストステップ	7	2019年6月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園信生寮	60	1993年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活訓練事業所ナルド	10	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷厚生園まじわりの家	14	2011年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	障害者支援施設 みるとす	40	1999年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	あさひ	35	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	生活介護事業所きらめき	20	2019年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	森町愛光園デイサービスセンター	基準該当	2017年4月1日	静岡県周智郡

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 生活介護	聖隷逆瀬台デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	花屋敷栄光園デイサービスセンター	基準該当	2017年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	宝塚すみれ栄光園デイサービスセンター	共生型	2018年10月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 生活介護	松戸愛光園デイサービスセンター	共生型	2019年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 療養介護	聖隷おおぞら療育センター	150	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園信生寮	10	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷厚生園讃栄寮	4	1978年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	障害者支援施設 みるとす	2	2003年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷おおぞら療育センター	20	2006年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浜北愛光園	—	2013年1月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園初生サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	和合愛光園和合サテライト	—	2014年8月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	森町愛光園	—	2013年11月1日	静岡県周智郡
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	奄美佳南園	—	2015年6月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	聖隷カーネーションホーム	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	淡路栄光園	—	2016年9月1日	兵庫県淡路市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚すみれ栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	花屋敷栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	宝塚栄光園	—	2017年7月1日	兵庫県宝塚市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	松戸愛光園	—	2018年2月1日	千葉県松戸市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安愛光園	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	浦安ベテルホーム	—	2018年9月1日	千葉県浦安市
(障害福祉サービス事業) 短期入所事業	横須賀愛光園	—	2019年1月1日	神奈川県横須賀市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	ナルド工房	10	2007年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	10	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房浜北	15	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房浜松学園	20	2019年10月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房磐田	14	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労移行支援事業	聖隷チャレンジ工房カナン	6	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	ナルド工房	15	2007年4月1日	静岡県浜松市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	15	2012年3月15日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房浜北	25	2014年4月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房磐田	6	2017年4月10日	静岡県磐田市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業B型	聖隷チャレンジ工房カナン	14	2017年4月1日	鹿児島県奄美市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	ナルド工房	10	2017年9月1日	静岡県浜松市
(障害福祉サービス事業) 就労継続支援事業A型	聖隷厚生園チャレンジ工房和合	10	2018年4月1日	静岡県浜松市
地域活動支援センター	ナルド(受託経営)	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター	—	1997年4月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーセンター浜松北	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション宝塚	—	1999年4月1日	兵庫県宝塚市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション 横須賀	—	2000年8月1日	神奈川県横須賀市
移動支援事業	奄美佳南園	—	2007年7月1日	鹿児島県奄美市
移動支援事業	聖隷ヘルパーステーション淡路	—	2012年4月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷淡路病院	152	1999年12月1日	兵庫県淡路市
無料又は低額診療事業	聖隷横浜病院	300	2003年3月1日	神奈川県横浜市
無料又は低額診療事業	聖隷佐倉市民病院	400	2004年3月1日	千葉県佐倉市
無料又は低額介護老人保健施設	三方原ベテルホーム	150	1991年5月1日	静岡県浜松市
無料又は低額介護老人保健施設	浦安ベテルホーム	100	2006年4月1日	千葉県浦安市
障害児通所支援事業	磐田市発達支援センターはあと (受託経営)	—	2007年11月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	児童発達支援センターひかりの子	15	2012年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	30	2013年10月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	10	2016年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	のぞみ園	25	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (児童発達支援)	聖隷かがやき	20	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	児童発達支援センターひかりの子	5	2013年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ和合	20	2016年10月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ森町	10	2017年4月1日	静岡県周智郡
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷放課後クラブはなえみ磐田	10	2017年4月10日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	のぞみ園	20	2014年1月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (放課後等デイサービス)	聖隷かがやき	10	2019年4月1日	鹿児島県大島郡
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援センターかるみあ	—	2013年10月1日	静岡県磐田市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	児童発達支援センターひかりの子	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷こども発達支援事業所かるみあ豊田	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	のぞみ園	—	2015年3月1日	鹿児島県奄美市
障害児通所支援事業 (保育所等訪問)	聖隷かがやき	—	2016年6月1日	鹿児島県大島郡
障害児相談支援事業	信生	—	2012年6月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	浜松東	—	2013年9月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2015年4月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
障害児相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
障害児相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
障害児相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
障害児相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市
一般相談支援事業	信生	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	ナルド	—	2013年4月1日	静岡県浜松市
一般相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
特定相談支援事業	浜松東	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	信生	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	ナルド	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所くすのき	—	2012年4月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	指定相談支援事業所おおぞら	—	2014年10月1日	静岡県浜松市
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所森町	—	2017年3月1日	静岡県周智郡
特定相談支援事業	聖隷相談支援事業所磐田みなみ	—	2017年4月1日	静岡県磐田市
特定相談支援事業	のぞみ園	—	2014年4月1日	鹿児島県奄美市
特定相談支援事業	聖隷かがやき	—	2019年7月1日	鹿児島県大島郡
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ花屋敷	—	2017年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所聖隷はぐくみ北神戸	—	2018年6月1日	兵庫県神戸市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ松戸	—	2017年5月1日	千葉県松戸市
特定相談支援事業	障害者相談支援事業所　聖隷はぐくみ浦安	—	2018年4月1日	千葉県浦安市

【公　益　事　業】

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療施設	聖隷浜松病院	750	1962年3月5日	静岡県浜松市
医療施設	聖隷浜松病院附属診療所 聖隷健康診断センター	—	1975年5月16日	静岡県浜松市
医療施設	宝塚エデンの園附属診療所	19	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設	油壺エデンの園附属診療所	15	1986年11月1日	神奈川県三浦市
医療施設	診療所聖隷予防検診センター	11	1987年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	診療所聖隷クリニック南大沢	—	1996年6月1日	東京都八王子市
医療施設	浜名湖エデンの園診療所	—	2000年3月15日	静岡県浜松市
医療施設	浦安せいれいクリニック	—	2006年4月1日	千葉県浦安市
医療施設	浜松市リハビリテーション病院 (受託経営)	225	2008年4月1日	静岡県浜松市
医療施設	袋井市立聖隷袋井市民病院 (受託経営)	150	2013年5月1日	静岡県袋井市
医療施設	聖隷健康サポートセンター*Shizuoka*	—	2010年4月1日	静岡県静岡市
医療施設	聖隷静岡健診クリニック	—	2013年4月1日	静岡県静岡市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浜名湖エデンの園	410	1973年5月1日	静岡県浜松市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 松山エデンの園	169	1980年6月20日	愛媛県松山市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 油壺エデンの園	550	1986年11月1日	神奈川県三浦市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 浦安エデンの園	324	2007年7月1日	千葉県浦安市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 横浜エデンの園	50	2010年4月1日	神奈川県横浜市
有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム 藤沢エデンの園一番館	418	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 藤沢エデンの園二番館	54	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
有料老人ホーム	介護付有料老人ホーム 結いホーム宝塚	100	2013年11月1日	兵庫県宝塚市
地域における公的介護施設等の 計画的な整備等の促進に関する 法律第2条に規定する特定民間施設	ウエル・エイジング・コミュニティ 宝塚エデンの園	551	1979年4月1日	兵庫県宝塚市
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 奈良ニッセイエデンの園	598	1992年4月1日	奈良県北葛城郡
医療施設、福祉サービス及び介護保険の 事業への業務支援・指導の事業	奈良ベテルホーム	116	1992年4月1日	奈良県北葛城郡

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
医療施設、福祉サービス及び介護保険の事業への業務支援・指導の事業	ウエル・エイジング・プラザ 松戸ニッセイエデンの園	456	1997年3月1日	千葉県松戸市
ケア付高齢者住宅	明日見らいふ南大沢 (受託経営)	482	1996年6月1日	東京都八王子市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉	—	1993年1月18日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション細江	—	1995年3月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション浅田	—	1995年10月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション宝塚	—	1995年10月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション貴布祢	—	1997年2月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション高丘	—	1997年11月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	訪問看護ステーション住吉第二	—	2012年7月1日	静岡県浜松市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション北神戸	—	1997年5月1日	兵庫県神戸市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション淡路	—	2000年3月1日	兵庫県淡路市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション山本	—	2012年11月1日	兵庫県宝塚市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション横浜	—	1997年12月1日	神奈川県横浜市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション横須賀	—	1998年11月1日	神奈川県横須賀市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	せいれい訪問看護ステーション佐倉	—	2010年1月1日	千葉県佐倉市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション藤沢	—	2011年4月1日	神奈川県藤沢市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーション浦安	—	2016年3月1日	千葉県浦安市
指定老人訪問看護ステーション及び訪問看護ステーション	聖隷訪問看護ステーションゆい	—	2013年3月1日	沖縄県中頭郡
高齢者生活支援ハウス	やまぶき(受託経営)	5	1999年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜松	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター細江	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浜北	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター森町	—	2000年4月1日	静岡県周智郡
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター和	—	2007年2月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター三方原	—	2011年3月15日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターいなさ南部	—	2015年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浅田	—	2016年10月1日	静岡県浜松市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター宝塚	—	2000年4月1日	兵庫県宝塚市

施設(事業)の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター花屋敷	—	2003年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンターすみれ	—	2014年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター北神戸	—	2000年4月1日	兵庫県神戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター淡路	—	2010年5月1日	兵庫県淡路市
居宅介護等事業	聖隷ケアプランセンター淡路第二	—	2016年10月1日	兵庫県淡路市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター横須賀	—	2000年4月1日	神奈川県横須賀市
居宅介護支援事業	松戸愛光園ケアプランセンター	—	2004年4月1日	千葉県松戸市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター藤沢	—	2011年3月1日	神奈川県藤沢市
居宅介護支援事業	聖隷ケアプランセンター浦安	—	2011年6月1日	千葉県浦安市
居宅介護支援事業	奄美佳南園　在宅介護支援センター	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
居宅介護支援事業	聖隷居宅介護支援センターゆい	—	2015年1月1日	沖縄県中頭郡
訪問入浴介護事業	奄美佳南園訪問入浴事業所	—	2000年4月1日	鹿児島県奄美市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
福祉用具貸与事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
特定福祉用具販売事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
居宅療養管理指導事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
訪問看護事業	聖隷三方原病院	—	2000年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター和合 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター細江 (受託経営)	—	2006年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター北浜 (受託経営)	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	地域包括支援センター高丘 (受託経営)	—	2012年10月1日	静岡県浜松市
地域包括支援センター	磐田市南部地域包括支援センター (受託経営)	—	2019年4月1日	静岡県磐田市
地域包括支援センター	花屋敷地域包括支援センター (受託経営)	—	2006年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	逆瀬川地域包括支援センター (受託経営)	—	2007年4月1日	兵庫県宝塚市
地域包括支援センター	西第二地域包括支援センター (受託経営)	—	2008年4月1日	神奈川県横須賀市
地域包括支援センター	浦安市高洲地域包括支援センター (受託経営)	—	2016年4月1日	千葉県浦安市
身体障害者向け住宅の事業	シオンハウス (身体障害者用住宅)	5	1992年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を 総合的に支援するための法律の規定に 基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所 くすのき(受託経営)	—	1999年4月1日	静岡県浜松市

施設（事業）の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所ナルド（受託経営）	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所信生（受託経営）	—	2003年4月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷おおぞら療育センター	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	聖隷厚生園信生寮	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	みるとす	—	2006年10月1日	静岡県浜松市
障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律の規定に基づく市町村地域生活支援事業	浜松市障害者相談支援事業所浜松東（受託経営）	—	2007年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター	—	1990年4月1日	静岡県浜松市
入浴、排せつ、食事、外出時の移動、コミュニケーション、スポーツ・文化的活動、就労、住環境の調整等を支援する事業	聖隷コミュニティケアセンター宝塚店	—	2000年10月1日	兵庫県宝塚市
浜松市生活困窮者自立促進支援モデル事業	浜松市生活自立相談支援センターつながり（受託事業）	—	2014年4月1日	静岡県浜松市
社会福祉の増進に資する人材の育成・確保に関する事業	法人本部	—	2007年4月1日	静岡県浜松市

【収益事業】

施設（事業）の種類	施　設　名	定　員	開設年月日	所　在　地
貸事務所	法人本部	—	2005年1月1日	静岡県浜松市

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　役員名簿

	氏　　名	役 職 名
理事	青木　善治	常務執行役員 （財）芙蓉協会理事
理事	岡　俊明	専務執行役員・聖隷浜松病院院長 （学）聖隷学園理事
理事	荻野　和功	専務執行役員・聖隷三方原病院院長 （学）聖隷学園理事
理事	鎌田　裕子	常務執行役員・人事企画部長
理事	日下部　行宏	常務執行役員 （財）恵愛会常務理事
理事	津幡　佳伸	常務執行役員・在宅･福祉サービス事業部長 （福）十字の園評議員・（福）神戸聖隷福祉事業団評議員
理事	平川　健二	常務執行役員・高齢者公益事業部長 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団評議員
理事	福田　崇典	専務執行役員・保健事業部長 （財）芙蓉協会評議員
理事長	山本　敏博	代表執行役員 （公財）ニッセイ聖隷健康福祉財団会長

理事会
開催日

4月　12日
4月　26日
5月　10日
5月　24日
6月　7日
6月　28日
7月　12日
7月　26日
8月　9日
8月　23日
9月　13日
9月　27日
10月　11日
10月　25日
11月　8日
11月　22日
12月　6日
12月　20日
1月　10日
1月　24日
2月　14日
2月　28日
3月　13日
3月　27日

	氏　　名	役 職 名
監事	上野　桂子	（社）全国訪問看護事業協会理事
監事	佐野　國治	
監事	白木　政幸	
監事	鈴木　睦明	

社会福祉法人　聖隷福祉事業団　評議員名簿

	氏　　名	役 職 名
評議員	青木　雅人	一般財団法人日本老人福祉財団理事長
評議員	伊藤　孝	一般財団法人芙蓉協会副理事長・聖隷沼津病院院長
評議員	大石　一雄	社会福祉法人さくま理事長
評議員	小野田　全宏	特定非営利法人静岡県ボランティア協会理事長
評議員	小里　俊幸	一般財団法人恵愛会副理事長・聖隷富士病院院長
評議員	小柳　守弘	学校法人聖隷学園専務理事・法人事務局長
評議員	背戸　好廣	一般社団法人芙蓉協会監事
評議員	坪井　一弘	公益財団法人ニッセイ聖隷健康福祉財団常務理事
評議員	中村　勇	東京海上日動ベターライフサービス株式会社代表取締役社長
評議員	湯口　哲世	浜松商工会議所理事

評議員会
開催日

6月　28日
10月　25日
3月　27日

（2020年3月31日時点・五十音順）

附属明細書

該当ありません。